

在学中保存

# 2013年度入学者 履修要覧

## 文学部



東洋大学

この履修要覧は、対象の学生(第1部・第2部)別に以下のとおり、ページを色分けしています。

- 第1部 学生対象ページ：水色
- 第2部 学生対象ページ：クリーム色
- 第1部・第2部学生共通ページ：白色

# 文学部

I 履修要項 学修制度	
II 第1部 学科教育課程表および履修方法	哲 学 科
	東洋思想文化学科
	日本文学文化学科
	英米文学科
	史 学 科
	教 育 学 科
	英語コミュニケーション学科
	他学部他学科開放科目 (専門開放科目)
副専攻について	
III 第2部 学科教育課程表および履修方法	東洋思想文化学科
	日本文学文化学科
	教 育 学 科
	他学部他学科開放科目
IV 諸資格について	
V 留学制度について	
VI 学籍および 各種証明書について	

## 諸 注 意

- この『履修要覧』には、2013年度入学生に適用される内容を掲載している。
- この『履修要覧』は、卒業時まで使用する。再配布しないので、大切に使用・保管すること。
- 講義内容に関しては、『シラバス(講義要項)』等に掲載されている。
- 記載内容の変更等については掲示する。

# 目 次

学部長挨拶——文学部長・中山尚夫	4
文学部のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	5
文学部・各学科教育研究上の目的	5
<b>I 学修制度——履修登録・授業・試験・成績</b>	
学修・授業・履修登録・試験・レポート・成績評価	1 2
<b>II 第 1 部学科教育課程表および履修方法</b>	
<b>第 1 部哲学科</b>	
学科紹介	2 6
3つのポリシー	2 7
卒業要件および履修方法	2 8
学科教育課程表（1～4 年・外国人留学生）	3 4
<b>第 1 部東洋思想文化学科</b>	
学科紹介	4 0
3つのポリシー	4 1
卒業要件および履修方法	4 3
学科教育課程表（1～4 年・外国人留学生）	5 0
<b>第 1 部日本文学文化学科</b>	
学科紹介	6 2
3つのポリシー	6 3
卒業要件および履修方法	6 5
学科教育課程表（1～4 年・外国人留学生）	7 1
<b>第 1 部英米文学科</b>	
学科紹介	7 6
3つのポリシー	7 7
卒業要件および履修方法	7 8
学科教育課程表（1～4 年・外国人留学生）	8 2
<b>第 1 部史学科</b>	
学科紹介	8 8
3つのポリシー	8 9
卒業要件および履修方法	9 0
学科教育課程表（1～4 年・外国人留学生）	9 5
<b>第 1 部教育学科</b>	
学科紹介	1 0 2
3つのポリシー	1 0 3
卒業要件および履修方法	1 0 5
学科教育課程表（1～4 年・外国人留学生）	1 1 3



第 1 部英語コミュニケーション学科	
学科紹介	120
3つのポリシー	121
卒業要件および履修方法	122
学科教育課程表（1～4年・外国人留学生）	129
第 1 部他学部他学科開放科目（専門開放科目）〈第 1 部学生用〉	134
文学部副専攻	138
<b>Ⅲ 第 2 部学科教育課程表および履修方法</b>	
第 2 部東洋思想文化学科	
学科紹介	146
3つのポリシー	147
卒業要件および履修方法	149
学科教育課程表（1～4年）	156
第 2 部日本文学文化学科	
学科紹介	168
3つのポリシー	169
卒業要件および履修方法	171
学科教育課程表（1～4年）	176
第 2 部教育学科	
学科紹介	182
3つのポリシー	183
卒業要件および履修方法	184
学科教育課程表（1～4年）	189
第 2 部他学部他学科開放科目〈第 2 部学生用〉	194
<b>Ⅳ 諸資格について</b>	
1. 教育職員免許状	198
2. 社会教育主事	237
3. 図書館司書	240
4. 社会福祉主事	242
5. 博物館学芸員〈第 1 部学生のみ対象〉	244
6. 学校図書館司書教諭	246
<b>Ⅴ 留学制度について</b>	248
<b>Ⅵ 学籍および各種証明書について</b>	
1. 学籍（学籍異動に関する手続）	258
2. 納付金に関する取扱	264
3. 各種証明書および実習料一覧	267

# 大学で学ぶということ

文学部長 中山 尚夫

ご入学おめでとうございます。東洋大学文学部教員一同は、皆さんを歓迎し、これからの大学生活の充実と様々な成果また人間的成長のための支援を、惜しむことなく続けてゆきたいと考えております。

本学文学部には、哲学科・東洋思想文化学科・日本文学文化学科・英米文学科・史学科・教育学科・英語コミュニケーション学科の7学科があります。皆さんにはこの入学にあたっては、各人各様の思いがあることでしょう。第一志望で入学した人もいれば不本意な結果として入った人もおります。また、様々な入試方法で入った人が混在していることも事実です。しかし、本学での生活や勉学はすべての人が一様にこれから始まるのです。スタートは誰も一緒です。今後に目を向けてください。

さて、大学での勉学は、何よりも積極性・自主性が重視されます。自ら意欲的に取り組む姿勢が大切です。なぜ文学部を志望したのか、なぜこの学科を選んだのか、各人多かれ少なかれ志望理由や目的があるはずです。そのことこそ自分が大学にそして文学部に求めたことです。その目的を達成すべく積極的に対象に向かい合ってほしいと思います。また、まだそれが希薄であったり、迷ったりしていたとしても、授業を受ける中で、様々な事柄を会得する中で、必ず興味関心や目標が定まって見えてきます。ただ、それも積極的な姿勢のもとで見出せることなのです。

文学部での授業あるいは単位履修方法は、各自が「履修要覧」によって所属する学科のカリキュラムや目指すところを理解し、ToyoNet-Gを参照することによってシラバスを確認し、自らの興味関心・目的目標・方針に合わせて、履修授業を決定してゆきます。こうした作業を自主的に行う必要があります。不明な点や理解しにくいところ、疑問があれば積極的に遠慮せず教員に質問すべきです。また、各学科では、その専門分野ごとの多彩なカリキュラムの構成や、多様な内容の授業が展開されていますが、それらがすべて諸君の興味関心に合致するとは限りません。しかし、その合致しない、また未知の授業や研究会こそが自らを大きくする機会なのです。上手く活用してほしいと思います。さらに付け加えるならば、たとえば教職や図書館司書のような資格取得も卒業後を考えて時、重要な選択肢の一つだと思います。

ところで、大学の授業科目名やその内容には、諸君が初めて耳や目にする名称や言葉が沢山あります。けれども、臆してはいけません。どういう授業なんだろう？ どういった内容なんだろう？ と好奇心を持って、シラバスを確認しましょう。また辞書を片手にぶつかってみましょう。今までに知らなかったことが少しずつ判ってきます。そうすると「知ること」「考えること」「調べること」「表現すること」が楽しくなります。図書館や各研究室の膨大な蔵書も今までの常識を超えた質量があります。早い機会に図書館のその膨大な蔵書を自らの眼で確認しておくことを勧めます。対象を真摯に冷静に見つめ、常識や先入観に捉われることなく、一方で先達の成果を謙虚に受け止めつつ、自らの思考力と実践力とを身につけることが、大学で学ぶということです。大切なことは「読む」とこと「書く」とことです。書物を読み、考えをまとめ書くことにより、それらは養成されます。同時に様々な文化を体感することも極めて重要です、その機会は豊富です。こうした地道な努力が大学生活の充実につながると思っております。

また、卒業後すなわち就職について早くから意識を持つことが今日の大学生には強く求められます。キャリア教育の重要な点です。哲学を持って大学生活に臨みましょう。

## 文学部のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

全学および文学部共通科目を幅広く履修し、いかなる場合にも対応できる豊かな教養を身につけた人格形成のための基礎的学力を養うとともに、哲学思想・語学文学文化・歴史等多方面にわたり、高度で緻密な専門的教育研究を通して、広く深い思索力・分析力・表現力・実行力と論理性とを備えた人材の育成を目指す。具体的には「演習」等専門科目の履修を経ながらの卒業論文作成過程においてこれが図られ、所定の評価を得たものが学士と認定される。

## 文学部・各学科教育研究上の目的

### 文学部の目的・教育目標

文学部は、本学学祖・井上円了博士の建学の理念「諸学の基礎は哲学にあり」を根本とし、哲学（西洋・インド・中国等）、史学（西洋・東洋・日本）、語学・文学（日本・中国・英米等）、教育学の分野の教育・研究を行ない、古今東西の優れた思想・文化の継承・伝承・創造に努める。このことをふまえ、「ものの見方・考え方」についての基礎的な力と応用する力とを教授して、自ら自己の思想・精神を練磨し、権威・権力にとらわれず、「独立自活」と「知徳兼全」とを実現した、社会にとって有為の人材を養成することを目的とする。

その目的達成のために、「読む力・書く力・考える力」の育成を教育目標として掲げ、共通総合科目（一般教養科目）・文学部共通科目・専門科目からなるカリキュラムのもとに、広汎な教養と深い専門知識の涵養をはかる。また、それらの授業を通じて、十分な語学力や深い読解力、適切な表現力、論理的な思考力、鋭敏な批判力等々を修得させることを目指す。

### 文学部第1部哲学科

#### 1. 人材の養成に関する目的

哲学科における人材養成は、諸科学の成果を踏まえながら社会の中で総合的な展望を開く能力とともに、人間存在としてよりよく生きる道を自律的に希求するための能力を培うことに存する。こうした能力は、1. 諸学の基層的知識を哲学的に学ぶ 2. 自然や人間や歴史や文化や芸術や宗教など幅広い視野を摂取する 3. 合理的かつ自律的思考を訓練する 4. 情操を陶冶して価値や尊厳をめぐる受容性を高め人間形成に配慮する、ことで養われる西欧の学問伝統を踏まえて教育をおこなうが、日本文化についても顧慮する。

#### 2. 学生に修得させるべき能力等の教育目標

(1) 人文領域の基層的原理的知識と総合科学としての哲学の基礎知識を、伝統的側面と現代的側面から教授し、幅広いジェネラリストとして指導的役割を果たす社会人を養成する。

(2) 英語・ドイツ語・フランス語のうち2カ国語の論文読解能力と、国際的教養人を養成する。

## 文学部第1部東洋思想文化学科

### 1. 人材の養成に関する目的

本学の創立者井上円了は、東洋の哲学・思想の中に普遍的意義を見出し、これを教育によって広く当時の社会に普及しようとした。同時に、彼は単なる知識としてではなく、人々が生きるための知恵として活用しうる哲学—実践哲学を構想した。東洋思想文化学科では、このような創立者の精神を受け継ぎ、中国やインドを中心とする東洋の思想・文化を広く教授することで、人間や社会の本質を見据えるとともに、東洋に特有の価値観や思考方法に基づき、現代社会が直面する諸問題に対する確に対応できる人材の養成を目指す。また異文化や異なる価値観への深い理解を持ち、世界の人々と協調して未来を切り開こうとする姿勢に富む有為な人材の育成を目的とする。

### 2. 学生に修得させるべき能力等の教育目標

- (1) 「講義科目」「語学科目」等により東洋の思想と文化、ならびにそれを理解するのに役立つ語学、文学、哲学、宗教学等に関する豊富な知識を修得させる。
- (2) 「演習科目」「実技講義科目」「海外文化研修」等により、東洋に特有の価値観や思考方法を身につけさせる。
- (3) 多様な科目を通じて東洋思想・文化を総合的に学習することにより、自らが直面するさまざまな問題に対し独自の視点から分析と考察を行う能力を身につける。さらに自身の見解を論理的に表現し、それに基づいて実践することのできる能力を養成する。

## 文学部第1部日本文学文化学科

### 1. 人材の養成に関する目的

国際化していく現代社会において、アイデンティティーを確立することは重要な課題である。日本文学文化学科では、日本・日本人を知り、伝統的な学問・日本文化を継承すると同時に、世界から日本を見るという視点を導入することで、新しい時代を切り拓く人材の育成を目標としている。

### 2. 学生に修得させるべき能力等の教育目標

カリキュラムの中心となる演習科目では「日本語分野」「古典文学文化分野」「近現代文学文化分野」「比較文学文化分野」という四つの専攻分野を設置し、専門的な探求を行っている。選択必修科目では専攻分野間の横断的な学習が可能で、日本文学文化を総合的・包括的に視野に収めていく。

### 3. その他の教育研究上の目的

国語科・書道科各教員免許状の取得や、図書館司書・学校図書館司書教諭・博物館学芸員の資格の取得を目的とした科目も用意している。

## 文学部第1部英米文学科

### 1. 人材養成に関する目的

英米の文学作品（小説、詩、戯曲など）などを味読することにより、深く感じ考える能力を身につけて、多様な人間を広い見地より深く理解できる人材を養成する。また、英語学を学ぶことによって言語に対する論理的な理解ができる人材を育てる。両者相俟って、バランスのとれた良識と分別の人となることを最終目標とする。

### 2. 学生に修得させるべき能力等の教育目標

英語の基礎知識を身につける。そして、確かな基礎知識に基づいて、創造的な思考が可能となるようにする。英語を通して英米の文学作品を味読して、英米の文化や思想を理解する。もっとも重要視しているのは英米文学、英語学の研究に対処可能な基本的英語力、特に読む力の養成である。



## 文学部第1部史学科

### 1. 人材の育成に関する目的

本学科は歴史学を学ぶことを通じて、多様な人々の過去の営みと蓄積を理解して人類の知恵を汲み取り、現代および未来に役立てる姿勢をもつ人材を育てることを目的としている。

### 2. 史学科の学生に修得させるべき能力等の教育目標

歴史学は、過去の人類の歴史から現代および未来を生きる知恵を汲み取る学問であるが、その達成には過去の出来事に対する科学的で実証的な研究を必要とする。したがって科学的研究の基礎となる各種の多様な史料や原典を正確に読み解き、それを組み立てる一方、該当する問題について、これまで積み重ねられてきた研究成果を適切に学んだ上で、自分の考えを表明することのできる能力を養うことが目標である。

## 文学部第1部教育学科

「人間発達専攻」では、教育学科のこれまでの理念を継承し、「生涯にわたる教育」の在り方を追究するなかで、「人間の発達」を総合的にとらえ、人間の発達と社会の発展に貢献できる21世紀のリーダーとなりうる人材の養成を目指す。このような理念のもと、次のような教育目標を設定し、カリキュラムを用意した。「人間発達」を、直線的な心身の成長だけではなく、生涯にわたる人間の変化そのものとしてとらえ、人や社会、文化に対する理解を深め、現代社会が直面する課題を主体的に解決するための「生涯学習基礎力」の獲得を目標とする。

その基礎の上に、「教育の基礎」「心理学と発達臨床」「社会教育」「学校教育」「特別支援教育」の5領域からなるカリキュラムを構成し、専門的な力量の育成をめざすものである。これら5領域に対応する科目群は、各種教員免許、社会教育主事資格などの取得とも連動しており、卒業後のキャリア展望との関連で選択できるように準備されている。

「初等教育専攻」では、急激に変化する環境のなかで成長・発達する子どもについて深く理解する力と豊かな人間性を備えた小学校教員の養成を目指す。そのために、次のような教育目標を設定し、カリキュラム編成を行った。第1に、各教科の指導法や教材研究の力量、「音楽」や「図画工作」など芸術系教科の実践的指導力、科学実験などを通じた理数系教科の指導力など確かな授業力を身につける。第2に、国際化に対応するために多文化共生社会への理解を深めるとともに、児童を対象とした英語の指導力を養う。第3に、特別な教育的ニーズをもつ子どもたちへの支援と教育のための専門的力量を育成する。そして第4として、学校・地域・家庭の協力や連携を促すコーディネート力を養成する。

特に、「往還型教育実習（東洋大学モデル）」を運用することによって、学校現場の課題にも対応できる実践力を備えた教員の養成をめざす。



## 文学部第1部英語コミュニケーション学科

本学科では、21世紀の地球時代を生きるための「問題解決能力」「調査・発表・表現能力」「自己開発力」を育成し、英語を用いて国際社会で活躍できる人材の育成を主たる教育目標としている。こうした目標の達成に向けて、以下のような科目群を置いている。

- (1) ベイシック・スキル科目群（基礎科目、専門必修科目）
- (2) コミュニケーション・スキル科目群（専門選択科目）
- (3) 英語学系科目群（専門選択科目）
- (4) 国際文化科目群（専門選択科目）

などである。

こうした科目群を学生に修得させることにより、

- (1) 英語検定試験（TOEIC, TOEFL 等）における獲得スコアの向上により実社会で活躍できる学生の育成
- (2) 言語学的立場から英語を総合的に研究、または国際文化的諸問題をグローバルな視点から追求し、大学院で各分野を専攻できる学生の養成
- (3) 地球的規模の諸問題を自らの問題として捉え解決するための能力を獲得し、社会で貢献できる学生の育成を目指している。

また、「海外留学制度」「語学研修制度」「英語検定試験対策講習会」「学科講演会」「英語検定試験・体験学習（インターンシップ・ボランティア活動）単位認定」など現在実施している多様な学生への授業外支援の充実をはかることで学科の個性化及び独自性の強化をはかっている。

## 文学部第2部東洋思想文化学科

### 1. 人材の養成に関する目的

本学の創立者井上円了は、東洋の哲学・思想の中に普遍的意義を見出し、これを教育によって広く当時の社会に普及しようとした。同時に、彼は単なる知識としてではなく、人々が生きるための知恵として活用しうる哲学—実践哲学を構想した。東洋思想文化学科では、このような創立者の精神を受け継ぎ、中国やインドを中心とする東洋の思想・文化を広く教授することで、人間や社会の本質を見据えるとともに、東洋に特有の価値観や思考方法に基づき、現代社会が直面する諸問題に対する確に対応できる人材の養成を目指す。また異文化や異なる価値観への深い理解を持ち、世界の人々と協調して未来を切り開こうとする姿勢に富む有為な人材の育成を目的とする。

### 2. 学生に修得させるべき能力等の教育目標

- (1) 「講義科目」「語学科目」等により東洋の思想と文化、ならびにそれを理解するのに役立つ語学、文学、哲学、宗教学等に関する豊富な知識を修得させる。
- (2) 「演習科目」「実技講義科目」「海外文化研修」等により、東洋に特有の価値観や思考方法を身につけさせる。
- (3) 多様な科目を通じて東洋思想・文化を総合的に学習することにより、自らが直面するさまざまな問題に対し独自の視点から分析と考察を行う能力を身につける。さらに自身の見解を論理的に表現し、それに基づいて実践することのできる能力を養成する。

## 文学部第2部日本文学文化学科

### 1. 人材の養成に関する目的

国際化していく現代社会において、アイデンティティーを確立することは重要な課題である。日本文学文化学科では、日本・日本人を知り、伝統的な学問・日本文化を継承すると同時に、世界から日本を見るという視点を導入することで、新しい時代を切り拓く人材の育成を目標としている。

### 2. 学生に修得させるべき能力等の教育目標

カリキュラムの中心となる演習科目では「日本語分野」「古典文学文化分野」「近現代文学文化分野」「比較文学文化分野」という四つの専攻分野を設置し、専門的な探求を行っている。選択必修科目では専攻分野間の横断的な学習が可能で、日本文学文化を総合的・包括的に視野に収めていく。

### 3. その他の教育研究上の目的

国語科・書道科各教員免許状の取得や、図書館司書・学校図書館司書教諭の資格の取得を目的とした科目も用意している。

## 文学部第2部教育学科

第2部教育学科では、現代社会の抱える諸問題の解決に、他者と協働しながら創造的に取り組むことのできる21世紀型のリーダーの養成を目的とする。

この目的の実現に向けて、人や社会、文化への好奇心を育てること、人間の生涯にわたる発達を捉える視点を身につけること、一元的な考え方にとらわれない開かれた感性と知性を育むことを教育目標とする。これらを一言で表現すれば、「生涯学習基礎力」の育成ということになる。

その基礎の上に、「教育の基礎」「心理学と発達臨床」「社会教育」「学校教育」「特別支援教育」の5領域からなるカリキュラムを構成し、専門的な力量の育成をめざすものである。これら5領域に対応する科目群は、各種教員免許、社会教育主事資格などの取得とも連動しており、卒業後のキャリア展望との関連で選択できるように準備されている。



# I . 学修制度 — 履修登録・授業・試験・成績 —

## 第1章 学修にあたって

### 1. 学期

本学は1年を次の学期に分けます。

春学期 4月1日から9月30日まで

秋学期 10月1日から翌年の3月31日まで

(通年制)

1年間を通じて履修する科目と、春学期・秋学期のいずれか履修する科目がありますが、その年度に履修したい科目の登録は開講学期にかかわらず年1回(4月)におこないます。

※授業開始日・終了日や履修登録期間は年度によって異なるので「年度行事予定」(『学生生活ハンドブック』)で確認してください。

### 2. 単位制

授業科目には学修時間に応じた単位数が定められており、卒業要件等の履修基準は修得すべき単位数によって規定されています。

1単位は、授業や自習をすべて含めた45時間の学修に対応しており、45時間の学修のうち授業の占める時間は、講義・演習科目は15時間、外国語科目は30時間、実験・実技・実習科目は45時間と設定されています。

標準的な授業実施形態は、週1回1学期15回授業が実施されます。授業の講義時間はどの科目でも、90分です。

授業科目等	単位数	授業回数 (1学期)	学修時間	
			授業時間	予習復習時間
講義・演習科目	1単位	15回	15時間	30時間
外国語科目	1単位	15回	30時間	15時間
実験・実技・実習科目	1単位	15回	45時間	0時間

### 3. 年間履修単位数

卒業するためには4年以上在学し、所定の科目の単位を履修かつ修得しなければなりません。単位の履修条件は次のとおりです。

- ① 1年間履修できる最高単位数は、48単位とします。  
したがって、各年次ごとに履修する科目の単位数の合計はこの枠内でなければなりません。  
ただし、教職科目・学科教育課程表にない教職に関する科目に限り、48単位を越えて履修することを認めます。
- ② 学科教育課程表にない教職に関する科目・自由科目は卒業に必要な単位として認められません。
- ③ すでに単位を修得した科目は履修できません。  
ただし学科によっては、重複できる科目もあるので、所属する学科の説明文を熟読してください。
- ④ 上位の学年に配当されている科目は履修できません。



#### 4. 授業科目と卒業要件

文学部で開講している授業科目は4年間の学習を系統的に行なうため各学年に配置し、その内容は下表のとおり区分されています。

文学部を卒業するためには、卒業に必要な単位として認められる科目の単位を合計で124単位修得しなければなりません。各学科により、科目区分ごとの卒業要件が異なりますので、所属する学科の履修方法を熟読するようにしてください。

	科目区分	履修区分	年間履修 最高単位数	卒業要件 単位数
卒業に必要な単位として認められる科目	学科教育課程表の以下の区分に属する科目			
	<b>共通総合科目</b> ○哲学・思想 ○自然・環境・生命 ○歴史・文化 ○現代・社会 ○スポーツ・健康 ○情報教育 ○総合 ○社会人基礎力科目 ○留学支援科目			
	<b>文学部共通科目</b> ○文学部教育 ○文学部基礎専門科目 ○国際コミュニケーション科目 ○諸資格関連科目 ○キャリア教育	正 規	48単位	124単位
	<b>専門科目</b> ○必修科目 ○選択必修科目 ○選択科目			
	<b>他学部他学科開放科目</b>			
	<b>教職科目</b>		制限なし	
卒業に必要な単位として認められない科目	所属の学科教育課程表にない科目、かつ他学部へ開放されていない科目で、担当教員の許可を得て履修する科目	自由科目	48単位 以内に 含める	
	教職課程の教職に関する科目で、所属の学科教育課程表にない科目 「教職概論」、「教育心理学」等	教職に関する科目	制限なし	

## 5. 修業年限と在学年限

本学に学生として最低4年間在学し、所定の単位を修得しなければ卒業はできません。卒業に必要な単位を修得するために通算して在学できる年数(在学年数)は、最長8年間です。ただし、休学期間の年数は在学年数に算入しません。

## 6. 学士の学位授与

卒業要件(卒業に必要な単位数)を満たし、修業年限を経過した者には、以下の学位が授与されます。

学士(文 学)：教育学科以外

学士(教育学)：教育学科

## 第2章 授 業

### 1. 授業の開講時限・時間帯

授業科目は、春学期又は秋学期のいずれかに開講されます。科目によっては、春・秋の両学期を通して開講される場合もあります。

授業時間は、次の表のとおりです。

#### 白山キャンパス・総合スポーツセンター(板橋区清水町)

	時限	授業時間
第1部	1時限	9:00 ~ 10:30
	2時限	10:40 ~ 12:10
	昼休み	12:10 ~ 13:00
	3時限	13:00 ~ 14:30
	4時限	14:40 ~ 16:10
第2部	5時限	16:20 ~ 17:50
	6時限	18:10 ~ 19:40
	7時限	19:50 ~ 21:20

白山キャンパス・総合スポーツセンター(板橋区清水町)間をまたがり履修する場合

[白山キャンパス・総合スポーツセンター(板橋区清水町)間をまたがり履修する場合]

同日内に白山キャンパス・総合スポーツセンター(板橋区清水町)間を移動しなければならない場合は、下表を参照のうえ、履修可能な時間割を作成してください。

	1時限	2時限	昼休み	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限
履 修 可 能	●			■				
	●				■			
	●					■		
		●		■				
		●			■			
		●				■		
				●		■		
						●		■

## 2. 休講

担当教員より連絡があれば休講掲示板、プラズマディスプレイ、およびToyoNet-Gに掲載情報として配信するので、授業が始まる前に必ず確認してください。電話による問い合わせはできません。

なお、プラズマディスプレイ、ToyoNet-G等に休講掲示がない場合で、授業開始時刻から30分経過しても講義が行われない場合は、教務課窓口へ連絡の上、指示を受けてください。

### 3. 欠席

やむを得ない事由により、授業に欠席した場合は、次の授業時に担当教員へ直接連絡してください。窓口・電話等での取り継ぎは一切行いません。ただし、病気・怪我等で長期欠席することが予想される時は、教務課窓口にご相談してください。なお、教育実習・介護等体験・博物館実習により欠席する場合は、指定の用紙で教員に届け出てください。

### 4. 補講・集中講義

次のような場合で、補講・集中講義を実施するときは、その内容を事前に学内掲示板および ToyoNet-G に掲示します。

(1) 授業が休講となったとき。

(2) その他の理由で、特別に補講・集中講義を必要とするとき。

なお、補講・集中講義は原則として各学期の補講・集中講義期間に行いますが、補講期間以外の日に実施することもあります。

### 5. 緊急時の授業の 取扱い

#### 【白山キャンパス・総合スポーツセンター(板橋区清水町)】

(1) 台風の接近等により交通機関の混乱が予想される場合および災害等により交通機関が運行停止している場合の授業の取扱いについて

台風の接近等により交通機関の混乱が予想される場合および台風・地震の災害等により交通機関が運行停止となった場合(人身事故等一般的な運行停止を除く)の授業の取扱いについては、本学のホームページ・ToyoNet-Gにてお知らせしますので、大学の指示に従ってください。ホームページはアクセスが集中し、つながりにくい場合がありますので、ToyoNet-Gも利用してください。

なお、授業中に交通機関の混乱等が予想される場合は、学内掲示、学内緊急放送にてお知らせします。

(2) 大規模地震の警戒宣言が発令された場合の授業の取扱いについて

大規模な地震の発生が予想され、警戒宣言が発令された場合の授業の取扱いについても、大学のホームページ・ToyoNet-Gにてお知らせしますので、大学の指示に従ってください。授業中に警戒宣言が発令された場合は、学内掲示、学内緊急放送にてお知らせします。

※学内で実施される講演会・講座等についても、上記措置に準ずるものとなります。

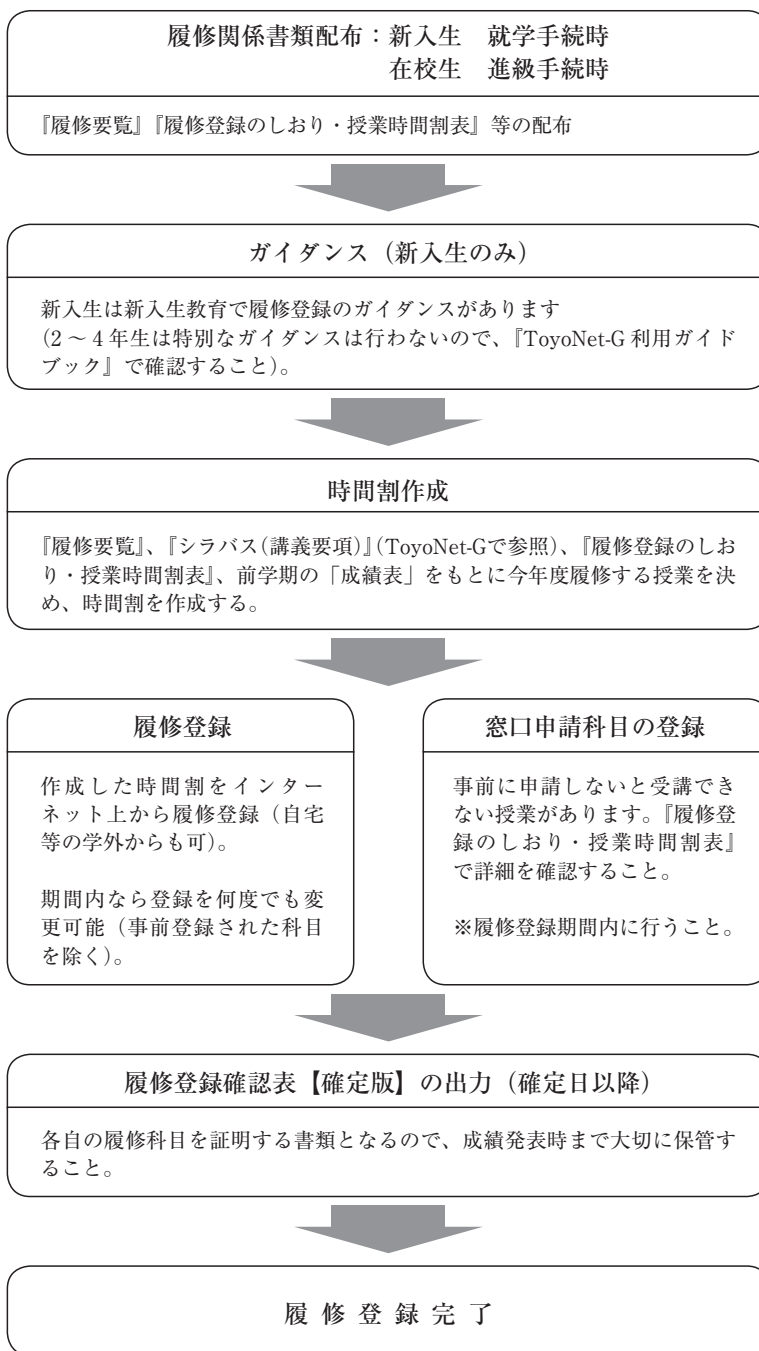
### 第3章 履修登録

#### 1. 履修登録とは

履修登録は年1回行います。秋学期開講科目の履修登録も春学期に行います。

授業を受け、単位を修得するためには事前に履修科目の登録が必要になります。これを「履修登録」といいます。各学科の授業科目に沿って履修計画を立て、授業科目の登録をしなければなりません。

定められた期間に「履修登録」を怠ると、履修する科目の受講・受験ができず、単位も修得できなくなるので注意してください。



- (1) 履修登録にあたっては、履修要覧、シラバス(講義要項)、履修登録のしおり・授業時間割表等を熟読のうえ、個人の時間割を作成してください。
- (2) 教育課程表に示された配当学年に従って履修登録してください。

- (3) 原則として、履修登録期間以降の訂正は認めません。  
また、GPA 制度に則った履修科目の取り消し以外は履修の削除もできません。  
削除申請期間・申請手続きについては学部掲示板および『履修登録のしおり・授業時間割表』等で確認してください。
- (4) 授業時間割等に変更があった場合は、学内掲示板に掲示しますので注意してください。
- (5) 履修登録確認表は必ず出力して、確認してください。

## 2. 履修上の注意

- ① 科目によっては、春・秋学期の科目をセットで通年履修しなければならない科目、隔年開講の科目、第1・2部のいずれかでのみ開講する科目があります。所属する学科の履修方法を熟読してから履修登録してください。  
春・秋学期の科目をセットで通年履修しなければならない科目の単位は、春・秋学期それぞれ別々に修得できます。いずれか一方の単位を修得した場合は、未修得科目を単独で履修かつ修得することができます。
- ② 同一科目を同一年度に2科目以上履修したり、単位修得後、次年度以降に再度履修することはできません(学科によっては、重複履修できる科目もあります)。ただし、履修した科目の単位を修得できなかった場合は、次年度以降に再度履修することができます。  
(例) 哲学史A1コースと哲学史A2コースは同一科目。
- ③ 学年指定のある科目については、指定された学年より下位の学年の学生は履修することはできませんが、上位の学年の学生は履修が可能です。
- ④ 科目により学部・学科・学年・クラス等指定されている科目もありますので、「ToyoNet-G」等で確認の上、登録してください。
- ⑤ 自分の所属する学科の教育課程表にない科目を自由科目として履修する場合は、担当教員の許可を得て履修してください。
- ⑥ カリキュラム年度の異なる科目は履修できません。
- ⑦ 第1・2部共通総合科目の「自然・環境・生命」区分の科目の実験講義・実習講義は、定員制になっております。履修を希望する場合は、4月の第1回目の授業に必ず出席し、担当教員から許可を得て履修してください。
- ⑧ 第1部共通総合科目の各科目、第2部「コンピュータ・リテラシー」は、特定の曜日時限に希望が集中し教室の収容定員を超えた場合には、抽選等により履修者を決定します。詳細は、各年度に配布される「履修登録のしおり・授業時間割表」を参照してください。
- ⑨ 第1・2部「スポーツ・健康」区分に配置される科目の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があります。詳細は、各年度に配布される「履修登録のしおり・授業時間割表」を参照してください。
- ⑩ 第2部国際コミュニケーション科目の履修を希望する場合は、4月の第1回目の授業に出席し、担当教員から許可を得て履修してください。



## 第4章 試験・レポート

### 1. 試験

- (1) 履修登録した科目の単位を修得するためには、**授業回数**の**3分の2以上出席し、所定の試験に合格しなければなりません。**
- (2) 試験には、平常試験と学期末に行う定期試験があります。科目によっては、レポートまたは平常点によって評価する場合があります。

#### [平常試験]

平常の授業期間に、科目担当教員によって随時行います。

#### [定期試験]

春学期試験（7月～8月）および秋学期試験（1月～2月）を、全学的に一定の試験期間を設けて行います。

#### [定期試験受験上の注意]

試験実施の約2週間前に試験時間割表を学内掲示板およびToyoNet-Gで発表します。

試験時間割表には受験上の注意事項も記載されています。主な事項を記しておきますので心得ておいてください。

- (1) 履修登録確認表に記載されていない科目を受験しても無効です。
- (2) 試験に際しては、すべて監督者の指示に従ってください。
- (3) 学生証がないと受験できないので必ず携帯し、試験会場では机上の指示された場所に提示してください。
- (4) 1科目で試験会場が2カ所以上になる場合、学籍番号等で試験会場を指定しますので、必ず指定された試験会場を受験してください。指定試験会場以外を受験した場合は、無効となる場合がありますので注意が必要です。
- (5) 答案用紙には、まず学部・学科・学年・学籍番号・氏名を必ず黒のペンまたはボールペンで記入してください。  
必ず筆記用具（ボールペン、鉛筆、消しゴム）を持参してください。
- (6) 学籍番号欄は学生証に記載されている学籍番号の10ケタすべてを記入してください。学籍番号、氏名のない答案用紙は無効となります。
- (7) 試験時間は60分間です。試験期間中は、すべて時間帯が平常授業時とは異なります。また、試験会場も平常授業時の教室と異なるので十分注意してください。

	時限	定期試験
第1部	1時限	9:20 - 10:20
	2時限	11:00 - 12:00
	昼休み	12:00 - 13:00
	3時限	13:00 - 14:00
	4時限	14:40 - 15:40
第2部	5時限	16:20 - 17:20
	6時限	18:10 - 19:10
	7時限	19:40 - 20:40

※定期試験時間割は変更となる場合がありますので、毎学期、掲示板およびToyoNet-Gで確認してください。

- (8) 試験開始後20分までに入場しないと受験資格を失います。また開始後30分を過ぎないと退場できません。
- (9) 中途退場した場合、再入場は認められません。

- (10) 試験会場では、スマートフォン、携帯電話、PHS等の通信機能が付いた機器は机上に置けません。また、机上に置かない場合でも、試験の妨げにならないよう電源を必ず切ってください。なお、上記の機器を時計代わりに使用することはできません。
- (11) 茶・ジュース等の飲食物の試験会場への持ち込みは禁止です。
- (12) 試験に関しては、担当教員の指示物以外を持ち込むことはできません。
- (13) 天災、病気、その他やむを得ない理由によって、定期試験を受験できなかった場合は速やかに証明書または診断書（コピー可）等を添えて担当教員に届け出て、具体的な指示を受けてください。
- (14) 不正行為を行った場合は、学則（第57条）に基づき処分されます。不正行為についての規程と処分内容は学生生活ハンドブックで確認してください。
- (15) 交通機関の運行や天候の乱れ等に留意し、試験会場へは時間的余裕をもって入室してください。

## [不正行為]

### 不正行為（本学の規則に反する行為、または学生の本分に反する行為）

を試験において行った場合は、学則第57条に則り処分されます。

#### 1. 処分の種類

処分は譴責、停学、無期停学とする。

#### 2. 処分とその対象となる不正行為

##### (1) 譴責の対象となる行為

- ① 持ち込みが認められているものの貸借。
- ② 他人の答案の覗き見、答案を故意に他人に見せまたはそれを見る行為。
- ③ 試験監督者もしくは監督補助者からの注意を無視した行為。
- ④ その他、前各号の一つに準ずる行為。

##### (2) 停学1ヵ月の対象となる行為

- ① 解答用紙を交換する行為。
- ② 許可されていないもの（カンニングペーパーおよびそれに類するもの）の持ち込み。
- ③ 書き込みを許可されていない持ち込み許可教材、机上、手掌等へ書き込みをしての受験、または、これに類似する行為。
- ④ 試験監督者または監督補助者からの注意に対する暴言。
- ⑤ その他、前各号の一つに準ずる行為。

##### (3) 無期停学の対象となる行為

- ① 替玉受験。
- ② 在学中における再度の不正行為。
- ③ 試験監督者または監督補助者からの注意に対する暴力行為。
- ④ その他、極めて悪質な行為。

#### 3. 処分に伴う措置

- (1) 処分の種別にかかわらず、不正行為のあった試験科目の単位は、当該年度（学期）において認定しない。また、上記「2-(2)」および「2-(3)」の停学の対象となる行為については、当該年度（学期）の試験期間において実施される**全ての試験科目の単位を認定しない**。
- (2) 停学期間は当該学部で処分を決定した日（教授会開催日）の翌日から算定する。
- (3) 決定した処分内容については、不正行為者が所属する学部の学部長が、本人及び保証人と面接の上、通達する。

- (4) 停学期間中は、不正行為者に対してその所属学部が教育的指導を行う。  
(5) 「譴責の対象となる行為①および②」、「停学1ヵ月の対象となる行為①」、「無期停学の対象となる行為①」の不正行為は、その当事者すべてが上記(1)~(4)の措置の対象となる。

#### 4. 不服申立て

不正行為の指摘を受けた学生は、不服申立てをすることができる。  
(なお、上記不正行為に関する事項については改訂される場合もある。)

### [卒業再試験]

卒業再試験の取り扱いは下記のとおりである。

#### 1. 受験資格

以下の全ての条件を満たす場合、受験資格を有する。

- ①卒業を希望する4年生である。
- ②卒業に必要な不足単位数が8単位以内である。

#### 2. 対象科目

卒業再試験の対象となる科目は以下の全てに該当する科目とする。

- ①卒業当該年度に履修登録を行っている科目
- ②卒業単位充足者発表時に「D」評価を得た科目
- ③担当教員が卒業再試験を実施する科目

#### 3. 対象除外科目

- ①演習、実習、実験、実技、ゼミナール関係科目
- ②卒業研究、卒業論文、卒業製作
- ③教職科目のうち、教職に関する科目
- ④不正行為等により無効となった科目
- ⑤通常の評価において「E」または「\*（評価対象外）」と判定された科目
- ⑥シラバス（講義要項）・授業等において卒業再試験を実施しない旨を記載・発表している科目

#### 4. 受験手続

卒業当該学期の卒業単位充足者発表時において定められた時間内に面接を受け、所定の手続きを行うこと。

#### 5. 卒業再試験の評価

卒業再試験の評価は以下の通りとする。

- ①卒業再試験の結果、合格した科目の成績評価は「C」評価となる。
- ②卒業再試験の結果、不合格が1科目でもあった場合は原級となり、全ての受験科目の成績評価は卒業再試験受験以前の「D」評価となる。

### 2. レポート

レポート提出方法、日時、提出先を授業時及び掲示板で確認してください。  
※教務課窓口では、レポート郵送先・教員の連絡先の照会に応じることはできません。

## 第5章 成績評価

### 1. 単位の認定

- (1) 単位の認定は出席・試験またはレポートなどによって査定されます。
- (2) 履修登録した科目についてのみ成績評価されます。

### 2. 成績の評価

成績の表示は次の通りです。

#### 【東洋大学成績評価基準】

合否	成績表示	点数	基準
合格	S	100～90	到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。
	A	89～80	到達目標を十分に達成している。
	B	79～70	到達目標を達成している。
	C	69～60	到達目標を最低限達成している。
不合格	D	59～40	到達目標を達成していない項目がある。
	E	39以下	到達目標の項目の全てまたはほとんどを達成していない。
	*	評価対象外	出席・試験・レポート提出等の評価要件を欠格。

※評価対象外とは、授業期間を通じ出席不良、または不受験・レポート未提出のため成績評価の判断ができないものを指します。

#### [成績の通知]

- (1) 学期ごとに成績を通知します。詳しい日程等については掲示等で指示します。
- (2) 毎年、保証人へ成績表を送付します。

#### [GPA 制度]

2013年度の入学生より、GPA (Grade Point Average) 制度を導入します。

GPAとは、授業科目ごとの成績に対して、4.0～0.0のグレード・ポイントを付与し、この1単位あたりの平均を算出したもので、学生の学習到達度をはかる指標として、国内外の大学で広く使われています。

#### 【GPAの算出方法】

$$GPA = \frac{(S\text{の修得単位数} \times 4.0) + (A\text{の修得単位数} \times 3.0) + (B\text{の修得単位数} \times 2.0) + (C\text{の修得単位数} \times 1.0) + (D\text{の修得単位数} \times 0.0) + (E\text{の修得単位数} \times 0.0) + (*\text{の修得単位数} \times 0.0)}{\text{総履修登録単位数}}$$

- ※ 対象とする科目は、卒業要件の科目とし、卒業要件以外の資格科目・自由科目は対象となりません。
- ※ 対象とする評価は、「S, A, B, C, D, E, \*」とし、認定の評価「T」は対象となりません。
- ※ 再履修で評価を受けた成績については、最新の成績が反映されます。
- ※ GPAは計算結果の小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までを表示します。

GPAは、「成績表」に、直近と累積の値が記載され、海外留学の際の学力指標や、学内奨学金の採用基準となる他、成績優秀者の表彰や、学内の学習指導に利用されることがあります。

(履修取消について)

履修科目の取り消しを希望する場合は、定められた期間に教務課で手続きしてください。なお、履修科目の追加・変更はできません。

(成績調査について)

成績発表後、次の①、②に該当する科目については成績調査を行い、成績評価を確認することができます。

- ①履修登録をしたが、成績評価の記載がない科目。
  - ②履修登録し、シラバスにある成績評価基準を満たしているが、成績評価が間違っていると思われる十分な理由がある場合に、科目担当教員に成績評価に間違いがないか、確認を求めたい科目。
- ※②の場合については成績の再考を求めるものではないので、十分に注意すること。

(成績調査の申請および確認について)

申請および確認方法については学部掲示板および ToyoNet-G 等で確認してください。

#### [学習指導]

各学年終了時の成績の結果により、専任教員による指導を行う場合があります。



## 第6章 その他

### 教務課窓口事務取扱い および掲示板について

教務課(大学)からの通知・連絡などは、すべて掲示により行います。登校した際は必ず掲示板を確認してください(ToyoNet-Gで確認することもできます。但し、全ての掲示がWeb上で確認できるわけではありません)。

※教務課(大学)への問い合わせはすべて窓口で受け付けます。電話およびメールによる授業・休講・試験などに関する問い合わせには一切応じません。

#### 窓 口

教務全般に関すること	教務課窓口(6号館1階)	
	窓口時間	
	月～金曜	9:30～13:00 14:00～20:30
	土曜	9:30～12:45 17:30～20:00

※夏季休暇・大学祭期間・冬季休暇・春季休暇等は、窓口の受付時間等が変更される場合がありますので注意してください。

#### 掲 示 板

内容	場所
授業時間割表 (教室変更も含む)	6B12教室前(文・社会学部)
	1102教室前(経済・経営・法・国際地域学部)
休講掲示板 (プラズマディスプレイ)	1号館1階エレベーターホール
	6号館1階
授業・試験・補講など	5号館B2階エレベーター前 (第1・2部 文・社会学部)
	1号館1階エレベーターホール (第1部 経済・経営・法・国際地域学部)
	1101教室前(第2部 経済・経営・法・国際地域学部)
学部からのお知らせ 学生呼び出しなど	5号館B2階エレベーター前(文・社会学部)
	1号館2階エレベーターホール(経済学部)
	1号館2階1203教室前(経営・法学部)
	1号館3階1305教室前(国際地域学部)
教職	1102教室横および6B12教室前 (掲示内容は同一)

※掲示板の設置場所が変更になった場合は、別途案内します。

#### 証明書発行機設置場所・稼働時間

証明書発行機設置場所 稼働時間	場所	2号館1階	
		6号館1階	
		8号館4階	
	時間	月～金	9:00～20:30
		土	9:00～13:00 17:00～20:30

※夏季休暇・大学祭期間・冬季休暇・春季休暇等は、稼働時間等が変更される場合がありますので注意してください。

## 4年間の主なスケジュール

	1年次	2年次	3年次	4年次
4月	入学式 新入生ガイダンス	進級手続		
	履修登録			
5月				
6月				
7月～9月	春学期試験 補講・集中講義			
	夏季休暇			
	春学期成績発表・成績調査			
10月～12月	大学祭			
	冬季休暇			
1月	秋学期試験 補講・集中講義			
	春季休暇			
2月	秋学期成績発表・成績調査			
3月		進級単位充足者発表 (哲学科のみ) 進級決定者発表 (哲学科のみ)		卒業単位充足者発表 卒業再試験 卒業決定者発表 卒業式

※年度によって変更されることがあるので、「学生生活ハンドブック」の「年度行事予定表」も参照すること。

## Ⅱ 第 1 部 学科教育課程表および履修方法

### 第 1 部 哲 学 科

## 哲学科における勉強の指針

- I. 明治という時代は短期間の内に西欧近代の諸思想が姿を見せた時代であり、それらの実証主義的、合理主義的な諸思想と日本伝統の多元的な思想とが激しく衝突しながら、日本の近代化に向けて苦悶した時代でもある。その明治半ば、東洋大学は「哲学館」として設立された（明治20年）。西欧の思想を日本の伝統的思想にも触れながら、諸学の基礎である哲学に正面から取り組んで来たところに、東洋大学哲学科の特色がある。しかし、21世紀を迎えた現在、日本の置かれている状況は大きく変わり、我々はいまやパラダイムなしに、世界と共時的に、あるいは世界に先んじて、進まなければならぬところにいるといえる。このような状況にあつて、我々は新たな仕方で哲学を学ぼうとするのである。「哲学」が諸学の基礎にあるということは、哲学は諸学から独立しているということではない。諸学から切りはなされて学ぶというような哲学は「机上の空論」でしかない。多様に変化・発展する諸学に学びつつ、諸学と対話することによって、哲学は自分自身を反省し、自ら変わりつつ、諸学を基礎づけ直すのでなければならぬだろう。
- II. (1) 哲学科の学生として、諸君は哲学に関する教養的教育や特に専門教育を受けなければならない。1・2年次において語学、および諸学の成果を広く教養として身につけるとともに、哲学の基礎知識を深く学ぶことが不可欠である。学ぶことの奥深さ、楽しさを見つけて欲しい。
- (2) 哲学科の専門教育は、1・2年次から始められ、3・4年次で本格的に深められていく。哲学演習と概説・特殊講義という2つの形態で授業は構成され、それぞれの専門領域ごとに、またそれぞれの専門領域を貫く仕方で、授業が行なわれる。学生諸君は自分の興味と関心によって、哲学科の必修科目以外の科目をも自由に選択し、特定の領域について深く学ぶこともできるようになっている。このような幅広い学習は4年次に全員に課せられている卒業論文を執筆するなかで、結実することになる。
- (3) さらに、哲学科において哲学を専門的に学ぶなかで、研究・学習の方向をさらに広げることもあろう。そのような学生諸君は、幾つか設定されている副専攻をもつことも可能である。
- III. 哲学科には7名の専任教員がおり、古代から現代までの哲学をカバーできるように構成されているが、さらに特殊な研究分野に関しては他から講師を招いて、欠けるところがないように努力している。しかし何れにしても、哲学は客観的な知識の習得に終わるのではなく、主体的に哲学し、学ぶ主体そのものの変様を要求するところが大きい。教師と学生という枠組みの中でだけでなく、人格と人格の出会いと互いに切磋琢磨することにおいて、哲学は学ばなければならぬだろう。

## 哲学科 3つのポリシー

### ◎アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

人間とは何か、自己とは何か、思想・文化・芸術伝統文化・歴史等にも謙虚に学ぶとともに、基本的には、語学を楽しみ、読書等に親しみ、吸収した知識をもとに、それらを活用すべく深く考えてみたい人を望む。言い換えれば、広く旺盛な好奇心を抱いて、基礎学力や専門知識とその応用を学ぼうという意欲のある人を望む。さらに、堅実に日々学問の研鑽に励み、21世紀の日本社会の礎となる自律的な人間となるよう克己と人格的自己研鑽に努め、将来に積極的に貢献しようとする人を望む。要するに、人間の心情や思考・社会・文化・言語・文学・芸術・宗教について論理的思考の基礎を身につけたい人を望む。入学までに、とりわけ真善美をめぐる教養書を丹念に読書して、自分の考えや意見や感想をノートなどに書き出して、自ら思索する習慣を身につけることをのぞむ。

### ◎カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

伝統ある文学部の気風を踏まえつつ、哲学を専門的に深く広く、基本的知識や能力の育成を主眼としながら、創造的な思考能力を合わせて養い、文化諸事象を総合的観点から人間としての教養を身につかせつつ、人間・歴史・社会・文化を体系的に学べるようにカリキュラム配置する。より詳細には、人文領域の基層的原理的知識と総合科学としての哲学の基礎知識を、伝統的側面と現代的側面から教授し、幅広いジェネラリストとして指導的役割を果たす社会人を養成する。また、英語・ドイツ語・フランス語のうち2カ国語の論文読解能力と、国際的教養人を養成する。哲学に関する一般教育を土台として重視しつつ、専門教育を高度かつ濃密に学べるように工夫する。すなわち1・2年次において語学、および諸学の成果を一般教育として、深く学ぶことが不可欠であり、学ぶことの奥深さと楽しさを見いだせるようにカリキュラム配置する。専門教育も、1・2年次から本格的に始められ、3・4年次で深められていく。哲学演習と概説・特殊講義という2つの形態でカリキュラムは構成され、それぞれの専門領域ごとに、またそれぞれの専門領域を貫く仕方で、教育がおこなわれる。こうしたインテンシブ教育の成果が、4年次に全員に課せられる卒業論文執筆として結実する。

### ◎ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

哲学科における人材養成は、諸科学の成果を踏まえながら社会の中で総合的な展望を開く能力とともに、人間存在としてよりよく生きる道を自律的に希求するための能力を培うことに存する。こうした能力は、諸学の基層的知識を哲学的に学ぶこと、合理的かつ自律的思考を訓練すること、情操を陶冶して価値や尊厳をめぐる受容性を高め人間形成に配慮することで養われる。以上の要件にしたがってカリキュラム・ポリシーに準拠して所定の単位を修得した者に対して、文学士を授与する。

科目区分		文学部 第1部 哲学科 卒業要件
共通総合科目 12単位以上	哲 学 ・ 思 想	12単位以上
	自 然 ・ 環 境 ・ 生 命	
	歴 史 ・ 文 化	
	現 代 ・ 社 会	
	ス ポ ー ツ ・ 健 康	
	情 報 教 育	
	総 合	
	社会人基礎力科目	
	留 学 支 援 科 目	
文学部共通科目 16単位以上	文 学 部 教 育	16単位以上
	文学部基礎専門科目	
	国際コミュニケーション科目	
	諸 資 格 関 連 科 目	
	キ ャ リ ア 教 育	
専門科目 88単位以上	必 修 科 目	34単位
	選 択 必 修 科 目	30単位以上
	選 択 科 目	24単位以上
教 職 科 目		
他学部他学科開放科目		
卒 業 必 要 単 位 数 合 計		124単位



## 進級制度について

### 進級制度 (文学部哲学科内規)

#### I. 1年次から2年次に進級する場合

修得単位数がきわめて少ない場合（1年次の終了に際して修得単位数の合計が20単位以下）4月上旬に専任教員が面接を行う。

#### II. 2年次から3年次に進級する場合

下記「進級制度（文学部哲学科内規）」を満たさなければ、3年次に進級できない。ただし、この場合、再試験は行わないので注意すること。なお、進級可否については、3月上旬に発表（掲示）する。

#### (目的)

第1条 この内規は、文学部哲学科の学生の教育並びに生活指導の充実を図るため、進級及び在学についての必要な事項を定めるものである。

#### (進級基準単位)

第2条 学生が第2年次終了までに、次の各号の科目単位数を修得していない場合には、第3年次への進級を認めない。

- 1) 共通総合科目（留学支援科目を除く） 8単位
- 2) 文学部共通科目の内  
国際コミュニケーション科目 8単位
- 3) 専門科目の必修講義科目 8単位
- 4) 専門科目の必修・選択必修の演習科目 2単位  
〔哲学演習I〕〔哲学演習II（独）〕〔哲学演習II（仏）〕のうち1科目  
計 26単位

#### (進級年数限度)

第3条 学生が在学年数4年を過ぎても第3年次へ進級できない場合は、東洋大学学則第57条2項に基づき退学とする。ただし、休学期間は在学年数に算入しない。

#### (その他)

第4条 第2年次終了段階で、進級基準に対して修得単位数が著しく不足する学生については、適切な指導または注意を行う。  
2. 負傷疾病など、学生本人の責任によらない止むを得ない理由により、定期試験などを受けられなかった学生については、退学処分に関して別途考慮することがある。

#### (改正)

第5条 この内規の改正は、文学部哲学科の発議・提案を受け、文学部教授会の承認を経ることによってなされるものとする。

#### 附 則

この内規は、平成24年4月1日から施行し、平成24年度入学生（2012年度入学生）から適用する。

## 第1部哲学科

### 共通総合科目

哲学・思想  
 自然・環境・生命  
 歴史・文化  
 現代・社会  
 スポーツ・健康  
 情報教育  
 総合  
 社会人基礎力科目  
 留学支援科目

共通総合科目は、卒業までに12単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、12単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

- ①スポーツ・健康科目の授業は、東洋大学総合スポーツセンター（板橋区清水町）で開講される。
- ②「スポーツ健康科学実技」および「スポーツ健康科学演習」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があるため、詳細については『履修登録のしおり・授業時間割表』、学内掲示を参照すること。

留学支援科目は、共通総合科目の枠内であるが、12単位の卒業要件には入らない。ただし、卒業単位には算入される。

※「自然科学演習A・B」は、2年次以上でかつ講義科目または実験講義科目を合計8単位以上修得していなければ、履修することができない。

### 文学部共通科目

文学部教育  
 文学部基礎専門科目  
 国際コミュニケーション科目  
 諸資格関連科目  
 キャリア教育

文学部共通科目は、卒業までに国際コミュニケーション科目16単位を履修かつ修得しなければならない。また、この卒業要件を充たし、16単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

#### ◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

サンスクリット文献を読むⅠA(2)	インド仏教のあゆみA(2)
サンスクリット文献を読むⅠB(2)	インド仏教のあゆみB(2)
サンスクリット文献を読むⅡA(2)	日本仏教のあゆみA(2)
サンスクリット文献を読むⅡB(2)	日本仏教のあゆみB(2)
チベット文献を読むA(2)	中国仏教のあゆみA(2)
チベット文献を読むB(2)	中国仏教のあゆみB(2)
パ ーリ 文 献 を 読 む A ( 2 )	Verbal and Nonverbal Communication A (2)
パ ーリ 文 献 を 読 む B ( 2 )	(言語・非言語コミュニケーションA)
ヒンディー文献を読むA(2)	Verbal and Nonverbal Communication B (2)
ヒンディー文献を読むB(2)	(言語・非言語コミュニケーションB)
Philosophy of Language A (2) (言語論A)	Comparative Culture Studies A (2) (比較文化論A)
Philosophy of Language B (2) (言語論B)	Comparative Culture Studies B (2) (比較文化論B)

◇隔年開講科目

下記科目は、隔年にて開講となる。

履修を希望する場合は、開講年度に注意すること。

サンスクリット文献を読むⅡ A(2)	インド現代思想(2)
サンスクリット文献を読むⅡ B(2)	チベット仏教のあゆみ(2)
チベット文献を読む A(2)	インドの芸能(2)
チベット文献を読む B(2)	インド・仏教の美術(2)
パーリ文献を読む A(2)	華嚴の思想(2)
パーリ文献を読む B(2)	念仏の思想(2)
ヒンディー文献を読む A(2)	インドの風土と文化(2)
ヒンディー文献を読む B(2)	密教の思想(2)
古代インドの社会(2)	天台の思想(2)
現代のインド(2)	禅の思想(2)

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

日本の伝統芸能 A(2)	韓国文化事情 A(2)
日本の伝統芸能 B(2)	韓国文化事情 B(2)

国際コミュニケーション科目

ドイツ語、フランス語、英語の3カ国語から2カ国語を選択し、16単位以上を履修かつ修得しなければならない。

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

Communicative English A(2)
Communicative English B(2)

◇語学セミナー

本学では、「東洋大学語学セミナー（英語・中国語）」を実施している。このセミナーに参加し、条件を充たすことにより国際コミュニケーション科目の1科目の単位を認定する。単位認定対象科目は以下の通りである。

「英語ⅠA」「英語ⅠB」「英語ⅡA」「英語ⅡB」  
「中国語ⅠA」「中国語ⅠB」「中国語ⅡA」「中国語ⅡB」

※哲学科の学生が中国語の語学セミナーに参加し、単位認定を受ける場合は、その単位は卒業単位にならない自由科目（P.33）として認定される。  
※セミナーの詳細は、「V 留学制度について」（P.248）を参照すること。

キャリア教育

インターンシップ・ボランティア活動は、文学部が認定する機関で就業体験やボランティア活動を行い、単位認定の条件を充たした場合、単位を認定する。

詳細は、シラバス（講義要項）を参照すること。

## 専 門 科 目

哲学科専門科目は、卒業までに **88 単位以上**を履修かつ修得しなければならない。この 88 単位のうち、以下の各科目区分の卒業要件を充たさなければならない。また、各科目区分および専門科目の卒業要件を充たし、**88 単位を超過して履修かつ修得した選択必修科目と選択科目の単位数も、卒業単位として算入する。**

### 必修科目

必修科目に設置されている**全ての科目の単位**を履修かつ修得しなければならない。

なお、卒業論文は必修であるため、1 年次から計画を立て研究室等の指示に注意すること。ただし、4 年次の卒業論文の履修登録は、**3 年次終了時点で未修得単位数が 48 単位以下の卒業見込みの学生に限る。**

### 選択必修科目

選択必修科目は、**30 単位以上**を履修かつ修得しなければならない。この 30 単位のうち、2 年次に 2 つの演習科目群（哲学演習Ⅱ・問題群演習Ⅰ～Ⅲ）から **1 科目ずつ**、3・4 年次に〈哲学演習群〉から **5 科目以上**、〈哲学特殊講義群〉から **1 科目以上**を履修かつ修得しなければならない。

なお、3・4 年次の〈哲学演習群・哲学特殊講義群〉の演習・特講については、同一科目を **2 回まで履修**することができ、修得した単位数は、卒業単位として算入する。

### 選択科目

選択科目は、**24 単位以上**を履修かつ修得しなければならない。

#### ◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

インドの宗教 A(2)	ブッダの思想とその展開 A(2)
インドの宗教 B(2)	ブッダの思想とその展開 B(2)
社会学史 I(2)	宗教とは何か A(2)
社会学史 II(2)	宗教とは何か B(2)

#### ◇「哲学特別研究」について

科目の性格：文学研究科哲学専攻博士前期課程に設置されている科目と同一科目であり、主として大学院進学を希望する 4 年生や高度な専門性のある教育を望む 4 年生が対象である。

聴講許可制：単位取得前提に聴講が許可されるのは、専任教員担当の科目であり、学部生は、当該専任教員に申し出て、聴講許可書類を提出する。

科目の範囲：学部生が単位取得前提に聴講希望できる大学院科目は、専任教員担当の博士前期課程の演習科目・講義科目であり、通年 1 科目でかつ 1 回のみ聴講可とする。

付 帯 条 件：聴講を希望しても、状況によっては履修できない場合もある。

## 教 職 科 目

哲学科教育課程表にある教職科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

教職科目は、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することができる。

## 他学部他学科開放科目(専門開放科目)

別（P.134）に定める他学部他学科開放科目（専門開放科目）を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

## 自 由 科 目

哲学科教育課程表にない科目で、なおかつ、前項の他学部他学科開放科目（専門開放科目）として提示されていない科目の履修を希望する場合は、履修する学部学科の配当学年に従い、担当教員の許可を得て、卒業単位にならない自由科目として履修することができる。ただし、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することはできない。なお、以下の科目も履修できないので注意すること。

1. カリキュラム年度の異なる科目
2. 第2部開講の科目
3. 所属する学部学科の科目と同一名称の科目

## 学習指導上の注意

I. 平成25年度入学生より、下記の通りコース制による学習指導を行う。

1. 哲学基礎専門コース
2. 自然環境哲学コース
3. 身体表現哲学コース
4. 芸術哲学コース
5. 宗教・歴史哲学コース
6. 死生学コース

上記6コースは専任教員を中心に配置され、1年生から4年生まで一貫してきめ細かく学習指導を行い、最終的には卒業論文に結実する。

II. 学習手引きノートについて

平成25年度入学生より、学習手引きノートを通して下記の通り指導を行う。

1. 学習手引きノートは学科学生全員に配布され、これに基づいて自己評価・履修状況・中間点検等を自ら行い、学習に役立てる。
2. 専任教員の指導の下、助教やTAの補助を通して、個別に学習指導を行っていく。初年度に配布される学習手引きノートは4年間使用するので、決して紛失等をしないこと。



2013 年度入学生用 文学部第 1 部哲学科 教育課程表 (共通総合科目)

区 分		第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年			
共通総合科目	12 単位以上	教養科目	哲学・思想	哲学 A(2) 哲学 B(2) 科学思想史 A(2) 科学思想史 B(2) 宗教学Ⅱ A(2) 宗教学Ⅱ B(2) 地域文化研究Ⅲ A(2) 地域文化研究Ⅲ B(2)	哲学史 A(2) 哲学史 B(2) 美術史 A(2) 美術史 B(2) 地球倫理 A(2) 地球倫理 B(2) 論理学 A(2) 論理学 B(2)	倫理学基礎論 A(2) 倫理学基礎論 B(2) 音楽学 A(2) 音楽学 B(2) 地域文化研究Ⅰ A(2) 地域文化研究Ⅰ B(2) 論理学 A(2) 論理学 B(2)	応用倫理学 A(2) 応用倫理学 B(2) 宗教学Ⅰ A(2) 宗教学Ⅰ B(2) 地域文化研究Ⅱ A(2) 地域文化研究Ⅱ B(2)	
			自然・環境・生命	自然の数理 A(2) 自然の数理 B(2) 環境の科学 A(2) 環境の科学 B(2) 自然科学概論 A(2) 自然科学概論 B(2) 化学実験講義 A(2) 化学実験講義 B(2) 日本事情Ⅰ A(2) (留学生用)	生活と物理 A(2) 生活と物理 B(2) 地球の科学 A(2) 地球の科学 B(2) 自然誌 A(2) 自然誌 B(2) 地球科学実習講義 A(2) 地球科学実習講義 B(2) 日本事情Ⅰ B(2) (留学生用)	エネルギーの科学 A(2) エネルギーの科学 B(2) 生物学 A(2) 生物学 B(2) 物理学実験講義 A(2) 物理学実験講義 B(2) 数理・情報実習講義 A(2) 数理・情報実習講義 B(2)	物質の科学 A(2) 物質の科学 B(2) 天文学 A(2) 天文学 B(2) 生物学実験講義 A(2) 生物学実験講義 B(2) 天文学実習講義 A(2) 天文学実習講義 B(2)	
			歴史・文化	国際教育論 A(2) 国際教育論 B(2) 日本文学文化と風土 A(2) 日本文学文化と風土 B(2) 地域史(日本) A(2) 地域史(日本) B(2) 日本事情Ⅱ A(2) (留学生用)	多文化共生論 A(2) 多文化共生論 B(2) 日本の詩歌 A(2) 日本の詩歌 B(2) 地域史(東洋) A(2) 地域史(東洋) B(2) 日本事情Ⅱ B(2) (留学生用)	百人一首の文化史 A(2) 百人一首の文化史 B(2) 西欧文学 A(2) 西欧文学 B(2) 地域史(西洋) A(2) 地域史(西洋) B(2)	日本の昔話 A(2) 日本の昔話 B(2) 現代日本文学 A(2) 現代日本文学 B(2) 歴史の諸問題 A(2) 歴史の諸問題 B(2)	
			現代・社会	経済学 A(2) 経済学 B(2) 政治学 A(2) 政治学 B(2) 国際比較論 A(2) 国際比較論 B(2) 日本事情Ⅲ A(2) (留学生用)	統計学 A(2) 統計学 B(2) 社会学 A(2) 社会学 B(2) 心理学 A(2) 心理学 B(2) 日本事情Ⅲ B(2) (留学生用)	法学 A(2) 法学 B(2) 人類学 A(2) 人類学 B(2) ベーシック・マーケティング(2) 流通入門(2)	日本国憲法(2) 地理学 A(2) 地理学 B(2) 基礎会計学(2) 企業会計(2)	
			スポーツ・健康	スポーツ健康科学実技Ⅰ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅰ B(1) スポーツ健康科学講義Ⅰ(2) スポーツ健康科学演習Ⅰ(2)	スポーツ健康科学実技Ⅱ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅱ B(1) スポーツ健康科学講義Ⅱ A(2) スポーツ健康科学講義Ⅱ B(2)	スポーツ健康科学実技Ⅲ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅲ B(1)		
			情報教育	情報化社会と人間(2)	情報倫理(2)	コンピュータ・リテラシー(2)		
			総合	総合Ⅰ A(2) 総合Ⅰ B(2) 総合Ⅴ A(2) 総合Ⅴ B(2) 総合Ⅸ A(2) 総合Ⅸ B(2)	総合Ⅱ A(2) 総合Ⅱ B(2) 総合Ⅵ A(2) 総合Ⅵ B(2) 全学総合Ⅰ A(2) 全学総合Ⅰ B(2)	総合Ⅲ A(2) 総合Ⅲ B(2) 総合Ⅶ A(2) 総合Ⅶ B(2) 全学総合Ⅱ A(2) 全学総合Ⅱ B(2)	総合Ⅳ A(2) 総合Ⅳ B(2) 総合Ⅷ A(2) 総合Ⅷ B(2) 総合Ⅷ A(2) 総合Ⅷ B(2)	
			社会人基礎力科目	社会人基礎力入門講義(2) 社会人基礎力実践講義(2) キャリアデベロップメント論 A(2) キャリアデベロップメント論 B(2)	企業のしくみ(2) 公務員論(2)	社会人貢献活動入門(2)	企業家論(2)	
			留学支援科目	英語特別教育科目	Special Course in Advanced TOEFLⅠ(4) Special Course in Advanced TOEFLⅡ(4)			
				日本語科目	(協定校並びに ISEP 加盟大学等からの留学生に対する日本語・日本文化科目) Integrated JapaneseⅠ(5) Japanese Reading and CompositionⅠ(2) Kanji LiteracyⅠ(1) Integrated JapaneseⅡ(5) Japanese Reading and CompositionⅡ(2) Kanji LiteracyⅡ(1) Project WorkⅠ(1) Japanese Listening ComprehensionⅠ(1) Japanese CultureⅠ(1) Project WorkⅡ(1) Japanese Listening ComprehensionⅡ(1) Japanese CultureⅡ(1)			



2013年度入学生用 文学部第1部哲学科 教育課程表 (文学部共通科目)

区 分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
文学部教育	東洋大学・井上円了研究(2)	伝統文化講座(2)	情報処理演習A(1)	情報処理演習B(1)
文学部 基礎 専門 科目	サンスクリット文献を読むI A(2) サンスクリット文献を読むI B(2)	英文学特講I(4) 英文学特講III(4) 米文学特講I(4)	英文学特講II(4) 米文学特講II(4)	
		インドの芸能(2) インド・仏教の美術(2) 華厳の思想(2) 密教の思想(2) 中国仏教のあゆみA(2) 中国仏教のあゆみB(2) 児童文学A(2) 児童文学B(2) チベット文献を読むA(2) チベット文献を読むB(2)	インド文学(2) インドの風土と文化(2) 禅の思想(2) 念仏の思想(2) 日本仏教のあゆみA(2) 日本仏教のあゆみB(2) サンスクリット文献を読むII A(2) サンスクリット文献を読むII B(2) パーリ文献を読むA(2) パーリ文献を読むB(2)	古代インドの社会(2) 天台の思想(2) チベット仏教のあゆみ(2) 現代のインド(2) インド仏教のあゆみA(2) インド仏教のあゆみB(2) インド現代思想(2) ヒンディー文献を読むA(2) ヒンディー文献を読むB(2)
	中国学概論(4) 中国文化史概説(4) 比較文学文化概説A(2) 比較文学文化概説B(2)	中国文献学概論(4) 生涯学習概論I(2) 特別支援教育概論I(2)	中国哲学史概説(4) 中国現代文学史概説(4) イギリスの文化と思想(4)	中国文学史概説(4) 日本漢学(4) アメリカの文化と思想(4)
		英語圏文学文化と日本A(2) 英語圏文学文化と日本B(2) フランス語圏文学文化と日本A(2) フランス語圏文学文化と日本B(2)	ドイツ語圏文学文化と日本A(2) ドイツ語圏文学文化と日本B(2) 中国文学文化と日本A(2) 中国文学文化と日本B(2)	
	日本の伝統行事A(2) 日本の伝統行事B(2) 家族心理学(2) 女性問題と学習(2)	日本の伝統芸能A(2) 日本の伝統芸能B(2) 児童文化研究(2) 家庭教育論(2)	日本の美術A(2) 日本の美術B(2) 生涯学習概論II(2) 特別支援教育概論II(2)	韓国文化事情A(2) 韓国文化事情B(2)
	Verbal and Nonverbal Communication A(2) (言語・非言語コミュニケーションA)	Philosophy of Language A(2) (言語論A)	Comparative Culture Studies A(2) (比較文化論A)	
	Verbal and Nonverbal Communication B(2) (言語・非言語コミュニケーションB)	Philosophy of Language B(2) (言語論B)	Comparative Culture Studies B(2) (比較文化論B)	
	ドイツ語 ドイツ語I A(2) ドイツ語I B(2)	ドイツ語II A(2) ドイツ語II B(2)	ドイツ語III A(2) ドイツ語III B(2)	
	フランス語 フランス語I A(2) フランス語I B(2)	フランス語II A(2) フランス語II B(2)	フランス語III A(2) フランス語III B(2)	
	英語 英語I A(2) 英語I B(2)	英語II A(2) 英語II B(2)	英語III A(2) 英語III B(2)	
国際コミュニケーション科目16単位以上	3カ国語のうち2カ国語16単位選択必修			
	検定英語(4)	Practical Writing(2)	Communicative English A(2)	Communicative English B(2)
日本語(留学生用)	(留学生用)必修 日本語IAA(1) 日本語IAB(1) 日本語IBA(1) 日本語IBB(1)	(留学生用)選択必修 日本語と日本社会A(2) 日本語と日本社会B(2) 日本語と日本文化A(2) 日本語と日本文化B(2)	※留学生は16単位中、日本語8単位必修。 残り8単位を1・2年次のドイツ語・フランス語・ 英語の3カ国語より母語以外の1カ国語選択必修。	
諸資格関連科目	教育基礎論I(2) 教育基礎論II(2)			
	社会教育計画論I(2)	社会教育計画論II(2)	視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)(2)	
	博物館情報・メディア論(2)	博物館概論(2)	博物館教育論(2)	博物館資料論(2)
		博物館経営論(2)	博物館資料保存論(2)	
		博物館展示論(2)	博物館実習I(2)	博物館実習II(1)
	図書館概論(2)	情報サービス論(2)	児童サービス論(2)	図書館制度・経営論(2)
	情報サービス演習A(1)	情報資源組織演習A(1)	図書館情報資源概論(2)	情報資源組織論(2)
	情報サービス演習B(1)	情報資源組織演習B(1)	図書館情報資源特論(2)	図書・図書館史(2)
	学習指導と学校図書館(2)	学校経営と学校図書館(2)	学校図書館メディアの構成(2)	
	読書と豊かな人間性(2)	情報メディアの活用(2)		
キャリア教育	キャリア支援I(2) キャリア支援II(2) インターンシップ(2)		教員養成講座I(2) 教員養成講座II(2) ボランティア活動(2)	

2013 年度入学生用 文学部第 1 部哲学科 教育課程表 (専門科目)

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	
専門科目 88 単位以上	34 単位 必修科目 論 理 学 概 論(4) 哲 学 基 礎 概 説(4) 哲 学 演 習 I (2) 西 洋 哲 学 史 概 説 I (4)	西洋哲学史概説Ⅱ (4)	哲 学 概 論(4)	卒 業 論 文(8)	
	選択必修科目 30 単位以上	哲学演習Ⅱ(独)(2) 哲学演習Ⅱ(仏)(2) 2科目のうち1科目選択必修	倫 理 学 概 論(4) ＜哲学演習群＞ 古 代 哲 学 演 習(2) 中 世 近 世 哲 学 演 習(2) 近 世 哲 学 演 習 I (2) 近 世 哲 学 演 習 II (2) 現 代 哲 学 演 習 I (2) 現 代 哲 学 演 習 II (2) 現 代 哲 学 演 習 III (2) 現 代 思 想 演 習(2) 美 学 美 術 史 演 習(2) 9科目のうち5科目以上選択必修		
		問題群演習Ⅰ(2) 問題群演習Ⅱ(2) 問題群演習Ⅲ(2) 3科目のうち1科目選択必修	＜哲学特殊講義群＞ 古 代 哲 学 特 講(4) 近 世 哲 学 特 講 I (4) 近 世 哲 学 特 講 II (4) 現 代 哲 学 特 講 I (4) 現 代 哲 学 特 講 II (4) 日 本 哲 学 特 講(4) 6科目のうち1科目以上選択必修		
選択科目 24 単位以上	インドの宗教 A (2) インドの宗教 B (2) ブッダの思想とその展開 A (2) ブッダの思想とその展開 B (2) 日本史概説(4) 東洋史概説(4) 西洋史概説(4)	ラテン語(2) ギリシア語(2) 現代思想論(4) 比較思想(4) 社会学史Ⅰ(2) 社会学史Ⅱ(2) 哲学と科学(4) 応用倫理学特論(4) 精神病理概論(4) 芸術論(4) 哲学と宗教思想(4)		哲学特別研究(2)	
	心理学概論 A (2) 心理学概論 B (2)	宗教とは何か A (2) 宗教とは何か B (2)	アメリカ思想史(2)		
教 職 科 目	日本史 A(2) 外国史 A(2) 自然地理学 A(2) 日本史 B(2) 外国史 B(2) 自然地理学 B(2) 人文地理学 A(2) 地誌学 A(2) 人文地理学 B(2) 地誌学 B(2)	国際公共経済 A(2) 国際公共経済 B(2) 国際法 A(2) 国際法 B(2) 政治学原論 A(2) 政治学原論 B(2) 社会科教育論(2)	社会・地歴指導法Ⅰ(2) 社会・地歴指導法Ⅱ(2) 社会・公民指導法Ⅰ(2) 社会・公民指導法Ⅱ(2)	教職実践演習(中・高)(2)	
他学部他学科開放科目 (専門開放科目)	科目は別表に記載				

- 備考 1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。  
 2. ( ) は該当科目の単位数。  
 3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。  
 4. 「社会科教育論」「社会・地歴指導法Ⅰ」「社会・地歴指導法Ⅱ」「社会・公民指導法Ⅰ」「社会・公民指導法Ⅱ」「教職実践演習(中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。  
 5. 4年次の「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の卒業見込みの学生に限る。  
 6. 3・4年次の＜哲学演習群・哲学特殊講義群＞の科目については、同一科目を2回まで履修かつ修得することができる。  
 7. 「社会学史Ⅰ」「社会学史Ⅱ」についてはⅠ・Ⅱセットで履修すること。

## 外国人留学生の共通総合科目・国際コミュニケーション科目の履修について

外国人留学生に対しては、日本理解の助けとなる「日本事情」「日本語」の科目が共通総合科目と国際コミュニケーション科目にそれぞれ開設されている。

共通総合科目の「日本事情ⅠA」「日本事情ⅠB」「日本事情ⅡA」「日本事情ⅡB」「日本事情ⅢA」「日本事情ⅢB」、国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA」「日本語ⅠAB」「日本語ⅠBA」「日本語ⅠBB」は必修、「日本語と日本社会A」「日本語と日本社会B」「日本語と日本文化A」「日本語と日本文化B」は選択必修となっている。

原則として1・2年次で履修かつ修得すること。

教育課程表（共通総合科目・文学部共通科目）を参照して間違いのないように登録すること。

### 〈第1部外国人留学生用科目一覧〉

区分	科目	単位	履修年次	区分
共通総合科目	日本事情ⅠA（自然・環境・生命）	2	1～4	必修
	日本事情ⅠB（自然・環境・生命）	2		
	日本事情ⅡA（歴史・文化）	2		
	日本事情ⅡB（歴史・文化）	2		
	日本事情ⅢA（現代・社会）	2		
	日本事情ⅢB（現代・社会）	2		
国際コミュニケーション科目	日本語ⅠAA	1	1	必修
	日本語ⅠAB	1		
	日本語ⅠBA	1		
	日本語ⅠBB	1		
	日本語と日本社会A	2	2	「日本語と日本社会A・B」、 「日本語と日本文化A・B」のうち どちらか一方の組合せ選択必修
	日本語と日本社会B	2		
	日本語と日本文化A	2		
	日本語と日本文化B	2		

※国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA・ⅠAB」「日本語ⅠBA・ⅠBB」「日本語と日本社会A・B」「日本語と日本文化A・B」は通年履修を原則とする。A・Bセットで履修すること。



# 第1部 東洋思想文化学科

## 東洋思想文化の深い理解と、現代への確かな視点を

明治20年、哲学者井上円了は東洋大学の前身となる「哲学館」を創設した。明治維新後間もない当時の日本は、西洋文明を必死で追いかけていた。しかし円了はただ西洋化に踊らされる日本を憂い、日本人として東洋の精神を重んじるべきと考え、実践に基づいた哲学教育を行った。東洋思想文化学科は、このような創立者の教育精神を受け継ぐ学科である。

21世紀のいま、中国やインドを中心とするアジア世界は大きく変革した。政治、経済、社会など、あらゆる分野でのアジア地域の成長は著しく、またアジアの伝統思想や文化が、西洋社会には無いある種の力を持って現代人に受け入れられつつある。本東洋思想文化学科は、このようなアジア社会の底流にある「東洋の智の心髄」である思想や文化を広く、そして深く理解し、その理解を基礎に現代社会において、自身で考え行動する人材を育てることを教育目標とする。本学科に入学した学生の皆さんは、このような目標を見据えて学習に取り組んでもらいたい。

### <東洋思想文化学科の教育内容>

東洋思想文化学科は中国、インドを中心にアジアの思想、文化を広く学ぶカリキュラムを設置している。漢文やサンスクリット語などで記された文献を読み、そこにある思想、文化をじっくりと考える科目がある一方、国際社会に不可欠な中国語やヒンディー語や文化事情についての授業も重視しており、古典をバックグラウンドとしながら現代にも即応したカリキュラムとなっている。また、体験型の実技講義科目も本学科の特色である。

本学科の学生は、まず1年次において一般的な教養科目や英語などの外国語を学習する。それと同時に専門科目では「東洋思想文化への誘い」「レポート・論文制作の技法」などの必修科目を履修する。これらは2年次でのコース選択の判断材料ともなる基本的かつ重要な科目である。

2年次から、学生は本学科に設置されている4つのコース、すなわち「インド思想コース」「中国語・中国哲学文学コース」「仏教思想コース」「東洋芸術文化コース」のうち一つを選択する。これらのコースは学生の皆さんの2年次以降の学習の柱となり、また卒業論文とも深く関わるものなので、1年次から十分に考えて選択してほしい。

2年次から3年次にかけては、コース共通の必修科目「東洋思想文化演習Ⅰ」（2年次）「東洋思想文化演習Ⅱ」（3年次）を履修するとともに、コース別必修科目や選択必修科目を合わせて履修する。これらの科目はコースごとに決められているので、詳しくは教育課程表を参照してほしい。4年次には、演習科目「卒論指導」を履修しながら卒業論文に取り組む。卒業論文は4年間の学習の集大成である。就職活動などと並行しての卒論作成はあわただしく、また苦勞もあるが、論文が出来上がった時の達成感は格別のものがある。

学生の皆さんには、本学科において以上のような4年間の学びで得た思想や文化の理解を通じ、アジア世界について深く考え、また国際社会において他文化と協調しながら、自らの人生を切り開いていく十分な力を養っていただきたい。



# 東洋思想文化学科 3つのポリシー

## アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

学祖井上円了は、東洋の哲学・思想の中に普遍的意義を見出し、これを教育によって広く当時の社会に普及しようとした。同時に、彼は単なる知識としてではなく、人々が生きるための知恵として活用しうる哲学を構想しました。東洋思想文化学科はこの精神を受け継ぎ、東洋の思想や文化の学習を通して、異文化や東洋の価値観、人間存在等に対する深い理解を持ち、世界の人々と協調して未来を切り開こうとする姿勢に富む有為な人材の育成を目指しています。そのため、東洋思想文化学科では、次のような学生を求めます。

### ○東洋思想文化学科が求める学生像

1. 東洋の思想や文化に対して強い関心を持つ学生を求めます。

東洋の思想や文化は、それぞれの長い伝統に培われた個性的なものです。異文化への関心や異なる価値観への理解は、東洋思想文化学科で勉学を続けていく上で絶対に不可欠です。

2. 外国語の学習に意欲を持つ学生を求めます。

東洋の思想や文化を学ぶ場合、中国語・サンスクリット語をはじめとする、古典および現代のアジア諸言語で書かれた文献が基礎資料となります。また、分野によっては、英語文献を参照することが不可欠です。

3. 物事を判断・主張するにあたって明確な根拠に基づいて筋道だった説明をすることのできる論理的能力を持つ学生を求めます。

論理的能力は日本社会においても大切な能力ですが、文化的背景を異にする人たちに自分を理解してもらうためにはますます重要となります。

### ○入学までに習得しておくべき知識内容とその水準

1. 国語

東洋思想文化学科での学びの基礎は文献資料です。何語で書かれた文献であれ、その内容を正しく理解し、それに対する自分の考えをまとめて主張するためには、国語能力は不可欠です。普段から文学や思想文化に関する著作に触れ、文章読解能力や論理的表現力、文章構成力等を養ってください。また、漢文はコースによっては、勉学上不可欠なものですし、文献資料を正確に読む練習にもなりますので、少なくとも基礎的な知識だけは身につけておいてください。

2. 英語

東洋思想文化学科では、様々な外国語が学べますが、その基礎は英語です。サンスクリット語などを学習する場合、どうしても英語の辞書を使わなくてはなりません。また、卒論などでも、テーマによっては、英語以外の参考文献がほとんどないという場合も稀ではありません。辞書を使えば英語の本の内容がおおよそ理解できる程度の英語力は不可欠といえます。入学までに可能な限り英語力の向上に努めてください。

3. 地理・歴史

東洋の思想や文化をよく理解するためには、その前提として、それらの国々が置かれた地理的環境や歴史に関する知識が不可欠なことは言うまでもありません。特に歴史については入学後にも関連する科目が多数ありますので、普段から関連する書籍に触れ、また、ニュースなどを通して現代の状況などにも注意を払うよう努めてください。

## カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

東洋思想文化学科では、教育上の理念と目的を達成するために、次の方針のもとに教育課程を編成し、また実施します。

1. 東洋思想文化学科の学生は、1年次・2年次を中心に、幅広い学問分野に触れ、全人的な教養を身につけるために、人文・自然などの「共通総合科目」や「文学部共通科目」を履修します。「文学部共通科目」では、英語や中国語などの語学を重視しています。
2. 東洋思想文化学科の学生は、2年次以降の学習の基礎として、1年次にスタディースキル（読み、書き、発信する能力）を身につけるための科目、ならびに学科が教授する各分野の概要を知るための科目を履修します。
3. 東洋思想文化学科の学生は、2年次以降、専門分野に関する知識を深めるために、次の4つのコースのいずれか1つに属し、それぞれに定められた課程表に基づいて履修します。

(1) インド思想コース：長い歴史を持つインド（より広くは「南アジア」）の思想、歴史、文化などを体系的に学べるように多彩な科目群を提供します。それらをより本質的に理解するために、サンスクリット語やヒンディー語といった語学も学びます。

(2) 中国語・中国哲学文学コース：中国の哲学・文学・語学を三位一体のものとして学び、文献や資料に基づきながら中国文化について総合的な見識を養います。とりわけ中国語に関しては、検定試験の中級レベルに合格する実力を養成するプログラムを準備しています。

(3) 仏教思想コース：アジアの広範な地域に伝播定着した仏教とその文化を学ぶ横断的なコースです。仏教成立の背景から、アジア各地の仏教、そして現代日本の仏教にいたるまでを総合的に学びます。また、アジア各地の古典語（古典漢語、サンスクリット、パーリ、チベットなど）を体系的に学習します。

(4) 東洋芸術文化コース：インドや中国を中心にアジアに広がる美術などの芸術や多様な文化を幅広く学ぶコースです。基礎的教養としてはインド、中国などの歴史や思想・文学を学びつつ、東洋の芸術や文化をより柔軟な視点から理解するための科目を設けています。

4. 東洋思想文化学科の学生は、卒業年次に卒業論文の作成が課されます。学科の教育目標の達成度を測るものですので、学生生活の総決算として論文を完成させてください。

## ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

1. 東洋思想文化学科の教育目標に沿って設定された授業科目を履修し、基準となる単位数を修得することが、学位授与の必要要件です。修得すべき授業科目の中には、講義だけでなく、演習や卒業論文等のさまざまな形態の科目が含まれています。
2. 東洋思想文化学科の教育目標で明示されている、(1) 東洋の思想と文化、ならびにそれを理解するのに役立つ語学、宗教学等に関する豊富な知識、(2) 東洋に特有の価値観や思考法への理解、(3) 自らが直面する様々な問題に対して、独自の視点から分析と考察を行い、自分の見解を論理的に表現し、また、それに基づいて実践することのできる能力、の三つが学習成果として実現されているかどうか、さらには、グローバル化の進む現代社会に貢献できる人材となっているかどうか、課程修了の目安となります。

## コース分けについて

### 1. 各コースの概要とコース分けの年次

東洋思想文化学科には主たる学習内容別に4つのコースが設置されている。4コースの概要は以下の通りである。

#### (1) インド思想コース

古代から現代までのインドの思想・宗教を中心に学ぶコースであり、文献講読に必要なインド古典語のサンスクリット語や現代語のヒンディー語なども合わせて学習する。

#### (2) 中国語・中国哲学文学コース

中国の古典から現代までの思想・文学あるいは文化事象を学ぶコースである。合わせて文献講読に必要な漢文読解力や中国語の語学力を養成する。

#### (3) 仏教思想コース

インド、中国、日本を中心とした仏教の歴史的展開や思想内容を詳しく学ぶコースであり、仏教の理解に必要なサンスクリット語、パーリ語、チベット語、仏教漢文などの語学も学習する。

#### (4) 東洋芸術文化コース

インド、中国、日本などの美術を中心に建築、芸能、音楽などアジアの芸術、文化を総合的に学ぶコースである。合わせてサンスクリット語、漢文、ヒンディー語などアジアの外国語も学習する。

1年次の秋学期からコース分けについて指導が行なわれる。それにより学生は各自が希望するコースを検討・決定し、2年次から各コースのカリキュラムにしたがってコース別必修科目、選択必修科目などの履修を開始する。

### 2. 各コースで取得できる教育職員（教員）免許状について

本学科で取得できる教育職員免許状は、コースごとに以下のように決められている。したがって**教育職員免許状を取得希望の者は、コース選択の際、必ず以下の事項を確認すること**。詳細は、P.198 参照。  
<各コースで取得できる教育職員免許状の種類>

- (1) インド思想コース  いづれの教育職員免許状も取得できない。
- (2) 中国語・中国哲学文学コース 「**中学校教諭1種免許状(国語)**」「**高等学校教諭1種免許状(国語)**」「**高等学校教諭1種免許状(書道)**」が取得可能である。
- (3) 仏教思想コース       「**中学校教諭1種免許状(社会)**」「**高等学校教諭1種免許状(地理歴史)**」「**高等学校教諭1種免許状(公民)**」が取得可能である。
- (4) 東洋芸術文化コース   いづれの教育職員免許状も取得できない。

### 3. コースに関連した履修上の注意

#### (1) 国際コミュニケーション科目履修上の注意

東洋思想文化学科の学生は「文学部共通科目」中の「国際コミュニケーション科目」については、「英語」4単位を含む8単位以上を履修かつ修得しなければならない。ただし「中国語・中国哲学文学コース」を希望する場合は、英語4単位と中国語4単位を履修することが望ましい。

#### (2) 1年次に履修した専門科目について

1年次から履修できる専門科目のうち、選択した2年次からのコースの教育課程表に記載されていない科目は卒業単位にならない(自由科目として単位認定される)。

科目区分		文学部 第1部 東洋思想文化学科 卒業要件			
		インド思想コース	中国語・中国哲学 文学コース	仏教思想コース	東洋芸術文化 コース
共通総合科目 16単位以上	哲 学 ・ 思 想	16単位以上			
	自然・環境・生命				
	歴 史 ・ 文 化				
	現 代 ・ 社 会				
	ス ポ ー ツ ・ 健 康				
	情 報 教 育				
	総 合				
	社会人基礎力科目				
	留 学 支 援 科 目				
文学部共通科目 16単位以上	文 学 部 教 育	※文学部共通科目の卒業要件単位数は、国際コミュニケーション科目の8単位を含む、合計16単位以上			
	文学部基礎専門科目				
	国際コミュニケーション科目	8単位以上			
	諸 資 格 関 連 科 目				
	キ ャ リ ア 教 育				
専門科目 74単位以上	各コース共通必修科目	18単位			
	コース別必修科目	16単位	36単位	30単位	16単位
	選 択 必 修 科 目 I	12単位以上	14単位以上	12単位以上	12単位以上
	選 択 必 修 科 目 II	12単位以上	6単位以上	12単位以上	12単位以上
	選 択 科 目				
教 職 科 目					
他学部他学科開放科目					
卒業必要単位数合計		124単位			

※中国語が母国語・母語の外国学生が、中国語・中国哲学文学コースを選択した場合は、国際コミュニケーション科目14単位、コース別必修科目34単位、選択必修科目I10単位の卒業要件となります。

第1部 東洋思想文化学科

共通総合科目

哲学・思想  
 自然・環境・生命  
 歴史・文化  
 現代・社会  
 スポーツ・健康  
 情報教育  
 総合  
 社会人基礎力科目  
 留学支援科目

文学部 共通科目

文学部教育  
 文学部基礎専門科目  
 国際コミュニケーション科目  
 諸資格関連科目  
 キャリア教育

国際コミュニケーション科目

共通総合科目は、卒業までに16単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、16単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

- ① スポーツ・健康科目の授業は、東洋大学総合スポーツセンター（板橋区清水町）で開講されます。
- ② 「スポーツ健康科学実技」および「スポーツ健康科学演習」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があるため、詳細については『履修登録のしおり・授業時間割表』、学内掲示を参照してください。

留学支援科目は、共通総合科目の枠内であるが、16単位の卒業要件には入らない。ただし、卒業単位には算入される。

※ 「自然科学演習A・B」は、2年次以上でかつ講義科目または実験講義科目を合計8単位以上修得していなければ、履修することができない。

文学部共通科目は、卒業までに国際コミュニケーション科目8単位の卒業要件を充たし、合計16単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、卒業要件を充たし、16単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

◇ 通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

Philosophy of Language A(2) (言語論A)	Comparative Culture Studies A (2) (比較文化論A)
Philosophy of Language B(2) (言語論B)	Comparative Culture Studies B (2) (比較文化論B)
Verbal and Nonverbal Communication A(2) (言語・非言語コミュニケーションA)	
Verbal and Nonverbal Communication B(2) (言語・非言語コミュニケーションB)	

◇ 第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

日本の伝統芸能 A(2)
日本の伝統芸能 B(2)

「英語」4単位を含む8単位以上を履修かつ修得しなければならない。  
 ただし「中国語・中国哲学文学コース」を希望する場合は、英語4単位と中国語4単位を履修することが望ましい。

#### ◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

Communicative English A (2) Communicative English B (2)
--

#### ◇語学セミナー

本学では、「東洋大学語学セミナー（英語・中国語）」を実施している。このセミナーに参加し、条件を充たすことにより国際コミュニケーション科目の1科目の単位を認定する。単位認定対象科目は以下の通りである。

「英語 I A」「英語 I B」「英語 II A」「英語 II B」

「中国語 I A」「中国語 I B」「中国語 II A」「中国語 II B」

※セミナーの詳細は、「V 留学制度について」(P. 248)を参照すること。

### キャリア教育

インターンシップ・ボランティア活動は、文学部が認定する機関で就業体験やボランティア活動を行い、単位認定の条件を充たした場合、単位を認定する。

詳細は、シラバス（講義要項）を参照すること。

専 門 科 目
---------

東洋思想文化学科の各コース専門科目は、卒業までに**74単位以上**を履修かつ修得しなければならない。この74単位のうち、以下の各科目区分の卒業要件を充たさなければならない。また各科目区分および専門科目の卒業要件を充たし、**74単位を超過して履修かつ修得した選択必修科目と選択科目の単位数も、卒業単位として算入する。**

### 必修科目

各コースの必修科目に設置されている全ての科目の単位（インド思想コース 34 単位、中国語・中国哲学文学コース 54 単位、仏教思想コース 48 単位、東洋芸術文化コース 34 単位）を履修かつ修得しなければならない。なお、卒業論文は必修であるため、1年次から計画を立て、共同研究室の掲示等に注意すること。ただし、4年次の「卒論指導」「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が**48単位以下**の卒業見込みの学生に限る。

### 選択必修科目

選択必修科目は各コースに「選択必修科目Ⅰ」と「選択必修科目Ⅱ」が設定されており、各コースの教育課程表（専門科目）に示された所定の科目から選択して履修かつ修得しなければならない。

「インド思想コース」「仏教思想コース」「東洋芸術文化コース」の3コースでは「選択必修科目Ⅰ」のうち語学科目4単位以上と講義科目8単位以上の計12単位以上修得し、また「選択必修科目Ⅱ」を12単位以上修得しなければならない。

「中国語・中国哲学文学コース」では「選択必修科目Ⅰ」のうち語学科目4単位以上と講義科目10単位以上の計14単位以上を修得し、また「選択



必修科目Ⅱ」を6単位以上修得しなければならない。

選択必修科目の必要修得単位数はコースによって異なるので、注意が必要である。

選択科目

各コースの選択科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

実技講義科目および海外研修

科目によっては集中講義となる場合や第2部時間帯のみ開講する場合、また別途費用が必要となる場合があるので、「シラバス（講義要項）」等で十分に確認したうえで履修すること。

<科目の開講について>

◇通年履修科目

下記科目は通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

中国学概論 A(2)	中国哲学講読 A(2)
中国学概論 B(2)	中国哲学講読 B(2)
中国文献学 A(2)	中国文学講読 A(2)
中国文献学 B(2)	中国文学講読 B(2)
中国哲学史 A(2)	中国哲学特講 I A(2)
中国哲学史 B(2)	中国哲学特講 I B(2)
中国文学史 A(2)	中国文学特講 I A(2)
中国文学史 B(2)	中国文学特講 I B(2)
中国現代文学史 A(2)	中国文化史 A(2)
中国現代文学史 B(2)	中国文化史 B(2)
中国学研究方法 A(2)	中国語Ⅳ A(1)
中国学研究方法 B(2)	中国語Ⅳ B(1)
中国史概説 A(2)	中国語Ⅴ A(1)
中国史概説 B(2)	中国語Ⅴ B(1)
日本漢学 A(2)	中国語Ⅵ A(1)
日本漢学 B(2)	中国語Ⅵ B(1)
中国文字学 A(2)	中国語Ⅶ A(1)
中国文字学 B(2)	中国語Ⅶ B(1)

◇第2部時間帯のみでの開講科目

下記科目は第2部時間帯のみの開講となる。

履修を希望する場合は第2部時間割を参照すること。

仏教の芸能(2)	宗教社会学 A(2)
インド舞踊(2)	宗教社会学 B(2)
坐禅(2)	宗教をめぐる諸問題 A(2)
写経(2)	宗教をめぐる諸問題 B(2)
ヨガ(2)	



◇隔年開講科目

下記科目は隔年で開講となる。

履修を希望する場合は、開講年度に注意すること。

インド現代思想(2)	仏教思想特講ⅠA(2)
現代のインド(2)	仏教思想特講ⅠB(2)
仏教と社会福祉(2)	仏教思想特講ⅡA(2)
現代に生きる仏教(2)	仏教思想特講ⅡB(2)
インド思想特講ⅠA(2)	仏教思想特講ⅢA(2)
インド思想特講ⅠB(2)	仏教思想特講ⅢB(2)
インド思想特講ⅡA(2)	仏教思想特講ⅣA(2)
インド思想特講ⅡB(2)	仏教思想特講ⅣB(2)
インド思想特講ⅢA(2)	東洋芸術文化特講ⅠA(2)
インド思想特講ⅢB(2)	東洋芸術文化特講ⅠB(2)
インド思想特講ⅣA(2)	東洋芸術文化特講ⅡA(2)
インド思想特講ⅣB(2)	東洋芸術文化特講ⅡB(2)
神道史 A(2)	東洋芸術文化特講ⅢA(2)
神道史 B(2)	東洋芸術文化特講ⅢB(2)
韓国仏教史(2)	東洋芸術文化特講ⅣA(2)
近世日本思想 A(2)	東洋芸術文化特講ⅣB(2)
近世日本思想 B(2)	

◇第1部・第2部いずれかの時間帯で開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

韓国文化事情 A(2)	東洋の身体論(2)
韓国文化事情 B(2)	近代化と東洋(2)
日本の古典籍 A(2)	中国現代文学史 A(2)
日本の古典籍 B(2)	中国現代文学史 B(2)
教職国語(古典) A(2)	日本民俗学 A(2)
教職国語(古典) B(2)	日本民俗学 B(2)
教職国語(現代文) A(2)	
教職国語(現代文) B(2)	

教 職 科 目

東洋思想文化学科教育課程表にある教職科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

教職科目は、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することができる。

他学部他学科開放科目(専門開放科目)

別(P.134)に定める他学部他学科開放科目(専門開放科目)を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

自由科目

東洋思想文化学科教育課程表にない科目で、なおかつ、前項の他学部他学科開放科目(専門開放科目)として提示されていない科目の履修を希望する場合は、履修する学部学科の配当学年にしたがい、担当教員の許可を得て、卒業単位にならない自由科目として履修することができる。ただし、年間履修最高単位数(48単位)を超えて履修することはできない。なお、以下の科目も履修できないので注意すること。

1. カリキュラム年度の異なる科目
2. 第2部開講の科目(第1部の教育課程表に掲載されていない科目)
3. 所属する学部学科の科目と同一名称の科目

◇東洋思想文化学科第1部・第2部間相互聴講制度による相互聴講科目

東洋思想文化学科第1部・第2部間でのみ相互聴講を認める。

履修条件は、以下の通りである。

- (1) 以下の第2部東洋思想文化学科提供科目群のうち、卒業までに40単位を超えて履修かつ修得することはできない。
- (2) 科目提供主体(第2部)の学年配当にしたがって履修しなければならない。
- (3) 年間履修最高単位数(48単位)に算入する。
- (4) 履修かつ修得した単位は、専門科目として、卒業単位に算入する。
- (5) 履修方法  
第2部提供科目の履修を希望する場合は、第1部の科目と同様に履修登録をすること。
- (6) 対象科目(第2部東洋思想文化学科提供科目群)

インド思想史 A(2)	中国文字学 A(2)
インド思想史 B(2)	中国文字学 B(2)
インド古典思想概論 A(2)	インド・仏教の美術 A(2)
インド古典思想概論 B(2)	インド・仏教の美術 B(2)
ヒンドゥー教概論 A(2)	中国の美術 A(2)
ヒンドゥー教概論 B(2)	中国の美術 B(2)
仏教思想概論 A(2)	日本漢学 A(2)
仏教思想概論 B(2)	日本漢学 B(2)
インド仏教史 A(2)	中国哲学特講 I A(2)
インド仏教史 B(2)	中国哲学特講 I B(2)
中国仏教史 A(2)	中国文学特講 I A(2)
中国仏教史 B(2)	中国文学特講 I B(2)
日本仏教史 A(2)	チベット仏教史(2)
日本仏教史 B(2)	中国哲学講読 A(1)
中国史概論 A(2)	中国哲学講読 B(1)
中国史概論 B(2)	中国文学講読 A(1)
インド文化概論 A(2)	中国文学講読 B(1)
インド文化概論 B(2)	東西交渉文化史 A(2)
中国文化史 A(2)	東西交渉文化史 B(2)
中国文化史 B(2)	

※「中国史概説A」「中国史概説B」の第2部の科目名称は、「中国史概論A」「中国史概論B」になるので、第2部時限帯で履修を希望する場合は注意すること。

なお、第2部時限帯の「中国史概論A」「中国史概論B」を履修かつ修得した場合は、「中国史概説A」「中国史概説B」に読み替え修得したこととする。

2013 年度入学生用 文学部第 1 部東洋思想文化学科 教育課程表 (共通総合科目)

区 分		第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年			
共通総合科目	16 単位以上	教養科目	哲学・思想	哲学 A(2) 哲学 B(2) 科学思想史 A(2) 科学思想史 B(2) 宗教学Ⅱ A(2) 宗教学Ⅱ B(2) 地域文化研究Ⅲ A(2) 地域文化研究Ⅲ B(2)	哲学史 A(2) 哲学史 B(2) 美術史 A(2) 美術史 B(2) 地球倫理 A(2) 地球倫理 B(2) 論理学 A(2) 論理学 B(2)	倫理学基礎論 A(2) 倫理学基礎論 B(2) 音楽学 A(2) 音楽学 B(2) 地域文化研究Ⅰ A(2) 地域文化研究Ⅰ B(2)	応用倫理学 A(2) 応用倫理学 B(2) 宗教学Ⅰ A(2) 宗教学Ⅰ B(2) 地域文化研究Ⅱ A(2) 地域文化研究Ⅱ B(2)	
			自然・環境・生命	自然の数理 A(2) 自然の数理 B(2) 環境の科学 A(2) 環境の科学 B(2) 自然科学概論 A(2) 自然科学概論 B(2) 化学実験講義 A(2) 化学実験講義 B(2) 日本事情Ⅰ A(2) (留学生用)	生活と物理 A(2) 生活と物理 B(2) 地球の科学 A(2) 地球の科学 B(2) 自然誌 A(2) 自然誌 B(2) 地球科学実習講義 A(2) 地球科学実習講義 B(2) 日本事情Ⅰ B(2) (留学生用)	エネルギーの科学 A(2) エネルギーの科学 B(2) 生物学 A(2) 生物学 B(2) 物理学実験講義 A(2) 物理学実験講義 B(2) 数理・情報実習講義 A(2) 数理・情報実習講義 B(2)	物質の科学 A(2) 物質の科学 B(2) 天文学 A(2) 天文学 B(2) 生物学実験講義 A(2) 生物学実験講義 B(2) 天文学実習講義 A(2) 天文学実習講義 B(2)	
			歴史・文化	国際教育論 A(2) 国際教育論 B(2) 日本文学文化と風土 A(2) 日本文学文化と風土 B(2) 地域史(日本) A(2) 地域史(日本) B(2) 日本事情Ⅱ A(2) (留学生用)	多文化共生論 A(2) 多文化共生論 B(2) 日本の詩歌 A(2) 日本の詩歌 B(2) 地域史(東洋) A(2) 地域史(東洋) B(2) 日本事情Ⅱ B(2) (留学生用)	百人一首の文化史 A(2) 百人一首の文化史 B(2) 西欧文学 A(2) 西欧文学 B(2) 地域史(西洋) A(2) 地域史(西洋) B(2)	日本の昔話 A(2) 日本の昔話 B(2) 現代日本文学 A(2) 現代日本文学 B(2) 歴史の諸問題 A(2) 歴史の諸問題 B(2)	
			現代・社会	経済学 A(2) 経済学 B(2) 政治学 A(2) 政治学 B(2) 国際比較論 A(2) 国際比較論 B(2) 日本事情Ⅲ A(2) (留学生用)	統計学 A(2) 統計学 B(2) 社会学 A(2) 社会学 B(2) 心理学 A(2) 心理学 B(2) 日本事情Ⅲ B(2) (留学生用)	法学 A(2) 法学 B(2) 人類学 A(2) 人類学 B(2) ベーシック・マーケティング(2) 流通入門(2)	日本国憲法(2) 地理学 A(2) 地理学 B(2) 基礎会計学(2) 企業会計(2)	
			スポーツ・健康	スポーツ健康科学実技Ⅰ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅰ B(1) スポーツ健康科学講義Ⅰ(2) スポーツ健康科学演習Ⅰ(2)	スポーツ健康科学実技Ⅱ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅱ B(1) スポーツ健康科学講義Ⅱ A(2) スポーツ健康科学講義Ⅱ B(2)	スポーツ健康科学実技Ⅲ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅲ B(1)	スポーツ健康科学実技Ⅲ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅲ B(1)	
			情報教育	情報化社会と人間(2)	情報倫理(2)	コンピュータ・リテラシー(2)		
			総合	総合Ⅰ A(2) 総合Ⅰ B(2) 総合Ⅴ A(2) 総合Ⅴ B(2) 総合Ⅸ A(2) 総合Ⅸ B(2)	総合Ⅱ A(2) 総合Ⅱ B(2) 総合Ⅵ A(2) 総合Ⅵ B(2) 全学総合Ⅰ A(2) 全学総合Ⅰ B(2)	総合Ⅲ A(2) 総合Ⅲ B(2) 総合Ⅶ A(2) 総合Ⅶ B(2) 全学総合Ⅱ A(2) 全学総合Ⅱ B(2)	総合Ⅳ A(2) 総合Ⅳ B(2) 総合Ⅷ A(2) 総合Ⅷ B(2)	
			社会人基礎力科目	社会人基礎力入門講義(2) 社会人基礎力実践講義(2) キャリアデベロップメント論 A(2) キャリアデベロップメント論 B(2)	企業のしくみ(2) 公務員論(2)	社会人貢献活動入門(2)	企業家論(2)	
			留学支援科目	英語特別教育科目	Special Course in Advanced TOEFL I(4) Special Course in Advanced TOEFL II(4)			
				日本語科目	(協定校並びに ISEP 加盟大学等からの留学生に対する日本語・日本文化科目) Integrated Japanese I(5) Japanese Reading and Composition I(2) Kanji Literacy I(1) Integrated Japanese II(5) Japanese Reading and Composition II(2) Kanji Literacy II(1) Project Work I(1) Japanese Listening Comprehension I(1) Japanese Culture I(1) Project Work II(1) Japanese Listening Comprehension II(1) Japanese Culture II(1)			

2013 年度入学生用 文学部第 1 部東洋思想文化学科 教育課程表 (文学部共通科目)

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年
文学部教育	東洋大学・井上円了研究(2)	伝 統 文 化 講 座(2)	情 報 処 理 演 習 A(1)	情 報 処 理 演 習 B(1)
文学部基礎専門科目	論 理 学 概 論(4) 哲 学 基 礎 概 説(4) 日 本 史 概 説(4) 西 洋 史 概 説(4)	比 較 思 想 (4) 英 文 学 特 講 I(4) 英 文 学 特 講 II(4) 英 文 学 特 講 III(4) 米 文 学 特 講 I(4) 米 文 学 特 講 II(4) 哲 学 と 科 学(4) 応 用 倫 理 学 特 論(4) 児 童 文 学 A(2) 哲 学 と 宗 教 思 想(4) 児 童 文 学 B(2)		
	生 涯 学 習 概 論 I(2)	特 別 支 援 教 育 概 論 I(2)	イギリスの文化と思想(4)	アメリカの文化と思想(4)
文学部共通科目	英語圏文学文化と日本 A(2) 英語圏文学文化と日本 B(2)	ドイツ語圏文学文化と日本 A(2) ドイツ語圏文学文化と日本 B(2)	フランス語圏文学文化と日本 A(2) フランス語圏文学文化と日本 B(2)	日本の伝統行事 A(2) 日本の伝統行事 B(2)
	日本の伝統芸能 A(2) 日本の伝統芸能 B(2)	家族心理学(2) 児童文化研究(2)	女性問題と学習(2) Philosophy of Language A(2) Philosophy of Language B(2)	生涯学習概論 II(2) 特別支援教育概論 II(2) Comparative Culture Studies A(2) Comparative Culture Studies B(2)
国際コミュニケーション科目 16 単元以上	検 定 英 語(4)	Practical Writing(2)	Communicative English A(2)	Communicative English B(2)
	英 語 I A(2) 英 語 I B(2)	英 語 II A(2) 英 語 II B(2)	英 語 III A(2) 英 語 III B(2)	英 語 III A(2) 英 語 III B(2)
ドイツ語	ド イ ツ 語 I A(2) ド イ ツ 語 I B(2)	ド イ ツ 語 II A(2) ド イ ツ 語 II B(2)	ド イ ツ 語 III A(2) ド イ ツ 語 III B(2)	ド イ ツ 語 III A(2) ド イ ツ 語 III B(2)
	フ ラ ン ス 語 I A(2) フ ラ ン ス 語 I B(2)	フ ラ ン ス 語 II A(2) フ ラ ン ス 語 II B(2)	フ ラ ン ス 語 III A(2) フ ラ ン ス 語 III B(2)	フ ラ ン ス 語 III A(2) フ ラ ン ス 語 III B(2)
中国語	中 国 語 I A(2) 中 国 語 I B(2)	中 国 語 II A(2) 中 国 語 II B(2)	中 国 語 III A(2) 中 国 語 III B(2)	中 国 語 III A(2) 中 国 語 III B(2)
	英語 I A・英語 I B 必修、以外に太枠内の英語を含む 1 ヶ国語 2 科目 4 単位選択必修			
日本語 (留学生用)	(留 学 生 用) 必 修 日 本 語 I A A(1) 日 本 語 I A B(1) 日 本 語 I B A(1) 日 本 語 I B B(1)	(留 学 生 用) 選 択 必 修 日 本 語 と 日 本 社 会 A(2) 日 本 語 と 日 本 社 会 B(2) 日 本 語 と 日 本 文 化 A(2) 日 本 語 と 日 本 文 化 B(2)	※留学生は日本語 8 単位必修。	
	教 育 基 礎 論(2) 教 育 制 度 論(2)			
諸資格関連科目	社 会 教 育 計 画 論 I(2)	社 会 教 育 計 画 論 II(2)	視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)(2)	
	博 物 館 情 報 ・ メ デ ィ ア 論(2) 博 物 館 概 論(2)	博 物 館 教 育 論(2) 博 物 館 資 料 論(2) 博 物 館 経 営 論(2) 博 物 館 展 示 論(2)	博 物 館 資 料 保 存 論(2)	博 物 館 実 習 I(2) 博 物 館 実 習 II(1)
キャリア教育	図 書 館 概 論(2) 情 報 サ ー ビ ス 論(2) 情 報 サ ー ビ ス 演 習 A(1) 情 報 サ ー ビ ス 演 習 B(1)	情 報 資 源 組 織 演 習 A(1) 情 報 資 源 組 織 演 習 B(1)	図 書 館 情 報 資 源 概 論(2) 図 書 館 情 報 資 源 特 論(2) 図 書 館 制 度 ・ 経 営 論(2) 図 書 館 情 報 技 術 論(2)	図 書 館 サ ー ビ ス 概 論(2) 図 書 館 情 報 技 術 論(2) 図 書 ・ 図 書 館 史(2)
	学 習 指 導 と 学 校 図 書 館(2) 読 書 と 豊 かな 人 間 性(2)	学 校 経 営 と 学 校 図 書 館(2) 情 報 メ デ ィ ア の 活 用(2)	学 校 図 書 館 メ デ ィ ア の 構 成(2) 教 員 養 成 講 座 I(2) 教 員 養 成 講 座 II(2) ボ ラ ン テ ィ ア 活 動(2)	

※ 2 年次のコース分けて中国語・中国哲学文学コースを選択することを希望している場合は、「英語 I A」・「英語 I B」以外に、「中国語 I A」・「中国語 I B」を 1 年次に履修することが望ましい。

※ 中国語・中国哲学文学コースの外国学生 (母国語・母語が中国語) は、英・独・仏から 1 ヶ国語 6 単位選択必修。



2013 年度入学生用 文学部第 1 部東洋思想文化学科 インド思想コース 教育課程表（専門科目）

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年		
専 門 科 目 74 単 位 以 上	必修科目 34 単位	18 単位 各コース 共通必修 東洋思想文化への誘い A(2) 東洋思想文化への誘い B(2) レポート・論文制作の技法(2)	東洋思想文化演習 I(2)	東洋思想文化演習 II(2)	卒業指導(2) 卒業論文(6)	
		16 単位 コース別必修	インド思想史 A(2) インド思想史 B(2) ヒンドゥー教概論 A(2) ヒンドゥー教概論 B(2) インド・仏教の美術 A(2) インド・仏教の美術 B(2)	インド仏教史 A(2) インド仏教史 B(2) インド文化概論 A(2) インド文化概論 B(2) 東南アジア仏教史(2)	インド古典思想概論 A(2) インド古典思想概論 B(2) 仏教思想概論 A(2) 仏教思想概論 B(2)	
	12 単位以上 選択必修科目 I	4 単位以上 語学科目		サンスクリット語 I A(1) サンスクリット語 I B(1)	ヒンディー語 A(1) ヒンディー語 B(1) サンスクリット語 II A(1) サンスクリット語 II B(1)	
		8 単位以上 講義科目		インド思想特講 I A(2) インド思想特講 I B(2) インド思想特講 IV A(2) インド思想特講 IV B(2)	インド思想特講 II A(2) インド思想特講 II B(2)	インド思想特講 III A(2) インド思想特講 III B(2)
	74 単 位 以 上 選択必修科目 II 12 単 位 以 上	語学科目	基礎中国語 A(1) 基礎中国語 B(1)	パーリ語 A(1) パーリ語 B(1) 中国語学演習 A(1) 中国語学演習 B(1) 中国語 VI A(1) 中国語 VI B(1)	チベット語 A(1) チベット語 B(1) 中国語 IV A(1) 中国語 IV B(1) 中国語 VII A(1) 中国語 VII B(1)	仏教漢文 A(1) 仏教漢文 B(1) 中国語 V A(1) 中国語 V B(1) 韓国語 A(1) 韓国語 B(1)
			宗教をめぐる諸問題 A(2) 宗教をめぐる諸問題 B(2) 中国文学文化と日本 A(2) 中国文学文化と日本 B(2) イスラーム概論(2) インド現代思想(2) 漢文訓読法(2)	宗教学概論 A(2) 宗教学概論 B(2) 比較文学文化概説 A(2) 比較文学文化概説 B(2) 現代のインド(2) 仏教と社会福祉(2) 心理学概論 A(2) 心理学概論 B(2)	東洋の身体論(2) 近代化と東洋(2) 日本文学文化概説 A(2) 日本文学文化概説 B(2) 現代に生きる仏教(2)	韓国文化事情 A(2) 韓国文化事情 B(2) 古文書学 I(4) キリスト教概論(2) 中国学研究法 A(2) 中国学研究法 B(2)
		講義科目	書道史 A(2) 書道史 B(2)	比較宗教 A(2) 比較宗教 B(2) 中国学概論 A(2) 中国学概論 B(2) 中国文字学 A(2) 中国文字学 B(2) 中国文学史 A(2) 中国文学史 B(2) 中国の美術 A(2) 中国の美術 B(2)	宗教社会学 A(2) 宗教社会学 B(2) 中国史概説 A(2) 中国史概説 B(2) 中国哲学史 A(2) 中国哲学史 B(2) 中国現代文学史 A(2) 中国現代文学史 B(2) 中国哲学講読 A(1) 中国哲学講読 B(1)	東西交渉文化史 A(2) 東西交渉文化史 B(2) 中国文献学 A(2) 中国文献学 B(2) 中国仏教史 A(2) 中国仏教史 B(2) 中国文化史 A(2) 中国文化史 B(2) 中国文学講読 A(1) 中国文学講読 B(1)
				韓国仏教史(2) チベット仏教史(2)	神道史 A(2) 神道史 B(2) 日本漢学 A(2) 日本漢学 B(2) 仏教思想特講 I A(2) 仏教思想特講 I B(2) 仏教思想特講 IV A(2) 仏教思想特講 IV B(2) 中国文学特講 I A(2) 中国文学特講 I B(2) 東洋芸術文化特講 I A(2) 東洋芸術文化特講 I B(2) 東洋芸術文化特講 II A(2) 東洋芸術文化特講 II B(2)	中国哲学特講 II A(2) 中国哲学特講 II B(2) 中国哲学特講 I A(2) 中国哲学特講 I B(2) 東洋芸術文化特講 II A(2) 東洋芸術文化特講 II B(2) 東洋芸術文化特講 III A(2) 東洋芸術文化特講 III B(2)
				日本民俗学 A(2) 日本民俗学 B(2) 近世日本思想 A(2) 近世日本思想 B(2) 仏教思想特講 II A(2) 仏教思想特講 II B(2) 中国哲学特講 I A(2) 中国哲学特講 I B(2) 中国文学特講 II A(2) 中国文学特講 II B(2) 東洋芸術文化特講 III A(2) 東洋芸術文化特講 III B(2)	中国哲学特講 II A(2) 中国哲学特講 II B(2) 中国哲学特講 II A(2) 中国哲学特講 II B(2) 東洋芸術文化特講 III A(2) 東洋芸術文化特講 III B(2) 東洋芸術文化特講 IV A(2) 東洋芸術文化特講 IV B(2)	
				日本民俗学 A(2) 日本民俗学 B(2) 近世日本思想 A(2) 近世日本思想 B(2) 仏教思想特講 II A(2) 仏教思想特講 II B(2) 中国哲学特講 I A(2) 中国哲学特講 I B(2) 中国文学特講 II A(2) 中国文学特講 II B(2) 東洋芸術文化特講 III A(2) 東洋芸術文化特講 III B(2)	中国哲学特講 II A(2) 中国哲学特講 II B(2) 中国哲学特講 II A(2) 中国哲学特講 II B(2) 東洋芸術文化特講 III A(2) 東洋芸術文化特講 III B(2) 東洋芸術文化特講 IV A(2) 東洋芸術文化特講 IV B(2)	
実技講義科目	写 経(2) インド舞踊(2)	ヨ ー ガ(2) 日本の宗教を歩く(2)	坐 禪(2)	仏教の芸能(2)		
実技科目	書道 I A(1) 書道 I B(1)	書道 II A(1) 書道 II B(1) 書道 III A(1) 書道 III B(1)	書道 IV A(1) 書道 IV B(1)	創作書道 A(1) 創作書道 B(1)		

(次ページに続く)



区 分		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
専 門 科 目 74 単 位 以 上	選択必修科目 Ⅱ 12単位以上	海外 研修	海外文化研修Ⅰ(2) 海外文化研修Ⅱ(2)		
	選択科目		古典文法 A(2) 古典文法 B(2)		
		古代日本文学史 A(2) 古代日本文学史 B(2) 日本語概説 A(2) 日本語概説 B(2) 作家作品研究(近世) A(2) 作家作品研究(近世) B(2)	中世日本文学史 A(2) 中世日本文学史 B(2) 作家作品研究(上代) A(2) 作家作品研究(上代) B(2) 作家作品研究(近現代) A(2) 作家作品研究(近現代) B(2)	近世日本文学史 A(2) 近世日本文学史 B(2) 作家作品研究(中古) A(2) 作家作品研究(中古) B(2) 教職国語(古典) A(2) 教職国語(古典) B(2)	近現代日本文学史 A(2) 近現代日本文学史 B(2) 作家作品研究(中世) A(2) 作家作品研究(中世) B(2) 教職国語(現代文) A(2) 教職国語(現代文) B(2)
他学部他学科開放科目 (専門開放科目)		科目は別表に記載			

- 備考
1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
  2. ( ) は該当科目の単位数。
  3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
  4. 4年次の「卒論指導」「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の卒業見込みの学生に限る。
  5. 「創作書道A」「創作書道B」の履修は「書道ⅢA」と「書道ⅢB」または「書道ⅣA」と「書道ⅣB」の単位を修得した学生に限る。
  6. 「教職国語(現代文)A」「教職国語(現代文)B」「教職国語(古典)A」「教職国語(古典)B」は、中学・高校国語科教員として教壇に立つことを想定し、それに必要な教養・文法理解・読解力を養うための科目である。ただし、教育職員免許状を取得するために必要な科目に該当しないので注意すること。

2013年度入学生用 文学部第1部東洋思想文化学科 中国語・中国哲学文学コース 教育課程表(専門科目)

区 分		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
専 門 科 目 74 単 位 以 上	必修科目 54単位	必修18単位 含メ盡 東洋思想文化への誘いA(2) 東洋思想文化への誘いB(2) レポート・論文制作の技法(2)	東洋思想文化演習 I(2)	東洋思想文化演習 II(2)	卒業 論 指 導(2) 卒 業 論 文(6)	
		必修36単位 コース別	基礎中国語 A(1) 基礎中国語 B(1)	中国学概論 A(2) 中国学概論 B(2) 中国哲学史 A(2) 中国哲学史 B(2) 中国哲学講読 A(1) 中国哲学講読 B(1)	中国文献学 A(2) 中国文献学 B(2) 中国哲学特講 I A(2) 中国哲学特講 I B(2) 中国文学講読 A(1) 中国文学講読 B(1)	中国文学史 A(2) 中国文学史 B(2) 中国文学特講 I A(2) 中国文学特講 I B(2)
			漢文訓読法(2)	中国学研究法 A(2)	中国学研究法 B(2)	
	選択必修科目 I 14単位以上	4単位以上 語学科目		中国語学演習 A(1) 中国語学演習 B(1) 中国語 VI A(1) 中国語 VI B(1)	中国語 IV A(1) 中国語 IV B(1) 中国語 VII A(1) 中国語 VII B(1)	中国語 V A(1) 中国語 V B(1)
		10単位以上 講義科目		中国現代文学史 A(2) 中国現代文学史 B(2) 中国文字学 A(2) 中国文字学 B(2) 日本漢学 A(2) 日本漢学 B(2)	中国哲学特講 II A(2) 中国哲学特講 II B(2) 中国文化史 A(2) 中国文化史 B(2) 日本の古典籍 A(2) 日本の古典籍 B(2)	中国文学特講 II A(2) 中国文学特講 II B(2) 中国史概説 A(2) 中国史概説 B(2)
	選 択 必 修 科 目 II 6 単 位 以 上	講義科目	宗教学概論 A(2) 宗教学概論 B(2) 比較文学文化概説 A(2) 比較文学文化概説 B(2) イスラーム概論(2) キリスト教概論(2) 日本語概説 A(2) 日本語概説 B(2) 近現代日本文学史 A(2) 近現代日本文学史 B(2) 作家作品研究(近世) A(2) 作家作品研究(近世) B(2)	宗教をめぐる諸問題 A(2) 宗教をめぐる諸問題 B(2) 日本文学文化概説 A(2) 日本文学文化概説 B(2) 仏教と社会福祉(2) 現代に生きる仏教(2) 古代日本文学史 A(2) 古代日本文学史 B(2) 作家作品研究(上代) A(2) 作家作品研究(上代) B(2) 作家作品研究(近現代) A(2) 作家作品研究(近現代) B(2)	東洋の身体論(2) 近代化と東洋(2) 古文書学 I(4) 心理学概論 A(2) 心理学概論 B(2) 中世日本文学史 A(2) 中世日本文学史 B(2) 作家作品研究(中古) A(2) 作家作品研究(中古) B(2) 教職国語(古典) A(2) 教職国語(古典) B(2)	中国文学文化と日本 A(2) 中国文学文化と日本 B(2) 韓国文化事情 A(2) 韓国文化事情 B(2) 日本史 A(2) 日本史 B(2) 近世日本文学史 A(2) 近世日本文学史 B(2) 作家作品研究(中世) A(2) 作家作品研究(中世) B(2) 教職国語(現代文) A(2) 教職国語(現代文) B(2)
			書道史 A(2) 書道史 B(2)	比較宗教 A(2) 比較宗教 B(2) インド文化概論 A(2) インド文化概論 B(2) インド古典思想概論 A(2) インド古典思想概論 B(2) 東南アジア仏教史(2) チベット仏教史(2) 中国仏教史 A(2) 中国仏教史 B(2) 日本の美術 A(2) 日本の美術 B(2) 日本仏教史 A(2) 日本仏教史 B(2) 現代語文法 A(2) 現代語文法 B(2)	宗教社会学 A(2) 宗教社会学 B(2) インド思想史 A(2) インド思想史 B(2) ヒンドゥー教概論 A(2) ヒンドゥー教概論 B(2) インド・仏教の美術 A(2) インド・仏教の美術 B(2) 韓国仏教史(2) 神道史 A(2) 神道史 B(2) 仏教漢文 A(1) 仏教漢文 B(1) 古典文法 A(2) 古典文法 B(2)	東西交渉文化史 A(2) 東西交渉文化史 B(2) インド仏教史 A(2) インド仏教史 B(2) 仏教思想概論 A(2) 仏教思想概論 B(2) 中国の美術 A(2) 中国の美術 B(2) 日本民俗学 A(2) 日本民俗学 B(2) 近世日本思想 A(2) 近世日本思想 B(2) 日本語史 A(2) 日本語史 B(2)
			書道 I A(1) 書道 I B(1)	書道 II A(1) 書道 II B(1) 書道 III A(1) 書道 III B(1)	書道 IV A(1) 書道 IV B(1)	創作書道 A(1) 創作書道 B(1)
				国語科教育論 I(2) 国語科教育論 II(2)	国語科指導法 I(2) 国語科指導法 II(2) 書道科指導法 I(2) 書道科指導法 II(2)	教職実践演習(中・高)(2)
			他学部他学科開放科目 (専門開放科目)	科目は別表に記載		
					哲学概論(4) 倫理学概論(4)	書論 A(2) 書論 B(2)

(次ページに続く)

- 備考
1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
  2. ( ) は該当科目の単位数。
  3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
  4. 中国語が母国語・母語の外国学生は、必修科目の「基礎中国語 A」「基礎中国語 B」、選択必修科目 I の語学科目 4 単位の代わりとして、文学部共通科目国際コミュニケーション科目のうち 1・2 年次の英語・ドイツ語・フランス語から 1ヶ国語 6 単位を選択必修とする
  5. 「国語科教育論 I」「国語科教育論 II」「国語科指導法 I」「国語科指導法 II」「書道科指導法 I」「書道科指導法 II」「教職実践演習(中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。
  6. 4 年次の「卒論指導」「卒業論文」の履修登録は、3 年次終了時点で未修得単位数が 48 単位以下の卒業見込みの学生に限る。
  7. 「創作書道 A」「創作書道 B」の履修は「書道Ⅲ A」と「書道Ⅲ B」または「書道Ⅳ A」と「書道Ⅳ B」の単位を修得した学生に限る。
  8. 「教職国語(現代文) A」「教職国語(現代文) B」「教職国語(古典) A」「教職国語(古典) B」は、中学・高校国語科教員として教壇に立つことを想定し、それに必要な教養・文法理解・読解力を養うための科目である。ただし、教育職員免許状を取得するために必要な科目に該当しないので注意すること。

2013 年度入学生用 文学部第 1 部東洋思想文化学科 仏教思想コース 教育課程表 (専門科目)

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年
専 門 科 目 74 単 位 以 上	必修科目 各コース共通 必修18単位	東洋思想文化への誘いA(2) 東洋思想文化への誘いB(2) レポート・論文制作の技法(2)	東洋思想文化演習 I(2)	東洋思想文化演習 II(2)
	必修 30単位 コース別		仏教思想概論 A(2) インド仏教史 A(2) 中国仏教史 A(2) 仏教思想概論 B(2) インド仏教史 B(2) 中国仏教史 B(2) 日本仏教史 A(2) 比較宗教 A(2) 東西交渉文化史 A(2) 日本仏教史 B(2) 比較宗教 B(2) 東西交渉文化史 B(2) インド思想史 A(2) チベット仏教史(2) インド思想史 B(2)	卒論指導(2) 卒業論文(6)
	選択必修科目 I 12 単位以上	4 単位以上 語学科目	サンスクリット語 I A(1) サンスクリット語 I B(1) パーリ語 A(1) パーリ語 B(1) チベット語 A(1) チベット語 B(1) 仏教漢文 A(1) 仏教漢文 B(1)	サンスクリット語 II A(1) サンスクリット語 II B(1)
	8 単位以上 講義科目		仏教思想特講 I A(2) 仏教思想特講 I B(2) 仏教思想特講 II A(2) 仏教思想特講 II B(2) 仏教思想特講 III A(2) 仏教思想特講 III B(2) 仏教思想特講 IV A(2) 仏教思想特講 IV B(2)	
専 門 科 目 74 単 位 以 上	語学科目	基礎中国語 A(1) 基礎中国語 B(1)	ヒンディー語 A(1) ヒンディー語 B(1) 中国語 VA(1) 中国語 VB(1) 中国語 VI A(1) 中国語 VI B(1) 韓国語 A(1) 韓国語 B(1)	中国語学演習 A(1) 中国語学演習 B(1) 中国語 VII A(1) 中国語 VII B(1) 中国語 IV A(1) 中国語 IV B(1) 中国語 V A(1) 中国語 V B(1)
	講義科目	宗教学概論 A(2) 宗教学概論 B(2) 比較文学文化概説 A(2) 比較文学文化概説 B(2) イスラーム概論(2) インド現代思想(2) 中国学研究法 A(2) 中国学研究法 B(2) 書道史 A(2) 書道史 B(2)	宗教をめぐる諸問題A(2) 宗教をめぐる諸問題B(2) 日本文学文化概説A(2) 日本文学文化概説B(2) キリスト教概論(2) 現代のインド(2) 心理学概論 A(2) 心理学概論 B(2) 宗教社会学 A(2) 宗教社会学 B(2) インド文化概論 A(2) インド文化概論 B(2) インド・仏教の美術A(2) インド・仏教の美術B(2) 中国学概論 A(2) 中国学概論 B(2) 中国史概説 A(2) 中国史概説 B(2) 中国文字学 A(2) 中国文字学 B(2) 中国哲学史 A(2) 中国哲学史 B(2) 中国文学史 A(2) 中国文学史 B(2) 中国現代文学史 A(2) 中国現代文学史 B(2) 中国の美術 A(2) 中国の美術 B(2) 中国哲学講読 A(1) 中国哲学講読 B(1) 中国文学講読 A(1) 中国文学講読 B(1) 韓国仏教史(2) 東南アジア仏教史(2) 日本民俗学 A(2) 日本民俗学 B(2) 日本の美術 A(2) 日本の美術 B(2) 神道史 A(2) 神道史 B(2) 近世日本思想 A(2) 近世日本思想 B(2) 日本漢学 A(2) 日本漢学 B(2) インド思想特講 I A(2) インド思想特講 I B(2) インド思想特講 II A(2) インド思想特講 II B(2) インド思想特講 III A(2) インド思想特講 III B(2) インド思想特講 IV A(2) インド思想特講 IV B(2) 中国哲学特講 I A(2) 中国哲学特講 I B(2) 中国哲学特講 II A(2) 中国哲学特講 II B(2) 中国文学特講 I A(2) 中国文学特講 I B(2) 中国文学特講 II A(2) 中国文学特講 II B(2) 東洋芸術文化特講 I A(2) 東洋芸術文化特講 I B(2) 東洋芸術文化特講 II A(2) 東洋芸術文化特講 II B(2) 東洋芸術文化特講 III A(2) 東洋芸術文化特講 III B(2) 東洋芸術文化特講 IV A(2) 東洋芸術文化特講 IV B(2)	中国文学文化と日本A(2) 中国文学文化と日本B(2) 古文書学 I(4) 韓国文化事情 A(2) 韓国文化事情 B(2) 漢文訓読法(2) 現代に生きる仏教(2) インド古典思想概論A(2) インド古典思想概論B(2) 中国文献学 A(2) 中国文献学 B(2) 中国文学史 A(2) 中国文学史 B(2) 中国の美術 A(2) 中国の美術 B(2) 韓国仏教史(2) 東南アジア仏教史(2) 神道史 A(2) 神道史 B(2) インド思想特講 I A(2) インド思想特講 I B(2) インド思想特講 II A(2) インド思想特講 II B(2) インド思想特講 III A(2) インド思想特講 III B(2) インド思想特講 IV A(2) インド思想特講 IV B(2) 中国文学特講 I A(2) 中国文学特講 I B(2) 中国文学特講 II A(2) 中国文学特講 II B(2) 東洋芸術文化特講 I A(2) 東洋芸術文化特講 I B(2) 東洋芸術文化特講 II A(2) 東洋芸術文化特講 II B(2) 東洋芸術文化特講 III A(2) 東洋芸術文化特講 III B(2) 東洋芸術文化特講 IV A(2) 東洋芸術文化特講 IV B(2)
	実技講義科目	写経(2) インド舞踊(2)	ヨガ(2) 日本の宗教を歩く(2)	坐禅(2) 仏教の芸能(2)

(次ページに続く)

区 分		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
専門科目 74単位以上	12単位以上 選択必修科目Ⅱ 実技科目	書 道 I A(1) 書 道 I B(1)	書 道 II A(1) 書 道 II B(1) 書 道 III A(1) 書 道 III B(1)	書 道 IV A(1) 書 道 IV B(1)	創 作 書 道 A(1) 創 作 書 道 B(1)
		海外研修	海 外 文 化 研 修 I(2) 海 外 文 化 研 修 II(2)		
	選択科目		古 典 文 法 A(2) 古 典 文 法 B(2) 古 代 日 本 文 学 史 A(2) 古 代 日 本 文 学 史 B(2) 日 本 語 概 説 A(2) 日 本 語 概 説 B(2) 作 家 作 品 研 究 (近 世) A(2) 作 家 作 品 研 究 (近 世) B(2)	中 世 日 本 文 学 史 A(2) 中 世 日 本 文 学 史 B(2) 作 家 作 品 研 究 (上 代) A(2) 作 家 作 品 研 究 (上 代) B(2) 作 家 作 品 研 究 (近 現 代) A(2) 作 家 作 品 研 究 (近 現 代) B(2)	近 世 日 本 文 学 史 A(2) 近 世 日 本 文 学 史 B(2) 作 家 作 品 研 究 (中 古) A(2) 作 家 作 品 研 究 (中 古) B(2) 教 職 国 語 (古 典) A(2) 教 職 国 語 (古 典) B(2)
教職科目	日 本 史 A(2) 日 本 史 B(2) 人 文 地 理 学 A(2) 人 文 地 理 学 B(2)	外 国 史 A(2) 外 国 史 B(2)	地 誌 学 A(2) 地 誌 学 B(2)	自 然 地 理 学 A(2) 自 然 地 理 学 B(2)	
他学部他学科開放科目 (専門開放科目)	科目は別表に記載				

- 備考
1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
  2. ( ) は該当科目の単位数。
  3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
  4. 「社会・地歴指導法Ⅰ」「社会・地歴指導法Ⅱ」「社会・公民指導法Ⅰ」「社会・公民指導法Ⅱ」「教職実践演習(中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。
  5. 4年次の「卒論指導」「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の卒業見込みの学生に限る。
  6. 「創作書道A」「創作書道B」の履修は「書道ⅢA」と「書道ⅢB」または「書道ⅣA」と「書道ⅣB」の単位を修得した学生に限る。
  7. 「教職国語(現代文)A」「教職国語(現代文)B」「教職国語(古典)A」「教職国語(古典)B」は、中学・高校国語科教員として教壇に立つことを想定し、それに必要な教養・文法理解・読解力を養うための科目である。ただし、教育職員免許状を取得するために必要な科目に該当しないので注意すること。

2013 年度入学生用 文学部第 1 部東洋思想文化学科 東洋芸術文化コース 教育課程表 (専門科目)

区 分		第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	
専 門 科 目 74 単 位 以 上	必修科目 34 単位以上	各コース共通 必修18単位 必修16単位	東洋思想文化への誘い A(2) 東洋思想文化への誘い B(2) レポート・論文制作の技法(2)	東洋思想文化演習 I(2)	東洋思想文化演習 II(2)	卒 論 指 導(2) 卒 業 論 文(6)
			インド文化概論 A(2) インド文化概論 B(2) 日本の美術 A(2) 日本の美術 B(2) 中国哲学史 A(2) 中国哲学史 B(2)	インド・仏教の美術 A(2) インド・仏教の美術 B(2) インド思想史 A(2) インド思想史 B(2) チベット仏教史(2)	中国の美術 A(2) 中国の美術 B(2) 仏教思想概論 A(2) 仏教思想概論 B(2)	
	選択必修科目 I 12 単位以上	語学科目 4 単位以上	基礎中国語 A(1) 基礎中国語 B(1)	サンスクリット語 I A(1) サンスクリット語 I B(1) チベット語 A(1) チベット語 B(1) 中国語 IV A(1) 中国語 IV B(1) 中国語 VII A(1) 中国語 VII B(1)	ヒンディー語 A(1) ヒンディー語 B(1) 仏教漢文 A(1) 仏教漢文 B(1) 中国語 V A(1) 中国語 V B(1) 韓国語 A(1) 韓国語 B(1)	パーリ語 A(1) パーリ語 B(1) 中国語学演習 A(1) 中国語学演習 B(1) 中国語 VIA(1) 中国語 VIB(1)
			8 講義科目 単位以上	東洋芸術文化特講 I A(2) 東洋芸術文化特講 I B(2) 東洋芸術文化特講 IV A(2) 東洋芸術文化特講 IV B(2)	東洋芸術文化特講 II A(2) 東洋芸術文化特講 II B(2)	東洋芸術文化特講 III A(2) 東洋芸術文化特講 III B(2)
専 門 科 目 74 単 位 以 上	選択必修科目 II 12 単位以上	講義科目	宗教学概論 A(2) 宗教学概論 B(2) 比較文学文化概説 A(2) 比較文学文化概説 B(2) イスラーム概論(2) インド現代思想(2) 中国学研究法 A(2) 中国学研究法 B(2)	宗教をめぐる諸問題 A(2) 宗教をめぐる諸問題 B(2) 日本文学文化概説 A(2) 日本文学文化概説 B(2) キリスト教概論(2) 現代のインド(2) 心理学概論 A(2) 心理学概論 B(2)	東洋の身体論(2) 近代化と東洋(2) 古文書学 I(4) 仏教と社会福祉(2) 現代に生きる仏教(2)	中国文学文化と日本 A(2) 中国文学文化と日本 B(2) 韓国文化事情 A(2) 韓国文化事情 B(2) 漢文訓読法(2)
			書道史 A(2) 書道史 B(2)	比較宗教 A(2) 比較宗教 B(2) インド仏教史 A(2) インド仏教史 B(2) 中国学概論 A(2) 中国学概論 B(2) 中国文字学 A(2) 中国文字学 B(2) 中国現代文学史 A(2) 中国現代文学史 B(2) 中国哲学講読 A(1) 中国哲学講読 B(1)	宗教社会学 A(2) 宗教社会学 B(2) インド古典思想概論 A(2) インド古典思想概論 B(2) 中国史概説 A(2) 中国史概説 B(2) 中国仏教史 A(2) 中国仏教史 B(2) 中国文化史 A(2) 中国文化史 B(2) 中国文学講読 A(1) 中国文学講読 B(1)	東西交渉文化史 A(2) 東西交渉文化史 B(2) ヒンドゥー教概論 A(2) ヒンドゥー教概論 B(2) 中国文献学 A(2) 中国文献学 B(2) 中国文学史 A(2) 中国文学史 B(2) 韓国仏教史(2) 東南アジア仏教史(2)
			中国哲学講読 A(1) 中国哲学講読 B(1) 日本民俗学 A(2) 日本民俗学 B(2) 日本仏教史 A(2) 日本仏教史 B(2) インド思想特講 II A(2) インド思想特講 II B(2) インド思想特講 III A(2) インド思想特講 III B(2) インド思想特講 IV A(2) インド思想特講 IV B(2) 仏教思想特講 I A(2) 仏教思想特講 I B(2) 仏教思想特講 II A(2) 仏教思想特講 II B(2) 仏教思想特講 III A(2) 仏教思想特講 III B(2) 中国哲学特講 I A(2) 中国哲学特講 I B(2) 中国文学特講 I A(2) 中国文学特講 I B(2)	神道史 A(2) 神道史 B(2) 日本漢学 A(2) 日本漢学 B(2) インド思想特講 III A(2) インド思想特講 III B(2) インド思想特講 IV A(2) インド思想特講 IV B(2) 中国哲学特講 II A(2) 中国哲学特講 II B(2) 中国文学特講 II A(2) 中国文学特講 II B(2)	近世日本思想 A(2) 近世日本思想 B(2) インド思想特講 I A(2) インド思想特講 I B(2) 中国哲学特講 II A(2) 中国哲学特講 II B(2)	
実技講義科目	写 経(2) インド舞踊(2)	ヨ ー ガ(2) 日本の宗教を歩く(2)	坐 禪(2)	仏教の芸能(2)		
実技科目	書道 I A(1) 書道 I B(1)	書道 II A(1) 書道 II B(1)	書道 IV A(1) 書道 IV B(1)	創作書道 A(1) 創作書道 B(1)		

(次ページに続く)



区 分		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
専 門 科 目 74 単 位 以 上	Ⅱ 12 単 位 以 上	実技 科目	書 道 Ⅲ A(1) 書 道 Ⅲ B(1)		
		海外 研修	海 外 文 化 研 修 Ⅰ(2) 海 外 文 化 研 修 Ⅱ(2)		
		選択科目	古 典 文 法 A(2) 古 典 文 法 B(2) 古代日本文学史 A(2) 中世日本文学史 A(2) 近世日本文学史 A(2) 近現代日本文学史 A(2) 古代日本文学史 B(2) 中世日本文学史 B(2) 近世日本文学史 B(2) 近現代日本文学史 B(2) 日 本 語 概 説 A(2) 作家作品研究(上代) A(2) 作家作品研究(中古) A(2) 作家作品研究(中世) A(2) 日 本 語 概 説 B(2) 作家作品研究(上代) B(2) 作家作品研究(中古) B(2) 作家作品研究(中世) B(2) 作家作品研究(近世) A(2) 作家作品研究(近現代) A(2) 教職国語(古典) A(2) 教職国語(現代文) A(2) 作家作品研究(近世) B(2) 作家作品研究(近現代) B(2) 教職国語(古典) B(2) 教職国語(現代文) B(2)		
他学部他学科開放科目 (専門開放科目)		科目は別表に記載			

- 備考
1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
  2. ( ) は該当科目の単位数。
  3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
  4. 4年次の「卒論指導」「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の卒業見込みの学生に限る。
  5. 「創作書道A」「創作書道B」の履修は「書道ⅢA」と「書道ⅢB」または「書道ⅣA」と「書道ⅣB」の単位を修得した学生に限る。
  6. 「教職国語(現代文)A」「教職国語(現代文)B」「教職国語(古典)A」「教職国語(古典)B」は、中学・高校国語科教員として教壇に立つことを想定し、それに必要な教養・文法理解・読解力を養うための科目である。ただし、教育職員免許状を取得するために必要な科目に該当しないので注意すること。

## 外国人留学生の共通総合科目・国際コミュニケーション科目の履修について

外国人留学生に対しては、日本理解の助けとなる「日本事情」「日本語」の科目が共通総合科目と国際コミュニケーション科目にそれぞれ開設されている。

共通総合科目の「日本事情ⅠA」「日本事情ⅠB」「日本事情ⅡA」「日本事情ⅡB」「日本事情ⅢA」「日本事情ⅢB」、国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA」「日本語ⅠAB」「日本語ⅠBA」「日本語ⅠBB」は必修、「日本語と日本社会A」「日本語と日本社会B」「日本語と日本文化A」「日本語と日本文化B」は選択必修となっている。

原則として1・2年次で履修かつ修得すること。

教育課程表（共通総合科目・文学部共通科目）を参照して間違いのないように登録すること。

### 〈第1部外国人留学生用科目一覧〉

区分	科目	単位	履修年次	区分
共通総合科目	日本事情ⅠA（自然・環境・生命）	2	1～4	必修
	日本事情ⅠB（自然・環境・生命）	2		
	日本事情ⅡA（歴史・文化）	2		
	日本事情ⅡB（歴史・文化）	2		
	日本事情ⅢA（現代・社会）	2		
	日本事情ⅢB（現代・社会）	2		
国際コミュニケーション科目	日本語ⅠAA	1	1	必修
	日本語ⅠAB	1		
	日本語ⅠBA	1		
	日本語ⅠBB	1		
	日本語と日本社会A	2	2	「日本語と日本社会A・B」、 「日本語と日本文化A・B」のうち どちらか一方の組合せ選択必修
	日本語と日本社会B	2		
	日本語と日本文化A	2		
	日本語と日本文化B	2		

※国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA・ⅠAB」「日本語ⅠBA・ⅠBB」「日本語と日本社会A・B」「日本語と日本文化A・B」は通年履修を原則とする。A・Bセットで履修すること。

# 第1部 日本文学文化学科

## 日本を知ろう！ 日本人を知ろう！

日本文学文化学科は、新しい時代に適合した研究と教育を目標としている。学祖、井上円了は、明治前半期の西洋第一主義の風潮への反省として「東洋を本とし日本を主」とする哲学館・東洋大学を開設した。しかし、それは単なる狭い東洋主義ではなく、「東洋の学を主とし、西洋の学を客とし、彼我、主客を合わせて研究する主義」の提唱であり、教育であった。この主張は現代でも光を失わないものである。

現代日本社会が今後ますます国際化していく状況の中で、いずれの国家・民族にとっても、それぞれの固有の文化（アイデンティティー）をいかに確立継承し、創造するかということは、これからの新しい世紀に必須の課題となるに違いない。日本及び日本人を正しく知るとともに、伝統的な学問・日本文化を正しく継承し、新たに世界から日本を見るという視点を導入した日本文学文化学科の教育内容は、国際化時代にふさわしいものと言える。

### ◇教育課程（カリキュラム）の特色

日本文学文化学科のカリキュラムには、共通総合科目と文学部共通科目、専門科目、それに開放科目がある。共通総合科目は、各分野に応じて広く文化を学び、考察するものである。文学部共通科目には、図書館司書・学校図書館司書教諭、学芸員資格に関する科目が用意されており、各自の目的によって選択できるようになっている。

専門科目は1年次の「基礎ゼミナール」1・2年次の「日本文学文化概説A・B」「日本語概説A・B」が必修科目であり、2年次以降の専門的な演習と「卒業論文」への足がかりとなる。

選択必修科目には、専攻分野別の演習や多彩な講義等多くの科目群が用意されている。各科目群の指定がなされているものもあるが、学年に応じて選択できる。科目群と指定単位数に注意して選択すること。

演習（ゼミナール）は「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」と専門性を深めて展開し、4年次の「卒業論文」へと結実していくことになる。演習の目的は、みずから考え、みずから課題を発見することにある。

これらの演習科目は、日本文学文化学科のカリキュラムの中心である。2年次の「演習Ⅰ」の選択から、「日本語」「古典文学文化」「近現代文学文化」「比較文学文化」という四つの専攻分野が設置されているので、各自の学習計画に即して選択すること。なお「演習Ⅲ」については3年次履修の専攻分野から選択することが望ましい。

選択科目には、国語科、書道科各教員免許状取得のための科目（教職科目）が用意されている。各自の目的に応じて選択できる。

選択必修科目にかかわる専攻分野間は自由に横断的な学習ができるようになっているので、専門性を深めながら、日本文学文化を総合的、包括的に学習できる。いわばフレキシブルな履修システムであるから、各自がそれぞれの明確な学習目標に応じた選択科目を履修することにより、主体的で個性あふれるカリキュラムを作成することが可能である。

開放科目は、他学部・他学科の開放科目であり、日本文学文化学科では、各自の考えにより広範囲な学問分野の学習ができるようになっている。

# 日本文学文化学科 3つのポリシー

## ◎アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

日本文学文化学科は、日本語・日本文学を中核に、さまざまな日本文化の特色を考察することにより、日本や日本人を知り、伝統的な学問、日本文化を継承するとともに、世界から日本を見るという視点を持ち、伝統と創造の融合の上に新しい時代を切り拓く、豊かな見識を備えた人材の育成を目標とする（東洋大学学則に定める、本学科の「人材養成に関する目的」および「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を参照のこと）。そのため「日本語」「古典文学文化」「近現代文学文化」「比較文学文化」の4分野を設けている。学生は履修を通して日本語・日本文学文化を総合的に理解するとともに、ことばや人間のあり方を多面的に学び、高い教養と豊かな人間性を培い、国際化が進む現代社会に対応できる能力を身につける。また、諸資格（国語教諭・書道教諭、図書館司書、司書教諭、学芸員など）科目を履修し、知識と実践力を兼ね備えた専門家として活躍する道をめざすこともできる。

本学科が求める学生は、こうした教育の目的・特色を理解し、文学作品や文化事象に深い興味をもつ人、ことばに対する強い好奇心をもつ人、歴史や社会を背景とした「人間」に飽くなき関心をもつ人、諸外国の文学文化と日本との比較に強い興味をもつ人などである。ことばやそれに基づく文学文化を探究・理解するには、歴史的・社会的に考察する眼や論理的に思考する姿勢が求められる。

上記のような観点から、本学科では入学までに修得しておくべき内容としては、以下のような点が挙げられる。いずれにおいても高等学校卒業程度以上の学力水準が必要である。

- (1) 「国語」：日本の古典文学および近代以降の現代文に関する知識と読解力。日本文学に関する歴史的な知識。日本語に関する知識と表現力。本学科の教育では、多くの文献等を読み、それを理解し、そのうえで自己の考えを論理的に構築して表現することが基本的には求められるので、十分な「国語」の能力は不可欠である。
- (2) 「外国語」：英語をはじめとした外国語の基本的な運用能力。日本文学文化を諸外国の文学文化を視野に収めて理解するためには、外国語の能力と外国語への興味関心は大切である。
- (3) 「社会」：日本や諸外国の歴史、政治、経済などに関する知識と興味関心。文学文化はつねに社会の変化の中にある。その歴史的背景を知り、また、現代社会の諸問題を理解し、探究していくことは文学文化を学ぶ上で大切である。

なお、推薦入試では、学科の理念を理解し、その学びに強い意欲をもった学生を求め、論理的思考力や表現力を確認する問題を出題している。

## ◎カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

日本文学文化学科では、「日本を知って世界を見る」、「世界から日本を見る」というコンセプトのもと、広い視座から日本やその伝統を理解し、その理解を糧に社会に適切に対応できる豊かな見識と能力を備えた人材を育成するという教育の目的・目標を実現するために、次の点を意図してカリキュラム（教育課程）を編成している。

- (1) 4分野の横断的な履修：「日本語」「古典文学文化」「近現代文学文化」「比較文学文化」の4分野を設け、横断的学習を通して専門領域を深くかつ学際的に修得し、高い教養と豊かな人間性、洞察力や判断力を涵養する。
- (2) 段階的学習：1年次を専門分野への基礎導入期、2年次を基礎充実期、3年次を発展応用期、4年次を完成期と位置づけ、段階的・有機的な学習を展開する。1年次の必修の「基礎ゼミナール」を本学科の学問の基礎と位置づけ、2年次までに必修科目の「日本文学文化概説」「日本語概説」を履修。2、3年次は専門科目を中心に選択必修科目を多く配置し、4年次で必修の「卒業論文」を課して4年間の学問の成果を結実させるように編成している。
- (3) 充実した演習科目群：1年からの一貫した少人数の演習科目（ゼミナール）を基幹とし、論理的思考力・問題解決力の向上をめざし、自己管理の重要性や他者との協働を学び、主体性をもった社会人としての基礎力を身につけさせる。そのために、2年次以降、選択必修として「演習Ⅰ」（2年次）、「演習Ⅱ」（3年次）、「演習Ⅲ」（4年次）と各学年に演習科目を配置して、高度で専門的な学問を身につけていくように編成している。
- (4) 卒業論文：卒業論文を本学科での勉学の集大成として位置づける。1年次より演習授業や学科配布の手引きを通じて継続的に卒業論文への意識化を行い、学生自らが選択したテーマに沿って、教員によるきめ細かい個別指導のもと、研究の成果をまとめる。
- (5) 幅広い教養：選択必修科目として、演習科目のほかに、日本語学、文学史、4分野の特講、比較研究、作家作品研究などの科目群を配置しているほか、「日本の伝統芸能」「日本の方言」「中国の古典」「万葉文化論」「王朝文化論」「室町文化論」「映像文化論」「マンガ文化論」ほかの多様な科目を置いている。さらには、選択科目として「書道」などの科目もあり、広範な関連分野で学生の興味・関心が伸ばせるように編成している。

## ◎ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

日本文学文化学科では、「日本を知って世界を見る」、「世界から日本を見る」というコンセプトのもと、広い視座から、日本のことばや文学文化を理解し、それを糧に社会に適切に対応できる豊かな見識と能力を備えた人材の育成を教育の目的としている。したがって、その目的に沿った能力を身につけるべく、本学科の教育目的およびカリキュラム・ポリシーに則って編成された教育課程表に定められた授業科目を履修し、下記の所定の単位数を修得することが学位授与の必要要件である。

- (1) 共通総合科目（16単位以上）：東洋大学が大学の教育の根幹におく「哲学」を基礎として、人間や社会に関する幅広い知識をもって様々な事象を理解することができる。
- (2) 文学部共通科目（18単位以上）：文学部の卒業生として学祖・井上円了の思想をはじめとして、哲学、東洋思想文化、英米文学、教育学、外国語コミュニケーションなどの人文科学に関する総合的な思考力、知識、運用能力を身につけている。なお、外国語運用能力として2ヶ国語以上の「国際コミュニケーション科目」を12単位以上履修していなければならない。
- (3) 専門科目（68単位以上）：本学科の卒業生として、その教育内容を十分に身につけ、かつ、グローバルな社会において有用な人材として活躍できる、多面的で総合的な思考力と問題解決能力、協働力を身につけている。

上記の(1)~(3)の要件をすべて満たしたうえで、卒業必要単位数124単位を修得した者に対して、本学科の卒業生として学位を授与する。

## ◇四つの専攻分野

### ○日本語分野

日本語の過去から現在までのあり方を総合的に研究するとともに、言語学一般や他言語との比較考察も行いながら、これからの日本語のあるべき姿を考察する。そのうえで、日本語に対して深い愛情と適切な批判を注ぐことができる姿勢を養う。

### ○古典文学文化分野

古代から近世に至る古典文学を実証的な観点から考察し、そこに表れた日本人の心や文化のかたちを、より深くより豊かに理解していく。そして、日本の文化遺産である古典文学の価値を正しく継承し、さらに次代へ伝えていくことを使命とする。

### ○近現代文学文化分野

明治期から今日に至るさまざまな文学作品について、多種多様な方法論による分析と考察を試み、その文学の特質や作家の本質を究明する。その過程で、近現代文学文化の問題点や思想性を汲み取り、これからの日本文学や日本人の可能性を模索していく。

### ○比較文学文化分野

比較文学文化の概念や理念を学ぶとともに、「世界から日本を見る」という視点で、日本を相対化する姿勢を確立する。そして、既成の学問の枠にとらわれることなく、多様な「日本文学文化論」を展開し、国際社会における日本文学文化の意義や可能性を探る。

## ◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

第1部日本文学文化学科と第2部日本文学文化学科で同一科目として設置しており、年度ごとに第1部か第2部のいずれかで開講する科目（P. 69参照）がある。履修を希望する場合は、開講曜日時限に注意すること。

## ◇第2部日本文学文化学科・通信教育課程日本文学文化学科の科目との相互聴講科目

第1部日本文学文化学科の学生は、40単位を限度として、第2部日本文学文化学科または通信教育課程での開講科目が受講できる。

3部間相互聴講制度による相互聴講科目（P. 70参照）によって手続きをし、聴講すること。



科目区分		文学部 第1部 日本文学文化学科 卒業要件
共通総合科目 16単位以上	哲 学 ・ 思 想	16単位以上
	自 然 ・ 環 境 ・ 生 命	
	歴 史 ・ 文 化	
	現 代 ・ 社 会	
	ス ポ ー ツ ・ 健 康	
	情 報 教 育	
	総 合	
	社 会 人 基 礎 力 科 目	
	留 学 支 援 科 目	
文学部共通科目 18単位以上	文 学 部 教 育	12単位以上  ※国際コミュニケーション科目12単位を含む、 合計18単位以上
	文学部基礎専門科目	
	国際コミュニケーション科目	
	諸 資 格 関 連 科 目	
	キ ャ リ ア 教 育	
専門科目 68単位以上	必 修 科 目	14単位
	選 択 必 修 科 目	54単位以上
	選 択 科 目	
教 職 科 目		
他学部他学科開放科目		
卒業必要単位数合計		124単位

## 第1部日本文学文化学科

### 共通総合科目

哲学・思想  
 自然・環境・生命  
 歴史・文化  
 現代・社会  
 スポーツ・健康  
 情報教育  
 総合  
 社会人基礎力科目  
 留学支援科目

共通総合科目は、卒業までに16単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、16単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

- ① スポーツ・健康科目の授業は、東洋大学総合スポーツセンター（板橋区清水町）で開講されます。
- ② 「スポーツ健康科学実技」および「スポーツ健康科学演習」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があるため、詳細については『履修登録のしおり・授業時間割表』、学内掲示を参照してください。

留学支援科目は、共通総合科目の枠内であるが、16単位の卒業要件には入らない。ただし、卒業単位には算入される。

※「自然科学演習A・B」は、2年次以上でかつ講義科目または実験講義科目を合計8単位以上修得していなければ、履修することができない。

### 文学部共通科目

文学部教育  
 文学部基礎専門科目  
 国際コミュニケーション科目  
 諸資格関連科目  
 キャリア教育

文学部共通科目は、卒業までに国際コミュニケーション科目12単位の卒業要件を充たし、合計18単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、卒業要件を充たし、18単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

#### ◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

サンスクリット文献を読むⅠA(2)	Verbal and Nonverbal Communication A(2)
サンスクリット文献を読むⅠB(2)	(言語・非言語コミュニケーションA)
サンスクリット文献を読むⅡA(2)	Verbal and Nonverbal Communication B(2)
サンスクリット文献を読むⅡB(2)	(言語・非言語コミュニケーションB)
チベット文献を読むA(2)	Philosophy of Language A(2)
チベット文献を読むB(2)	(言語論A)
パーリ文献を読むA(2)	Philosophy of Language B(2)
パーリ文献を読むB(2)	(言語論B)
ヒンディー文献を読むA(2)	Comparative Culture Studies A(2)
ヒンディー文献を読むB(2)	(比較文化論A)
インド仏教のあゆみA(2)	Comparative Culture Studies B(2)
インド仏教のあゆみB(2)	(比較文化論B)
中国仏教のあゆみA(2)	
中国仏教のあゆみB(2)	

#### ◇隔年開講科目

下記科目は、隔年にて開講となる。

履修を希望する場合は、開講年度に注意すること。

サンスクリット文献を読むⅡ A(2)	チベット仏教のあゆみ(2)
サンスクリット文献を読むⅡ B(2)	古代インドの社会(2)
チベット文献を読む A(2)	インドの芸能(2)
チベット文献を読む B(2)	インド・仏教の美術(2)
パーリ文献を読む A(2)	華嚴の思想(2)
パーリ文献を読む B(2)	念仏の思想(2)
ヒンディー文献を読む A(2)	インドの風土と文化(2)
ヒンディー文献を読む B(2)	密教の思想(2)
現代のインド(2)	天台の思想(2)
インド現代思想(2)	禅の思想(2)

#### 国際コミュニケーション科目

1年次に英語、ドイツ語、フランス語、中国語の4カ国語から2カ国語を選択し8単位、2年次には1年次に履修した2カ国語から1カ国語を選択し4単位、合計12単位以上を履修かつ修得しなければならない。

2年次の語学選択は、1年次7月頃に希望調査を行う。

#### ◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

Communicative English A(2) Communicative English B(2)
--

#### ◇語学セミナー

本学では、「東洋大学語学セミナー（英語・中国語）」を実施している。このセミナーに参加し、条件を充たすことにより国際コミュニケーション科目の1科目の単位を認定する。単位認定対象科目は以下の通りである。

「英語ⅠA」「英語ⅠB」「英語ⅡA」「英語ⅡB」

「中国語ⅠA」「中国語ⅠB」「中国語ⅡA」「中国語ⅡB」

※セミナーの詳細は、「V 留学制度について」(P. 248)を参照すること。

#### キャリア教育

インターンシップ・ボランティア活動は、文学部が認定する機関で就業体験やボランティア活動を行い、単位認定の条件を充たした場合、単位を認定する。

詳細は、シラバス（講義要項）を参照すること。

## 専 門 科 目

日本文学文化学科専門科目は、卒業までに**68単位以上を履修かつ修得しなければならない**。この68単位のうち、以下の各科目区分の卒業要件を充たさなければならない。また、各科目区分および専門科目の卒業要件を充たし、**68単位を超過して履修かつ修得した選択必修科目と選択科目の単位数も、卒業単位として算入する**。

### 必修科目

必修科目に設置されている**全ての科目の単位を履修かつ修得しなければならない**。

なお、卒業論文は必修であるため、1年次から計画を立て研究室等の指示に注意すること。ただし、4年次の卒業論文の履修登録は、**3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の卒業見込みの学生に限る**。

### 選択必修科目Ⅰ

選択必修科目Ⅰは、各科目群からそれぞれ定められた科目数以上を選択し、**合計34単位以上を履修かつ修得しなければならない**。

### 選択必修科目Ⅱ

選択必修科目Ⅱは、**20単位以上を履修かつ修得しなければならない**。

### 選択科目

選択科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、**卒業単位として算入する**。

「創作書道A」「創作書道B」を履修する場合は、前年度までに「書道ⅢA」と「書道ⅢB」または、「書道ⅣA」と「書道ⅣB」を修得していなければならない。

#### ◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

日本仏教のあゆみA(2)

日本仏教のあゆみB(2)

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

日本の伝統芸能 A(2)	日本語学特講Ⅱ A(2)
日本の伝統芸能 B(2)	日本語学特講Ⅱ B(2)
出版文化事情 A(2)	万葉文化論 A(2)
出版文化事情 B(2)	万葉文化論 B(2)
韓国文化事情 A(2)	室町文化論 A(2)
韓国文化事情 B(2)	室町文化論 B(2)
王朝文化論 A(2)	近現代文化論 A(2)
王朝文化論 B(2)	近現代文化論 B(2)
江戸文化論 A(2)	日本の古典籍 A(2)
江戸文化論 B(2)	日本の古典籍 B(2)
古典文学文化特講Ⅱ A(2)	映像文化論 A(2)
古典文学文化特講Ⅱ B(2)	映像文化論 B(2)
日本民俗学 A(2)	日本の方言 A(2)
日本民俗学 B(2)	日本の方言 B(2)
近現代文学文化特講Ⅱ A(2)	教職国語(古典) A(2)
近現代文学文化特講Ⅱ B(2)	教職国語(古典) B(2)
比較文学文化特講Ⅱ A(2)	教職国語(現代文) A(2)
比較文学文化特講Ⅱ B(2)	教職国語(現代文) B(2)
中国の古典(哲学)(2)	中国の古典(歴史)(2)

教 職 科 目

日本文学文化学科教育課程表にある教職科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

教職科目は、年間履修最高単位数(48単位)を超えて履修することができる。

他学部他学科開放科目(専門開放科目)

別(P.134)に定める他学部他学科開放科目(専門開放科目)を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

自 由 科 目

日本文学文化学科教育課程表にない科目で、なおかつ、前項の他学部他学科開放科目(専門開放科目)として提示されていない科目の履修を希望する場合は、履修する学部学科の配当学年に従い、担当教員の許可を得て、卒業単位にならない自由科目として履修することができる。ただし、年間履修最高単位数(48単位)を超えて履修することはできない。なお、以下の科目も履修できないので注意すること。

1. カリキュラム年度の異なる科目
2. 第2部開講の科目
3. 所属する学部学科の科目と同一名称の科目

◇日本文学文化学科 3 部間相互聴講制度による相互聴講科目

日本文学文化学科第 1 部・第 2 部・通信教育部の 3 部間のみ聴講を認める。  
同一年度で第 1 部と第 2 部、通信教育部で開講する。

履修条件は、以下の通りである。

- (1) 卒業までに 40 単位を超えて履修かつ修得することはできない。ただし、同一の部において 30 単位を超えて履修かつ修得することはできない。
- (2) 科目提供主体（第 2 部・通信教育部）の学年配当にしたがって履修しなければならない。
- (3) 年間履修最高単位数（48 単位）に算入する。
- (4) 履修かつ修得した単位は、専門科目として、卒業単位数に算入する。
- (5) 履修方法  
第 2 部提供科目の履修を希望する場合は、第 1 部の科目と同様に履修登録をすること。  
通信教育部提供科目の履修を希望する場合は、通信教育課の説明を受けて、許可をもらい聴講すること。
- (6) 対象科目

1. 第 2 部日本文学文化学科提供科目群

日本文学文化概説 A(2)	日本語概説 A(2)	近世日本文学史 A(2)
現代語文化概説 B(2)	古典語概説 B(2)	近世日本文学史 B(2)
現代語文法 A(2)	古典語文法 A(2)	古典文学文化特講 I A(2)
現代語文法 B(2)	古典語文法 B(2)	古典文学文化特講 I B(2)
古代日本文学史 A(2)	中世日本文学史 A(2)	近現代文学文化特講 I A(2)
古代日本文学史 B(2)	中世日本文学史 B(2)	近現代文学文化特講 I B(2)
近現代日本文学史 A(2)	中世日本文学史 B(2)	作家作品研究(中古) A(2)
近現代日本文学史 B(2)	中世日本文学史 B(2)	作家作品研究(中古) B(2)
古典文学文化特講 III A(2)	古典文学文化特講 III B(2)	作家作品研究(近現代) A(2)
古典文学文化特講 III B(2)	古典文学文化特講 III A(2)	作家作品研究(近現代) B(2)
比較文学文化特講 I A(2)	比較文学文化特講 I B(2)	フランス語圏文学文化と日本 A(2)
比較文学文化特講 I B(2)	比較文学文化特講 I A(2)	フランス語圏文学文化と日本 B(2)
作家作品研究(中世) A(2)	作家作品研究(中世) B(2)	マンガ文化論 A(2)
作家作品研究(中世) B(2)	作家作品研究(中世) A(2)	マンガ文化論 B(2)
英語圏文学文化と日本 A(2)	英語圏文学文化と日本 B(2)	比較文学文化概説 A(2)
英語圏文学文化と日本 B(2)	英語圏文学文化と日本 A(2)	比較文学文化概説 B(2)
中国文学文化と日本 A(2)	中国文学文化と日本 B(2)	
中国文学文化と日本 B(2)	中国の伝統行事 A(2)	
日本の美術 A(2)	中国の伝統行事 B(2)	
日本の美術 B(2)	中国の古典(文思想) (2)	
児童文学 A(2)	中国の古典(文思想) (2)	
児童文学 B(2)	中国の古典(歴史) A(2)	
	中国の古典(歴史) B(2)	
	中国の古典(哲学) A(2)	
	中国の古典(哲学) B(2)	

2. 通信教育部日本文学文化学科提供科目群

日本文学文化概説 A(2)	日本の古典籍 A(2)	日本民俗学 A(2)
現代語文化概説 B(2)	日本の古典籍 B(2)	日本民俗学 B(2)
現代語文法 A(2)	日本語概説 A(2)	日本語史 A(2)
現代語文法 B(2)	日本語概説 B(2)	日本語史 B(2)
古典文法 A(2)	古代日本文学史 A(2)	中世日本文学史 A(2)
古典文法 B(2)	古代日本文学史 B(2)	中世日本文学史 B(2)
近世日本文学史 A(2)	近現代日本文学史 A(2)	中世日本文学史 B(2)
近世日本文学史 B(2)	近現代日本文学史 B(2)	近現代文学文化特講 I A(2)
古典文学文化特講 I A(2)	古典文学文化特講 II A(2)	近現代文学文化特講 I B(2)
古典文学文化特講 I B(2)	古典文学文化特講 II B(2)	近現代文学文化特講 II A(2)
古典文学文化特講 II A(2)	近現代文学文化特講 I A(2)	近現代文学文化特講 II B(2)
古典文学文化特講 II B(2)	近現代文学文化特講 I B(2)	作家作品研究(上代) A(2)
比較文学文化特講 I A(2)	比較文学文化特講 II A(2)	作家作品研究(上代) B(2)
比較文学文化特講 I B(2)	比較文学文化特講 II B(2)	作家作品研究(近世) A(2)
作家作品研究(中古) A(2)	作家作品研究(中古) B(2)	作家作品研究(近世) B(2)
作家作品研究(中古) B(2)	作家作品研究(中世) A(2)	作家作品研究(近現代) A(2)
作家作品研究(近現代) A(2)	作家作品研究(中世) B(2)	作家作品研究(近現代) B(2)
作家作品研究(近現代) B(2)	英語圏文学文化と日本 A(2)	ドイツ語圏文学文化と日本 A(2)
フランス語圏文学文化と日本 A(2)	英語圏文学文化と日本 B(2)	ドイツ語圏文学文化と日本 B(2)
フランス語圏文学文化と日本 B(2)	中国文学文化と日本 A(2)	日本の伝統行事 A(2)
日本の伝統芸能 A(2)	中国文学文化と日本 B(2)	日本の伝統行事 B(2)
日本の伝統芸能 B(2)	中国の美術 A(2)	映像文化論 A(2)
中国の美術 A(2)	中国の美術 B(2)	映像文化論 B(2)
中国の美術 B(2)	中国の古典(文思想) (2)	マンガ文化論 A(2)
中国の古典(文思想) (2)	中国の古典(文思想) (2)	マンガ文化論 B(2)
中国の古典(歴史) A(2)	中国の古典(歴史) A(2)	マンガ文化論 A(2)
中国の古典(歴史) B(2)	中国の古典(歴史) B(2)	マンガ文化論 B(2)
中国の古典(哲学) A(2)	中国の古典(哲学) A(2)	韓国文化事情 A(2)
中国の古典(哲学) B(2)	中国の古典(哲学) B(2)	韓国文化事情 B(2)
王朝文化論 A(2)	王朝文化論 B(2)	室町文化論 A(2)
王朝文化論 B(2)	近現代文化論 A(2)	室町文化論 B(2)
近現代文化論 A(2)	近現代文化論 B(2)	日本語特講 II A(2)
近現代文化論 B(2)	中国の古典(歴史) (2)	日本語特講 II B(2)
中国の古典(歴史) (2)	中国の古典(哲学) (2)	
中国の古典(哲学) (2)		



2013 年度入学生用 文学部第 1 部日本文学文化学科 教育課程表 (共通総合科目)

区 分		第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年			
共通総合科目	16 単位以上	教養科目	哲学・思想	哲学 A(2) 哲学 B(2) 科学思想史 A(2) 科学思想史 B(2) 宗教学Ⅱ A(2) 宗教学Ⅱ B(2) 地域文化研究Ⅲ A(2) 地域文化研究Ⅲ B(2)	哲学史 A(2) 哲学史 B(2) 美術史 A(2) 美術史 B(2) 地球倫理 A(2) 地球倫理 B(2) 論理学 A(2) 論理学 B(2)	倫理学基礎論 A(2) 倫理学基礎論 B(2) 音楽学 A(2) 音楽学 B(2) 地域文化研究Ⅰ A(2) 地域文化研究Ⅰ B(2)	応用倫理学 A(2) 応用倫理学 B(2) 宗教学Ⅰ A(2) 宗教学Ⅰ B(2) 地域文化研究Ⅱ A(2) 地域文化研究Ⅱ B(2)	
			自然・環境・生命	自然の数理 A(2) 自然の数理 B(2) 環境の科学 A(2) 環境の科学 B(2) 自然科学概論 A(2) 自然科学概論 B(2) 化学実験講義 A(2) 化学実験講義 B(2) 日本事情Ⅰ A(2) (留学生用)	生活と物理 A(2) 生活と物理 B(2) 地球の科学 A(2) 地球の科学 B(2) 自然誌 A(2) 自然誌 B(2) 地球科学実習講義 A(2) 地球科学実習講義 B(2) 日本事情Ⅰ B(2) (留学生用)	エネルギーの科学 A(2) エネルギーの科学 B(2) 生物学 A(2) 生物学 B(2) 物理学実験講義 A(2) 物理学実験講義 B(2) 数理・情報実習講義 A(2) 数理・情報実習講義 B(2)	物質の科学 A(2) 物質の科学 B(2) 天文学 A(2) 天文学 B(2) 生物学実験講義 A(2) 生物学実験講義 B(2) 天文学実習講義 A(2) 天文学実習講義 B(2)	
			歴史・文化	国際教育論 A(2) 国際教育論 B(2) 日本文学文化と風土 A(2) 日本文学文化と風土 B(2) 地域史(日本) A(2) 地域史(日本) B(2) 日本事情Ⅱ A(2) (留学生用)	多文化共生論 A(2) 多文化共生論 B(2) 日本の詩歌 A(2) 日本の詩歌 B(2) 地域史(東洋) A(2) 地域史(東洋) B(2) 日本事情Ⅱ B(2) (留学生用)	百人一首の文化史 A(2) 百人一首の文化史 B(2) 西欧文学 A(2) 西欧文学 B(2) 地域史(西洋) A(2) 地域史(西洋) B(2)	日本の昔話 A(2) 日本の昔話 B(2) 現代日本文学 A(2) 現代日本文学 B(2) 歴史の諸問題 A(2) 歴史の諸問題 B(2)	
			現代・社会	経済学 A(2) 経済学 B(2) 政治学 A(2) 政治学 B(2) 国際比較論 A(2) 国際比較論 B(2) 日本事情Ⅲ A(2) (留学生用)	統計学 A(2) 統計学 B(2) 社会学 A(2) 社会学 B(2) 心理学 A(2) 心理学 B(2) 日本事情Ⅲ B(2) (留学生用)	法学 A(2) 法学 B(2) 人類学 A(2) 人類学 B(2) ベーシック・マーケティングⅡ 流通入門Ⅱ	日本国憲法Ⅱ 地理学 A(2) 地理学 B(2) 基礎会計学Ⅱ 企業会計Ⅱ	
			スポーツ・健康	スポーツ健康科学実技Ⅰ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅰ B(1) スポーツ健康科学講義Ⅰ(2) スポーツ健康科学演習Ⅰ(2)	スポーツ健康科学実技Ⅱ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅱ B(1) スポーツ健康科学講義Ⅱ A(2) スポーツ健康科学講義Ⅱ B(2)	スポーツ健康科学実技Ⅲ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅲ B(1)	スポーツ健康科学実技Ⅲ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅲ B(1)	
			情報教育	情報化社会と人間Ⅱ	情報倫理Ⅱ	コンピュータ・リテラシーⅡ		
			総合	総合Ⅰ A(2) 総合Ⅰ B(2) 総合Ⅴ A(2) 総合Ⅴ B(2) 総合Ⅸ A(2) 総合Ⅸ B(2)	総合Ⅱ A(2) 総合Ⅱ B(2) 総合Ⅵ A(2) 総合Ⅵ B(2) 全学総合Ⅰ A(2) 全学総合Ⅰ B(2)	総合Ⅲ A(2) 総合Ⅲ B(2) 総合Ⅶ A(2) 総合Ⅶ B(2) 全学総合Ⅱ A(2) 全学総合Ⅱ B(2)	総合Ⅳ A(2) 総合Ⅳ B(2) 総合Ⅷ A(2) 総合Ⅷ B(2)	
			社会人基礎力科目	社会人基礎力入門講義Ⅱ 社会人基礎力実践講義Ⅱ キャリアアデバロップメント論 A(2) キャリアアデバロップメント論 B(2)	企業のしくみⅡ 公務員論Ⅱ	社会人貢献活動入門Ⅱ	企業家論Ⅱ	
			留学支援科目	英語特別教育科目	Special Course in Advanced TOEFLⅠ(4) Special Course in Advanced TOEFLⅡ(4)			
				日本語科目	(協定校並びに ISEP 加盟大学等からの留学生に対する日本語・日本文化科目) Integrated JapaneseⅠ(5) Japanese Reading and CompositionⅠ(2) Kanji LiteracyⅠ(1) Integrated JapaneseⅡ(5) Japanese Reading and CompositionⅡ(2) Kanji LiteracyⅡ(1) Project WorkⅠ(1) Japanese Listening ComprehensionⅠ(1) Japanese CultureⅠ(1) Project WorkⅡ(1) Japanese Listening ComprehensionⅡ(1) Japanese CultureⅡ(1)			

2013 年度入学生用 文学部第 1 部日本文学文化学科 教育課程表 (文学部共通科目)

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	
文学部教育	東洋大学・井上円了研究(2)	伝統文化講座(2)	情報処理演習 A(1)	情報処理演習 B(1)	
文学部 基礎 専門 科目	論理学概論(4) 哲学基礎概説(4) サンスクリット文献を読む I A(2) サンスクリット文献を読む I B(2) 日本史概説(4) 東洋史概説(4) 西洋史概説(4)	比較思想(4) 英文学特講 I(4) 英文学特講 III(4) 米文学特講 I(4) 哲学と科学(4) インドの芸能(2) インド・仏教の美術(2) 華厳の思想(2) 密教の思想(2) 中国仏教のあゆみ A(2) 中国仏教のあゆみ B(2) チベット文献を読む B(2) インド現代思想(2)	哲学概論(4) 英文学特講 II(4) 英文学特講 IV(4) 米文学特講 II(4) 応用倫理学特論(4) インド文学(2) インドの風土と文化(2) インドの思想(2) 禅の思想(2) 念仏の思想(2) インド仏教のあゆみ A(2) インド仏教のあゆみ B(2) パーリ文献を読む A(2) パーリ文献を読む B(2)	哲学と宗教思想(4) 古代インドの社会(2) 天台の思想(2) チベット仏教のあゆみ(2) 現代のインド(2) サンスクリット文献を読む II A(2) サンスクリット文献を読む II B(2) ヒンディー文献を読む A(2) ヒンディー文献を読む B(2)	
	中国学概論(4) 中国歴史概説(4) 生涯学習概論 I(2)	中国文献学概論(4) 特別支援教育概論 I(2)	倫理学概論(4) 中国哲学史概説(4) 中国現代文学史概説(4) イギリスの文化と思想(4)	中国文学史概説(4) 日本漢学(4) アメリカの文化と思想(4)	
	心理学概論 A(2) 心理学概論 B(2) 生涯学習概論 II(2)	家族心理学(2) 女性問題と学習(2) 特別支援教育概論 II(2)		児童文化研究(2) 家庭教育論(2)	
	Verbal and Nonverbal Communication A(2) (言語・非言語コミュニケーション A)	Philosophy of Language A(2) (言語論 A)	Comparative Culture Studies A(2) (比較文化論 A)		
	Verbal and Nonverbal Communication B(2) (言語・非言語コミュニケーション B)	Philosophy of Language B(2) (言語論 B)	Comparative Culture Studies B(2) (比較文化論 B)		
	検定英語(4) Practical Writing (2) Communicative English A(2) Communicative English B(2)				
	英語	英語 I A(2) 英語 I B(2)	英語 II A(2) 英語 II B(2)	英語 III A(2) 英語 III B(2)	
	ドイツ語	ドイツ語 I A(2) ドイツ語 I B(2)	ドイツ語 II A(2) ドイツ語 II B(2)	ドイツ語 III A(2) ドイツ語 III B(2)	
	フランス語	フランス語 I A(2) フランス語 I B(2)	フランス語 II A(2) フランス語 II B(2)	フランス語 III A(2) フランス語 III B(2)	
	中国語	中国語 I A(2) 中国語 I B(2) <b>1 年次 2 カ国語 8 単位 選択必修</b>	中国語 II A(2) 中国語 II B(2) <b>1 年次に履修した外国語から 1 カ国語 4 単位選択必修</b>	中国語 III A(2) 中国語 III B(2)	
日本語 (留学生用)	(留学生用) 必修 日本語 I A A(1) 日本語 I A B(1) 日本語 I B A(1) 日本語 I B B(1)	(留学生用) 選択必修 日本語と日本社会 A(2) 日本語と日本社会 B(2) 日本語と日本文化 A(2) 日本語と日本文化 B(2)	※留学生は 1 2 単位中、日本語 8 単位必修。 残り 4 単位を 1 年次の英語・ドイツ語・フランス語・中国語の 4 カ国語より母語以外の 1 カ国語選択必修。		
諸資格 関連 科目	教育基礎論 I(2) 教育基礎論 II(2)				
	社会教育計画論 I(2) 社会教育計画論 II(2) 視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)(2)				
	博物館情報・メディア論(2)				
	博物館概論(2)		博物館教育論(2) 博物館資料論(2)		
	博物館経営論(2)		博物館資料保存論(2)		
博物館展示論(2)		博物館実習 I(2) 博物館実習 II(1)			
図書館概論(2) 情報サービス論(2) 児童サービス論(2) 図書館制度・経営論(2) 図書館サービス概論(2)					
情報サービス演習 A(1) 情報資源組織演習 A(1) 図書館情報資源概論(2) 情報資源組織論(2) 図書館情報技術論(2)					
情報サービス演習 B(1) 情報資源組織演習 B(1) 図書館情報資源特論(2) 図書・図書館史(2)					
学習指導と学校図書館(2)		学校経営と学校図書館(2) 学校図書館メディアの構成(2)			
読書と豊かな人間性(2)		情報メディアの活用(2)			
キャリア教育	キャリア支援 I(2) キャリア支援 II(2) インターシップ(2)		教員養成講座 I(2) 教員養成講座 II(2) ボランティア活動(2)		

2013年度入学生用 文学部第1部日本文学文化学科 教育課程表(専門科目)

区分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
14 必修 科目 単位	日本文学文化概説A(2) 日本文学文化概説B(2) 基礎ゼミナール(2)	日本語概説A(2) 日本語概説B(2)		卒業論文(4)	
	選択必修科目 I 34 単位以上	日本語学演習Ⅰ(2) 古典文学文化演習Ⅰ(2) 近現代文学文化演習Ⅰ(2) 比較文学文化演習Ⅰ(2) 1科目2単位選択必修	日本語学演習Ⅱ(2) 古典文学文化演習Ⅱ(2) 近現代文学文化演習Ⅱ(2) 比較文学文化演習Ⅱ(2) 1科目2単位選択必修	日本語学演習Ⅲ(2) 古典文学文化演習Ⅲ(2) 近現代文学文化演習Ⅲ(2) 比較文学文化演習Ⅲ(2) 1科目2単位選択必修	
		古代日本文学史A(2) 古代日本文学史B(2) 近世日本文学史A(2) 近世日本文学史B(2)	中世日本文学史A(2) 中世日本文学史B(2) 近現代日本文学史A(2) 近現代日本文学史B(2) 2科目4単位以上選択必修	日本語学特講ⅠA(2) 日本語学特講ⅠB(2) 古典文学文化特講ⅠA(2) 古典文学文化特講ⅠB(2) 古典文学文化特講ⅡA(2) 古典文学文化特講ⅡB(2) 古典文学文化特講ⅢA(2) 古典文学文化特講ⅢB(2) 近現代文学文化特講ⅠA(2) 近現代文学文化特講ⅠB(2) 近現代文学文化特講ⅡA(2) 近現代文学文化特講ⅡB(2) 比較文学文化特講ⅠA(2) 比較文学文化特講ⅠB(2) 2科目4単位以上選択必修	
		作家作品研究(上代)A(2) 作家作品研究(上代)B(2) 作家作品研究(近世)A(2) 作家作品研究(近世)B(2)	作家作品研究(中古)A(2) 作家作品研究(中古)B(2) 作家作品研究(近現代)A(2) 作家作品研究(近現代)B(2) 2科目4単位以上選択必修	作家作品研究(中世)A(2) 作家作品研究(中世)B(2)	
		比較文学文化概説A(2) 比較文学文化概説B(2)	英語圏文学文化と日本A(2) 英語圏文学文化と日本B(2)	フランス語圏文学文化と日本A(2) フランス語圏文学文化と日本B(2)	中国文学文化と日本A(2) 中国文学文化と日本B(2) 2科目4単位以上選択必修
		日本の伝統行事A(2) 日本の伝統行事B(2) 韓国文化事情A(2) 韓国文化事情B(2)	日本の伝統芸能A(2) 日本の伝統芸能B(2) 中国の古典(文学)(2) 中国の古典(思想)(2) 中国の古典(哲学)(2)	日本の美術A(2) 日本の美術B(2) 中国の古典(歴史)(2) 日本の思想(2)	映像文化論A(2) マンガ文化論A(2) 映像文化論B(2) マンガ文化論B(2)
選択必修科目 II 20 単位以上	中国文字学(4)	日本哲学特講(4) 日本仏教のあゆみA(2) 日本仏教のあゆみB(2)			
	書道ⅠA(1) 書道ⅠB(1) 書道ⅡA(2) 書道ⅡB(2) 教職国語(古典)A(2) 教職国語(古典)B(2)	古文書学Ⅰ(4) 古文書学Ⅱ(4) 書道ⅡA(1) 書道ⅡB(1) 書道ⅢA(1) 書道ⅢB(1) 教職国語(現代文)A(2) 教職国語(現代文)B(2)	書道ⅣA(1) 書道ⅣB(1) 書論A(2) 書論B(2) 創作書道A(1) 創作書道B(1)		
教職科目		国語科教育論(2)	国語科指導法Ⅰ(2) 国語科指導法Ⅱ(2) 書道科指導法Ⅰ(2) 書道科指導法Ⅱ(2)	教職実践演習(中・高)(2)	
	他学部他学科開放科目 (専門開放科目)	科目は別表に記載			

- 備考
1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
  2. ( ) は該当科目の単位数。
  3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
  4. 「国語科教育論」「国語科指導法Ⅰ」「国語科指導法Ⅱ」「書道科指導法Ⅰ」「書道科指導法Ⅱ」「教職実践演習(中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。
  5. 4年次の「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の卒業見込みの学生に限る。
  6. 「創作書道A」「創作書道B」については「書道ⅢA」「書道ⅢB」または「書道ⅣA」「書道ⅣB」の単位を修得した学生に限り、履修することができる。
  7. 「教職国語(現代文)A」「教職国語(現代文)B」「教職国語(古典)A」「教職国語(古典)B」は、中学・高校国語科教員として教壇に立つことを想定し、それに必要な教養・文法理解・読解力を養うための科目である。ただし、教育職員免許状を取得するのに必要な科目に該当しないので注意すること。

## 外国人留学生の共通総合科目・国際コミュニケーション科目の履修について

外国人留学生に対しては、日本理解の助けとなる「日本事情」「日本語」の科目が共通総合科目と国際コミュニケーション科目にそれぞれ開設されている。

共通総合科目の「日本事情ⅠA」「日本事情ⅠB」「日本事情ⅡA」「日本事情ⅡB」「日本事情ⅢA」「日本事情ⅢB」、国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA」「日本語ⅠAB」「日本語ⅠBA」「日本語ⅠBB」は必修、「日本語と日本社会A」「日本語と日本社会B」「日本語と日本文化A」「日本語と日本文化B」は選択必修となっている。

原則として1・2年次で履修かつ修得すること。

教育課程表（共通総合科目・文学部共通科目）を参照して間違いのないように登録すること。

### 〈第1部外国人留学生用科目一覧〉

区分	科目	単位	履修年次	区分
共通総合科目	日本事情ⅠA（自然・環境・生命）	2	1～4	必修
	日本事情ⅠB（自然・環境・生命）	2		
	日本事情ⅡA（歴史・文化）	2		
	日本事情ⅡB（歴史・文化）	2		
	日本事情ⅢA（現代・社会）	2		
	日本事情ⅢB（現代・社会）	2		
国際コミュニケーション科目	日本語ⅠAA	1	1	必修
	日本語ⅠAB	1		
	日本語ⅠBA	1		
	日本語ⅠBB	1		
	日本語と日本社会A	2	2	「日本語と日本社会A・B」、 「日本語と日本文化A・B」のうち どちらか一方の組合せ選択必修
	日本語と日本社会B	2		
	日本語と日本文化A	2		
	日本語と日本文化B	2		

※国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA・ⅠAB」「日本語ⅠBA・ⅠBB」「日本語と日本社会A・B」「日本語と日本文化A・B」は通年履修を原則とする。A・Bセットで履修すること。

# 第1部 英 米 文 学 科



## 英語を「通して」知る、学ぶ

英米文学科では英文学、米文学、英語学の三分野の専門科目を提供しています。この三つはそれぞれ専門的な学問分野ですが、本学科では学生の皆さんに対して、まず英語の基礎力をしっかりと身につけ、その英語力を「使って」、それを「通して」専門の課題にアプローチして欲しいと考え、そのためのカリキュラムを組んでいます。文学作品というものは日常生活のこまごました描写から人間性の極限といえるような激烈きわまる感情の表現にいたるまで、人間のすること、感じること、考えることのすべてを含むものです。また英語という言語の性質や特質を研究する英語学は、英語によって表現できることすべてを扱います。ですから英米文学にせよ英語学にせよ、本学科の専門科目は皆さんが身につけた英語を実際に「使い」、それを「通して」学んでいくのに本当に適した方法なのです。

このような目標のために、まず1・2年生の間はしっかりした英語力を身につけることが中心になります。小人数クラスの専門科目、また文学部共通科目の「英語I・II」により、「読む」「聞く」「話す」「書く」面での高度の英語力を身につけます。これと平行して必修の講義科目「英文法概説」があり、英語力の基礎である文法の知識を学びます。また「英米文学基礎演習」「英語学基礎演習」(選択科目)があり、意欲のある人はさらに自分の英語力を高めることができます。そのほか「英文学史」「米文学史」(ともに必修)、「放送英語」「時事英語」「英語史」(いずれも選択)などがあり、さらに3年次科目である「英文学特講」「米文学特講」「英語学特講」も必要に応じて2年次から受講できるので、皆さんは必修科目と選択科目、実際に自分で英語を使う演習科目と英語英米文化についての広い基礎知識を与える講義科目を組み合わせ、自由に自分の関心を追求することができるでしょう。

3・4年次はこれまでに学んだ英語の力をさらに高めつつ、同時にそれを実際に活用して文学作品の研究、また英語の分析に取り組み、最後に皆さんの大学生活の総決算である卒業論文の制作に結びつけていく時期です。必修講義科目「英語学概論」、「英米文学演習」および「英語学演習」という演習科目、また英米文学、英語学の問題について詳しく論じる「英文学特講」「米文学特講」「英語学特講」という講義科目があり、そのほかに自分の英語力をもっと磨きたい、英米文化の背景をもっと知りたいという人のためには、選択科目として「英会話Ⅲ」「英語講読演習」「イギリスの文化と思想」「アメリカの文化と思想」「イギリス古典文学」が用意されています。このような準備の上に立って、4年次になると自分の選んだ研究題目(文学、語学)によって専任の先生が開設する「卒論セミナー」のどれか一つに所属し、その先生の指導を受けて卒業論文を書き上げることになります。

以上が英米文学科のカリキュラムです。このカリキュラムを十分に活用すれば、4年次が終わるまでには、TOEICなら700点、英検ならば準一級程度の英語力が身につくはずだと、私たちは確信しています。ただしカリキュラムというものはあくまで勉強の機会を提供するだけのものであり、ただ受動的に出席しているだけでは、英語が身につくことも、英語を活用して研究することも社会に出ていくこともできません。私たちは英米文学科の学生の皆さんに、徹底的に英語の勉強をして欲しいと望んでいますし、そのための助力を惜しみません。しかし最後には、皆さんがカリキュラムや教員の助けを自分から積極的に利用して、自分の努力によって英語を身につけていく以外にないのです。外国語の学習は集中力と持続の勝負です。どうか一杯学習に取り組んでください。英語を「通して」学ぶことで、皆さんの学習に目的と方向ができ、学習を助けてくれるはずです。



## 英米文学科 3つのポリシー

### ◎アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

英米文学科の学問は、英語で表現された文物に親しむことによって、人間とは何か、自己とは何か、そして、言葉とは何かを追求していくことであると言える。したがって、英米文学科は、人間と言葉に関心を持っている学生を多く受け入れたいと考えている。英米文学科は、英米のすぐれた文学作品を学ぶことから、人間に対する理解を深めるとともに、人の世のあるべき姿を探りつつ批判精神をそなえた人間に成長したいと願う学生を歓迎する。また、外国語としての英語を身につけることによって、異文化に生きる人々と心を通じ合わせるとともに、人間が人間たるためにもっとも重要な特質である、言葉や言語というものに対する理解を深めようとする学生たちにも入学を勧めたい。英米文学科を志望するにあたり、書物を読むことが好きだったり、英語が好き、あるいは英語が得意だったりしたら、それは好ましい出発点であり、英米文学科になじみやすいはずである。入学したら、書物をたくさん読み、学んだことを深く考え、自分の意見や思考を正確に表現するように求められる。海外語学研修や留学の機会も用意されているので、意欲的に挑戦してもらいたい。人間としての成長を目指すことに加え、英語教員免許をはじめとして各種資格取得をめざしたり、大学院進学や、大学で学んだことを活かせる職業に就いたりしたいと考えている積極的な人たちを募っている。基礎的な英語力を確実にし、しかも、運用できる学力を保有していることが望ましい。入学までに、可能な限り、英語の学力の向上に努めてもらいたい。

### ◎カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

1. 英語の「読む」「聞く」「話す」「書く」という四技能を向上させる。そして、英語を通して英米の文学作品を味読し、英米の文化や思想を理解する能力を培い、英文法、英語学、英語教育の知識と技能を修得できるように指導する。
2. 卒業論文作成の過程を通じて、基礎知識を発展させ、勉学の集大成として卒業論文を独力で完成させ、創造的な思考に到達できるようにする。
3. 最も重要視しているのは、英米文学、英語学の研究に対処可能な基本的英語力、特に読む力の養成であり、言語に対する感性の陶冶である。
4. 1年生には「フレッシュマン講読セミナー」、4年生には「卒論セミナー」を必修として課し、教員との親密なコミュニケーションを通じての成長を図っていきけるようにする。
5. 卒業後の進路に応じて社会人としての能力、実力を身につけさせるために、英語科教員免許状取得や大学院進学を促し、英検、TOEFLの受検や海外留学、語学研修への参加を奨励する。TOEICの受検は全員必修とする。

### ◎ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

英米の文学作品（小説、詩、戯曲など）などを味読することにより、深く感じ考える能力を身につけて、人間の多様性を広い見地より深く理解できる人材を養成する。また、英語学を学ぶことによって言語に対する論理的な理解ができる人材を育てる。両者相俟って、バランスのとれた良識と分別をそなえた人となるように教育することが最終目標である。本学科の教育目的に沿って設定された授業科目を履修し、卒業要件となる単位数を修得した者に学位を授与する。修得すべき授業科目の中には、講義、演習、卒業論文が含まれる。

科目区分		文学部 第1部 英米文学科 卒業要件
共通総合科目14単位以上	哲 学 ・ 思 想	14 単位以上
	自 然 ・ 環 境 ・ 生 命	
	歴 史 ・ 文 化	
	現 代 ・ 社 会	
	ス ポ ー ツ ・ 健 康	
	情 報 教 育	
	総 合	
	社 会 人 基 礎 力 科 目	
	留 学 支 援 科 目	
文学部共通科目20単位以上	文 学 部 教 育	14 単位以上  ※国際コミュニケーション科目14単位を含む、 合計20単位以上
	文学部基礎専門科目	
	国際コミュニケーション科目	
	諸 資 格 関 連 科 目	
	キ ャ リ ア 教 育	
専門科目64単位以上	必 修 科 目	30 単位
	選 択 必 修 科 目	18 単位以上
	選 択 科 目	16 単位以上
教 職 科 目		
他学部他学科開放科目		
卒 業 必 要 単 位 数 合 計		124 単位

## 第1部英米文学科

### 共通総合科目

哲学・思想  
 自然・環境・生命  
 歴史・文化  
 現代・社会  
 スポーツ・健康  
 情報教育  
 総合  
 社会人基礎力科目  
 留学支援科目

### 文学部共通科目

文学部教育  
 文学部基礎専門科目  
 国際コミュニケーション科目  
 諸資格関連科目  
 キャリア教育

共通総合科目は、卒業までに14単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、14単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

- ① スポーツ・健康科目の授業は、東洋大学総合スポーツセンター（板橋区清水町）で開講されます。
- ② 「スポーツ健康科学実技」および「スポーツ健康科学演習」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があるため、詳細については『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください。

留学支援科目は、共通総合科目の枠内であるが、14単位の卒業要件には入らない。ただし、卒業単位には算入される。

※ 「自然科学演習A・B」は、2年次以上でかつ講義科目または実験講義科目を合計8単位以上修得していなければ、履修することができない。

文学部共通科目は、卒業までに国際コミュニケーション科目14単位の卒業要件を充たし、合計20単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、卒業要件を充たし、20単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

#### ◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

サンスクリット文献を読むⅠA(2)	インド仏教のあゆみA(2)
サンスクリット文献を読むⅠB(2)	インド仏教のあゆみB(2)
サンスクリット文献を読むⅡA(2)	日本仏教のあゆみA(2)
サンスクリット文献を読むⅡB(2)	日本仏教のあゆみB(2)
チベット文献を読むA(2)	中国仏教のあゆみA(2)
チベット文献を読むB(2)	中国仏教のあゆみB(2)
パーリ文献を読むA(2)	Verbal and Nonverbal Communication A(2) (言語・非言語コミュニケーションA)
パーリ文献を読むB(2)	Verbal and Nonverbal Communication B(2) (言語・非言語コミュニケーションB)
Philosophy of Language A(2) (言語論A)	Comparative Culture Studies A(2) (比較文化論A)
Philosophy of Language B(2) (言語論B)	Comparative Culture Studies B(2) (比較文化論B)

#### ◇隔年開講科目

下記科目は、隔年にて開講となる。

履修を希望する場合は、開講年度に注意すること。

サンスクリット文献を読むⅡ A(2)	チベット仏教のあゆみ(2)
サンスクリット文献を読むⅡ B(2)	古代インドの社会(2)
チベット文献を読む A(2)	インドの芸能(2)
チベット文献を読む B(2)	インド・仏教の美術(2)
パーリ文献を読む A(2)	華嚴の思想(2)
パーリ文献を読む B(2)	念仏の思想(2)
ヒンディー文献を読む A(2)	インドの風土と文化(2)
ヒンディー文献を読む B(2)	密教の思想(2)
現代のインド(2)	天台の思想(2)
インド現代思想(2)	禅の思想(2)

#### ◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

日本の伝統芸能 A(2)	韓国文化事情 A(2)
日本の伝統芸能 B(2)	韓国文化事情 B(2)

#### 国際コミュニケーション科目

1年次に英語を4単位、ドイツ語、フランス語の2カ国語から1カ国語を選択し4単位、2年次には英語を4単位、1年次に履修したドイツ語、フランス語の2カ国語から1カ国語を選択し2単位、合計14単位以上を履修かつ修得しなければならない。

2年次の語学選択は、1年次7月頃に希望調査を行う。

#### ◇語学セミナー

本学では、「東洋大学語学セミナー（英語・中国語）」を実施している。このセミナーに参加し、条件を充たすことにより国際コミュニケーション科目の1科目の単位を認定する。単位認定対象科目は以下の通りである。

「英語ⅠA」「英語ⅠB」「英語ⅡA」「英語ⅡB」  
「中国語ⅠA」「中国語ⅠB」「中国語ⅡA」「中国語ⅡB」

※英米文学科の学生が中国語の語学セミナーに参加し、単位認定を受ける場合は、その単位は卒業単位にならない自由科目（P.81）として認定される。

※セミナーの詳細は、「Ⅴ 留学制度について」（P.248）を参照すること。

#### キャリア教育

インターンシップ・ボランティア活動は、文学部が認定する機関で就業体験やボランティア活動を行い、単位認定の条件を充たした場合、単位を認定する。

詳細は、シラバス（講義要項）を参照すること。

## 専 門 科 目

英米文学科専門科目は、卒業までに**64単位以上を履修かつ修得しなければならない**。この64単位のうち、以下の各科目区分の卒業要件を充たさなければならない。また、各科目区分および専門科目の卒業要件を充たし、**64単位を超過して履修かつ修得した選択必修科目と選択科目の単位数も、卒業単位として算入する**。

### 必修科目

必修科目に設置されている**全ての科目の単位を履修かつ修得しなければならない**。

なお、卒業論文は必修であるため、1年次から計画を立て研究室等の指示に注意すること。ただし、4年次の卒業論文の履修登録は、**3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の卒業見込みの学生に限る**。

「フレッシュマン講読セミナー」、「英会話Ⅰ」、「英会話Ⅱ」、「英語音声学演習」は、コース指定をする。指定されたコースに従って履修すること。

### 選択必修科目

選択必修科目は、各科目群からそれぞれ定められた科目数以上を選択し、**合計18単位以上を履修かつ修得しなければならない**。

### 選択科目

選択科目は、**16単位以上を履修かつ修得しなければならない**。

## 教 職 科 目

英米文学科教育課程表にある教職科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、**卒業単位として算入する**。

教職科目は、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することができる。

## 他学部他学科開放科目(専門開放科目)

別(P.134)に定める他学部他学科開放科目(専門開放科目)を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、**卒業単位として算入する**。

## 自 由 科 目

英米文学科教育課程表にない科目で、なおかつ、前項の他学部他学科開放科目(専門開放科目)として提示されていない科目の履修を希望する場合は、履修する学部学科の配当学年に従い、担当教員の許可を得て、**卒業単位にならない自由科目として履修することができる**。ただし、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することはできない。なお、以下の科目も履修できないので注意すること。

1. カリキュラム年度の異なる科目
2. 第2部開講の科目
3. 所属する学部学科の科目と同一名称の科目



2013 年度入学生用 文学部第 1 部英米文学科 教育課程表 (共通総合科目)

区 分		第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年			
14 単位以上	共通総合科目	教養科目	哲学・思想	哲学 A(2) 哲学 B(2) 科学思想史 A(2) 科学思想史 B(2) 宗教学Ⅱ A(2) 宗教学Ⅱ B(2) 地域文化研究Ⅲ A(2) 地域文化研究Ⅲ B(2)	哲学史 A(2) 哲学史 B(2) 美術史 A(2) 美術史 B(2) 地球倫理 A(2) 地球倫理 B(2) 論理学 A(2) 論理学 B(2)	倫理学基礎論 A(2) 倫理学基礎論 B(2) 音楽学 A(2) 音楽学 B(2) 地域文化研究Ⅰ A(2) 地域文化研究Ⅰ B(2)	応用倫理学 A(2) 応用倫理学 B(2) 宗教学Ⅰ A(2) 宗教学Ⅰ B(2) 地域文化研究Ⅱ A(2) 地域文化研究Ⅱ B(2)	
			自然・環境・生命	自然の数理 A(2) 自然の数理 B(2) 環境の科学 A(2) 環境の科学 B(2) 自然科学概論 A(2) 自然科学概論 B(2) 化学実験講義 A(2) 化学実験講義 B(2) 日本事情Ⅰ A(2) (留学生用)	生活と物理 A(2) 生活と物理 B(2) 地球の科学 A(2) 地球の科学 B(2) 自然誌 A(2) 自然誌 B(2) 地球科学実習講義 A(2) 地球科学実習講義 B(2) 日本事情Ⅰ B(2) (留学生用)	エネルギーの科学 A(2) エネルギーの科学 B(2) 生物学 A(2) 生物学 B(2) 物理学実験講義 A(2) 物理学実験講義 B(2) 数理・情報実習講義 A(2) 数理・情報実習講義 B(2)	物質の科学 A(2) 物質の科学 B(2) 天文学 A(2) 天文学 B(2) 生物学実験講義 A(2) 生物学実験講義 B(2) 天文学実習講義 A(2) 天文学実習講義 B(2)	
			歴史・文化	国際教育論 A(2) 国際教育論 B(2) 日本文学文化と風土 A(2) 日本文学文化と風土 B(2) 地域史(日本) A(2) 地域史(日本) B(2) 日本事情Ⅱ A(2) (留学生用)	多文化共生論 A(2) 多文化共生論 B(2) 日本の詩歌 A(2) 日本の詩歌 B(2) 地域史(東洋) A(2) 地域史(東洋) B(2) 日本事情Ⅱ B(2) (留学生用)	百人一首の文化史 A(2) 百人一首の文化史 B(2) 西欧文学 A(2) 西欧文学 B(2) 地域史(西洋) A(2) 地域史(西洋) B(2)	日本の昔話 A(2) 日本の昔話 B(2) 現代日本文学 A(2) 現代日本文学 B(2) 歴史の諸問題 A(2) 歴史の諸問題 B(2)	
			現代・社会	経済学 A(2) 経済学 B(2) 政治学 A(2) 政治学 B(2) 国際比較論 A(2) 国際比較論 B(2) 日本事情Ⅲ A(2) (留学生用)	統計学 A(2) 統計学 B(2) 社会学 A(2) 社会学 B(2) 心理学 A(2) 心理学 B(2) 日本事情Ⅲ B(2) (留学生用)	法学 A(2) 法学 B(2) 人類学 A(2) 人類学 B(2) ベーシック・マーケティング(2) 流通入門(2)	日本国憲法(2) 地理学 A(2) 地理学 B(2) 基礎会計学(2) 企業会計(2)	
			スポーツ・健康	スポーツ健康科学実技Ⅰ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅰ B(1) スポーツ健康科学講義Ⅰ(2) スポーツ健康科学演習Ⅰ(2)	スポーツ健康科学実技Ⅱ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅱ B(1) スポーツ健康科学講義Ⅱ A(2) スポーツ健康科学講義Ⅱ B(2)		スポーツ健康科学実技Ⅲ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅲ B(1)	
			情報教育	情報化社会と人間(2)	情報倫理(2)	コンピュータ・リテラシー(2)		
			総合	総合Ⅰ A(2) 総合Ⅰ B(2) 総合Ⅴ A(2) 総合Ⅴ B(2) 総合Ⅸ A(2) 総合Ⅸ B(2)	総合Ⅱ A(2) 総合Ⅱ B(2) 総合Ⅵ A(2) 総合Ⅵ B(2) 全学総合Ⅰ A(2) 全学総合Ⅰ B(2)	総合Ⅲ A(2) 総合Ⅲ B(2) 総合Ⅶ A(2) 総合Ⅶ B(2) 全学総合Ⅱ A(2) 全学総合Ⅱ B(2)	総合Ⅳ A(2) 総合Ⅳ B(2) 総合Ⅷ A(2) 総合Ⅷ B(2)	
			社会人基礎力科目	社会人基礎力入門講義(2) 社会人基礎力実践講義(2) キャリアアデバロップメント論A(2) キャリアアデバロップメント論B(2)	企業のしくみ(2) 公務員論(2)	社会人貢献活動入門(2)	企業家論(2)	
			留学支援科目	英語特別教育科目	Special Course in Advanced TOEFLⅠ(4) Special Course in Advanced TOEFLⅡ(4)			
				日本語科目	(協定校並びに ISEP 加盟大学等からの留学生に対する日本語・日本文化科目) Integrated JapaneseⅠ(5) Japanese Reading and CompositionⅠ(2) Kanji LiteracyⅠ(1) Integrated JapaneseⅡ(5) Japanese Reading and CompositionⅡ(2) Kanji LiteracyⅡ(1) Project WorkⅠ(1) Japanese Listening ComprehensionⅠ(1) Japanese CultureⅠ(1) Project WorkⅡ(1) Japanese Listening ComprehensionⅡ(1) Japanese CultureⅡ(1)			



2013 年度入学生用 文学部第 1 部英米文学科 教育課程表 (文学部共通科目)

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年
文学部教育	東洋大学・井上円了研究(2)	伝 統 文 化 講 座(2)	情 報 処 理 演 習 A(1)	情 報 処 理 演 習 B(1)
文学部 基 礎 専 門 科 目	論 理 学 概 論(4)	比 較 思 想(4)	哲 学 概 論(4)	哲 学 と 宗 教 思 想(4)
	哲 学 基 礎 概 説(4)	哲 学 と 科 学(4)	応 用 倫 理 学 特 論(4)	哲 学 と 宗 教 思 想(4)
	サンスクリット文献を読む I A(2)	イ ン ド の 芸 能(2)	イ ン ド 文 学(2)	古 代 イ ン ド の 社 会(2)
	サンスクリット文献を読む I B(2)	イ ン ド ・ 仏 教 の 美 術(2)	イ ン ド の 風 土 と 文 化(2)	天 台 の 思 想(2)
	日 本 史 概 説(4)	華 厳 の 思 想(2)	禪 の 思 想(2)	チ ベ ッ ト 仏 教 の あ ゆ み(2)
	東 洋 史 概 説(4)	密 教 の 思 想(2)	念 仏 の 思 想(2)	現 代 の イ ン ド(2)
	西 洋 史 概 説(4)	中 国 仏 教 の あ ゆ み A(2)	日 本 仏 教 の あ ゆ み A(2)	イ ン ド 仏 教 の あ ゆ み A(2)
		中 国 仏 教 の あ ゆ み B(2)	日 本 仏 教 の あ ゆ み B(2)	イ ン ド 仏 教 の あ ゆ み B(2)
		児 童 文 学 A(2)	サ ン ス ク リ ッ ト 文 献 を 読 む II A(2)	イ ン ド 現 代 思 想(2)
		児 童 文 学 B(2)	サ ン ス ク リ ッ ト 文 献 を 読 む II B(2)	
	チ ベ ッ ト 文 献 を 読 む A(2)	パ ー リ 文 献 を 読 む A(2)	ヒ ン デ ィ ー 文 献 を 読 む A(2)	
	チ ベ ッ ト 文 献 を 読 む B(2)	パ ー リ 文 献 を 読 む B(2)	ヒ ン デ ィ ー 文 献 を 読 む B(2)	
	中 国 学 概 論(4)	中 国 文 献 学 概 論(4)	倫 理 学 概 論(4)	
	中 国 文 化 史 概 説(4)		中 国 哲 学 史 概 説(4)	中 国 文 学 史 概 説(4)
	比 較 文 学 文 化 概 説 A(2)	生 涯 学 習 概 論 I(2)	中 国 現 代 文 学 史 概 説(4)	日 本 漢 学(4)
	比 較 文 学 文 化 概 説 B(2)	特 別 支 援 教 育 概 論 I(2)		
	英 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 A(2)		ド イ ツ 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 A(2)	
	英 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 B(2)		ド イ ツ 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 B(2)	
	フ ラ ン ス 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 A(2)		中 国 文 学 文 化 と 日 本 A(2)	
	フ ラ ン ス 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 B(2)		中 国 文 学 文 化 と 日 本 B(2)	
	日 本 の 伝 統 行 事 A(2)	日 本 の 伝 統 芸 能 A(2)	日 本 の 美 術 A(2)	韓 国 文 化 事 情 A(2)
	日 本 の 伝 統 行 事 B(2)	日 本 の 伝 統 芸 能 B(2)	日 本 の 美 術 B(2)	韓 国 文 化 事 情 B(2)
	心 理 学 概 論 A(2)	家 族 心 理 学(2)	児 童 文 化 研 究(2)	生 涯 学 習 概 論 II(2)
	心 理 学 概 論 B(2)	女 性 問 題 と 学 習(2)	家 庭 教 育 論(2)	特 別 支 援 教 育 概 論 II(2)
	Verbal and Nonverbal Communication A(2)	Philosophy of Language A(2)	Comparative Culture Studies A(2)	
	(言 語 ・ 非 言 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン A)	(言 語 論 A)	(比 較 文 化 論 A)	
	Verbal and Nonverbal Communication B(2)	Philosophy of Language B(2)	Comparative Culture Studies B(2)	
	(言 語 ・ 非 言 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン B)	(言 語 論 B)	(比 較 文 化 論 B)	
文学部 共 通 科 目	英 語 I A(2)	英 語 II A(2)	英 語 III A(2)	
	英 語 I B(2)	英 語 II B(2)	英 語 III B(2)	
	4 単 位 必 修		4 単 位 必 修	
	検 定 英 語 (4)		Practical Writing (2)	
	ド イ ツ 語 I A(2)	ド イ ツ 語 II A(2)	ド イ ツ 語 III A(2)	
	ド イ ツ 語 I B(2)	ド イ ツ 語 II B(2)	ド イ ツ 語 III B(2)	
	フ ラ ン ス 語 I A(2)	フ ラ ン ス 語 II A(2)	フ ラ ン ス 語 III A(2)	
	フ ラ ン ス 語 I B(2)	フ ラ ン ス 語 II B(2)	フ ラ ン ス 語 III B(2)	
	ド イ ツ 語 ・ フ ラ ン ス 語 の う ち 1 カ 国 語 4 単 位 選 択 必 修		1 年 次 履 修 し た 外 国 語 か ら 1 科 目 2 単 位 選 択 必 修	
	(留 学 生 用) 必 修	(留 学 生 用) 選 択 必 修	※ 留 学 生 は 日 本 語 8 単 位 ・ 英 語 1 年 次 4 単 位 ・ 2 年 次 2 単 位 必 修。 (英 語 が 母 語 の 場 合 は ド イ ツ 語 ・ フ ラ ン ス 語 か ら 1 カ 国 語 1 年 次 4 単 位 ・ 2 年 次 2 単 位 選 択 必 修)	
日 本 語 I A A(1)	日 本 語 と 日 本 社 会 A(2)			
日 本 語 I A B(1)	日 本 語 と 日 本 社 会 B(2)			
日 本 語 I B A(1)	日 本 語 と 日 本 文 化 A(2)			
日 本 語 I B B(1)	日 本 語 と 日 本 文 化 B(2)			
諸 資 格 関 連 科 目	教 育 基 礎 論 I(2)			
	教 育 基 礎 論 II(2)			
	社 会 教 育 計 画 論 I(2)	社 会 教 育 計 画 論 II(2)	視 聴 覚 教 育 (視 聴 覚 メ デ ィ ア 論 を 含 む)(2)	
	博 物 館 情 報 ・ メ デ ィ ア 論(2)			
	博 物 館 概 論(2)	博 物 館 教 育 論(2)	博 物 館 資 料 論(2)	
		博 物 館 経 営 論(2)	博 物 館 資 料 保 存 論(2)	
		博 物 館 展 示 論(2)	博 物 館 実 習 I(2)	博 物 館 実 習 II(1)
	図 書 館 概 論(2)	情 報 サ ー ビ ス 論(2)	児 童 サ ー ビ ス 論(2)	図 書 館 制 度 ・ 経 営 論(2)
	情 報 サ ー ビ ス 演 習 A(1)	情 報 資 源 組 織 演 習 A(1)	図 書 館 情 報 資 源 概 論(2)	情 報 資 源 組 織 論(2)
	情 報 サ ー ビ ス 演 習 B(1)	情 報 資 源 組 織 演 習 B(1)	図 書 館 情 報 資 源 特 論(2)	図 書 館 情 報 技 術 論(2)
学 習 指 導 と 学 校 図 書 館(2)	学 校 経 営 と 学 校 図 書 館(2)	学 校 図 書 館 メ デ ィ ア の 構 成(2)		
読 書 と 豊 かな 人 間 性(2)	情 報 メ デ ィ ア の 活 用(2)			
キ ャ リ ア 教 育	キ ャ リ ア 支 援 I(2)	教 員 養 成 講 座 I(2)		
	キ ャ リ ア 支 援 II(2)	教 員 養 成 講 座 II(2)		
	イ ン タ ー ン シ ッ プ(2)	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動(2)		

2013 年度入学生用 文学部第 1 部英米文学科 教育課程表 (専門科目)

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年
専 門 科 目 64 単 位 以 上	必修科目 30 単 位	フレッシュマン講読セミナー(2) 英 会 話 I(2) 英 語 音 声 学 演 習(2) 英 文 法 概 説(4)	英 文 学 史(4) 米 文 学 史(4) 英 会 話 II(2)	英 語 学 概 論(4) 卒 業 論 文(6)
	選 択 必 修 科 目 18 単 位 以 上		英米文学演習 I(2) 英米文学演習 II(2) 英米文学演習 III(2) 英米文学演習 IV(2) 英米文学演習 V(2)  1 科目以上選択必修	卒論セミナー I(2) 卒論セミナー II(2) 卒論セミナー III(2) 卒論セミナー IV(2) 卒論セミナー V(2) 卒論セミナー VI(2) 卒論セミナー VII(2) 卒論セミナー VIII(2)
			英語学演習 I(2) 英語学演習 II(2) 英語学演習 III(2) 英語学演習 IV(2) 英語学演習 V(2)  1 科目以上選択必修	卒論セミナー IX(2) 卒論セミナー X(2) 卒論セミナー XI(2)  1 科目選択必修
			英 文 学 特 講 I(4) 英 文 学 特 講 II(4) 英 文 学 特 講 III(4) 米 文 学 特 講 I(4) 米 文 学 特 講 II(4) 英 語 学 特 講 I(4) 英 語 学 特 講 II(4)  3 科目以上選択必修	
選 択 科 目 16 単 位 以 上		英米文学基礎演習 I(4) 英米文学基礎演習 II(4) 英語学基礎演習 I(4) 英語学基礎演習 II(4) 時 事 英 語(4) 放 送 英 語(4) 英 語 史(4)	英 会 話 III(2) 英 語 講 読 演 習(4) イギリスの文化と思想(4) アメリカの文化と思想(4) イギリス古典文学(4)	
教職科目		英語科教育論 I(2) 英語科教育論 II(2)	英語科指導法 I(2) 英語科指導法 II(2)	教職実践演習(中・高)(2)
他学部他学科 開放科目 (専門開放科目)	科目は別表に記載			

- 備考
1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
  2. ( ) は該当科目の単位数。
  3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
  4. 「英語科教育論 I」「英語科教育論 II」「英語科指導法 I」「英語科指導法 II」「教職実践演習(中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。
  5. 4 年次の「卒業論文」の履修登録は、3 年次終了時点で未修得単位数が 48 単位以下の卒業見込みの学生に限る。

## 外国人留学生の共通総合科目・国際コミュニケーション科目の履修について

外国人留学生に対しては、日本理解の助けとなる「日本事情」「日本語」の科目が共通総合科目と国際コミュニケーション科目にそれぞれ開設されている。

共通総合科目の「日本事情ⅠA」「日本事情ⅠB」「日本事情ⅡA」「日本事情ⅡB」「日本事情ⅢA」「日本事情ⅢB」、国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA」「日本語ⅠAB」「日本語ⅠBA」「日本語ⅠBB」は必修、「日本語と日本社会A」「日本語と日本社会B」「日本語と日本文化A」「日本語と日本文化B」は選択必修となっている。

原則として1・2年次で履修かつ修得すること。

教育課程表（共通総合科目・文学部共通科目）を参照して間違いのないように登録すること。

### 〈第1部外国人留学生用科目一覧〉

区分	科目	単位	履修年次	区分
共通総合科目	日本事情ⅠA（自然・環境・生命）	2	1～4	必修
	日本事情ⅠB（自然・環境・生命）	2		
	日本事情ⅡA（歴史・文化）	2		
	日本事情ⅡB（歴史・文化）	2		
	日本事情ⅢA（現代・社会）	2		
	日本事情ⅢB（現代・社会）	2		
国際コミュニケーション科目	日本語ⅠAA	1	1	必修
	日本語ⅠAB	1		
	日本語ⅠBA	1		
	日本語ⅠBB	1		
	日本語と日本社会A	2	2	「日本語と日本社会A・B」、 「日本語と日本文化A・B」のうち どちらか一方の組合せ選択必修
	日本語と日本社会B	2		
	日本語と日本文化A	2		
	日本語と日本文化B	2		

※国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA・ⅠAB」「日本語ⅠBA・ⅠBB」「日本語と日本社会A・B」「日本語と日本文化A・B」は通年履修を原則とする。A・Bセットで履修すること。



第 1 部 史 学 科

## 史料・原典から事実を証明する

激動する国際情勢や日本の現状を理解するためには、過去に遡ってその歴史を学ぶことが、今やより一層要請されているといえよう。史学科は1938（昭和13）年に創設された歴史と伝統を有する学科である。常に新しい歴史学の研究と教育に努力しており、勉学の意欲に燃える学生諸君を歓迎する。

本学科は各種の史料や原典をもとに歴史を科学的に実証・研究していくことを目的としている。入学後1年間は専攻に分かれず、広い立場から歴史の基礎を学ぶ。ついで2年次からは日本史学・東洋史学・西洋史学の3専攻から1つの専攻を選択し、その専攻に応じた科目を履修していく。それぞれの専攻では、原始・古代から現代に至る政治史・法制史・対外関係史・社会史・経済史、あるいは文化史・思想史など多方面にわたって講義・演習が行われる。しかし歴史を実証するだけでなく、その歴史的事実の中から人類の知恵を汲み取り、現代および未来に役立てることも学問的使命と考えている。

2012（平成24）年度から施行されているカリキュラムは、白山校舎一貫教育に対応して作られた2004年度のカリキュラムを1部変更したものである。史学科の学生は、共通総合科目、文学部共通科目とともに専門科目を履修する。専門科目のうち、必修科目として、まず1年次に歴史学基礎演習、2年次に3専攻それぞれの地域や時代に応じた日本史史料研究・東洋史史料研究・西洋史史料研究を履修し、歴史研究の方法や史料読解の技法の基礎を学ぶ。また従来3・4年に配当されていた日本史学特講・東洋史学特講・西洋史学特講、および日本史学演習・東洋史学演習・西洋史学演習は2～4年次に配置されて、2年次から専門的な授業を履修できるようになっている。3年次に開講される史学概論では、歴史学の課題や方法について学ぶ。3・4年次には卒論演習が開かれ、各専攻それぞれに時代や地域、テーマに応じた論文作成のための指導がはじまり、4年次には卒業論文の作成に取りかかる。以上の必修科目のほか、1年次には、選択必修科目として各専攻の概説（日本史概説・東洋史概説・西洋史概説）が開講され、うち2科目以上の履修が義務づけられる。そのほか、古文書学Ⅰ・Ⅱ、考古学研究などの選択科目も設けられている。

中学校社会、および高等学校地理歴史、公民の教員免許が得られるが、さらに博物館概論・博物館学各論・博物館実習Ⅰ・Ⅱなどの履修によって、学芸員の資格を取得することができる。学生は地域・時代によって、考古学・古代・中世・近世・近現代・東洋史・西洋史などいくつかの研究グループを組織し、教員の指導のもとに研究会・史跡見学・史料調査や、そのための合宿などを行っている。

本学科では各分野の権威と新進気鋭の少壮の学者を揃え、研究・教育を行っている。その研究成果は『東洋大学文学部紀要・史学科篇』として毎年公刊されている。また、学生および教員・卒業生などによって「白山史学会」が組織され、総会・大会・研究会・卒業論文発表会などが開催され、会誌『白山史学』が毎年定期発行されている。会員の投稿により掲載される論文は、学界でも高く評価され、1996年度からは日本学術会議の登録団体として認められ、学界に貢献するところも少なくない。

卒業生は、教員をはじめ博物館学芸員・文化財行政担当者など、歴史に関わる分野で活躍するほか、最近では公務員や民間企業などへも進出している。



# 史学科 3つのポリシー

## アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本学科は科学的・実証的な歴史研究の研鑽を通じて、過去の人類の歴史から現在を理解し、未来に生きる知恵を汲み取ることができる能力の養成を目指している。人類が残した過去の政治・社会の諸制度や思想・文化・芸術などの創造活動に学び、それらをふまえて、人の世のあるべき姿に向けて自律的・主体的に活動するとともに、異なる立場の人々とも、人間的なコミュニケーションの出来る人材を養成したい。歴史に関する学習・研究を遂行していくためには、多様な史料や原典を正確に読み解き、それをもとに論理的かつ創造的な思考を構築していくことが求められる。また読書などを通じて専門的研鑽の基礎となる知識を身につける忍耐と努力も不可欠である。そうした勉強を4年間継続できる基本的力のある者を求める。具体的には、以下の通りである。

1. きちんと日本文を読みこなしおかしくない日本語を書けること： すべての基本は読み取ることであり、言っていることを正確に把握できなければならない。ついで、自分の考えていることを正確な日本語で書いて、人に知らせることが出来なければならない。そのことの重要性を理解し、そうしようとする意欲を持つ者を求める。
2. 高校段階の日本史あるいは世界史をきちんと理解していること： 本学科では2年生から日本史・東洋史・西洋史の3専攻に分かれ、それぞれに詳しいテーマを追求していく。そのためには、そのテーマについての高校段階での知識をきちんと習得している必要がある。
3. 言葉に対して強い関心を持っていること： 過去の人類は、われわれと同じ言葉を使っていたわけではない。彼らの言葉を理解しようと努力することが必要である。さらに、これまでの研究は、日本語だけで書かれているわけではない。それらを吸収する力を持つことが必要である。そのためには、日本語の古文や英語をはじめ、さまざまな言葉に対する関心を持っていないといけない。高校では英語、古文、漢文を積極的に学んできて欲しい。
4. 自分の得意とする何かを持っていること： われわれの学んでいるのは過去の人間の行動であるが、人間の行動は実にさまざま、歴史の対象は広い。数学であれ、植物の知識であれ、水泳であれ、ダンスであれ、何か得意なものを持っているとそれだけ人間についての理解は深くなる。あくまでも1～3の後であるけれども、そうした独自の視点を持つ者を求める。

## カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

「多様な史料や原典を正確に読み解き、それをもとに論理的かつ創造的な思考を構築していく」能力を養成するために、以下のようの方針で教育課程を組み立て、実施する。

1. 1年生で歴史学基礎演習と日本史・東洋史・西洋史概説の内2つを履修し、基本的知識を習得するとともに、歴史学がどのようなことを問題としどのように問題に迫るかを学び、自分の専攻を日本史・東洋史・西洋史のいずれにするかを決定する。また、英語は本学科だけでクラスを形成し、史学科にあった英語を学ぶようにする。基礎演習では、発表や課題提出など学生の積極的授業参加が求められる。
2. 2年生では、自分の定めた専攻の史料研究を履修し、それぞれの領域での史料のありようと読み方を学ぶ。また同時に、特講と演習を取り、さまざまな知識とともに歴史学の勉強の仕方を学ぶ。史料研究と演習は少人数による演習形式を取り、学生は授業への積極的参加を求められる。
3. 3年生からは卒論演習を履修し、自分の関心に沿って論文を書く準備を始める。自分の関心の発表によって、教員と仲間の学生の批判を浴び、どのように問題を設定でき、どのように論文を作成していくかを考えていくこととなる。さらに史学概論を取り、歴史学という学問の意味を深く学んで行く。また、特講と演習の習得を続け、専門的知識を深めて行く。
4. 4年生では、卒論演習によって自分の卒業論文を作成する作業を進めて行く。教員との個別的面談や発表を通しての仲間からのアドバイスのによって論文作成を進め、自らの勉学の集大成としての論文を完成させる。

## ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学科の目的である、「科学的・実証的な歴史研究の研鑽を通じて、過去の人類の歴史から現在を理解し、未来に生きる知恵を汲み取ることができる能力」が養成されたと思われる者に卒業を認める。それは以下のことによって証明されると考える。

1. 本学科の教育目的に沿って設定された授業科目を履修し、基準となる単位を修得すること： これによって歴史を学ぶことに必要な「多様な史料や原典を正確に読み解き、それをもとに論理的かつ創造的な思考を構築していく」能力が養われたと考える。
2. 本学科の教育目的であった「人の世のあるべき姿に向けて自律的・主体的に活動するとともに、異なる立場の人々とも、人間的なコミュニケーションの出来る」人材でとなっていること： 「人類が残した過去の政治・社会の諸制度や思想・文化・芸術などの創造活動」を学ぶことが、現在を見る眼を養い、現状に対しては鋭い批判精神を育むことになる。それによって「人の世のあるべき姿」を求めて社会に働きかけることの出来る人間となっていることこそが、本学科卒業生として認定される基準である。

科目区分		文学部 第1部 史学科 卒業要件
共通総合科目 16単位以上	哲 学 ・ 思 想	16単位以上
	自 然 ・ 環 境 ・ 生 命	
	歴 史 ・ 文 化	
	現 代 ・ 社 会	
	ス ポ ー ツ ・ 健 康	
	情 報 教 育	
	総 合	
	社 会 人 基 礎 力 科 目	
	留 学 支 援 科 目	
文学部共通科目 18単位以上	文 学 部 教 育	12単位以上 ※国際コミュニケーション科目12単位を含む、 合計18単位以上
	文学部基礎専門科目	
	国際コミュニケーション科目	
	諸 資 格 関 連 科 目	
	キ ャ リ ア 教 育	
専門科目 70単位以上	必 修 科 目	26単位以上
	選 択 必 修 科 目	20単位以上
	選 択 科 目	24単位以上
教 職 科 目		
他学部他学科開放科目		
卒業必要単位数合計		124単位

## 第1部史学科

### 共通総合科目

哲学・思想  
自然・環境・生命  
歴史・文化  
現代・社会  
スポーツ・健康  
情報教育  
総合  
社会人基礎力科目  
留学支援科目

共通総合科目は、卒業までに16単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、16単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

- ①スポーツ・健康科目の授業は、東洋大学総合スポーツセンター（板橋区清水町）で開講されます。
- ②「スポーツ健康科学実技」および「スポーツ健康科学演習」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があるため、詳細については『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください。

留学支援科目は、共通総合科目の枠内であるが、16単位の卒業要件には入らない。ただし、卒業単位には算入される。

※「自然科学演習A・B」は、2年次以上でかつ講義科目または実験講義科目を合計8単位以上修得していなければ、履修することができない。

### 文学部共通科目

文学部教育  
文学部基礎専門科目  
国際コミュニケーション科目  
諸資格関連科目  
キャリア教育

文学部共通科目は、卒業までに国際コミュニケーション科目12単位の卒業要件を充たし、合計18単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、卒業要件を充たし、18単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

#### ◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

サンスクリット文献を読むⅠA(2)	ヒンディー文献を読むA(2)
サンスクリット文献を読むⅠB(2)	ヒンディー文献を読むB(2)
サンスクリット文献を読むⅡA(2)	インド仏教のあゆみA(2)
サンスクリット文献を読むⅡB(2)	インド仏教のあゆみB(2)
チベット文献を読むA(2)	Verbal and Nonverbal Communication A(2) (言語・非言語コミュニケーションA)
チベット文献を読むB(2)	Verbal and Nonverbal Communication B(2) (言語・非言語コミュニケーションB)
Philosophy of Language A(2) (言語論A)	Comparative Culture Studies A(2) (比較文化論A)
Philosophy of Language B(2) (言語論B)	Comparative Culture Studies B(2) (比較文化論B)

◇隔年開講科目

下記科目は、隔年にて開講となる。

履修を希望する場合は、開講年度に注意すること。

サンスクリット文献を読むⅡ A(2)	チベット仏教のあゆみ(2)
サンスクリット文献を読むⅡ B(2)	古代インドの社会(2)
チベット文献を読む A(2)	インドの芸能(2)
チベット文献を読む B(2)	インド・仏教の美術(2)
パーリ文献を読む A(2)	華嚴の思想(2)
パーリ文献を読む B(2)	念仏の思想(2)
ヒンディー文献を読む A(2)	インドの風土と文化(2)
ヒンディー文献を読む B(2)	密教の思想(2)
現代のインド(2)	天台の思想(2)
インド現代思想(2)	禅の思想(2)

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

日本の伝統芸能 A(2)	韓国文化事情 A(2)
日本の伝統芸能 B(2)	韓国文化事情 B(2)

国際コミュニケーション科目

1年次に英語4単位、ドイツ語、フランス語、中国語の3カ国語から1カ国語を選択し4単位、2年次には1年次に履修した2カ国語から1カ国語を選択し4単位、合計12単位以上を履修かつ修得しなければならない。

西洋史学を専攻する場合は、ドイツ語、フランス語を選択することが望ましい。

2年次の語学選択は、1年次7月頃に希望調査を行う。

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

Communicative English A(2)
Communicative English B(2)

◇語学セミナー

本学では、「東洋大学語学セミナー（英語・中国語）」を実施している。このセミナーに参加し、条件を充たすことにより国際コミュニケーション科目の1科目の単位を認定する。単位認定対象科目は以下の通りである。

- 「英語ⅠA」「英語ⅠB」「英語ⅡA」「英語ⅡB」
- 「中国語ⅠA」「中国語ⅠB」「中国語ⅡA」「中国語ⅡB」

※セミナーの詳細は、「V 留学制度について」(P.248)を参照すること。

キャリア教育

インターンシップ・ボランティア活動は、文学部が認定する機関で就業体験やボランティア活動を行い、単位認定の条件を充たした場合、単位を認定する。

詳細は、シラバス（講義要項）を参照すること。

## 専 門 科 目

史学科各専攻コース専門科目は、卒業までに70単位以上を履修かつ修得しなければならない。この70単位のうち、以下の各科目区分の卒業要件を充たさなければならない。また、各科目区分および専門科目の卒業要件を充たし、70単位を超過して履修かつ修得した選択必修科目と選択科目の単位数も、卒業単位として算入する。

### 必修科目

各専攻コースの必修科目に設置されている全ての科目の単位を履修かつ修得しなければならない。

2年次から4年次までに特講は3科目12単位、演習は3科目6単位を履修かつ修得しなければならない。特講、演習は、異なる年次において同じコースを重複履修し、単位を修得することができる。

なお、卒業論文は必修であるため、1年次からよく計画を立て、教員と研究室の指示に注意すること。ただし、4年次の卒業論文の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の卒業見込みの学生に限る。

### 選択必修科目

各専攻コースの選択必修科目は合計20単位以上を履修かつ修得しなければならない。

### 選択科目

各専攻コースの選択科目は、24単位以上を履修かつ修得しなければならない。

他専攻コースの特講、演習は、異なる年次において同じコースを重複履修し、単位を修得することができる。

#### ◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

インドの宗教 A(2)	中国仏教のあゆみ A(2)
インドの宗教 B(2)	中国仏教のあゆみ B(2)
日本仏教のあゆみ A(2)	
日本仏教のあゆみ B(2)	

#### ◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

王朝文化論 A(2)	室町文化論 A(2)
王朝文化論 B(2)	室町文化論 B(2)
日本民俗学 A(2)	
日本民俗学 B(2)	

## 教 職 科 目

史学科教育課程表にある教職科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、**卒業単位として算入する**。

教職科目は、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することができる。

## 他学部他学科開放科目(専門開放科目)

別（P. 134）に定める他学部他学科開放科目（専門開放科目）を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、**卒業単位として算入する**。

## 自 由 科 目

史学科教育課程表にない科目で、なおかつ、前項の他学部他学科開放科目（専門開放科目）として提示されていない科目の履修を希望する場合は、履修する学部学科の配当学年に従い、担当教員の許可を得て、**卒業単位にならない自由科目**として履修することができる。ただし、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することはできない。なお、以下の科目も履修できないので注意すること。

1. カリキュラム年度の異なる科目
2. 第2部開講の科目
3. 所属する学部学科の科目と同一名称の科目

## そ の 他

大学院科目について

史学科では、文学研究科史学専攻博士前期課程の授業について、下記の条件のもとで履修を認める。

### ①履修可能科目

日本史学特論Ⅰ～Ⅴ、東洋史学特論Ⅰ～Ⅲ、西洋史学特論Ⅰ～Ⅲ、  
日本史学演習Ⅰ～Ⅴ、東洋史学演習Ⅰ～Ⅲ、西洋史学演習Ⅰ～Ⅲ

②履修については、授業初回時に担当教員の許可を得ること。ただし、担当者が非常勤教員の場合には、受講学生が参加する予定の卒論演習の担当教員の許可を合わせて必要とする。

### ③履修対象学生

史学科在学の3、4年生とする。

④単位の取得は認めない。



2013 年度入学生用 文学部第 1 部史学科 教育課程表 (共通総合科目)

区 分		第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年			
共通総合科目	16 単位以上	教養科目	哲学・思想	哲学 A(2) 哲学 B(2) 科学思想史 A(2) 科学思想史 B(2) 宗教学Ⅱ A(2) 宗教学Ⅱ B(2) 地域文化研究Ⅲ A(2) 地域文化研究Ⅲ B(2)	哲学史 A(2) 哲学史 B(2) 美術史 A(2) 美術史 B(2) 地球倫理 A(2) 地球倫理 B(2) 論理学 A(2) 論理学 B(2)	倫理学基礎論 A(2) 倫理学基礎論 B(2) 音楽学 A(2) 音楽学 B(2) 地域文化研究Ⅰ A(2) 地域文化研究Ⅰ B(2)	応用倫理学 A(2) 応用倫理学 B(2) 宗教学Ⅰ A(2) 宗教学Ⅰ B(2) 地域文化研究Ⅱ A(2) 地域文化研究Ⅱ B(2)	
			自然・環境・生命	自然の数理 A(2) 自然の数理 B(2) 環境の科学 A(2) 環境の科学 B(2) 自然科学概論 A(2) 自然科学概論 B(2) 化学実験講義 A(2) 化学実験講義 B(2) 日本事情Ⅰ A(2) (留学生用)	生活と物理 A(2) 生活と物理 B(2) 地球の科学 A(2) 地球の科学 B(2) 自然誌 A(2) 自然誌 B(2) 地球科学実習講義 A(2) 地球科学実習講義 B(2) 日本事情Ⅰ B(2) (留学生用)	エネルギーの科学 A(2) エネルギーの科学 B(2) 生物学 A(2) 生物学 B(2) 物理学実験講義 A(2) 物理学実験講義 B(2) 数理・情報実習講義 A(2) 数理・情報実習講義 B(2)	物質の科学 A(2) 物質の科学 B(2) 天文学 A(2) 天文学 B(2) 生物学実験講義 A(2) 生物学実験講義 B(2) 天文学実習講義 A(2) 天文学実習講義 B(2)	
			歴史・文化	国際教育論 A(2) 国際教育論 B(2) 日本文学文化と風土 A(2) 日本文学文化と風土 B(2) 地域史(日本) A(2) 地域史(日本) B(2) 日本事情Ⅱ A(2) (留学生用)	多文化共生論 A(2) 多文化共生論 B(2) 日本の詩歌 A(2) 日本の詩歌 B(2) 地域史(東洋) A(2) 地域史(東洋) B(2) 日本事情Ⅱ B(2) (留学生用)	百人一首の文化史 A(2) 百人一首の文化史 B(2) 西欧文学 A(2) 西欧文学 B(2) 地域史(西洋) A(2) 地域史(西洋) B(2)	日本の昔話 A(2) 日本の昔話 B(2) 現代日本文学 A(2) 現代日本文学 B(2) 歴史の諸問題 A(2) 歴史の諸問題 B(2)	
			現代・社会	経済学 A(2) 経済学 B(2) 政治学 A(2) 政治学 B(2) 国際比較論 A(2) 国際比較論 B(2) 日本事情Ⅲ A(2) (留学生用)	統計学 A(2) 統計学 B(2) 社会学 A(2) 社会学 B(2) 心理学 A(2) 心理学 B(2) 日本事情Ⅲ B(2) (留学生用)	法学 A(2) 法学 B(2) 人類学 A(2) 人類学 B(2) ベーシック・マーケティングⅡ 流通入門Ⅱ	日本国憲法Ⅱ 地理学 A(2) 地理学 B(2) 基礎会計学Ⅱ 企業会計Ⅱ	
			スポーツ・健康	スポーツ健康科学実技Ⅰ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅰ B(1) スポーツ健康科学講義ⅠⅡ スポーツ健康科学実習ⅠⅡ	スポーツ健康科学実技Ⅱ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅱ B(1) スポーツ健康科学講義Ⅱ A(2) スポーツ健康科学講義Ⅱ B(2)	スポーツ健康科学実技Ⅲ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅲ B(1)	スポーツ健康科学実技Ⅲ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅲ B(1)	
			情報教育	情報化社会と人間Ⅱ	情報倫理Ⅱ	コンピュータ・リテラシーⅡ		
			総合	総合Ⅰ A(2) 総合Ⅰ B(2) 総合Ⅴ A(2) 総合Ⅴ B(2) 総合Ⅸ A(2) 総合Ⅸ B(2)	総合Ⅱ A(2) 総合Ⅱ B(2) 総合Ⅵ A(2) 総合Ⅵ B(2) 全学総合Ⅰ A(2) 全学総合Ⅰ B(2)	総合Ⅲ A(2) 総合Ⅲ B(2) 総合Ⅶ A(2) 総合Ⅶ B(2) 全学総合Ⅱ A(2) 全学総合Ⅱ B(2)	総合Ⅳ A(2) 総合Ⅳ B(2) 総合Ⅷ A(2) 総合Ⅷ B(2)	
			社会人基礎力科目	社会人基礎力入門講義Ⅱ 社会人基礎力実践講義Ⅱ キャリアアデバロップメント論 A(2) キャリアアデバロップメント論 B(2)	企業のしくみⅡ 公務員論Ⅱ	社会人貢献活動入門Ⅱ	企業家論Ⅱ	
			留学支援科目	英語特別教育科目	Special Course in Advanced TOEFL I(4) Special Course in Advanced TOEFL II(4)			
				日本語科目	(協定校並びに ISEP 加盟大学等からの留学生に対する日本語・日本文化科目)			
		Integrated Japanese I(5) Integrated Japanese II(5) Project Work I(1) Project Work II(1)	Japanese Reading and Composition I(2) Japanese Reading and Composition II(2) Japanese Listening Comprehension I(1) Japanese Listening Comprehension II(1)	Kanji Literacy I(1) Kanji Literacy II(1) Japanese Culture I(1) Japanese Culture II(1)				

2013 年度入学生用 文学部第 1 部史学科 教育課程表 (文学部共通科目)

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年
文学部教育	東洋大学・井上円了研究(2)	伝統文化講座(2)	情報処理演習 A(1)	情報処理演習 B(1)
文学部 基礎 専門 科目	論理学概論(4) 哲学基礎概説(4) サンスクリット文献を読む I A(2) サンスクリット文献を読む I B(2)	比較思想(4) 英文学特講 I(4) 英文学特講 III(4) 米文学特講 I(4)	英文学特講 II(4) 米文学特講 II(4)	
		哲学と科学(4) インドの芸能(2) インド・仏教の美術(2) 華厳の思想(2) 密教の思想(2) 児童文学 A(2) 児童文学 B(2) チベット文献を読む A(2) チベット文献を読む B(2) インド現代思想(2)	応用倫理学特論(4) インド文学(2) インドの風土と文化(2) 禅の思想(2) 念仏の思想(2) チベット仏教のあゆみ(2) 現代のインド(2) パーリ文献を読む A(2) パーリ文献を読む B(2)	哲学と宗教思想(4) 古代インドの社会(2) 天台の思想(2) インド仏教のあゆみ A(2) インド仏教のあゆみ B(2) サンスクリット文献を読む II A(2) サンスクリット文献を読む II B(2) ヒンディー文献を読む A(2) ヒンディー文献を読む B(2)
	中国学概論(4) 中国文化史概説(4) 比較文学文化概説 A(2) 比較文学文化概説 B(2)	中国文献学概論(4) 生涯学習概論 I(2) 特別支援教育概論 I(2)	中国哲学史概説(4) 中国現代文学史概説(4) イギリスの文化と思想(4)	中国文学史概説(4) 日本漢学(4) アメリカの文化と思想(4)
		英語圏文学文化と日本 A(2) 英語圏文学文化と日本 B(2) フランス語圏文学文化と日本 A(2) フランス語圏文学文化と日本 B(2)	ドイツ語圏文学文化と日本 A(2) ドイツ語圏文学文化と日本 B(2) 中国文学文化と日本 A(2) 中国文学文化と日本 B(2)	
	日本の伝統行事 A(2) 日本の伝統行事 B(2) 心理学概論 A(2) 心理学概論 B(2)	日本の伝統芸能 A(2) 日本の伝統芸能 B(2) 家族心理学(2) 女性問題と学習(2)	日本の美術 A(2) 日本の美術 B(2) 児童文化研究(2) 家庭教育論(2)	韓国文化事情 A(2) 韓国文化事情 B(2) 生涯学習概論 II(2) 特別支援教育概論 II(2)
	Verbal and Nonverbal Communication A(2) (言語・非言語コミュニケーション A)	Philosophy of Language A(2) (言語論 A)	Comparative Culture Studies A(2) (比較文化論 A)	
	Verbal and Nonverbal Communication B(2) (言語・非言語コミュニケーション B)	Philosophy of Language B(2) (言語論 B)	Comparative Culture Studies B(2) (比較文化論 B)	
	検定英語(4)	Practical Writing (2)	Communicative English A(2)	Communicative English B(2)
	英語	英語 I A(2) 英語 I B(2) <b>4 単位必修</b>	英語 II A(2) 英語 II B(2)	英語 III A(2) 英語 III B(2)
	ドイツ語	ドイツ語 I A(2) ドイツ語 I B(2)	ドイツ語 II A(2) ドイツ語 II B(2)	ドイツ語 III A(2) ドイツ語 III B(2)
フランス語	フランス語 I A(2) フランス語 I B(2)	フランス語 II A(2) フランス語 II B(2)	フランス語 III A(2) フランス語 III B(2)	
中国語	中国語 I A(2) 中国語 I B(2) <b>1 カ国語 4 単位選択必修</b>	中国語 II A(2) 中国語 II B(2) <b>1 年次履修した 2 カ国語より 1 カ国語 4 単位選択必修</b>	中国語 III A(2) 中国語 III B(2)	
日本語 (留学生用)	(留学生用) 必修 日本語 I A A(1) 日本語 I A B(1) 日本語 I B A(1) 日本語 I B B(1)	(留学生用) 選択必修 日本語と日本社会 A(2) 日本語と日本社会 B(2) 日本語と日本文化 A(2) 日本語と日本文化 B(2)	※留学生は 1 2 単位中、日本語 8 単位必修。 残り 4 単位を 1 年次の英語・ドイツ語・フランス語・中国語の 4 カ国語より母語以外の 1 カ国語 4 単位選択必修。	
諸 資格 関連 科目	教育基礎論 I(2) 教育基礎論 II(2)			
	社会教育計画論 I(2)	社会教育計画論 II(2)	視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)(2)	
	博物館情報・メディア論(2)	博物館教育論(2)	博物館資料保存論(2)	
	図書館概論(2) 情報サービス論(2) 児童サービス論(2)	図書館情報資源概論(2) 情報資源組織論(2)	図書館サービス概論(2) 図書館情報技術論(2)	
情報サービス演習 A(1) 情報資源組織演習 A(1)	図書館情報資源特論(2) 情報資源組織論(2)	図書館情報技術論(2)		
情報サービス演習 B(1) 情報資源組織演習 B(1)	図書館情報資源特論(2) 図書・図書館史(2)			
学習指導と学校図書館(2)	学校経営と学校図書館(2)	学校図書館メディアの構成(2)		
読書と豊かな人間性(2)	情報メディアの活用(2)			
キャリア教育	キャリア支援 I(2)		教員養成講座 I(2)	
	キャリア支援 II(2)		教員養成講座 II(2)	
	インターンシップ(2)		ボランティア活動(2)	

2013年度入学生用 文学部第1部史学科 教育課程表(専門科目) 日本史学専攻コース

区分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
専門科目 70単位以上	26 必修科目 単位以上	歴史学基礎演習(2)	日本史史料研究(4)	史学概論(4) 卒業論文(6) 日本史学卒論演習(2) 日本史学卒論演習(2)	
	20 選択必修科目 単位以上	日本史概説(4) 東洋史概説(4) 西洋史概説(4) 2科目8単位以上選択必修	日本史学特講(4) 日本史学特講(4) 日本史学特講(4)	東洋史学特講(4) 東洋史学特講(4) 東洋史学特講(4)	
	24 選択科目 単位以上	東洋史学演習(2) 西洋史学演習(2) 考古学研究(4) 日本民俗学A(2) 日本民俗学B(2) ラテン語(2) ギリシア語(2) 古文書学I(4) 古文書学II(4)	西洋史学演習(2) 考古学研究(4) 室町文化論A(2) 室町文化論B(2) 法制史(西洋)A(2) 法制史(西洋)B(2) 倫理学概論(4)	法制史(西洋)A(2) 法制史(西洋)B(2) 倫理学概論(4)	西洋史学特講(4) 西洋史学特講(4) 西洋史学特講(4) 3科目12単位以上選択必修
教職科目	人文地理学A(2) 人文地理学B(2) 地誌学A(2) 地誌学B(2) 法制史(日本)A(2) 法制史(日本)B(2) 西洋哲学史概説I(4) 経済史A(2) 経済史B(2) インドの宗教A(2) インドの宗教B(2) 博物館概論(2)	中世日本文学史A(2) 中世日本文学史B(2) 近世日本文学史A(2) 近世日本文学史B(2) 自然地理学A(2) 自然地理学B(2) 法制史(東洋)A(2) 法制史(東洋)B(2) 西洋哲学史概説II(4) 近代欧米経済史A(2) 近代欧米経済史B(2) 博物館資料論(2) 博物館展示論(2)	哲学概論(4)	アメリカ思想史(2) 宗教とは何かA(2) 宗教とは何かB(2) 社会・地歴指導法I(2) 社会・地歴指導法II(2) 社会・公民指導法I(2) 社会・公民指導法II(2)	博物館実習I(2) 博物館実習II(1)
他学部他学科 開放科目 (専門開放科目)	科目は別表に記載				

- 備考
1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
  2. ( ) は該当科目の単位数。
  3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目については履修することができる。
  4. 「社会科教育論」「社会・地歴指導法I」「社会・地歴指導法II」「社会・公民指導法I」「社会・公民指導法II」「教職実践演習(中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。
  5. 4年次の「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の卒業見込みの学生に限る。

2013年度入学生用 文学部第1部史学科 教育課程表(専門科目) 東洋史学専攻コース

区分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
専門科目 70単位以上	26単位以上 必修科目	歴史学基礎演習(2)	東洋史史料研究(4)	史学概論(4) 東洋史学卒論演習(2) 東洋史学演習(2) 東洋史学演習(2) 東洋史学演習(2)	卒業論文(6) 東洋史学卒論演習(2)
	20単位以上 選択必修科目	東洋史概説(4) 西洋史概説(4) 日本史概説(4) 2科目8単位以上選択必修	東洋史学特講(4) 東洋史学特講(4) 東洋史学特講(4)	日本史学特講(4) 日本史学特講(4) 日本史学特講(4)	西洋史学特講(4) 西洋史学特講(4) 西洋史学特講(4)
	選択科目 24単位以上		日本史学演習(2) 西洋史学演習(2) 考古学研究(4) 日本民俗学A(2) 王朝文化論A(2) 室町文化論A(2) 日本仏教のあゆみA(2) 中国仏教のあゆみA(2) 日本民俗学B(2) 王朝文化論B(2) 室町文化論B(2) 日本仏教のあゆみB(2) 中国仏教のあゆみB(2) ラテン語(2) ギリシア語(2) 古文書学 I(4) 古文書学 II(4)	法制史(西洋) A(2) 法制史(西洋) B(2) 倫理学概論(4)	
教職科目		古代日本文学史A(2) 中世日本文学史A(2) 古代日本文学史B(2) 中世日本文学史B(2) 近世日本文学史A(2) 近現代日本文学史A(2) 近世日本文学史B(2) 近現代日本文学史B(2) 人文地理学 A(2) 自然地理学 A(2) 人文地理学 B(2) 自然地理学 B(2) 地誌学 A(2) 地誌学 B(2) 法制史(日本) A(2) 法制史(東洋) A(2) 法制史(日本) B(2) 法制史(東洋) B(2) 西洋哲学史概説 I(4) 経済史 A(2) 西洋哲学史概説 II(4) 哲学概論(4) 経済史 B(2) 近代欧米経済史 A(2) インドの宗教 A(2) 近代欧米経済史 B(2) インドの宗教 B(2) 博物館資料論(2) 博物館概論(2) 博物館展示論(2) 博物館実習 I(2) 博物館実習 II(1)	アメリカ思想史(2) 宗教とは何か A(2) 宗教とは何か B(2) 社会・地歴指導法 I(2) 教職実践演習(中・高)(2) 社会・地歴指導法 II(2) 社会・公民指導法 I(2) 社会・公民指導法 II(2) 政治学原論 A(2) 政治学原論 B(2) 現代思想論(4) 社会科教育論(2)		
他学部他学科 開放科目 (専門開放科目)	科目は別表に記載				

- 備考 1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。  
 2. ( ) は該当科目の単位数。  
 3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目については履修することができる。  
 4. 「社会科教育論」「社会・地歴指導法 I」「社会・地歴指導法 II」「社会・公民指導法 I」「社会・公民指導法 II」「教職実践演習(中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。  
 5. 4年次の「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の卒業見込みの学生に限る。



2013 年度入学生用 文学部第 1 部史学科 教育課程表 (専門科目) 西洋史学専攻コース

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年		
専 門 科 目  70 単 位 以 上	26 単 位 以 上 必 修 科 目	歴 史 学 基 礎 演 習(2)	西 洋 史 史 料 研 究(4)	史 学 概 論 (4) 西 洋 史 学 卒 論 演 習(2) 西 洋 史 学 演 習(2) 西 洋 史 学 演 習(2) 西 洋 史 学 演 習(2)	卒 業 論 文 (6) 西 洋 史 学 卒 論 演 習(2)	
	20 単 位 以 上 選 択 必 修 科 目	西 洋 史 概 説(4) 日 本 史 概 説(4) 東 洋 史 概 説(4) 2 科 目 8 単 位 以 上 選 択 必 修	西 洋 史 学 特 講(4) 西 洋 史 学 特 講(4) 西 洋 史 学 特 講(4)	日 本 史 学 特 講(4) 日 本 史 学 特 講(4) 日 本 史 学 特 講(4)	東 洋 史 学 特 講(4) 東 洋 史 学 特 講(4) 東 洋 史 学 特 講(4)	3 科 目 12 単 位 以 上 選 択 必 修
	選 択 科 目 24 単 位 以 上		日 本 史 学 演 習(2) 東 洋 史 学 演 習(2) 考 古 学 研 究(4) 日 本 民 俗 学 A(2) 王 朝 文 化 論 A(2) 室 町 文 化 論 A(2) 日 本 仏 教 の あ ゆ み A(2) 中 国 仏 教 の あ ゆ み A(2) 日 本 民 俗 学 B(2) 王 朝 文 化 論 B(2) 室 町 文 化 論 B(2) 日 本 仏 教 の あ ゆ み B(2) 中 国 仏 教 の あ ゆ み B(2) ラ テ ン 語 (2) ギ リ シ ア 語 (2) 古 文 書 学 I (4) 古 文 書 学 II (4)	法 制 史 (西 洋) A(2) 法 制 史 (西 洋) B(2) 倫 理 学 概 論(4)		
教 職 科 目		古 代 日 本 文 学 史 A(2) 中 世 日 本 文 学 史 A(2) 古 代 日 本 文 学 史 B(2) 中 世 日 本 文 学 史 B(2) 近 世 日 本 文 学 史 A(2) 近 現 代 日 本 文 学 史 A(2) 近 世 日 本 文 学 史 B(2) 近 現 代 日 本 文 学 史 B(2) 人 文 地 理 学 A(2) 自 然 地 理 学 A(2) 人 文 地 理 学 B(2) 自 然 地 理 学 B(2) 地 誌 学 A(2) 地 誌 学 B(2) 法 制 史 (日 本) A(2) 法 制 史 (東 洋) A(2) 法 制 史 (日 本) B(2) 法 制 史 (東 洋) B(2) 西 洋 哲 学 史 概 説 I (4) 経 済 史 A(2) 西 洋 哲 学 史 概 説 II (4) 哲 学 概 論 (4) 経 済 史 B(2) 近 代 欧 米 経 済 史 A(2) イ ン ド の 宗 教 A(2) 近 代 欧 米 経 済 史 B(2) イ ン ド の 宗 教 B(2) 博 物 館 資 料 論(2) 博 物 館 概 論(2) 博 物 館 展 示 論(2) 博 物 館 実 習 I (2) 博 物 館 実 習 II (1)				
		ア メ リ カ 思 想 史(2) 宗 教 と は 何 か A(2) 宗 教 と は 何 か B(2) 日 本 史 A(2) 外 国 史 A(2) 社 会 ・ 地 歴 指 導 法 I (2) 教 職 実 践 演 習 (中 ・ 高) (2) 日 本 史 B(2) 外 国 史 B(2) 社 会 ・ 地 歴 指 導 法 II (2) 政 治 学 原 論 A(2) 社 会 ・ 公 民 指 導 法 I (2) 政 治 学 原 論 B(2) 社 会 ・ 公 民 指 導 法 II (2) 現 代 思 想 論(4) 社 会 科 教 育 論(2)				
他 学 部 他 学 科 開 放 科 目 (専 門 開 放 科 目)	科 目 は 別 表 に 記 載					

- 備考 1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。  
 2. ( ) は該当科目の単位数。  
 3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目については履修することができる。  
 4. 「社会科教育論」「社会・地歴指導法 I」「社会・地歴指導法 II」「社会・公民指導法 I」「社会・公民指導法 II」「教職実践演習 (中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。  
 5. 4 年次の「卒業論文」の履修登録は、3 年次終了時点で未修得単位数が 48 単位以下の卒業見込みの学生に限る。

## 外国人留学生の共通総合科目・国際コミュニケーション科目の履修について

外国人留学生に対しては、日本理解の助けとなる「日本事情」「日本語」の科目が共通総合科目と国際コミュニケーション科目にそれぞれ開設されている。

共通総合科目の「日本事情ⅠA」「日本事情ⅠB」「日本事情ⅡA」「日本事情ⅡB」「日本事情ⅢA」「日本事情ⅢB」、国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA」「日本語ⅠAB」「日本語ⅠBA」「日本語ⅠBB」は必修、「日本語と日本社会A」「日本語と日本社会B」「日本語と日本文化A」「日本語と日本文化B」は選択必修となっている。

原則として1・2年次で履修かつ修得すること。

教育課程表（共通総合科目・文学部共通科目）を参照して間違いのないように登録すること。

### 〈第1部外国人留学生用科目一覧〉

区分	科目	単位	履修年次	区分
共通総合科目	日本事情ⅠA（自然・環境・生命）	2	1～4	必修
	日本事情ⅠB（自然・環境・生命）	2		
	日本事情ⅡA（歴史・文化）	2		
	日本事情ⅡB（歴史・文化）	2		
	日本事情ⅢA（現代・社会）	2		
	日本事情ⅢB（現代・社会）	2		
国際コミュニケーション科目	日本語ⅠAA	1	1	必修
	日本語ⅠAB	1		
	日本語ⅠBA	1		
	日本語ⅠBB	1		
	日本語と日本社会A	2	2	「日本語と日本社会A・B」、 「日本語と日本文化A・B」のうち どちらか一方の組合せ選択必修
	日本語と日本社会B	2		
	日本語と日本文化A	2		
	日本語と日本文化B	2		

※国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA・ⅠAB」「日本語ⅠBA・ⅠBB」「日本語と日本社会A・B」「日本語と日本文化A・B」は通年履修を原則とする。A・Bセットで履修すること。



# 第 1 部 教 育 学 科

## 明日のための教育学 ―ともに学び、ともに育つ―

教育学とは、人間が学び、生涯にわたって「よりよく生きる」ことを支える学問です。学校教育や特別支援教育、社会教育などの研究領域で、「人間にとって学びとは何か」「発達とは何か」「学びや発達をどう支えるか」など、さまざまな問いが立てられ、研究が進められています。

東洋大学文学部教育学科は、これまで「人間の発達」を生涯にわたるものとしてとらえ、人々の豊かな暮らしや住みよい社会の実現に貢献する学生を育ててきました。そして、現在は現代社会が抱える諸問題の解決に他者と協働しながら創造的に取り組むことのできる21世紀のリーダーを送り出すため、「人間発達専攻」と「初等教育専攻」の2専攻体制で、より広範で充実した教育の実現をめざしています。

「人間発達専攻」では、「人間の発達」を総合的にとらえ、人間の発達と社会の発展に貢献できる力量の獲得をめざし、「生涯にわたる教育」のあり方を追究します。

「初等教育専攻」では、急激に変化する環境のなかで成長・発達する子どもについて深く理解する力と豊かな人間性を備えた小学校教員の養成をめざします。

こうした考えのもと、両専攻では、次のような目標を設定し、カリキュラムを用意しました。

### I. 人間発達専攻

#### 1. 課題を主体的に解決するための「生涯学習基礎力」

「人間の発達」を、直線的な心身の成長だけではなく、生涯にわたる人間の変化そのものとしてとらえ、研究の対象とする。人や社会、文化に対する理解を深め、現代社会が直面する課題を主体的に解決する力を身につける。一元的な考え方にとらわれない開かれた感覚と知性、つまり「生涯学習基礎力」の獲得をめざす。

#### 2. 5つの領域に対応する専門的力量

- (1) 教育の基礎
- (2) 心理学と発達臨床
- (3) 社会教育
- (4) 学校教育
- (5) 特別支援教育

### II. 初等教育専攻

#### 1. 確かな授業力

各教科の指導法や教材研究の力量、「音楽」や「図画工作」など芸術系教科の実践的指導力、観察実験などを通じた理系教科の指導力を身につける。

#### 2. 国際化への対応と外国語の指導力

多文化共生社会への理解を深めるとともに、児童を対象とした英語の指導力を養う。

#### 3. 特別なニーズをもつ子どもたちへの支援とそのための専門的力量

#### 4. 学校・地域・家庭の協力や連携を進めるコーディネート力

## 教育学科人間発達専攻 3つのポリシー

### ◎アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

人間発達専攻では、学士課程教育を行うにあたり、次のような学生を受け入れることとする。

- (1) 現代社会が直面する課題の解決に自ら取り組もうとする主体性と学習意欲をもつ学生。
- (2) 人間と社会について深い洞察力を持ち、思考力と表現力に富む学生。
- (3) 人間の成長・発達に深い関心を持ち、将来教え育てる実践を通して社会に貢献する意欲のある学生。

なお、教員を志望する場合には次のことが特に求められる。

- ①教員には広範な知識と教養、人間性が求められるため、教科の学習だけでなく、社会的活動、文化・芸術活動などにも積極的に取り組むこと。
- ②国語、特に現代国語において、論説文などの論理的文章を十分に理解するとともに、自らの考えを論理的に表現できるようにしていくこと。
- ③政治、経済など、現代の広範な地球規模の社会事象について、歴史的観点を含めて、関心を持ち、基礎的な知識を獲得しておくこと。

### ◎カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

人間発達専攻では、次の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

- (1) 初年次教育の充実を図るため、少人数の「教育学入門ゼミナール」「教職総合ゼミナール」を必修とする。
- (2) 学生が主体的に学ぶ力量を育てるため、すべての学生に少人数教育の機会を保障し、4年間にわたってゼミナールを必修とする。
- (3) 教育という営みを総合的にとらえるため、「教育の基礎」「心理学と発達臨床」「社会教育」「学校教育」「特別支援教育」の5領域を設定し、各領域の理論的・実践的課題について、基礎的知識の獲得と発展的研究をおこなう。
- (4) すべての学生に卒業論文執筆を課し、これをもって学士課程修了に十分な能力を獲得したかどうかの指針とする。

### ◎ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

人間発達専攻では、人間の発達を総合的にとらえ、社会の発展に貢献できる力量の形成をもって学位授与の基本方針とする。具体的には、現代社会の課題を主体的に解決するための「生涯学習基礎力」、さらに「教育の基礎」「心理学と発達臨床」「社会教育」「学校教育」「特別支援教育」の各領域にかかわる専門的力量的獲得をめざす。

## 教育学科初等教育専攻 3つのポリシー

### ◎アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

初等教育専攻では、学士課程教育を行うにあたり、次のような学生を受け入れることとする。

- (1) 現代社会が直面する課題の解決に自ら取り組もうとする主体性と学習意欲をもつ学生。
- (2) 人間と社会について深い洞察力を持ち、思考力と表現力に富む学生。
- (3) 人間の成長・発達に深い関心を持ち、将来教育育てる実践を通して社会に貢献する意欲のある学生。

特に、小学校教員を志望するのであるから、次の諸点に留意して常日頃学んでいること。

- ①小学校教員として指導することを前提に、すべての教科についての基礎的知識を十分に習得しておくこと。
- ②小学校教員にも専門性（得意分野）が求められているので、得意な教科については発展的な学習を心がけること。
- ③教員には広範な知識と教養、人間性が求められるため、教科の学習だけでなく、社会的活動、文化・芸術活動などにも積極的に取り組むこと。
- ④国語、特に現代国語において、論説文などの論理的文章を十分に理解するとともに、自らの考えを論理的に表現できるようにしておくこと。
- ⑤政治・経済など、現代の地球規模の社会諸事象について、歴史的観点を含めて、関心を持ち、基礎的知識を獲得しておくこと。
- ⑥外国語活動の指導を行うことを踏まえ、英語に興味・関心を持ち、英語を用いた積極的なコミュニケーション能力の習得に努めること。

### ◎カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

初等教育専攻では、次の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

- (1) 初年次教育の充実を図るため、少人数の「教育学入門ゼミナール」「教職総合ゼミナール」を必修とする。
- (2) 学生が主体的に学ぶ力量を育てるため、すべての学生に少人数教育の機会を保障し、4年間にわたってゼミナールを必修とする。
- (3) 教育を総合的にとらえるため、「教育の基礎」「心理学と発達臨床」「社会教育」「学校教育」「特別支援教育」の5領域を設定し、各領域の理論的・実践的課題について、基礎的知識の獲得と発展的研究をおこなう。
- (4) 実践的指導力を育てるため、実習協力校での学習と大学での学習とを結びつけた「往還型教育実習」を実施する。
- (5) すべての学生に卒業論文執筆を課し、これをもって学士課程修了に十分な能力を獲得したかどうかの指針とする。

### ◎ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

初等教育専攻では、人間の発達と社会の発展に貢献できる力量、小学校教員として求められる力量の形成をもって学位授与の基本方針とする。とりわけ、①確かな授業力、②国際化社会で求められる広い視野と指導力、③特別なニーズをもつ子どもの支援にかかわる知識や技術、④地域や家庭との連携に必要な力量、を重視する。

科目区分		文学部 第1部 教育学科人間発達専攻 卒業要件
共通総合科目 16単位以上	哲 学 ・ 思 想	16単位以上
	自 然 ・ 環 境 ・ 生 命	
	歴 史 ・ 文 化	
	現 代 ・ 社 会	
	ス ポ ー ツ ・ 健 康	
	情 報 教 育	
	総 合	
	社 会 人 基 礎 力 科 目	
	留 学 支 援 科 目	
文学部共通科目 16単位以上	文 学 部 教 育	12単位以上  ※国際コミュニケーション科目12単位を含む、 合計16単位以上
	文学部基礎専門科目	
	国際コミュニケーション科目	
	諸 資 格 関 連 科 目	
	キ ャ リ ア 教 育	
専門科目 74単位以上	必 修 科 目	32単位
	選 択 科 目	42単位以上
教 職 科 目		
他学部他学科開放科目（専門開放科目）		
卒 業 必 要 単 位 数 合 計		124単位

科目区分		文学部 第1部 教育学科初等教育専攻 卒業要件
共通総合科目 16単位以上	哲学・思想	16単位以上
	自然・環境・生命	
	歴史・文化	
	現代・社会	
	スポーツ・健康	
	情報教育	
	総合	
	社会人基礎力科目	
	留学支援科目	
文学部共通科目 16単位以上	文学部教育	12単位以上  ※国際コミュニケーション科目12単位を含む、 合計16単位以上
	文学部基礎専門科目	
	国際コミュニケーション科目	
	諸資格関連科目	
	キャリア教育	
専門科目 82単位以上	必修科目	48単位
	選択必修科目	14単位以上
	選択科目	16単位以上
	※初等教育共通科目36単位以上	
教職科目		
他学部他学科開放科目(専門開放科目)		
卒業必要単位数合計		124単位



## 第1部教育学科

### 共通総合科目

哲学・思想  
自然・環境・生命  
歴史・文化  
現代・社会  
スポーツ・健康  
情報教育  
総合  
社会人基礎力科目  
留学支援科目

共通総合科目は、卒業までに16単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、16単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

- ①スポーツ・健康科目の授業は、東洋大学総合スポーツセンター（板橋区清水町）で開講されます。
- ②「スポーツ健康科学実技」および「スポーツ健康科学演習」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があるため、詳細については『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください。

留学支援科目は、共通総合科目の枠内であるが、16単位の卒業要件には入らない。ただし、卒業単位には算入される。

※「自然科学演習A・B」は、2年次以上でかつ講義科目または実験講義科目を合計8単位以上修得していなければ、履修することができない。

#### 初等

初等教育専攻において、下表の左欄の科目は、右欄の教育学科専門科目と対応している。なお、履修を希望する者は、教育学科履修ガイダンスにて詳細を説明するので、参加すること。

共通総合科目名	教育学科専門科目名
物理学実験講義A(2)	科学実験講義A 1コース(2)
数理・情報実習講義A(2)	科学実験講義A 2コース(2)
化学実験講義A(2)	科学実験講義B(2)
生物学実験講義A(2)	科学実験講義C(2)
地球科学実習講義A(2)	科学実験講義D 1コース(2)
天文学実習講義A(2)	科学実験講義D 2コース(2)

### 文学部共通科目

文学部教育  
文学部基礎専門科目  
国際コミュニケーション科目  
諸資格関連科目  
キャリア教育

文学部共通科目は、卒業までに国際コミュニケーション科目12単位の卒業要件を充たし、合計16単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、卒業要件を充たし、16単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

文学部基礎専門科目

人間 初等

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

サンスクリット文献を読むⅠA(2)	中国仏教のあゆみA(2)
サンスクリット文献を読むⅠB(2)	中国仏教のあゆみB(2)
サンスクリット文献を読むⅡA(2)	Verbal and Nonverbal Communication A(2) (言語・非言語コミュニケーションA)
サンスクリット文献を読むⅡB(2)	Verbal and Nonverbal Communication B(2) (言語・非言語コミュニケーションB)
チベット文献を読むA(2)	Philosophy of Language A(2) (言語論A)
チベット文献を読むB(2)	Philosophy of Language B(2) (言語論B)
パーリ文献を読むA(2)	Comparative Culture Studies A(2) (比較文化論A)
パーリ文献を読むB(2)	Comparative Culture Studies B(2) (比較文化論B)
ヒンディー文献を読むA(2)	
ヒンディー文献を読むB(2)	
インド仏教のあゆみA(2)	
インド仏教のあゆみB(2)	
日本仏教のあゆみA(2)	
日本仏教のあゆみB(2)	

◇隔年開講科目

下記科目は、隔年にて開講となる。

履修を希望する場合は、開講年度に注意すること。

サンスクリット文献を読むⅡA(2)	古代インドの社会(2)
サンスクリット文献を読むⅡB(2)	インドの芸能(2)
チベット文献を読むA(2)	インド・仏教の美術(2)
チベット文献を読むB(2)	華嚴の思想(2)
パーリ文献を読むA(2)	念仏の思想(2)
パーリ文献を読むB(2)	インドの風土と文化(2)
現代のインド(2)	密教の思想(2)
インド現代思想(2)	天台の思想(2)
チベット仏教のあゆみ(2)	禅の思想(2)

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

日本の伝統芸能A(2)	韓国文化事情A(2)
日本の伝統芸能B(2)	韓国文化事情B(2)

国際コミュニケーション科目

人間 初等

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

Communicative English A(2)
Communicative English B(2)

教職に関する科目の読替

人間

下表の左欄の教育学科専門科目は、履修かつ修得した後、右欄の教職に関する科目に読み替えることができ、卒業単位としても認められる。

ただし、下表の右欄の教職に関する科目を履修かつ修得しても、左欄の教育学科専門科目に読み替えることはできない。また、卒業単位としても認められない。

教育学科の専門科目 (卒業単位に認められる)	単位数	読替となる教職に関する科目 (卒業単位に認められない)	単位数
学校教育社会学	2	教育基礎論Ⅱ	2
道徳教育論	2	道徳教育の研究	2
特別活動の理論と方法	2	特別活動の研究	2
教育方法論 (情報機器及び教材の活用を含む)	2	教育方法研究 (情報機器の活用を含む)	2
教育評価論	2	教育評価	2
生徒指導研究 (進路指導論を含む)	2	生徒指導論 (進路指導論を含む)	2
教育相談の理論と方法	2	教育相談	2

教 職 科 目

人間

教育学科教育課程表にある教職科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

教職科目は、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することができる。

他学部他学科開放科目(専門開放科目)

人間 初等

別(P.134)に定める他学部他学科開放科目(専門開放科目)を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

キャリア教育

人間 初等

専門科目

人間 初等

必修科目

人間 初等

選択必修科目

初等

選択科目

人間 初等

◇語学セミナー

本学では、「東洋大学語学セミナー（英語・中国語）」を実施している。このセミナーに参加し、条件を充たすことにより国際コミュニケーション科目の1科目の単位を認定する。単位認定対象科目は以下の通りである。

「英語ⅠA」「英語ⅠB」「英語ⅡA」「英語ⅡB」

「中国語ⅠA」「中国語ⅠB」「中国語ⅡA」「中国語ⅡB」

※セミナーの詳細は、「V 留学制度について」(P.248)を参照すること。

インターンシップ・ボランティア活動は、文学部が認定する機関で就業体験やボランティア活動を行い、単位認定の条件を充たした場合、単位を認定する。

詳細は、シラバス（講義要項）を参照すること。

教育学科専門科目は、卒業までに人間発達専攻では74単位以上、初等教育専攻では82単位以上を履修かつ修得しなければならない。これらは、各科目区分の卒業要件を充たさなければならない。また、人間発達専攻では74単位、初等教育専攻では82単位を超過して履修かつ修得した選択必修科目と選択科目の単位数も、卒業単位として算入する。

必修科目に設置されている全ての科目の単位を履修かつ修得しなければならない。

なお、卒業論文は必修である。ただし、4年次の卒業論文の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の卒業見込みの学生に限る。

初等教育共通科目における選択必修科目は、9科目の中から7科目以上を選択して、合計14単位以上を履修かつ修得しなければならない。

選択科目は、人間発達専攻は42単位以上、初等教育専攻は16単位以上を履修かつ修得しなければならない。

選択科目の科目群は、将来の進路選択に関連づけて科目を選びやすいように分類してある。教育職員免許状取得希望者は、「教職課程を学ぶにあたって」(P.198)、社会教育主事資格取得希望者は、「諸資格」(P.237)を参照すること。

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

教育と倫理(2)

## 自 由 科 目

人間

初等

教育学科教育課程表にない科目で、かつ、前項の他学部他学科開放科目（専門開放科目）として提示されていない科目の履修を希望する場合は、履修する学部学科の配当学年に従い、担当教員の許可を得て、卒業単位にならない自由科目として履修することができる。ただし、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することはできない。なお、以下の科目も履修できないので注意すること。

1. カリキュラム年度の異なる科目
2. 第2部開講の科目
3. 所属する学部学科の科目と同一名称の科目

◇文学部第1部・第2部相互聴講実施要領

第1部教育学科と第2部教育学科の両方で、同一年度で開講されている下表の科目についてのみ、相互聴講を認める。

履修条件は、以下の通りである。

- (1) 卒業までに30単位を超えて履修かつ修得することはできない。
- (2) 第2部教育学科教育課程表の学年配当にしたがって履修しなければならない。
- (3) 年間履修最高単位数(48単位)に算入する。
- (4) 履修かつ修得した単位は、専門科目として、卒業単位に算入する。
- (5) 履修方法  
第2部開講科目の履修を希望する場合は、第1部の科目と同様に、履修登録をすること。
- (6) 対象科目

心理学概論 A(2)	特別支援教育概論Ⅱ(2)	社会教育課題研究Ⅰ(2)
心理学概論 B(2)		社会教育課題研究Ⅱ(2)
社会文化史(日本)(2)		社会教育計画論Ⅰ(2)
社会文化史(西洋)(2)		社会教育計画論Ⅱ(2)
文化地誌学(2)		視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)(2)
比較社会論(2)		家庭教育論(2)
アメリカ思想史(2)		女性問題と学習(2)
		情報化と社会教育(2)



2013 年度入学生用 文学部第 1 部教育学科 教育課程表 (共通総合科目)

区 分		第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年			
共通総合科目	16 単位以上	教養科目	哲学・思想	哲学 A(2) 哲学 B(2) 科学思想史 A(2) 科学思想史 B(2) 宗教学Ⅱ A(2) 宗教学Ⅱ B(2) 地域文化研究Ⅲ A(2) 地域文化研究Ⅲ B(2)	哲学史 A(2) 哲学史 B(2) 美術史 A(2) 美術史 B(2) 地球倫理 A(2) 地球倫理 B(2) 論理学 A(2) 論理学 B(2)	倫理学基礎論 A(2) 倫理学基礎論 B(2) 音楽学 A(2) 音楽学 B(2) 地域文化研究Ⅰ A(2) 地域文化研究Ⅰ B(2)	応用倫理学 A(2) 応用倫理学 B(2) 宗教学Ⅰ A(2) 宗教学Ⅰ B(2) 地域文化研究Ⅱ A(2) 地域文化研究Ⅱ B(2)	
			自然・環境・生命	自然の数理 A(2) 自然の数理 B(2) 環境の科学 A(2) 環境の科学 B(2) 自然科学概論 A(2) 自然科学概論 B(2) 化学実験講義 A(2) 化学実験講義 B(2) 日本事情Ⅰ A(2) (留学生用)	生活と物理 A(2) 生活と物理 B(2) 地球の科学 A(2) 地球の科学 B(2) 自然誌 A(2) 自然誌 B(2) 地球科学実習講義 A(2) 地球科学実習講義 B(2) 日本事情Ⅰ B(2) (留学生用)	エネルギーの科学 A(2) エネルギーの科学 B(2) 生物学 A(2) 生物学 B(2) 物理学実験講義 A(2) 物理学実験講義 B(2) 数理・情報実習講義 A(2) 数理・情報実習講義 B(2)	物質の科学 A(2) 物質の科学 B(2) 天文学 A(2) 天文学 B(2) 生物学実験講義 A(2) 生物学実験講義 B(2) 天文学実習講義 A(2) 天文学実習講義 B(2)	
			歴史・文化	国際教育論 A(2) 国際教育論 B(2) 日本文学文化と風土 A(2) 日本文学文化と風土 B(2) 地域史(日本) A(2) 地域史(日本) B(2) 日本事情Ⅱ A(2) (留学生用)	多文化共生論 A(2) 多文化共生論 B(2) 日本の詩歌 A(2) 日本の詩歌 B(2) 地域史(東洋) A(2) 地域史(東洋) B(2) 日本事情Ⅱ B(2) (留学生用)	百人一首の文化史 A(2) 百人一首の文化史 B(2) 西欧文学 A(2) 西欧文学 B(2) 地域史(西洋) A(2) 地域史(西洋) B(2)	日本の昔話 A(2) 日本の昔話 B(2) 現代日本文学 A(2) 現代日本文学 B(2) 歴史の諸問題 A(2) 歴史の諸問題 B(2)	
			現代・社会	経済学 A(2) 経済学 B(2) 政治学 A(2) 政治学 B(2) 国際比較論 A(2) 国際比較論 B(2) 日本事情Ⅲ A(2) (留学生用)	統計学 A(2) 統計学 B(2) 社会学 A(2) 社会学 B(2) 心理学 A(2) 心理学 B(2) 日本事情Ⅲ B(2) (留学生用)	法学 A(2) 法学 B(2) 人類学 A(2) 人類学 B(2) ベーシック・マーケティングⅡ 流通入門Ⅱ	日本国憲法Ⅱ 地理学 A(2) 地理学 B(2) 基礎会計Ⅱ 企業会計Ⅱ	
			スポーツ・健康	スポーツ健康科学実技Ⅰ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅰ B(1) スポーツ健康科学講義Ⅰ(2) スポーツ健康科学演習Ⅰ(2)	スポーツ健康科学実技Ⅱ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅱ B(1) スポーツ健康科学講義Ⅱ A(2) スポーツ健康科学講義Ⅱ B(2)	スポーツ健康科学実技Ⅲ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅲ B(1)	スポーツ健康科学実技Ⅲ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅲ B(1)	
			情報教育	情報化社会と人間Ⅱ	情報倫理Ⅱ	コンピュータ・リテラシーⅡ		
			総合	総合Ⅰ A(2) 総合Ⅰ B(2) 総合Ⅴ A(2) 総合Ⅴ B(2) 総合Ⅸ A(2) 総合Ⅸ B(2)	総合Ⅱ A(2) 総合Ⅱ B(2) 総合Ⅵ A(2) 総合Ⅵ B(2) 全学総合Ⅰ A(2) 全学総合Ⅰ B(2)	総合Ⅲ A(2) 総合Ⅲ B(2) 総合Ⅶ A(2) 総合Ⅶ B(2) 全学総合Ⅱ A(2) 全学総合Ⅱ B(2)	総合Ⅳ A(2) 総合Ⅳ B(2) 総合Ⅷ A(2) 総合Ⅷ B(2)	
			社会人基礎力科目	社会人基礎力入門講義Ⅱ 社会人基礎力実践講義Ⅱ キャリアアデバロップメント論 A(2) キャリアアデバロップメント論 B(2)	企業のしくみⅡ 公務員論Ⅱ	社会人貢献活動入門Ⅱ 企業家論Ⅱ		
			留学支援科目	英語特別教育科目	Special Course in Advanced TOEFLⅠ(4) Special Course in Advanced TOEFLⅡ(4)			
				日本語科目	(協定校並びに ISEP 加盟大学等からの留学生に対する日本語・日本文化科目)			
		Integrated JapaneseⅠ(5) Integrated JapaneseⅡ(5) Project WorkⅠ(1) Project WorkⅡ(1)	Japanese Reading and CompositionⅠ(2) Japanese Reading and CompositionⅡ(2) Japanese Listening ComprehensionⅠ(1) Japanese Listening ComprehensionⅡ(1)	Kanji LiteracyⅠ(1) Kanji LiteracyⅡ(1) Japanese CultureⅠ(1) Japanese CultureⅡ(1)				

2013年度入学生用 文学部第1部教育学科(人間発達専攻・初等教育専攻) 教育課程表(文学部共通科目)

区分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
文学部教育	東洋大学・井上円了研究(2)	伝統文化講座(2)	情報処理演習 A(1)	情報処理演習 B(1)
文学部 基礎 専門 科目	論理学概説(4) 哲学基礎概説(4) サンスクリット文献を読む I A(2) サンスクリット文献を読む I B(2) 日本史概説(4) 東洋史概説(4) 西洋史概説(4)	比較思想(4) 英文学特講 I(4) 英文学特講 II(4) 英文学特講 III(4) 米文学特講 I(4) 米文学特講 II(4) 哲学と科学(4) インドの芸能(2) インド・仏教の美術(2) インドの風土と文化(2) 華厳の思想(2) 密教の思想(2) 中国仏教のあゆみ A(2) 中国仏教のあゆみ B(2) 児童文学 A(2) 児童文学 B(2) チベット文献を読む A(2) チベット文献を読む B(2)	哲学概論(4) 英文学特講 II(4) 米文学特講 II(4) 応用倫理学特論(4) インド文学(2) インドの風土と文化(2) 禅の思想(2) 念仏の思想(2) 日本仏教のあゆみ A(2) 日本仏教のあゆみ B(2) サンスクリット文献を読む II A(2) サンスクリット文献を読む II B(2) パーリ文献を読む A(2) パーリ文献を読む B(2)	哲学と宗教思想(4) 古代インドの社会(2) 天台の思想(2) チベット仏教のあゆみ(2) 現代のインド(2) インド仏教のあゆみ A(2) インド仏教のあゆみ B(2) インド現代思想(2) ヒンディー文献を読む A(2) ヒンディー文献を読む B(2)
	中国学概論(4) 中国文献学概論(4) 中国文化史概説(4) 比較文学文化概説 A(2) 比較文学文化概説 B(2)	倫理学概論(4) 中国哲学史概説(4) 中国現代文学史概説(4) イギリスの文化と思想(4)	中国文学史概説(4) 日本漢学(4) アメリカの文化と思想(4)	
	英語圏文学文化と日本 A(2) 英語圏文学文化と日本 B(2) フランス語圏文学文化と日本 A(2) フランス語圏文学文化と日本 B(2)	ドイツ語圏文学文化と日本 A(2) ドイツ語圏文学文化と日本 B(2) 中国文学文化と日本 A(2) 中国文学文化と日本 B(2)		
	日本の伝統行事 A(2) 日本の伝統行事 B(2) Verbal and Nonverbal Communication A(2) (言語・非言語コミュニケーション A) Verbal and Nonverbal Communication B(2) (言語・非言語コミュニケーション B)	日本の伝統芸能 A(2) 日本の伝統芸能 B(2) Philosophy of Language A(2) (言語論 A) Philosophy of Language B(2) (言語論 B)	日本の美術 A(2) 日本の美術 B(2) Comparative Culture Studies A(2) (比較文化論 A) Comparative Culture Studies B(2) (比較文化論 B)	韓国文化事情 A(2) 韓国文化事情 B(2)
	検定英語(4) Practical Writing (2)	Communicative English A(2)	Communicative English B(2)	
	英語 8単位以上	英語 I A(2) 英語 I B(2) 4単位必修	英語 II A(2) 英語 II B(2) 4単位必修	英語 III A(2) 英語 III B(2)
	ドイツ語	ドイツ語 I A(2) ドイツ語 I B(2)	ドイツ語 II A(2) ドイツ語 II B(2)	ドイツ語 III A(2) ドイツ語 III B(2)
	フランス語	フランス語 I A(2) フランス語 I B(2)	フランス語 II A(2) フランス語 II B(2)	フランス語 III A(2) フランス語 III B(2)
	中国語	中国語 I A(2) 中国語 I B(2) 1カ国語4単位選択必修	中国語 II A(2) 中国語 II B(2)	中国語 III A(2) 中国語 III B(2)
	日本語(留学生用)	(留学生用) 必修 日本語 I A A(1) 日本語 I A B(1) 日本語 I B A(1) 日本語 I B B(1)	(留学生用) 選択必修 日本語と日本社会 A(2) 日本語と日本社会 B(2) 日本語と日本文化 A(2) 日本語と日本文化 B(2)	※留学生は12単位中、日本語8単位必修。 残り4単位は1年次に英語・ドイツ語・フランス語・中国語の4カ国語より母語以外の1カ国語選択必修。
諸資格 関連 科目	博物館情報・メディア論(2) 博物館概論(2)	博物館教育論(2) 博物館経営論(2) 博物館展示論(2)	博物館資料論(2) 博物館資料保存論(2) 博物館実習 I(2) 博物館実習 II(1)	
	図書館概論(2) 情報サービス論(2) 児童サービス論(2) 図書館制度・経営論(2) 図書館サービス概論(2)	情報サービス演習 A(1) 情報資源組織演習 A(1) 図書館情報資源概論(2) 情報サービス演習 B(1) 情報資源組織演習 B(1) 図書館情報資源特論(2)	情報資源組織論(2) 図書館情報技術論(2) 図書・図書館史(2)	
	学習指導と学校図書館(2) 読書と豊かな人間性(2)	学校経営と学校図書館(2) 情報メディアの活用(2)	学校図書館メディアの構成(2)	
キャリア教育	キャリア支援 I(2) キャリア支援 II(2) インターシップ(2)	教員養成講座 I(2) 教員養成講座 II(2) ボランティア活動(2)		

2013年度入学生用 文学部第1部教育学科 人間発達専攻 教育課程表(専門科目)

区 分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
専 門 科 目 74 単 位 以 上	必修科目 32 単 位	教育学概論(2) 教育心理学概論(2) 生涯学習概論Ⅰ(2) 教職論(2) 生涯発達心理学(2) 特別支援教育概論Ⅰ(2)	教育学ゼミナールⅡ(4)	教育学卒論ゼミナール(2) 卒業論文(6)	
		教育学入門ゼミナール(2) 教職総合ゼミナール(2)			教育学ゼミナールⅠ(4)
	選択科目 42 単 位 以 上	基礎 教育の 心理学と 発達臨床	教育の現代的課題(2) 学校教育社会学(2) 比較社会論(2) 教育と倫理(2) 社会文化史(日本)(2) アメリカ思想史(2) 比較政策論(2) 社会文化史(西洋)(2) 文化地誌学(2)		
			家族心理学(2) 教育相談の理論と方法(2) 心理学概論A(2) カウンセリングの理論と実際(2) 心理学概論B(2) 発達障害児・者の心理(2)		
		社会教育	生涯学習概論Ⅱ(2) 社会教育課題研究Ⅰ(2) 女性問題と学習(2) 社会教育課題研究Ⅱ(2) 情報化と社会教育(2) 社会教育計画論Ⅰ(2) 家庭教育論(2) 社会教育計画論Ⅱ(2) 視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)(2)		
			学校教育	授業論(2) 道徳教育論(2) 教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2) 生徒指導研究(進路指導論を含む)(2) 特別活動の理論と方法(2) 教育評価論(2) 児童文化研究(2) 教育課程論(2)	
	特別支援教育	特別支援教育概論Ⅱ(2) 知的障害教育総論(2) 視覚障害教育総論(2) 聴覚障害教育総論(2) 肢体不自由教育総論(2) 病弱児の指導法(2) 知的障害児・者の心理と臨床(2)		特別支援学校教育実習 (事前・事後指導を含む)(4)	
			知的障害教育課程論(2) 病弱児の病理と臨床(2) 肢体不自由教育課程論(2) 肢体不自由児・者の教育臨床(2) 肢体不自由児の指導法(2)		
	教職科目	経済史A(2) 国際公共経済A(2) 民法A(2) 経済史B(2) 国際公共経済B(2) 民法B(2)	近代欧米経済史A(2) 哲学概説A(2) 近代欧米経済史B(2) 哲学概説B(2) 政治学原論A(2) 倫理学概説A(2) 政治学原論B(2) 倫理学概説B(2) 国際法A(2) 国際法B(2)		
		日本史A(2)外国史A(2)人文地理学A(2) 日本史B(2)外国史B(2)人文地理学B(2) 地誌学A(2)自然地理学A(2) 地誌学B(2)自然地理学B(2)		教育実習Ⅰ (事前・事後指導を含む)(5) 教育実習Ⅱ (事前・事後指導を含む)(3) 教職実践演習(中・高)(2)	
他学部他学科開放科目 (専門開放科目)	科目は別表に記載				

- 備考
1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
  2. ( ) 内は該当科目の単位数。
  3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
  4. 4年次の「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の卒業見込みの学生に限る。

2013 年度入学生用 文学部第 1 部教育学科 初等教育専攻 教育課程表（専門科目）

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	
専 門 科 目 82 単 位 以 上	必修科目 30 単位	教育学概論(2) 教育心理学概論(2) 教職概論(2) 生涯学習概論Ⅰ(2) 特別支援教育概論Ⅰ(2)	教育学ゼミナールⅡ(4)	教育学卒論ゼミナール(2) 卒業論文(6)	
		教育学入門ゼミナール(2) 教職総合ゼミナール(2)	教育学ゼミナールⅠ(4)		
	選 択 科 目 16 単 位 以 上	基礎 教育の	教育の現代的課題(2) 教育と倫理(2) 比較政策論(2)	学校教育社会学(2) 社会文化史(日本)(2) 社会文化史(西洋)(2)	比較社会論(2) アメリカ思想史(2) 文化地誌学(2)
		発達 心理学と 臨床	生涯発達心理学(2) 家族心理学(2) 心理学概論A(2) 心理学概論B(2)	教育相談の理論と方法(2) カウンセリングの理論と実際(2) 発達障害児・者の心理(2)	
		社会 教育	生涯学習概論Ⅱ(2) 女性問題と学習(2) 情報化と社会教育(2) 家庭教育論(2) 視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)(2)	社会教育課題研究Ⅰ(2) 社会教育課題研究Ⅱ(2) 社会教育計画論Ⅰ(2) 社会教育計画論Ⅱ(2)	
		学校 教育	授業論(2) 教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2) 特別活動の理論と方法(2) 児童文化研究(2)	道徳教育論(2) 生徒指導研究(進路指導論を含む)(2) 教育評価論(2) 教育課程論(2)	
		特別 支援 教育	特別支援教育概論Ⅱ(2) 知的障害教育総論(2) 肢体不自由教育総論(2)	聴覚障害教育総論(2) 視覚障害教育総論(2)	
	初 等 教 育 共 通 科 目 36 単 位 以 上	18 単 位 必修科目		初等教科教育法(国語)(2) 初等教科教育法(家庭)(2) 初等教科教育法(社会)(2) 初等教科教育法(音楽)(2) 初等教科教育法(算数)(2) 初等教科教育法(図画工作)(2) 初等教科教育法(理科)(2) 初等教科教育法(体育)(2) 初等教科教育法(生活)(2)	
		14 単 位 以上 選 択 必修科目		初等科国語(2) 初等科家庭(2) 初等科社会(2) 初等科音楽(2) 初等科算数(2) 初等科図画工作(2) 初等科理科(2) 初等科体育(2) 初等科生活(2)	
		選 択	小学英語教育法(2) 小学英語特講(2) 小学国語特講(2) 小学算数特講(2) 小学理科特講(2) 小学図工特講(2) 科学実験講義A(2) 科学実験講義C(2) 科学実験講義B(2) 科学実験講義D(2)	初等教育実践研究A(2) 初等教育実践研究B(2)	初等教育実習 (事前・事後指導を含む)(5) 教職実践演習(小学校)(2)
他学部他学科開放科目 (専門開放科目)	科目は別表に記載				

- 備考
1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
  2. ( ) 内は該当科目の単位数。
  3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
  4. 4年次の「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の卒業見込みの学生に限る。
  5. 初等教育共通科目の「選択」科目については、別途、履修のための指導を行う。

## 外国人留学生の共通総合科目・国際コミュニケーション科目の履修について

外国人留学生に対しては、日本理解の助けとなる「日本事情」「日本語」の科目が共通総合科目と国際コミュニケーション科目にそれぞれ開設されている。

共通総合科目の「日本事情ⅠA」「日本事情ⅠB」「日本事情ⅡA」「日本事情ⅡB」「日本事情ⅢA」「日本事情ⅢB」、国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA」「日本語ⅠAB」「日本語ⅠBA」「日本語ⅠBB」は必修、「日本語と日本社会A」「日本語と日本社会B」「日本語と日本文化A」「日本語と日本文化B」は選択必修となっている。

原則として1・2年次で履修かつ修得すること。

教育課程表（共通総合科目・文学部共通科目）を参照して間違いのないように登録すること。

### 〈第1部外国人留学生用科目一覧〉

区分	科 目	単 位	履修年次	区 分
共通 総合 科目	日本事情ⅠA（自然・環境・生命）	2	1～4	必修
	日本事情ⅠB（自然・環境・生命）	2		
	日本事情ⅡA（歴史・文化）	2		
	日本事情ⅡB（歴史・文化）	2		
	日本事情ⅢA（現代・社会）	2		
	日本事情ⅢB（現代・社会）	2		
国際 コミュ ニケー ション 科目	日 本 語 Ⅰ A A	1	1	必修
	日 本 語 Ⅰ A B	1		
	日 本 語 Ⅰ B A	1		
	日 本 語 Ⅰ B B	1		
	日本語と日本社会A	2	2	「日本語と日本社会A・B」、 「日本語と日本文化A・B」のうち どちらか一方の組合せ選択必修
	日本語と日本社会B	2		
	日本語と日本文化A	2		
	日本語と日本文化B	2		

※国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA・ⅠAB」「日本語ⅠBA・ⅠBB」「日本語と日本社会A・B」「日本語と日本文化A・B」は通年履修を原則とする。A・Bセットで履修すること。





# 第1部 英語コミュニケーション学科

## Embark upon a New Journey! 「旅立とう、新しい世界へ」

グローバル化、情報化の時代に入った今日、地球次元の視野から各自の生き方を問うことが求められている。異なった価値観、異なった行動様式の間人同士が理解を深めていくためには、異文化を受容する広い視野と柔軟な判断力、そして国際社会で自由にコミュニケーションができる外国語能力の育成が必要である。そのような時代に「生きる力=問題解決能力」となるのが、世界共通語（Global Language）の地位を確立した英語によるコミュニケーション能力である。日本社会のグローバル化、情報化に必要なスキルとして、このような運用能力を持った人材が強く要望されている。英語コミュニケーション学科の設立目的は、運用型の英語教育・学習を通してこうした社会的要請に応えていくことである。

英語コミュニケーション学科のカリキュラムは、大別して4つの科目群から構成されている。生きた英語運用能力を育成するための4スキルの科目群が、基礎必修科目として1年次から3年次まで用意されている。コミュニケーション・スキルには、自分の考えを論理的に組み立て相手に伝え話す技術だけでなく、異文化を受容する広い視野と柔軟な判断力が含まれる。内容のある正確なコミュニケーションを支える柱として、専門選択必修科目には、コミュニケーション系科目群、英語学系科目群、そして国際文化系科目群が用意されている。

豊かなコミュニケーションの構築、すなわち、人と人を繋ぎ、その輪を広げていくために、本学科は共通総合科目（教養科目）を重視している。アイデンティティの確立を支援し、ものごとを総合的かつクリティカルに眺める目を養うのが教養教育の目的である。わが国固有の歴史や文化の理解に努め、21世紀の日本、世界そして地球を見渡し、グローバルな諸問題を自らの問題として捉え、積極的に社会と関わり行動していく人材育成のために、教養教育の重要性は強調してもし過ぎることはない。そのために本学科は、共通総合科目の哲学・思想および歴史・文化に、多文化共生論、地球倫理、国際教育論の3科目を開講している。また、国際的に活躍し得る人材を育成するために、学生の自主的・自覚的学習として、長期、短期留学（協定校・認定校）、語学研修（協定校・認定機関）そして、各種のボランティア活動や体験学習を卒業単位として認定している。

言語はもともとコミュニケーションの手段である。その言語本来の使命に帰れば、英語学習も、コミュニケーションの手段として「分かること」、「分からせること」を目指さなくてはならない。世界で通用する“good English”を身につけることは無論だが、われわれは、得てしてパーフェクトな英語を求めるあまり、英語という言葉の奴隷になりがちである。言葉は通じることが至上命令ではあるが、しかし内容が伴わない言葉は空しいものである。話す人の教養、人柄、識見が反映されてはじめて言葉は、人と人とを「繋ぐ」全人格的なコミュニケーションの有効手段となることができる。英語でのコミュニケーションを学ぶことは、自分の考え方、感じ方、ものの見方の筋道をより豊かにし、ひいては日本語をも豊かにしてくれるはずである。

英語コミュニケーション学科は、2000年に開設されました。その間、幼木が若木、今では大きな夢のある樹に育ちつつあります。そして、2013年、英語コミュニケーション学科は開設14年目を迎えます。気分一新、新しい旅立ちの年です。

# 英語コミュニケーション学科 3つのポリシー

## ◎アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

英語コミュニケーション学科は、グローバル化・情報化の時代に対応できる有為な人材の輩出を目指し、以下のような人材を望まれる学生像として考えている。

- (1) 地球次元の視野から自身の生き方を問い、世界の諸問題を自らの問題として捉え、積極的に社会と関わり行動していこうとする意欲を有する人。
- (2) 「英語を学ぶ」段階から「英語で学ぶ」方向へと移行し、英語をツールとして使いこなす能力の獲得を真剣に目指し、また、その能力を活用して社会に貢献したいと希望している人。
- (3) 留学、インターンシップ、ボランティア活動等に対する単位認定制度を積極的に活用するなどして、体験学習を通じた実践的英語力およびコミュニケーション能力を身につけたいと考えている人。
- (4) 受身型の学習から脱却し、自学自習力を獲得することで自らの可能性を開いていきたいと希望する自立心に富んだ人。
- (5) プロジェクト遂行型英語教育プログラムを活用するなどして、問題の発見と解決能力、調査能力、企画・立案力、創造力、様々な形態・媒体を通じての発信・表現能力、自主性、責任感、リーダーシップ、協調性などの諸能力や社会性を身につけたいと考えている人。
- (6) 入学までに修得しておくべき知識内容とその水準の1つのイメージとしては、実用英語技能検定2級合格レベル（あるいは、その他の英語資格検定試験の同等レベルのスコア取得）の英語力を身につけていることが望ましいと考えている。入学までに可能な限り英語力の向上に努めてほしい。

## ◎カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

英語コミュニケーション学科では、グローバル化・情報化の時代に対応できる英語力およびコミュニケーション能力の養成を目指すことを方針とし、次のような科目群を柱としたカリキュラムを構築している。まず、「英語運用能力養成科目群」では、主として、英語をツールとした発信能力を養成する科目を提供している。次に、「4技能養成科目群」には、「リーディング系統」、「リスニング・スピーキング系統」、「ライティング系統」の諸科目が含まれる。次に、「専門科目群」には、「コミュニケーション学系統」、「英語学系統」、「国際文化系統」の諸科目が含まれる。

教育内容・方法の特徴としては、以下の点を挙げることができる。

- (1) 「英語運用能力養成科目群」では、日常会話に始まり訓練の進展に伴い討論等が行えるレベルまでを範囲とし、ペアワーク、小グループでのディスカッション、個人あるいはチームの調査に基づくプレゼンテーションと質疑応答、ディベート等の諸活動を取り入れ、学生中心の教育・学習方式（学生が英語をツールとしてコミュニケーション活動を行う機会を出来るだけ多く提供する方式）を採用している。授業は20名程度の少人数クラスで行われる。英語教授法に造詣が深いネイティブ教員が担当し、教室内での使用言語は全て英語である。
- (2) 「4技能養成科目群」では、多読および精読の訓練、発音・聴解の訓練、通訳練習、目的別のライティング練習（一般・テクニカル・論文作成）等が行われる。学問的・理論的解説も含まれるが、中心となるのは「実践」を通して4技能を身につけることである。クラスサイズは30名程度である。ネイティブ教員と日本人教員が担当する。
- (3) 「専門科目群」の「コミュニケーション学系統」は主に英語コミュニケーションの諸相に関する理論と実践論、「英語学系統」は主に言語学・英語学とその周辺領域、「国際文化系統」は主に国際理解、英語圏の文化・文学を内容とする。一部の科目では海外からの留学生と共に学ぶ機会が提供される。授業方式は、講義、演習、ペアワーク、小グループでのディスカッション、個人あるいはチームの調査に基づくプレゼンテーションと質疑応答等々、科目の性格とクラスサイズによって異なる。研究・学習成果を学生が中心となって英語でまとめた冊子を作成したり、ウェブ上で公開し世界に発信したりする科目もある。担当は各専門分野のネイティブ教員と日本人教員である。授業での使用言語は英語、日本語、日英両言語併用のケースがあり、科目の性格によって異なる。
- (4) カリキュラム全体としては、「英語を学ぶ」段階から「英語で学ぶ」方向へと導いていくことが基本方針となっている。
- (5) ISEP や海外協定校への交換留学制度等を利用して長期留学する学生が学内で最も多いことも本学科の特徴であり、本学科が提供するカリキュラム以外に留学先の大学の教育を経験する道もひらかれている。

## ◎ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学・学部・学科の教育目的に沿って設定された授業科目を履修し、基準となる単位数を修得することが、学位授与の必要要件である。グローバル化・情報化の時代に対応できる英語力およびコミュニケーション能力の養成を目指すとの理念の下、「カリキュラム・ポリシー」で示した「英語運用能力養成科目群」と「4技能養成科目群」は、それぞれ学部・学科として必修科目に位置づけたものである。また、「専門科目群」については選択科目として一定以上の単位修得を課している。以上に加え、「共通総合科目」と「文学部共通科目」の必要単位を履修・修得しなければならない。

科目区分		文学部 第1部 英語コミュニケーション学科 卒業要件
共通総合科目 16単位以上	哲 学 ・ 思 想	16単位以上
	自 然 ・ 環 境 ・ 生 命	
	歴 史 ・ 文 化	
	現 代 ・ 社 会	
	ス ポ ー ツ ・ 健 康	
	情 報 教 育	
	総 合	
	社 会 人 基 礎 力 科 目	
	留 学 支 援 科 目	
文学部共通科目 14単位以上	文 学 部 教 育	10単位以上  ※国際コミュニケーション科目10単位を含む、 合計14単位以上
	文学部基礎専門科目	
	国際コミュニケーション科目	
	諸 資 格 関 連 科 目	
	キ ャ リ ア 教 育	
専門科目 82単位以上	必 修 科 目	42単位
	選 択 必 修 科 目	40単位以上
	選 択 科 目	
教 職 科 目		
他 学 部 他 学 科 開 放 科 目		
卒 業 必 要 単 位 数 合 計		124単位

共通総合科目

哲学・思想  
 自然・環境・生命  
 歴史・文化  
 現代・社会  
 スポーツ・健康  
 情報教育  
 総合  
 社会人基礎力科目  
 留学支援科目

共通総合科目は、卒業までに16単位以上を履修かつ修得しなければならない。この16単位のうち、「国際教育論A」、「国際教育論B」、「多文化共生論A」、「多文化共生論B」、「地球倫理A」、「地球倫理B」から2科目4単位を選択し、履修かつ修得することが望ましい。また、16単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

- ①スポーツ・健康科目の授業は、東洋大学総合スポーツセンター（板橋区清水町）で開講されます。
- ②「スポーツ健康科学実技」および「スポーツ健康科学演習」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があるため、詳細については『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください。

留学支援科目は、共通総合科目の枠内であるが、16単位の卒業要件には入らない。ただし、卒業単位には算入される。

※「自然科学演習A・B」は、2年次以上でかつ講義科目または実験講義科目を合計8単位以上修得していなければ、履修することができない。

文学部共通科目

文学部教育  
 文学部基礎専門科目  
 国際コミュニケーション科目  
 諸資格関連科目  
 キャリア教育

文学部共通科目は、卒業までに国際コミュニケーション科目10単位の卒業要件を充たし、合計14単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、卒業要件を充たし、14単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

サンスクリット文献を読むⅠA(2)	ヒンディー文献を読むA(2)
サンスクリット文献を読むⅠB(2)	ヒンディー文献を読むB(2)
サンスクリット文献を読むⅡA(2)	インド仏教のあゆみA(2)
サンスクリット文献を読むⅡB(2)	インド仏教のあゆみB(2)
チベット文献を読むA(2)	日本仏教のあゆみA(2)
チベット文献を読むB(2)	日本仏教のあゆみB(2)
パーリ文献を読むA(2)	中国仏教のあゆみA(2)
パーリ文献を読むB(2)	中国仏教のあゆみB(2)

◇隔年開講科目

下記科目は、隔年にて開講となる。

履修を希望する場合は、開講年度に注意すること。

サンスクリット文献を読むⅡ A(2)	チベット仏教のあゆみ(2)
サンスクリット文献を読むⅡ B(2)	古代インドの社会(2)
チベット文献を読む A(2)	インドの芸能(2)
チベット文献を読む B(2)	インド・仏教の美術(2)
パーリ文献を読む A(2)	華嚴の思想(2)
パーリ文献を読む B(2)	念仏の思想(2)
ヒンディー文献を読む A(2)	インドの風土と文化(2)
ヒンディー文献を読む B(2)	密教の思想(2)
現代のインド(2)	天台の思想(2)
インド現代思想(2)	禅の思想(2)

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

日本の伝統芸能 A(2)	韓国文化事情 A(2)
日本の伝統芸能 B(2)	韓国文化事情 B(2)

国際コミュニケーション科目

英語を10単位、履修かつ修得しなければならない。

下記科目は、クラス分け対象科目なので、自由に履修登録することはできない。

	1年	2年
英語必修	Oral Communication I AA(1) (オーラルコミュニケーション I AA)	Oral Communication II AA(1) (オーラルコミュニケーション II AA)
	Oral Communication I AB(1) (オーラルコミュニケーション I AB)	Oral Communication II AB(1) (オーラルコミュニケーション II AB)
	Oral Communication I BA(1) (オーラルコミュニケーション I BA)	Oral Communication II BA(1) (オーラルコミュニケーション II BA)
	Oral Communication I BB(1) (オーラルコミュニケーション I BB)	Oral Communication II BB(1) (オーラルコミュニケーション II BB)

◇語学セミナー

本学では、「東洋大学語学セミナー（英語・中国語）」を実施している。このセミナーに参加し、条件を充たすことにより、英語コミュニケーション学科開講科目・国際コミュニケーション科目から1科目の単位を認定する。単位認定対象科目は以下の通りである。

「British Culture and Literature B（イギリス文化・文学研究B）」

「American Culture and Literature B（アメリカ文化・文学研究B）」

「Comparative Culture Studies B（比較文化論B）」

「中国語 I A」「中国語 I B」「中国語 II A」「中国語 II B」

※セミナーの詳細は、「V 留学制度について」(P.248)を参照すること。

キャリア教育

インターンシップ・ボランティア活動は、文学部が認定する機関で就業体験やボランティア活動を行い、単位認定の条件を充たした場合、単位を認定する。

詳細は、シラバス（講義要項）を参照すること。



## 専 門 科 目

英語コミュニケーション学科専門科目は、卒業までに**82単位以上**を履修かつ修得しなければならない。この82単位のうち、以下の各科目区分の卒業要件を充たさなければならない。また、各科目区分および専門科目の卒業要件を充たし、**82単位を超過して履修かつ修得した選択必修科目の単位数も、卒業単位として算入する。**

**英語コミュニケーション学科専門科目は、全てA・Bセットで履修すること。**

### 必修科目

必修科目に設置されている**全ての科目の単位**を履修かつ修得しなければならない。1年次および2年次にクラス指定をするので、指定されたクラスを履修すること（ただし、「Research Studies A・B（リサーチスタディーズA・B）」はクラス指定しない）。

なお、卒業論文は必修であるため、1年次から計画を立て研究室等の指示に注意すること。ただし、4年次の卒業論文の履修登録は、**3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の卒業見込みの学生に限る。**

### 選択必修科目

選択必修科目は、3つの科目群からそれぞれ定められた単位数を履修し、**合計40単位以上を修得しなければならない。**

### 単位認定について

#### (1) 認定語学セミナー

認定語学セミナーとは、「東洋大学語学セミナー（英語）」以外の語学セミナーで、英語コミュニケーション学科の認定を得たものをいう。「東洋大学語学セミナー（英語）」と同様の要領で、英語コミュニケーション学科開講科目から1科目の単位を認定する。単位認定科目は以下の通りである。

「British Culture and Literature B（イギリス文化・文学研究B）」

「American Culture and Literature B（アメリカ文化・文学研究B）」

「Comparative Culture Studies B（比較文化論B）」

#### ※単位修得方法

- ① 参加者は、当該年度に単位認定希望科目を履修登録し、その春学期科目Aを履修すること。
- ② 参加者は、セミナー終了後にレポートを提出すること。
- ③ 合格の評価を受けた者は、単位認定する。

## 選択科目

「英語コミュニケーション特別研究」の履修について

英語コミュニケーション学科では、大学院文学研究科英語コミュニケーション専攻博士前期課程の授業について、下記の条件のもとで履修を認める。

- ① 科目の性格・対象学生：大学院文学研究科英語コミュニケーション専攻博士前期課程に設置されている科目と同一科目で、主に大学院進学を希望する4年生及び高度な専門性のある英語コミュニケーション学を望む4年生が対象である。
- ② 履修の範囲・科目：博士前期課程の演習・講義科目を通年で1科目とする。  
「グローバル英語教育」、「英語文学・英語文化」、「英語文法分析演習」、「語用論演習」、「テキスト理論」、「スピーチコミュニケーション」、「英語コミュニケーション教育」、「翻訳・通訳論演習」、「日英対照言語論演習」、「異文化コミュニケーション」
- ③ 履修許可制：履修については所属ゼミの指導教授、及び履修希望科目担当教員の許可を得ること。（時間割・担当者等の詳細については専攻掲示板を参照のこと。）
- ④ 認定単位：通年履修で2単位とする。

## (2) 認定留学

英語コミュニケーション学科では、協定校および ISEP との交換留学制度の他に、本人の出願により、本学科の認定を得た留学を認定留学として認める。交換留学および ISEP と同様、休学することなく本学に在学したまま留学することができる。認定された大学（もしくは大学付属機関）で修得した単位は30単位まで卒業単位として認定を受けることが可能である。

※単位認定、在学年数の取り扱い、履修に関する特別措置（履修継続）等については、本学認定留学制度の規定に準じる。

## (3) 体験学習

学生の自主的、自覚的学習として本学科は各種インターンシップおよびボランティア活動への参加を奨励する。本学科の認定する機関での活動であり、なおかつ単位認定の条件を充たしている場合、実習期間、実習内容により以下の2科目

「Global Understanding I B（国際理解 I B）」

「Global Understanding II B（国際理解 II B）」

のうち1科目、または、以下の3科目

「多文化共生論B」、「地球倫理B」、「国際教育論B」

のうち1科目を単位認定する。

※単位修得方法

- ① 参加者は、当該年度に単位認定希望科目を履修登録し、その春学期科目Aを履修すること。
- ② 参加者は、実習・活動終了後にレポートを提出すること。
- ③ 参加者は、実習・活動終了後に実習・活動先の機関から出される報告書等を本学科に提出すること。

#### (4) 英語検定試験

実用英語検定試験（英検）、TOEIC、TOEFL、TOEFL iBT、ケンブリッジ英検の4つの試験において本学科が定めた級あるいはスコアを取得し、それを証明する書類を提出すれば、以下の基準に基づいて単位認定する。

レベル		A	B	C	D
	認定単位・科目数	1 科目 ( 2 単位)	2 科目 ( 4 単位)	3 科目 ( 6 単位)	4 科目 ( 8 単位)
英語 検 定 試 験 種 類	実用英語技能検定試験	—	準 1 級	1 級	—
	TOEIC	—	600～729点	730～859点	860点～
	TOEFL TOEFL iBT	480～519点 54～67	520～559点 67～82	560～599点 83～99	600点～ 100～
	ケンブリッジ 英検	—	—	FCE	CPE,CAE

以下の認定対象科目群から、その成績（級あるいはスコア）に応じて、(A)は1科目2単位、(B)は2科目4単位、(C)は3科目6単位、(D)は4科目8単位まで、卒業単位として認定する。

(A,B,C,D)

Listening Comprehension Practice B

(英語聴解練習 B) (2 単位)

English Reading Practice I B (英文読解練習 I B) (2 単位)

Oral Composition B (ライティング I B) (2 単位)

(B,C,D)

English for Qualifying Examinations AB

(資格検定英語 A B) (2 単位)

Interpretation Practice B (通訳練習 B) (2 単位)

English Reading Practice II B (英文読解練習 II B) (2 単位)

Technical Writing B (ライティング II B) (2 単位)

(C,D)

English for Qualifying Examinations BB

(資格検定英語 B B) (2 単位)

Speech Communication B

(スピーチコミュニケーション B) (1 単位)

(D)

Research Studies B (リサーチスタディーズ B) (2 単位)

Academic Writing B (ライティング III B) (2 単位)

## 教 職 科 目

※単位修得方法

- ①単位認定希望者は、当該年度に単位認定希望科目を履修登録し、その春学期科目Aを履修すること。
- ②単位認定申請時期（6月及び10月の年2回）や必要書類等の詳細については、すべて学科掲示板の指示に従うこと。

英語コミュニケーション学科教育課程表にある教職科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、**卒業単位として算入する**。

教職科目は、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することができる。

## 他学部他学科開放科目(専門開放科目)

別（P.134）に定める他学部他学科開放科目（専門開放科目）を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、**卒業単位として算入する**。

## 自 由 科 目

英語コミュニケーション学科教育課程表にない科目で、なおかつ、前項の他学部他学科開放科目（専門開放科目）として提示されていない科目の履修を希望する場合は、履修する学部学科の配当学年に従い、担当教員の許可を得て、**卒業単位にならない自由科目**として履修することができる。ただし、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することはできない。なお、以下の科目も履修できないので注意すること。

1. カリキュラム年度の異なる科目
2. 第2部開講の科目
3. 所属する学部学科の科目と同一名称の科目

2013 年度入学生用 文学部第 1 部英語コミュニケーション学科 教育課程表（共通総合科目）

区 分		第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年			
共通総合科目	16 単位以上	教養科目	哲学・思想	哲学 A(2) 哲学 B(2) 科学思想史 A(2) 科学思想史 B(2) 宗教学Ⅱ A(2) 宗教学Ⅱ B(2) 地域文化研究Ⅲ A(2) 地域文化研究Ⅲ B(2)	哲学史 A(2) 哲学史 B(2) 美術史 A(2) 美術史 B(2) 地球倫理 A(2) 地球倫理 B(2) 論理学 A(2) 論理学 B(2)	倫理学基礎論 A(2) 倫理学基礎論 B(2) 音楽学 A(2) 音楽学 B(2) 地域文化研究Ⅰ A(2) 地域文化研究Ⅰ B(2)	応用倫理学 A(2) 応用倫理学 B(2) 宗教学Ⅰ A(2) 宗教学Ⅰ B(2) 地域文化研究Ⅱ A(2) 地域文化研究Ⅱ B(2)	
			自然・環境・生命	自然の数理 A(2) 自然の数理 B(2) 環境の科学 A(2) 環境の科学 B(2) 自然科学概論 A(2) 自然科学概論 B(2) 化学実験講義 A(2) 化学実験講義 B(2) 日本事情Ⅰ A(2) (留学生用)	生活と物理 A(2) 生活と物理 B(2) 地球の科学 A(2) 地球の科学 B(2) 自然誌 A(2) 自然誌 B(2) 地球科学実習講義 A(2) 地球科学実習講義 B(2) 日本事情Ⅰ B(2) (留学生用)	エネルギーの科学 A(2) エネルギーの科学 B(2) 生物学 A(2) 生物学 B(2) 物理学実験講義 A(2) 物理学実験講義 B(2) 数理・情報実習講義 A(2) 数理・情報実習講義 B(2)	物質の科学 A(2) 物質の科学 B(2) 天文学 A(2) 天文学 B(2) 生物学実験講義 A(2) 生物学実験講義 B(2) 天文学実習講義 A(2) 天文学実習講義 B(2)	
			歴史・文化	国際教育論 A(2) 国際教育論 B(2) 日本文学文化と風土 A(2) 日本文学文化と風土 B(2) 地域史(日本) A(2) 地域史(日本) B(2) 日本事情Ⅱ A(2) (留学生用)	多文化共生論 A(2) 多文化共生論 B(2) 日本の詩歌 A(2) 日本の詩歌 B(2) 地域史(東洋) A(2) 地域史(東洋) B(2) 日本事情Ⅱ B(2) (留学生用)	百人一首の文化史 A(2) 百人一首の文化史 B(2) 西欧文学 A(2) 西欧文学 B(2) 地域史(西洋) A(2) 地域史(西洋) B(2)	日本の昔話 A(2) 日本の昔話 B(2) 現代日本文学 A(2) 現代日本文学 B(2) 歴史の諸問題 A(2) 歴史の諸問題 B(2)	
			現代・社会	経済学 A(2) 経済学 B(2) 政治学 A(2) 政治学 B(2) 国際比較論 A(2) 国際比較論 B(2) 日本事情Ⅲ A(2) (留学生用)	統計学 A(2) 統計学 B(2) 社会学 A(2) 社会学 B(2) 心理学 A(2) 心理学 B(2) 日本事情Ⅲ B(2) (留学生用)	法学 A(2) 法学 B(2) 人類学 A(2) 人類学 B(2) ベーシック・マーケティングⅡ 流通入門Ⅱ	日本国憲法Ⅱ 地理学 A(2) 地理学 B(2) 基礎会計学Ⅱ 企業会計Ⅱ	
			スポーツ・健康	スポーツ健康科学実技Ⅰ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅰ B(1) スポーツ健康科学講義Ⅰ(2) スポーツ健康科学演習Ⅰ(2)	スポーツ健康科学実技Ⅱ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅱ B(1) スポーツ健康科学講義Ⅱ A(2) スポーツ健康科学講義Ⅱ B(2)		スポーツ健康科学実技Ⅲ A(1) スポーツ健康科学実技Ⅲ B(1)	
			情報教育	情報化社会と人間Ⅱ	情報倫理Ⅱ	コンピュータ・リテラシーⅡ		
			総合	総合Ⅰ A(2) 総合Ⅰ B(2) 総合Ⅴ A(2) 総合Ⅴ B(2) 総合Ⅸ A(2) 総合Ⅸ B(2)	総合Ⅱ A(2) 総合Ⅱ B(2) 総合Ⅵ A(2) 総合Ⅵ B(2) 全学総合Ⅰ A(2) 全学総合Ⅰ B(2)	総合Ⅲ A(2) 総合Ⅲ B(2) 総合Ⅶ A(2) 総合Ⅶ B(2) 全学総合Ⅱ A(2) 全学総合Ⅱ B(2)	総合Ⅳ A(2) 総合Ⅳ B(2) 総合Ⅷ A(2) 総合Ⅷ B(2)	
			社会人基礎力科目	社会人基礎力入門講義Ⅱ 社会人基礎力実践講義Ⅱ キャリアアデバロップメント論 A(2) キャリアアデバロップメント論 B(2)	企業のしくみⅡ 公務員論Ⅱ	社会人貢献活動入門Ⅱ	企業家論Ⅱ	
			留学支援科目	英語特別教育科目	Special Course in Advanced TOEFLⅠ(4) Special Course in Advanced TOEFLⅡ(4)			
				日本語科目	(協定校並びに ISEP 加盟大学等からの留学生に対する日本語・日本文化科目)			
		Integrated JapaneseⅠ(5) Integrated JapaneseⅡ(5) Project WorkⅠ(1) Project WorkⅡ(1)	Japanese Reading and CompositionⅠ(2) Japanese Reading and CompositionⅡ(2) Japanese Listening ComprehensionⅠ(1) Japanese Listening ComprehensionⅡ(1)	Kanji LiteracyⅠ(1) Kanji LiteracyⅡ(1) Japanese CultureⅠ(1) Japanese CultureⅡ(1)				



2013 年度入学生用 文学部第 1 部英語コミュニケーション学科 教育課程表 (文学部共通科目)

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年
文学部教育	東洋大学・井上円了研究(2)	伝統文化講座(2)	情報処理演習 A(1)	情報処理演習 B(1)
文学部 基 礎 専 門 科 目	論理学概説(4) 哲学基礎概説(4) サンスクリット文献を読む I A(2) サンスクリット文献を読む I B(2) 日本史概説(4) 東洋史概説(4) 西洋史概説(4)	比較思想(4) 英文学特講 I(4) 英文学特講 III(4) 米文学特講 I(4) 哲学と科学(4) インドの芸能(2) インド・仏教の美術(2) 華厳の思想(2) 密教の思想(2) 中国仏教のあゆみ A(2) 中国仏教のあゆみ B(2) 児童文学 A(2) 児童文学 B(2) チベット文献を読む A(2) チベット文献を読む B(2)	哲学概論(4) 英文学特講 II(4) 英文学特講 IV(4) 米文学特講 II(4) 応用倫理学特論(4) インド文学(2) インドの風土と文化(2) インドの思想(2) 禅の思想(2) 念仏の思想(2) 日本仏教のあゆみ A(2) 日本仏教のあゆみ B(2) サンスクリット文献を読む II A(2) サンスクリット文献を読む II B(2) パーリ文献を読む A(2) パーリ文献を読む B(2)	哲学と宗教思想(4) 古代インドの社会(2) 天台の思想(2) チベット仏教のあゆみ(2) 現代のインド(2) インド仏教のあゆみ A(2) インド仏教のあゆみ B(2) インド現代思想(2) ヒンディー文献を読む A(2) ヒンディー文献を読む B(2)
	中国学概論(4) 中国文化史概説(4) 比較文学文化概説 A(2) 比較文学文化概説 B(2)	中国文献学概論(4) 生涯学習概論 I(2) 特別支援教育概論 I(2)	倫理学概論(4) 中国哲学史概説(4) 中国現代文学史概説(4) イギリスの文化と思想(4)	中国文学史概説(4) 日本漢学(4) アメリカの文化と思想(4)
	英語圏文学文化と日本 A(2) 英語圏文学文化と日本 B(2) フランス語圏文学文化と日本 A(2) フランス語圏文学文化と日本 B(2)	ドイツ語圏文学文化と日本 A(2) ドイツ語圏文学文化と日本 B(2) 中国文学文化と日本 A(2) 中国文学文化と日本 B(2)		
	日本の伝統行事 A(2) 日本の伝統行事 B(2) 心理学概論 A(2) 心理学概論 B(2)	日本の伝統芸能 A(2) 日本の伝統芸能 B(2) 家族心理学(2) 女性問題と学習(2)	日本の美術 A(2) 日本の美術 B(2) 児童文化研究(2) 家庭教育論(2)	韓国文化事情 A(2) 韓国文化事情 B(2) 生涯学習概論 II(2) 特別支援教育概論 II(2)
	Oral Communication I A A(1) (オーラルコミュニケーション I A A) Oral Communication I A B(1) (オーラルコミュニケーション I A B) Oral Communication I B A(1) (オーラルコミュニケーション I B A) Oral Communication I B B(1) (オーラルコミュニケーション I B B)	Oral Communication II A A(1) (オーラルコミュニケーション II A A) Oral Communication II A B(1) (オーラルコミュニケーション II A B) Oral Communication II B A(1) (オーラルコミュニケーション II B A) Oral Communication II B B(1) (オーラルコミュニケーション II B B)	Speech Communication A(1) (スピーチコミュニケーション A) Speech Communication B(1) (スピーチコミュニケーション B)	
	ドイツ語 ドイツ語 I A(2) ドイツ語 I B(2)	ドイツ語 II A(2) ドイツ語 II B(2)	ドイツ語 III A(2) ドイツ語 III B(2)	
	フランス語 フランス語 I A(2) フランス語 I B(2)	フランス語 II A(2) フランス語 II B(2)	フランス語 III A(2) フランス語 III B(2)	
	中国語 中国語 I A(2) 中国語 I B(2)	中国語 II A(2) 中国語 II B(2)	中国語 III A(2) 中国語 III B(2)	
	日本語 (留学生用)	(留学生用) 必修 日本語 I A A(1) 日本語 I A B(1) 日本語 I B A(1) 日本語 I B B(1)	(留学生用) 選択必修 日本語と日本社会 A(2) 日本語と日本社会 B(2) 日本語と日本文化 A(2) 日本語と日本文化 B(2)	※留学生は日本語 8 単位、英語 2 単位必修。 (英語が母語の場合は、1・2 年次のドイツ語・フランス語・中国語より 1 カ国語 2 単位選択必修)
	諸 資 格 関 連 科 目	教育基礎論 I(2) 教育基礎論 II(2)	社会教育計画論 I(2) 社会教育計画論 II(2)	視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)(2)
博物館情報・メディア論(2) 博物館概論(2)		博物館教育論(2) 博物館経営論(2) 博物館展示論(2)	博物館資料論(2) 博物館資料保存論(2) 博物館実習 II(1)	
図書館概論(2) 情報サービス論(2) 情報サービス演習 A(1) 情報サービス演習 B(1)		児童サービス論(2) 情報資源組織演習 A(1) 情報資源組織演習 B(1)	図書館制度・経営論(2) 図書館情報資源概論(2) 図書館情報資源特論(2)	図書館サービス概論(2) 図書館情報技術論(2) 図書・図書館史(2)
学習指導と学校図書館(2) 読書と豊かな人間性(2)		学校経営と学校図書館(2) 情報メディアの活用(2)	学校図書館メディアの構成(2)	
キャリア教育	キャリア支援 I(2) キャリア支援 II(2) インターシップ(2)		教員養成講座 I(2) 教員養成講座 II(2) ボランティア活動(2)	



2013 年度入学生用 文学部第 1 部英語コミュニケーション学科 教育課程表（専門科目）

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年
必修科目 42 単位	Listening Comprehension Practice A (英語聴解練習 A) (2)	Interpretation Practice A (通訳練習 A) (2)	Research Studies A (リサーチスタディーズ A) (2)	Seminar (4)
	Listening Comprehension Practice B (英語聴解練習 B) (2)	Interpretation Practice B (通訳練習 B) (2)	Research Studies B (リサーチスタディーズ B) (2)	Graduation Thesis (卒業論文) (6)
専 門 科 目 82 単位以上	English Reading Practice I A (英文読解練習 I A) (2)	English Reading Practice II A (英文読解練習 II A) (2)	Academic Writing A (ライティング III A) (2)	
	English Reading Practice I B (英文読解練習 I B) (2)	English Reading Practice II B (英文読解練習 II B) (2)	Academic Writing B (ライティング III B) (2)	
	Oral Composition A (ライティング I A) (2)	Technical Writing A (ライティング II A) (2)		
	Oral Composition B (ライティング I B) (2)	Technical Writing B (ライティング II B) (2)		
	Intercultural Communication I A (文化間コミュニケーション I A) (2)		Computer Assisted Language Learning A (コンピュータ支援英語学習 A) (2)	
	Intercultural Communication I B (文化間コミュニケーション I B) (2)		Computer Assisted Language Learning B (コンピュータ支援英語学習 B) (2)	
	Verbal and Nonverbal Communication A (言語・非言語コミュニケーション A) (2)		Newspaper English A (新聞英語 A) (2)	
	Verbal and Nonverbal Communication B (言語・非言語コミュニケーション B) (2)		Newspaper English B (新聞英語 B) (2)	
	Broadcast English A (放送英語 A) (2)		English for Qualifying Examinations AA (資格検定英語 AA) (2)	
	Broadcast English B (放送英語 B) (2)		English for Qualifying Examinations AB (資格検定英語 AB) (2)	
	Communicative English A (2)		Tourism English A (観光英語 A) (2)	
	Communicative English B (2)		Tourism English B (観光英語 B) (2)	
		Intercultural Communication II A (文化間コミュニケーション II A) (2)		
		Intercultural Communication II B (文化間コミュニケーション II B) (2)		
		Negotiation Skills and Theory A (交渉英語 A) (2)	Business Communication A (ビジネスコミュニケーション A) (2)	
	Negotiation Skills and Theory B (交渉英語 B) (2)	Business Communication B (ビジネスコミュニケーション B) (2)		
	English for Qualifying Examinations BA (資格検定英語 BA) (2)	Debate A (ディベート A) (2)		
	English for Qualifying Examinations BB (資格検定英語 BB) (2)	Debate B (ディベート B) (2)		
	<b>24 単位以上選択必修</b>			
	Advanced English Grammar A (高等英文法 A) (2)	English Stylistics A (英語文体論 A) (2)		
	Advanced English Grammar B (高等英文法 B) (2)	English Stylistics B (英語文体論 B) (2)		
	English Linguistics A (英語学 A) (2)	Sociolinguistics A (言語と社会 A) (2)		
	English Linguistics B (英語学 B) (2)	Sociolinguistics B (言語と社会 B) (2)		
	Philosophy of Language A (言語論 A) (2)	Language Acquisition A (言語習得論 A) (2)		
	Philosophy of Language B (言語論 B) (2)	Language Acquisition B (言語習得論 B) (2)		
	<b>8 単位以上選択必修</b>			
	British Culture and Literature A (イギリス文化・文学研究 A) (2)	Comparative Culture Studies A (比較文化論 A) (2)		
	British Culture and Literature B (イギリス文化・文学研究 B) (2)	Comparative Culture Studies B (比較文化論 B) (2)		
	American Culture and Literature A (アメリカ文化・文学研究 A) (2)	Special Lecture I (特別講義 I) (2)		
	American Culture and Literature B (アメリカ文化・文学研究 B) (2)	Special Lecture II (特別講義 II) (2)		
	Global Understanding I A (国際理解 I A) (2)	Special Lecture III (特別講義 III) (2)		
	Global Understanding I B (国際理解 I B) (2)	Special Lecture IV (特別講義 IV) (2)		
	Global Understanding II A (国際理解 II A) (2)			
	Global Understanding II B (国際理解 II B) (2)			
	<b>8 単位以上選択必修</b>			
選択科目				英語コミュニケーション特別研究(2)
教職科目		英語科教育論 I(2) 英語科教育論 II(2)	英語科指導法 I(2) 英語科指導法 II(2)	教職実践演習(中・高)(2)
他学部他学科開放科目 (専門開放科目)	科目は別表に記載			

- 備考
1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
  2. ( ) は該当科目の単位数。
  3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
  4. 「英語科教育論 I」「英語科教育論 II」「英語科指導法 I」「英語科指導法 II」「教職実践演習(中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。
  5. 4 年次の「卒業論文」の履修登録は、3 年次終了時点で未修得単位数が 4 8 単位以下の卒業見込みの学生に限る。

## 外国人留学生の共通総合科目・国際コミュニケーション科目の履修について

外国人留学生に対しては、日本理解の助けとなる「日本事情」「日本語」の科目が共通総合科目と国際コミュニケーション科目にそれぞれ開設されている。

共通総合科目の「日本事情ⅠA」「日本事情ⅠB」「日本事情ⅡA」「日本事情ⅡB」「日本事情ⅢA」「日本事情ⅢB」、国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA」「日本語ⅠAB」「日本語ⅠBA」「日本語ⅠBB」は必修、「日本語と日本社会A」「日本語と日本社会B」「日本語と日本文化A」「日本語と日本文化B」は選択必修となっている。

原則として1・2年次で履修かつ修得すること。

教育課程表（共通総合科目・文学部共通科目）を参照して間違いのないように登録すること。

### 〈第1部外国人留学生用科目一覧〉

区分	科目	単位	履修年次	区分
共通総合科目	日本事情ⅠA（自然・環境・生命）	2	1～4	必修
	日本事情ⅠB（自然・環境・生命）	2		
	日本事情ⅡA（歴史・文化）	2		
	日本事情ⅡB（歴史・文化）	2		
	日本事情ⅢA（現代・社会）	2		
	日本事情ⅢB（現代・社会）	2		
国際コミュニケーション科目	日本語ⅠAA	1	1	必修
	日本語ⅠAB	1		
	日本語ⅠBA	1		
	日本語ⅠBB	1		
	日本語と日本社会A	2	2	「日本語と日本社会A・B」、 「日本語と日本文化A・B」のうち どちらか一方の組合せ選択必修
	日本語と日本社会B	2		
	日本語と日本文化A	2		
	日本語と日本文化B	2		

※国際コミュニケーション科目の「日本語ⅠAA・ⅠAB」「日本語ⅠBA・ⅠBB」「日本語と日本社会A・B」「日本語と日本文化A・B」は通年履修を原則とする。A・Bセットで履修すること。

第1部 他学部他学科開放科目  
(専門開放科目) について

# 第1部他学部他学科開放科目（専門開放科目） 〈第1部学生用〉

開放科目は、他学部および文学部他学科指定科目より自由に選択し、履修することができる。履修にあたっては、下記の点に注意すること。

1. 他学部他学科開放科目（専門開放科目）は次表に定める科目以外を履修することはできない。  
他学部他学科開放科目（専門開放科目）として次表に提示されていない科目を履修する場合は、担当教員の許可を得た上で卒業単位にならない自由科目として履修することができる。
2. 配当学年はその学部学科の配当学年に従うこと。
3. 所属する学科の教育課程表にある科目と同一名称の科目は履修できない。
4. 以前修得した科目については、再度履修することができない。
5. 原則として第1部時間帯開講科目のみ履修すること（日本文学文化学科開講科目を除く）。
6. 科目によっては、第1部・第2部いずれかで開講する科目があるので注意すること（下表参照）。

## ◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

万葉文化論 A(2)	王朝文化論 A(2)	室町文化論 A(2)
万葉文化論 B(2)	王朝文化論 B(2)	室町文化論 B(2)
江戸文化論 A(2)	近現代文化論 A(2)	
江戸文化論 B(2)	近現代文化論 B(2)	
日本の古典籍 A(2)	日本民俗学 A(2)	
日本の古典籍 B(2)	日本民俗学 B(2)	

2013 年度入学生用 第 1 部 他学部他学科開放科目(専門開放科目)一覧

学部/学科	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年
文学部 日本文学文化学科	古代日本文学史 A(2) 古代日本文学史 B(2) 中世日本文学史 A(2) 中世日本文学史 B(2)	近現代日本文学史 A(2) 近現代日本文学史 B(2) 万葉文化論 A(2) 万葉文化論 B(2) 王朝文化論 A(2) 王朝文化論 B(2) 江戸文化論 A(2) 江戸文化論 B(2)	近世日本文学史 A(2) 近世日本文学史 B(2) 近現代文化論 A(2) 近現代文化論 B(2) 日本の古典籍 A(2) 日本の古典籍 B(2)	日本民俗学 A(2) 日本民俗学 B(2) 室町文化論 A(2) 室町文化論 B(2)
文学部 史学科	古文書学 I(4)	古文書学 II(4) 日本史学特講(4) 考古学特講(4)	史学概論(4) 東洋史学特講(4)	西洋史学特講(4)
文学部 教育学科	社会文化史(日本)(2) 社会文化史(西洋)(2)	比較政治論(2) 比較社会論(2)	社会教育課題研究 I(2) 社会教育課題研究 II(2)	アメリカ思想史(2) 情報化と社会教育(2)
文学部 英語コミュニケーション学科	特別講義 I(2) 比較文化論 A(2)	特別講義 II(2) 比較文化論 B(2)	特別講義 III(2)	特別講義 IV(2)
経済学部 経済学科		経済哲学 A(2) 経済哲学 B(2) 人口経済学 A(2) 人口経済学 B(2)	医療経済学 A(2) 医療経済学 B(2) 政治経済学 A(2) 政治経済学 B(2) 現代中小企業論 A(2) 現代中小企業論 B(2)	
経済学部 国際経済学科	ヨーロッパ経済論 A(2) ヨーロッパ経済論 B(2)	国際貿易論 A(2) 国際貿易論 B(2) 国際金融論 A(2) 国際金融論 B(2) 日本経済論 A(2) 日本経済論 B(2) 上級国際経済学 A(2) 上級国際経済学 B(2)	国際公共経済 A(2) 国際公共経済 B(2) 世界の食料・資源経済 A(2) 世界の食料・資源経済 B(2) 経済発展論 A(2) 経済発展論 B(2) 西欧経済史 A(2) 西欧経済史 B(2)	
経済学部 総合政策学科	市民社会と国家(2) 教育・家族・雇用システム(2)	社会政策 A(2) 社会政策 B(2) 生き方・働き方の経済学(2) ワーク・ライフ・バランスの総合政策(2)	現代の産業と企業(2) 地域活性化と公民連携(2) 環境の制度と政策(2) 廃棄物政策(2)	
経営学部 経営学科		経営財務論(2) 投資決定論(2) 国際経営基礎論(2) GBCセミナー I(2) GBCセミナー VI(2)	ビジネス・ニュース英語 A(2) ビジネス・ニュース英語 B(2) 国際経営論(2) 意思決定論(2) 公共経営論(2) GBCセミナー II(2)	ビジネス・ネゴシエーション A(2) ビジネス・ネゴシエーション B(2) 企業評価論(2) コーポレートガバナンス論(2) コンプライアンス経営論(2) GBCセミナー V(2)
経営学部 マーケティング学科		広告論(2) 現代の広告(2) サービス・マーケティング論(2)	リレーションシップ・マーケティング(2) ファッション・マーケティング論(2) 現代のファッション・マーケティング(2)	
経営学部 会計ファイナンス学科	金融論(2) 金融システム論(2) ファイナンス論(2)	経営監査論(2) 会計監査論(2)	経営分析論(2) 証券投資論(2)	
法学部 法律学科 法律学科	法思想史 A(2)	法思想史 B(2) 政治学原論 A(2) 政治学原論 B(2) Fundamental Concepts of International Politics A (2) Fundamental Concepts of International Politics B (2) Fundamental Concepts of Peace Studies A (2) Fundamental Concepts of Peace Studies B (2) International Law A (2) International Law B (2)	International Relations A(2)	International Relations B(2)
法学部 企業法学科		刑法 I(総論) A(2) 刑法 I(総論) B(2) ビジネス・イングリッシュ I A(1) ビジネス・イングリッシュ I B(1)	ビジネス・イングリッシュ II A(1) ビジネス・イングリッシュ II B(1)	ビジネス・イングリッシュ III A(1) ビジネス・イングリッシュ III B(1)

(次ページに続く)

学部/学科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
社会学部社会学科	社会統計学(2)	国際社会学(2)		
社会学部 社会文化システム学科		日本社会文化論A(2) 日本社会文化論B(2)	犯罪社会学A(2) 犯罪社会学B(2)	
社会学部 社会福祉学科	社会福祉発達史A(2) 社会福祉発達史B(2)	社会福祉法制・行政A(2) 社会福祉法制・行政B(2)	社会保障論A(2) 社会保障論B(2)	公的扶助論(2) 地域福祉論A(2)
社会学部 メディアコミュニケーション学科	メディアコミュニケーション学概論A(2) メディアコミュニケーション学概論B(2)	マス・コミュニケーション概論A(2) マス・コミュニケーション概論B(2)	情報学基礎論A(2) 情報学基礎論B(2)	
社会学部 社会心理学科	社会心理学概論A(2)	社会心理学概論B(2) 環境心理学(2)	健康心理学A(2)	産業組織心理学(2)
理工学部	日本の文化と思考様式(2)	科学について英語で考える(2)		
国際地域学部	地域と生活(2)	文化人類学入門(2)	歴史と郷土文化(2)	地域とボランティア(2)
	言語と文化A(2)	言語と文化B(2)	日本の文化と社会(2)	世界の文化と社会(2)
	都市論(2)	国際政治学入門(2)	日本外交論(2)	技術と産業の社会史(2)
	情報社会論(2)	日本の近代化(2)	科学技術論(2)	
	Participatory Development (2)	Qualitative Research Methodologies (2)	Gender and Society (2)	Urban habitation (2)
	Asian Cities and Transport (2)	Basic academic writing (2)	Basic academic reading (2)	Japanese Economy and Business (2)
		Academic essay writing (2)	Regional and Urban Sociology on Asian Countries (2)	Global Environmental Issues (2)
		The Practice of Internet Technology, network configuration and security (2)	Regional to International Issues (2)	Global Water Problems (2)
		Information Publishing (2)	Globalization and Culture (2)	Urban and Regional Environmental Management (2)
		Asian Economies (2)	South Asian Studies (2)	Environmental Issues in Asian (2)
国際地域学部 国際地域学科 国際地域専攻	国際エネルギー資源論(2)	国際食糧問題論(2)	農村地域開発論(2)	
	日本の地誌と文化(2)	文化人類学(2)	プロジェクト実施・評価(2)	
	アジアの地誌と文化(2)	アジア経済論(2)	科学技術倫理(2)	
	ヨーロッパの地誌と文化(2)	環境管理適正技術論(2)	情報マネジメントⅡ(2)	
	アフリカの文化と社会(2)	環境産業論(2)	都市計画(2)	
	アジアの都市と交通(2)	水と国土(2)	土地・住宅問題(2)	
	N G O ・ N P O 論(2)	環境システム論(2)	福祉経済論(2)	
	外国地誌(2)	コミュニティ開発論(2)	映像社会学(2)	
		国土利用と法律(2)	社会システム論Ⅱ(2)	
		社会基盤計画・政策(2)		
国際地域学部 国際観光学科	歴史と観光(2)	コンベンション論(2)	観光行政・政策論(2)	
	観光マーケティング(2)	フードビジネス経営論(2)	ホスピタリティ施設開発論(2)	
	食品衛生論(2)	地域観光論(2)	エコツーリズム(2)	
		観光・環境経済学(2)	イベント企画論(2)	
		観光行動論(2)	環境法規・政策論(2)	
		地域財政と観光(2)		
		観光コンサルタント論(2)		
		ペットツーリズム論(2)		
		西洋美術史(2)		



## 文学部副専攻について

## 文学部副専攻 (2013年度第1部入学生用)

副専攻は、一般教養的科目を系統的に学ぶことで、基礎知識を確立し、学術的見地から考察できる能力や実践的応用力を身に付けるためのコースである。コースごとに教育目標を設定しているため、どのコースを選択するか自ら考え、1年次より計画的に履修し、修得すること。専門課程に留まることなく、より幅広い知識を得ようとする意欲的な学生が多数登録することを期待する。履修方法は、以下の通りである。

1. 全5コースが開設されているが、登録できるのは1人1コースである。登録後のコースの変更はできない。
2. 各コースの登録は2年次以降に行う。「自然の認識コース」の登録は、自然科学演習の登録と同時あるいは、それ以前に行わなければならない。希望者は注意すること。
3. 1年次において既に履修した科目については、さかのぼって副専攻単位として認定する。
4. 副専攻の所定の単位を修得した学生には卒業時に修了証を発行する。  
なお、単位修得見込証明書は4年次履修登録終了後、発行することができる。
5. 副専攻の履修を希望する場合は、授業時間割表の学年配当に従って履修すること。

# 文学部副専攻課程表

## 日本文化コース(全学科学生用)

### [教育目標]

日本文化コースは、日本の歴史を学び、歴史の流れの中に文学や思想を位置づけ、日本文化の基礎的な知識を身に付けることを目指す。このため、必修科目では、教養演習を履修することで文化を研究するための学術的方法を身に付け、日本史の概観を把握し、文化との結びつきを理解するように科目を配している。選択必修科目では、文化や思想の科目を配し、自ら興味のある分野をより深めるようになっている。「哲学」を配しているのは、哲学の持つ論理性や思考性を学ぶことで、ものの正しさを評価し得る能力を高めるためである。

	区分	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年
認定の要件(28)	必修科目(20)	日本史概説(4) 日本文学文化と風土A(2) 日本文学文化と風土B(2) 日本の伝統行事A(2) 日本の伝統行事B(2)	地域史(日本)A(2) 地域史(日本)B(2) 日本の美術A(2) 日本の美術B(2)		
	選択必修科目(8)	哲学A(2) 哲学B(2) 日本の詩歌A(2) 日本の詩歌B(2)	百人一首の文化史A(2) 百人一首の文化史B(2) 現代日本文学A(2) 現代日本文学B(2)		日本の昔話A(2) 日本の昔話B(2)
				日本漢学(4)	

※「日本漢学(4)」を東洋思想文化学科の学生が履修する場合は「日本漢学A(2)」「日本漢学B(2)」となるので注意すること。

## 東洋文化コース(東洋思想文化学科以外の6学科学生用)

### [教育目標]

東洋文化コースは、東洋史の概観を把握し、代表的文化である中国およびインドの文化を学び、東洋文化の背景とその展開を理解することを目指す。このため、必修科目では、教養演習を履修することで文化を研究するための学術的方法を身につけ、中国およびインドの文化史を理解するよう科目を配している。選択必修科目では、専門性を重視した内容になっているので、中国文化かインド文化の選択を自ら行って履修することが望ましい。「哲学」を配しているのは、哲学の持つ論理性や思考性を学ぶことで、ものの正しさを評価し得る能力を高めるためである。

	区分	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年	
認定の要件 (28)	必修科目 (16)	地域史(東洋) A(2)				
		地域史(東洋) B(2)				
		中国文化史概説(4)				
		東洋史概説(4)				
		インドの宗教A(2)				
		インドの宗教B(2)				
	選択必修科目 (12)	哲 学 A(2)		哲 学 B(2)		
		中国文学文化と日本 A(2)				
中国文学文化と日本 B(2)						
中国学概論(4)		中国哲学史概説(4) 中国文学史概説(4) 中国現代文学史概説(4)				
		インドの芸能(2)	古代インドの社会(2)			
		インド・仏教の美術(2)	インドの風土と文化(2)			
		華嚴の思想(2)	禪の思想(2)			
		密教の思想(2)	念仏の思想(2)			

※1 「インドの宗教A」「インドの宗教B」は、A・Bセットで通年履修を原則とする。

※2 「インドの芸能」「インド・仏教の美術」「古代インドの社会」「インドの風土と文化」「華嚴の思想」「密教の思想」「禪の思想」「念仏の思想」は隔年開講となるので注意すること。

## 西洋文化コース(全学科学生用)

### [教育目標]

西洋文化コースは、主に英語圏文化を基本とし、西洋史の概観を把握して、その文化的背景を理解することを目指す。このため、必修科目では、教養演習を履修することで文化を研究するための学術的方法を身につけ、西洋の歴史、思想史を学ぶよう科目を配している。選択必修科目では、イギリス・アメリカ文学を通して英語圏文化の特徴を理解するよう科目を配している。また、日本との比較文学文化科目で視野を拡大し、西洋文化の背景にある思想・哲学をも学んで、総合的に西洋文化の理解に努める。

	区分	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年
認定の要件(28)	必修科目 (12)		哲 学 史 A(2) 哲 学 史 B(2)	地 域 史 (西 洋) A(2) 地 域 史 (西 洋) B(2)	
		西 洋 史 概 説 (4)			
	選 必 A (4)		英 文 学 特 講 I(4) 英 文 学 特 講 II(4) 英 文 学 特 講 III(4)	} 3 科目のうち 1 科目 以上を選択必修	
	選 必 B (4)		米 文 学 特 講 I(4) 米 文 学 特 講 II(4)		} 2 科目のうち 1 科目 以上を選択必修
	選 必 C (8)		哲 学 A(2) 哲 学 B(2)	科 学 思 想 史 A(2) 科 学 思 想 史 B(2)	
				倫 理 学 概 論 (4)	
		英 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 A(2) 英 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 B(2)	フ ラ ン ス 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 A(2) フ ラ ン ス 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 B(2)	ド イ ツ 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 A(2) ド イ ツ 語 圏 文 学 文 化 と 日 本 B(2)	

## 英語特別コース(英米文・英語コミュニケーション学科以外の5学科学生用)

### [教育目標]

本コースは、高校までに身につけた英語の基礎知識をさらに向上させるとともに、実際の学生生活及び実社会に出てからの実践の場で、すぐに役立つ英語力を習得することを目指す。

英語I、英語II及び Communicative English で基本的四技能（読み・書き・話す・聞く）を磨き、英語III（ビジネス英語・英字新聞講読）及び Practical Writing で実践的応用力を身に付けることができる。

本コースには、英語の資格検定対策用の授業も含まれている。受講者は TOEIC 等の検定試験に積極的に挑戦してもらいたい。

なお、本コースの履修を希望する学生は、下記の授業科目すべてを履修かつ修得しなければならない。

※英米文・英語コミュニケーション学科の学生も、それぞれの教育課程表に掲載されている科目は個別に履修可能である。

	区分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
認定の要件 (22)	必修科目 (22)	英語 I A(2)	英語 II A(2)	英語 III A(2)	
		英語 I B(2)	英語 II B(2)	英語 III B(2)	
		検定英語(4) Practical Writing (2) Communicative English A(2) Communicative English B(2)			

※英語III A・III Bに関しては、隔年開講となる場合がある。



## 自然の認識コース（全学科学学生用）

### [教育目標]

人間は生命が存在するのにちょうど適した地球や、さらに大きな宇宙という自然環境の中に生存している。そして、物質や物理現象からつねに大きな影響を受けている。

文系学部に所属する学生にとっても、我々をとりまくこの自然を理解し、自然科学の実験・実習・演習などを通して自然に親しむことは、望ましいことである。

そのために、自然科学的な考え方や、自然そのものに触れてみたい学生を対象に、「自然の認識」コースが設置されている。

この副専攻を履修するためには、共通総合科目の自然・環境・生命の中から、

- |                          |            |
|--------------------------|------------|
| ①一般講義科目で同一名称のAとBの組合せを    | 2組4科目8単位以上 |
| ②他の一般講義科目AまたはB           | 1科目2単位以上   |
| ③実験・実習講義科目で同一名称のAとBの組合せを | 2組4科目8単位以上 |
| ④自然科学演習A・Bセットで           | 2科目4単位     |

合計 11科目22単位以上を履修しなければならない。

このコースの履修を希望する学生は、4月第1回目の実験・実習講義の授業に出席して、各教員に相談し、指導を受けること。

区 分		第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	第 4 学 年	
認定の要件(22)	選択科目(18)	一般講義科目(10)	自然の数理 A(2)	生活と物理 A(2)	エネルギーの科学 A(2)	物質の科学 A(2)
			自然の数理 B(2)	生活と物理 B(2)	エネルギーの科学 B(2)	物質の科学 B(2)
	実験実習講義科目(8)	環境の科学 A(2)	地球の科学 A(2)	生物学 A(2)	天文学 A(2)	
環境の科学 B(2)		地球の科学 B(2)	生物学 B(2)	天文学 B(2)		
必修科目(4)	自然科学演習科目(4)*	自然科学概論 A(2)	自然誌 A(2)			
		自然科学概論 B(2)	自然誌 B(2)			
		物理学実験講義 A(2)	生物学実験講義 A(2)	化学実験講義 A(2)		
		物理学実験講義 B(2)	生物学実験講義 B(2)	化学実験講義 B(2)		
		地球科学実習講義 A(2)	数理・情報実習講義 A(2)	天文学実習講義 A(2)		
		地球科学実習講義 B(2)	数理・情報実習講義 B(2)	天文学実習講義 B(2)		
			自然科学演習 A(2)			
			自然科学演習 B(2)			

※自然科学演習A(2)・B(2)は、第2学年以上でかつ講義科目または実験・実習講義科目を合計8単位以上修得しなければ履修することができないので注意すること。

なお、副専攻の「自然の認識コース」を登録しない学生も履修できる。

注意) 自然科学系科目の講義科目や実験・実習講義科目の中には、抽選によって聴講者数が制限されるものがある。副専攻希望者には、これらを優先的に履修できるように配慮するので、授業時に申し出ることに。



### Ⅲ 第2部 学科教育課程表および履修方法

#### 第2部 東洋思想文化学科

## 東洋思想文化の深い理解と、現代への確かな視点を

明治20年、哲学者井上円了は東洋大学の前身となる「哲学館」を創設した。明治維新後間もない当時の日本は、西洋文明を必死で追いかけていた。しかし円了はただ西洋化に踊らされる日本を憂い、日本人として東洋の精神を重んじるべきと考え、実践に基づいた哲学教育を行った。東洋思想文化学科は、このような創立者の教育精神を受け継ぐ学科である。

21世紀のいま、中国やインドを中心とするアジア世界は大きく変革した。政治、経済、社会など、あらゆる分野でのアジア地域の成長は著しく、またアジアの伝統思想や文化が、西洋社会には無いある種の力を持って現代人に受け入れられつつある。本東洋思想文化学科は、このようなアジア社会の底流にある「東洋の智の心髄」である思想や文化を広く、そして深く理解し、その理解を基礎に現代社会において、自身で考え行動する人材を育てることを教育目標とする。本学科に入学した学生の皆さんは、このような目標を見据えて学習に取り組んでもらいたい。

### <東洋思想文化学科の教育内容>

東洋思想文化学科は中国、インドを中心にアジアの思想、文化を広く学ぶカリキュラムを設置している。漢文やサンスクリット語で記された文献を読み、そこにある思想、文化をじっくりと考える科目がある一方、国際社会に不可欠な中国語やヒンディー語や文化事情についての授業も重視しており、古典をバックグラウンドとしながら現代にも即応したカリキュラムとなっている。また、体験型の実技講義科目も本学科の特色である。

本学科の学生は、まず1年次において一般的な教養科目や英語などの外国語を学習する。それと同時に専門科目では「東洋思想文化への誘い」「レポート・論文の作法」などの必修科目を履修する。これらは2年次でのコース選択の判断材料ともなる基本的かつ重要な科目である。

2年次から、学生は本学科に設置されている4つのコース、すなわち「インド思想コース」「中国語・中国哲学文学コース」「仏教思想コース」「東洋芸術文化コース」のうち一つを選択する。これらのコースは学生の皆さんの2年次以降の学習の柱となり、また卒業論文とも深く関わるものなので、1年次から十分に考えて選択してほしい。

2年次から3年次にかけては、コース共通の必修科目「東洋思想文化演習Ⅰ」（2年次）「東洋思想文化演習Ⅱ」（3年次）を履修するとともに、コース別必修科目や選択必修科目を合わせて履修する。これらの科目はコースごとに決められているので、詳しくは教育課程表を参照してほしい。4年次には、演習科目「卒論指導」を履修しながら卒業論文に取り組む。卒業論文は4年間の学習の集大成である。就職活動などと並行しての卒論作成はあわただしく、また苦勞もあるが、論文が出来上がった時の達成感は格別のものがある。

学生の皆さんには、本学科において以上のような4年間の学びで得た思想や文化の理解を通じ、アジア世界について深く考え、また国際社会において他文化と協調しながら、自らの人生を切り開いていく充分な力を養っていただきたい。

## 第2部東洋思想文化学科（イブニングコース） 3つのポリシー

### アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

学祖井上門下は、東洋の哲学・思想の中に普遍的意義を見出し、これを教育によって広く当時の社会に普及しようとしてきました。同時に、彼は単なる知識としてではなく、人々が生きるための知恵として活用しうる哲学を構想しました。東洋思想文化学科はこの精神を受け継ぎ、東洋の思想や文化の学習を通して、異文化や東洋の価値観、人間存在等に対する深い理解を持ち、世界の人々と協調して未来を切り開こうとする姿勢に富む有為な人材の育成を目指しています。そのため、東洋思想文化学科では、次のような学生を求めます。

○東洋思想文化学科が求める学生像

1. 東洋の思想や文化に対して強い関心を持つ学生を求めます。

東洋の思想や文化は、それぞれの長い伝統に培われた個性的なものです。異文化への関心や異なる価値観への理解は、東洋思想文化学科で勉学を続けていく上で絶対に不可欠です。

2. 外国語の学習に意欲を持つ学生を求めます。

東洋の思想や文化を学ぶ場合、中国語・サンスクリット語をはじめとする、古典および現代のアジア諸言語で書かれた文献が基礎資料となります。また、分野によっては、英語文献を参照することが不可欠です。

3. 物事を判断・主張するにあたって明確な根拠に基づいて筋道だった説明をすることのできる論理的能力を持つ学生を求めます。

論理的能力は日本社会においても大切な能力ですが、文化的背景を異にする人たちに自分を理解してもらうためにはますます重要となります。

○入学までに習得しておくべき知識内容とその水準

1. 国語

東洋思想文化学科での学びの基礎は文献資料です。何語で書かれた文献であれ、その内容を正しく理解し、それに対する自分の考えをまとめて主張するためには、国語能力は不可欠です。普段から文学や思想文化に関する著作に触れ、文章読解能力や論理的表現力、文章構成力等を養っておいてください。また、漢文はコースによっては、勉学上不可欠なものですし、文献資料を正確に読む練習にもなりますので、少なくとも基礎的な知識だけは身につけておいてください。

2. 英語

東洋思想文化学科では、様々な外国語が学べますが、その基礎は英語です。サンスクリット語などを学習する場合、どうしても英語の辞書を使わなくてはなりません。また、卒論などでも、テーマによっては、英語以外の参考文献がほとんどないという場合も稀ではありません。辞書を使えば英語の本の内容がおおよそ理解できる程度の英語力は不可欠といえます。入学までに可能な限り英語力の向上に努めてください。

3. 地理・歴史

東洋の思想や文化をよく理解するためには、その前提として、それらの国々が置かれた地理的環境や歴史に関する知識が不可欠なことは言うまでもありません。特に歴史については入学後にも関連する科目が多数ありますので、普段から関連する書籍に触れ、また、ニュースなどを通して現代の状況などにも注意を払うよう努めてください。

### カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

東洋思想文化学科では、教育上の理念と目的を達成するために、次の方針のもとに教育課程を編成し、また実施します。

1. 東洋思想文化学科の学生は、1年次・2年次を中心に、幅広い学問分野に触れ、全人的な教養を身につけるために、人文・自然などの「共通総合科目」や「文学部共通科目」を履修します。「文学部共通科目」では、英語や中国語などの語学を重視しています。
2. 東洋思想文化学科の学生は、2年次以降の学習の基礎として、1年次にスタディースキル（読み、書き、発信する能力）を身につけるための科目、ならびに学科が教授する各分野の概要を知るための科目を履修します。
3. 東洋思想文化学科の学生は、2年次以降、専門分野に関する知識を深めるために、次の4つのコースのいずれか1つに属し、それぞれに定められた課程表に基づいて履修します。
  - (1) インド思想コース：長い歴史を持つインド（より広くは「南アジア」）の思想、歴史、文化などを体系的に学べるように多彩な科目群を提供します。それらをより本質的に理解するために、サンスクリット語やヒンディー語といった語学も学びます。
  - (2) 中国語・中国哲学文学コース：中国の哲学・文学・語学を三位一体のものとして学び、文献や資料に基づきながら中国文化について総合的な見識を養います。とりわけ中国語に関しては、検定試験の中級レベルに合格する実力を養成するプログラムを準備しています。
  - (3) 仏教思想コース：アジアの広範な地域に伝播定着した仏教とその文化を学ぶ横断的なコースです。仏教成立の背景から、アジア各地の仏教、そして現代日本の仏教にいたるまでを総合的に学びます。また、アジア各地の古典語（古典漢語、サンスクリット、パーリ、チベットなど）を体系的に学習します。
  - (4) 東洋芸術文化コース：インドや中国を中心にアジアに広がる美術などの芸術や多様な文化を幅広く学ぶコースです。基礎的教養としてはインド、中国などの歴史や思想・文学を学びつつ、東洋の芸術や文化をより柔軟な視点から理解するための科目を設けています。
4. 東洋思想文化学科の学生は、卒業年次に卒業論文の作成が課されます。学科の教育目標の達成度を測るものですので、学生生活の総決算として論文を完成させてください。

### ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

1. 東洋思想文化学科の教育目標に沿って設定された授業科目を履修し、基準となる単位数を修得することが、学位授与の必要要件です。修得すべき授業科目の中には、講義だけでなく、演習や卒業論文等のさまざまな形態の科目が含まれています。
2. 東洋思想文化学科の教育目標で明示されている、(1) 東洋の思想と文化、ならびにそれを理解するのに役立つ語学、宗教学等に関する豊富な知識、(2) 東洋に特有の価値観や思考法への理解、(3) 自らが直面する様々な問題に対して、独自の視点から分析と考察を行い、自分の見解を論理的に表現し、また、それに基づいて実践することのできる能力、の三つが学習成果として実現されているかどうか、さらには、グローバル化の進む現代社会に貢献できる人材となっているかどうか、が、課程修了の目安になります。

## コース分けについて

### 1. 各コースの概要とコース分けの年次

東洋思想文化学科には主たる学習内容別に4つのコースが設置されている。4コースの概要は以下の通りである。

#### (1) インド思想コース

古代から現代までのインドの思想・宗教を中心に学ぶコースであり、文献講読に必要なインド古典語のサンスクリット語や現代語のヒンディー語なども併せて学習する。

#### (2) 中国語・中国哲学文学コース

中国の古典から現代までの思想・文学あるいは文化事象を学ぶコースである。併せて文献講読に必要な漢文読解力や中国語の語学力を養成する。

#### (3) 仏教思想コース

インド、中国、日本を中心とした仏教の歴史的展開や思想内容を詳しく学ぶコースであり、仏教の理解に必要なサンスクリット語、パーリ語、チベット語、仏教漢文などの語学も学習する。

#### (4) 東洋芸術文化コース

インド、中国、日本などの美術を中心に建築、芸能、音楽などアジアの芸術、文化を総合的に学ぶコースである。併せてサンスクリット語、漢文、ヒンディー語などアジアの外国語も学習する。

1年次の秋学期からコース分けについて指導が行なわれる。それにより学生は各自が希望するコースを検討・決定し、2年次から各コースのカリキュラムにしたがってコース別必修科目、選択必修科目などの履修を開始する。

### 2. 各コースで取得できる教育職員(教員)免許状について

本学科で取得できる教育職員免許状は、コースごとに以下のように決められている。したがって**教育職員免許状を取得希望の者は、コース選択の際、必ず以下の事項を確認すること**。詳細は、P.198 参照。

<各コースで取得できる教育職員免許状の種類>

- |                   |   |
|-------------------|---|
| (1) インド思想コース      | いずれの教育職員免許状も取得できない。   |
| (2) 中国語・中国哲学文学コース | 「中学校教諭1種免許状(国語)」「高等学校教諭1種免許状(国語)」「高等学校教諭1種免許状(書道)」が取得可能である。   |
| (3) 仏教思想コース       | 「中学校教諭1種免許状(社会)」「高等学校教諭1種免許状(地理歴史)」「高等学校教諭1種免許状(公民)」が取得可能である。 |
| (4) 東洋芸術文化コース     | いずれの教育職員免許状も取得できない。   |

### 3. コースに関連した履修上の注意

#### (1) 国際コミュニケーション科目履修上の注意

東洋思想文化学科の学生は「文学部共通科目」中の「国際コミュニケーション科目」については、「英語」4単位を含む8単位以上を履修かつ修得しなければならない。ただし「中国語・中国哲学文学コース」を希望する場合、英語4単位と中国語4単位を履修することが望ましい。

#### (2) 1年次に履修した専門科目について

1年次から履修できる専門科目のうち、選択した2年次からのコースの教育課程表に記載されていない科目は卒業単位にならない(自由科目として単位認定される)。



科目区分		文学部 第2部 東洋思想文化学科 卒業要件			
		インド思想コース	中国語・中国哲学 文学コース	仏教思想コース	東洋芸術文化 コース
共通総合科目 16単位以上	哲 学 ・ 思 想	16単位以上			
	自 然 ・ 環 境 ・ 生 命				
	歴 史 ・ 文 化				
	現 代 ・ 社 会				
	ス ポ ー ツ ・ 健 康				
	情 報 教 育				
	総 合				
	社会人基礎力科目				
	留 学 支 援 科 目				
文学部共通科目 16単位以上	文 学 部 教 育	※文学部共通科目の卒業要件単位数は、国際コミュニケーション科目の8単位を含む、合計16単位以上			
	文学部基礎専門科目				
	国際コミュニケーション科目	8単位以上			
	諸資格関連科目				
	キ ャ リ ア 教 育				
専門科目 74単位以上	各コース共通必修科目	18単位			
	コ ー ス 別 必 修 科 目	16単位	36単位	30単位	16単位
	選 択 必 修 科 目 I	12単位以上	14単位以上	12単位以上	12単位以上
	選 択 必 修 科 目 II	12単位以上	6単位以上	12単位以上	12単位以上
	選 択 科 目				
教 職 科 目					
他学部他学科開放科目					
卒業必要単位数合計		124単位			

※中国語が母国語・母語の外国学生が、中国語・中国哲学文学コースを選択した場合は、国際コミュニケーション科目14単位、コース別必修科目34単位、選択必修科目I10単位の卒業要件となります。

## 第2部東洋思想文化学科

### 共通総合科目

哲学・思想  
自然・環境・生命  
歴史・文化  
現代・社会  
スポーツ・健康  
情報教育  
総合  
社会人基礎力科目  
留学支援科目

共通総合科目は、卒業までに16単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、16単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

- ①スポーツ・健康科目の授業は、すべて白山キャンパスで開講されます。
- ②「スポーツ健康科学実技」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があるため、詳細については『履修登録のしおり・授業時間割』、学内掲示を参照してください。

留学支援科目は、共通総合科目の枠内であるが、16単位の卒業要件には入らない。ただし、卒業単位には算入される。

### 文学部共通科目

文学部教育  
文学部基礎専門科目  
国際コミュニケーション科目  
諸資格関連科目  
キャリア教育

文学部共通科目は、卒業までに国際コミュニケーション科目8単位の卒業要件を充たし、合計16単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、卒業要件を充たし、16単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

#### ◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

日本の伝統芸能 A(2)

日本の伝統芸能 B(2)

### 国際コミュニケーション科目

「英語」4単位を含む8単位以上を履修かつ修得しなければならない。

ただし「中国語・中国哲学文学コース」を希望する場合は、英語4単位と中国語4単位を履修することが望ましい。

#### ◇語学セミナー

本学では、「東洋大学語学セミナー（英語・中国語）」を実施している。このセミナーに参加し、条件を充たすことにより国際コミュニケーション科目の1科目の単位を認定する。単位認定対象科目は以下の通りである。

「英語 IAB」「英語 IBB」「英語 IIAB」「英語 IIBB」

「中国語 IAB」「中国語 IBB」「中国語 IIAB」「中国語 IIBB」

※セミナーの詳細は、「V 留学制度について」(P. 248)を参照すること。

キャリア教育

インターンシップ・ボランティア活動は、文学部が認定する機関で就業体験やボランティア活動を行い、単位認定の条件を充たした場合、単位を認定する。

詳細は、シラバス（講義要項）を参照すること。

## 専 門 科 目

東洋思想文化学科の各コース専門科目は、卒業までに**74単位以上**を履修かつ修得しなければならない。この74単位のうち、以下の各科目区分の卒業要件を充たさなければならない。また各科目区分および専門科目の卒業要件を充たし、**74単位を超過して履修かつ修得した選択必修科目と選択科目の単位数も、卒業単位として算入する。**

必修科目

各コースの必修科目に設置されている全ての科目の単位（インド思想コース 34 単位、中国語・中国哲学文学コース 54 単位、仏教思想コース 48 単位、東洋芸術文化コース 34 単位）を履修かつ修得しなければならない。なお、卒業論文は必修であるため、1年次から計画を立て研究室の掲示等に注意すること。ただし、4年次の「卒論指導」「卒業論文」の履修登録は、**3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の卒業見込みの学生に限る。**

選択必修科目

選択必修科目は各コースに「選択必修科目Ⅰ」と「選択必修科目Ⅱ」が設定されており、各コースの教育課程表（専門科目）に示された所定の科目から選択して履修かつ修得しなければならない。

「インド思想コース」「仏教思想コース」「東洋芸術文化コース」の3コースでは「選択必修科目Ⅰ」のうち語学科目4単位以上と講義科目8単位以上の計12単位以上修得し、また「選択必修科目Ⅱ」を12単位以上修得しなければならない。

「中国語・中国哲学文学コース」では「選択必修科目Ⅰ」のうち語学科目4単位以上と講義科目10単位以上の計14単位以上を修得し、また「選択必修科目Ⅱ」を6単位以上修得しなければならない。

**選択必修科目の必要修得単位数はコースによって異なるので、注意が必要である。**

選択科目

各コースの選択科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

実技講義科目および海外研修

科目によっては集中講義となる場合や1部時間帯のみ開講する場合、また別途費用が必要となる場合があるので、「シラバス（講義要項）」等で十分に確認したうえで履修すること。

<科目の開講について>

◇通年履修科目

下記科目は通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

中国学概論 A(2)	中国哲学講読 A(2)
中国学概論 B(2)	中国哲学講読 B(2)
中国文献学 A(2)	中国文学講読 A(2)
中国文献学 B(2)	中国文学講読 B(2)
中国哲学史 A(2)	中国哲学特講 I A(2)
中国哲学史 B(2)	中国哲学特講 I B(2)
中国文学史 A(2)	中国文学特講 I A(2)
中国文学史 B(2)	中国文学特講 I B(2)
中国現代文学史 A(2)	中国文化史 A(2)
中国現代文学史 B(2)	中国文化史 B(2)
中国学研究法 A(2)	中国語 IV A(1)
中国学研究法 B(2)	中国語 IV B(1)
中国史概論 A(2)	中国語 V A(1)
中国史概論 B(2)	中国語 V B(1)
日本漢学 A(2)	中国語 VI A(1)
日本漢学 B(2)	中国語 VI B(1)
中国文字学 A(2)	中国語 VII A(1)
中国文字学 B(2)	中国語 VII B(1)

◇第1部時間帯のみでの開講科目

下記科目は第1部時間帯のみの開講となる。

履修を希望する場合は第1部時間割を参照すること。

サンスクリット語Ⅱ A(1)	古文書学 I (4)
サンスクリット語Ⅱ B(1)	韓国語 A(1)
パーリ語 A(1)	韓国語 B(1)
パーリ語 B(1)	ヒンディー語 A(1)
チベット語 A(1)	ヒンディー語 B(1)
チベット語 B(1)	イスラーム概論(2)
宗教学概論 A(2)	キリスト教概論(2)
宗教学概論 B(2)	

◇隔年開講科目

下記科目は隔年で開講となる。

履修を希望する場合は、開講年度に注意すること。

インド現代思想(2)	中国語 V A(1)
現代のインド(2)	中国語 V B(1)
仏教と社会福祉(2)	中国語 VI A(1)
現代に生きる仏教(2)	中国語 VI B(1)
インド思想特講 I A(2)	中国語 VII A(1)
インド思想特講 I B(2)	中国語 VII B(1)
インド思想特講 II A(2)	東洋芸術文化特講 I A(2)
インド思想特講 II B(2)	東洋芸術文化特講 I B(2)
韓国仏教史(2)	東洋芸術文化特講 II A(2)
仏教思想特講 I A(2)	東洋芸術文化特講 II B(2)
仏教思想特講 I B(2)	神道史 A(2)
仏教思想特講 II A(2)	神道史 B(2)
仏教思想特講 II B(2)	近世日本思想 A(2)
中国語 IV A(1)	近世日本思想 B(2)
中国語 IV B(1)	

◇第1部・第2部いずれかの時間帯で開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

韓国文化事情 A(2)	中国現代文学史 A(2)
韓国文化事情 B(2)	中国現代文学史 B(2)
日本の古典籍 A(2)	東洋の身体論(2)
日本の古典籍 B(2)	近代化と東洋(2)
教職国語(古典) A(2)	日本民俗学 A(2)
教職国語(古典) B(2)	日本民俗学 B(2)
教職国語(現代文) A(2)	
教職国語(現代文) B(2)	

教 職 科 目

東洋思想文化学科教育課程表にある教職科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

教職科目は、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することができる。

他学部他学科開放科目(専門開放科目)

別(p.192)に定める他学部他学科開放科目(専門開放科目)を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

自由科目

東洋思想文化学科教育課程表にない科目で、なおかつ、前項の他学部他学科開放科目(専門開放科目)として提示されていない科目の履修を希望する場合は、履修する学部学科の配当学年にしたがい、担当教員の許可を得て、卒業単位にならない自由科目として履修することができる。ただし、年間履修最高単位数(48単位)を超えて履修することはできない。なお、以下の科目も履修できないので注意すること。

1. カリキュラム年度の異なる科目
2. 第1部開講の科目
3. 所属する学部学科の科目と同一名称の科目



◇東洋思想文化学科第1部・第2部間相互聴講制度による相互聴講科目

東洋思想文化学科第1部・第2部間でのみ相互聴講を認める。

履修条件は、以下の通りである。

- (1) 以下の第1部東洋思想文化学科提供科目群のうち、卒業までに40単位を超えて履修かつ修得することはできない。
- (2) 科目提供主体（第1部）の学年配当にしたがって履修しなければならない。
- (3) 年間履修最高単位数（48単位）に算入する。
- (4) 履修かつ修得した単位は、専門科目として、卒業単位に算入する。
- (5) 履修方法  
第1部提供科目の履修を希望する場合は、第2部の科目と同様に履修登録をすること。
- (6) 対象科目（第1部東洋思想文化学科提供科目群）

インド思想史 A(2)	インド・仏教の美術 B(2)
インド思想史 B(2)	中国の美術 A(2)
インド古典思想概論 A(2)	中国の美術 B(2)
インド古典思想概論 B(2)	日本漢学 A(2)
ヒンドゥー教概論 A(2)	日本漢学 B(2)
ヒンドゥー教概論 B(2)	中国哲学特講 I A(2)
仏教思想概論 A(2)	中国哲学特講 I B(2)
仏教思想概論 B(2)	中国文学特講 I A(2)
インド仏教史 A(2)	中国文学特講 I B(2)
インド仏教史 B(2)	チベット仏教史(2)
中国仏教史 A(2)	中国哲学講読 A(1)
中国仏教史 B(2)	中国哲学講読 B(1)
日本仏教史 A(2)	中国文学講読 A(1)
日本仏教史 B(2)	中国文学講読 B(1)
中国史概説 A(2)	東西交渉文化史 A(2)
中国史概説 B(2)	東西交渉文化史 B(2)
インド文化概論 A(2)	
インド文化概論 B(2)	
中国文化史 A(2)	
中国文化史 B(2)	
中国文字学 A(2)	
中国文字学 B(2)	
インド・仏教の美術 A(2)	

※「中国史概論 A」「中国史概論 B」の第1部の科目名称は、「中国史概説 A」「中国史概説 B」になるので、第1部時限帯で履修を希望する場合は注意すること。

なお、第1部時限帯の「中国史概説 A」「中国史概説 B」を履修かつ修得した場合は、「中国史概論 A」「中国史概論 B」に読み替え修得したこととする。

2013 年度入学生用 文学部第 2 部東洋思想文化学科 教育課程表 (共通総合科目)

区 分		第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年			
共通総合科目	16 単位以上	哲学・思想	哲学 A(2) 哲学史 A(2) 倫理学 A(2) 芸術学 A(2)	哲学 B(2) 哲学史 B(2) 倫理学 B(2) 芸術学 B(2)	宗教学 I A(2) 宗教学 II A(2) 東洋思想 A(2) 地域文化研究 A(2)	宗教学 I B(2) 宗教学 II B(2) 東洋思想 B(2) 地域文化研究 B(2)		
			自然・環境・生命	自然の数理 A(2) 生活と物理 A(2) エネルギーの科学 A(2) 物質の科学 A(2)	自然の数理 B(2) 生活と物理 B(2) エネルギーの科学 B(2) 物質の科学 B(2)	環境の科学 A(2) 地球の科学 A(2) 生物学 A(2) 天文学 A(2)	環境の科学 B(2) 地球の科学 B(2) 生物学 B(2) 天文学 B(2)	
				自然科学概論 A(2) 自然誌 A(2) 生物学実験講義 A(2) 化学実験講義 A(2)	自然科学概論 B(2) 自然誌 B(2) 生物学実験講義 B(2) 化学実験講義 B(2)	数理・情報実習講義 A(2)	数理・情報実習講義 B(2)	
				歴史・文化	百人一首の文化史 A(2) 日本の昔話 A(2) 日本文学文化と風土 A(2) 日本の詩歌 A(2)	百人一首の文化史 B(2) 日本の昔話 B(2) 日本文学文化と風土 B(2) 日本の詩歌 B(2)	西欧文学 A(2) 現代日本文学 A(2) 地域史 A(2) 歴史の諸問題 A(2)	西欧文学 B(2) 現代日本文学 B(2) 地域史 B(2) 歴史の諸問題 B(2)
		現代・社会			経済学 A(2) 法 学(2) 政治学 A(2) 社会学 A(2)	経済学 B(2) 日本国憲法(2) 政治学 B(2) 社会学 B(2)	人類学 A(2) 地理学 A(2) 心理学 A(2) 旅と言語(2)	人類学 B(2) 地理学 B(2) 心理学 B(2) 観光の歴史(2)
					スポーツ・健康	スポーツ健康科学実技 A(1) スポーツ健康科学講義 I(2) スポーツ健康科学講義 II A(2)	スポーツ健康科学実技 B(1) スポーツ健康科学講義 II B(2)	
		情報教育			情報化社会と人間(2) コンピュータ・リテラシー A(2) コンピュータ・リテラシー B(2)			
		総合	総合 I A(2) 総合 II A(2) 総合 III A(2) 総合 IV A(2)	総合 I B(2) 総合 II B(2) 総合 III B(2) 総合 IV B(2)	総合 V A(2) 総合 VI A(2) 総合 VII A(2) 全学総合 I A(2)	総合 V B(2) 総合 VI B(2) 総合 VII B(2) 全学総合 I B(2)		
			全学総合 II A(2)	全学総合 II B(2)				
			社会人基礎力科目	社会人基礎力入門講義(2)	社会人基礎力実践講義(2)	キャリアデベロップメント論(2) 社会貢献活動入門(2) 公務員論(2)		
英語特別教育科目	Special Course in Advanced TOEFL I(4)			Special Course in Advanced TOEFL II(4)				

2013 年度入学生用 文学部第 2 部東洋思想文化学科 教育課程表（文学部共通科目）

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年	
文学部教育	東洋大学・井上円了研究(2) 伝統文化講座(2) 情報処理演習 A(1) 情報処理演習 B(1)				
文学部基礎専門科目	生涯学習概論 I(2) 特別支援教育概論 I(2)				
	英語圏文学文化と日本 A(2) ドイツ語圏文学文化と日本 A(2) フランス語圏文学文化と日本 A(2) 日本の伝統行事 A(2) 英語圏文学文化と日本 B(2) ドイツ語圏文学文化と日本 B(2) フランス語圏文学文化と日本 B(2) 日本の伝統行事 B(2) 日本の伝統芸能 A(2) 家族心理学(2) 家庭教育論(2) 生涯学習概論 II(2) 日本の伝統芸能 B(2) 児童文化研究(2) 女性問題と学習(2) 特別支援教育概論 II(2)		児童文学 A(2) 児童文学 B(2)		
文学部共通科目 16 単位以上	国際コミュニケーション科目 8 単位以上	英語	英語 I A A(1) 英語 I A B(1) 英語 I B A(1) 英語 I B B(1)	英語 II A A(1) 英語 II A B(1) 英語 II B A(1) 英語 II B B(1)	
		ドイツ語	ドイツ語 I A A(1) ドイツ語 I A B(1) ドイツ語 I B A(1) ドイツ語 I B B(1)	ドイツ語 II A A(1) ドイツ語 II A B(1) ドイツ語 II B A(1) ドイツ語 II B B(1)	
		フランス語	フランス語 I A A(1) フランス語 I A B(1) フランス語 I B A(1) フランス語 I B B(1)	フランス語 II A A(1) フランス語 II A B(1) フランス語 II B A(1) フランス語 II B B(1)	
		中国語	中国語 I A A(1) 中国語 I A B(1) 中国語 I B A(1) 中国語 I B B(1)	中国語 II A A(1) 中国語 II A B(1) 中国語 II B A(1) 中国語 II B B(1)	
	英語 I A A・英語 I A B・英語 I B A 英語 I B B 必修、以外に太枠内の英語を含む 1 ヶ国語 4 科目 4 単位選択必修				
諸資格関連科目	教育基礎論(2) 教育制度論(2)				
	社会教育計画論 I(2) 社会教育計画論 II(2) 視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)(2) 図書館概論(2) 情報サービス論(2) 児童サービス論(2) 図書館制度・経営論(2) 図書館サービス概論(2) 情報サービス演習 A(1) 情報資源組織演習 A(1) 図書館情報資源概論(2) 情報資源組織論(2) 図書館情報技術論(2) 情報サービス演習 B(1) 情報資源組織演習 B(1) 図書館情報資源特論(2) 図書・図書館史(2) 学習指導と学校図書館(2) 学校経営と学校図書館(2) 学校図書館メディアの構成(2) 読書と豊かな人間性(2) 情報メディアの活用(2)				
キャリア教育	キャリア支援 I(2) キャリア支援 II(2) インターンシップ(2)		教員養成講座 I(2) 教員養成講座 II(2) ボランティア活動(2)		

※ 2 年次のコース分けで中国語・中国哲学文学コースを選択することを希望している場合は、「英語 I A A」・「英語 I A B」・「英語 I B A」・「英語 I B B」以外に、「中国語 I A A」・「中国語 I A B」・「中国語 I B A」・「中国語 I B B」を 1 年次に履修することが望ましい。

※ 中国語・中国哲学文学コースの外国学生（母国語・母語が中国語）は、英・独・仏から 1 ヶ国語 6 単位選択必修。

2013年度入学生用 文学部第2部東洋思想文化学科 インド思想コース 教育課程表(専門科目)

区 分		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
専 門 科 目 74 単 位 以 上	必修科目 34単位	各コース共通 必修16単位	東洋思想文化への誘いA(2) 東洋思想文化への誘いB(2) レポート・論文制作の技法(2)	東洋思想文化演習Ⅰ(2)	東洋思想文化演習Ⅱ(2)	卒 論 指 導(2) 卒 業 論 文(6)
		コース別 必修16単位		インド思想史 A(2) インド思想史 B(2) ヒンドゥー教概論 A(2) ヒンドゥー教概論 B(2) 仏教思想概論 A(2) 仏教思想概論 B(2)	インド仏教史 A(2) インド仏教史 B(2) インド文化概論 A(2) インド文化概論 B(2) 東南アジア仏教史(2)	インド古典思想概論A(2) インド古典思想概論B(2) インド・仏教の美術A(2) インド・仏教の美術B(2)
	選択必修科目Ⅰ 12単位以上	科目 講義		インド思想特講ⅠA(2) インド思想特講ⅠB(2)	インド思想特講ⅡA(2) インド思想特講ⅡB(2)	
		実技科目 義科目	写 経(2) イ ン ド 舞 踊(2)	ヨ ー ガ(2) 日 本 の 宗 教 を 歩 く(2)	坐 禅(2)	仏 教 の 芸 能(2)
		実技科目	書 道 I A(1) 書 道 I B(1)	書 道 II A(1) 書 道 II B(1) 書 道 III A(1) 書 道 III B(1)	書 道 IV A(1) 書 道 IV B(1)	創 作 書 道 A(1) 創 作 書 道 B(1)
	選 択 必 修 科 目 Ⅱ 12 単 位 以 上	語 学 科 目	基 礎 中 国 語 A(1) 基 礎 中 国 語 B(1)	サンスクリット語ⅠA(1) サンスクリット語ⅠB(1) チベット語A(1) チベット語B(1) 中国語ⅤA(1) 中国語ⅤB(1) 中国語学演習A(1) 中国語学演習B(1)	パ ー リ 語 A(1) パ ー リ 語 B(1) 仏 教 漢 文 A(1) 仏 教 漢 文 B(1) 中 国 語 Ⅵ A(1) 中 国 語 Ⅵ B(1) 韓 国 語 A(1) 韓 国 語 B(1)	ヒ ン デ ィ ー 語 A(1) ヒ ン デ ィ ー 語 B(1) 中 国 語 Ⅳ A(1) 中 国 語 Ⅳ B(1) 中 国 語 Ⅶ A(1) 中 国 語 Ⅶ B(1)
					サンスクリット語ⅡA(1) サンスクリット語ⅡB(1)	
	選 択 必 修 科 目 Ⅱ 12 単 位 以 上	講 義 科 目	宗 教 を め ぐ る 諸 問 題 A(2) 宗 教 を め ぐ る 諸 問 題 B(2) 中 国 文 学 文 化 と 日 本 A(2) 中 国 文 学 文 化 と 日 本 B(2) 哲 学 概 論 A(2) 哲 学 概 論 B(2) イ ン ド 現 代 思 想(2) 現 代 の イ ン ド(2)	宗 教 学 概 論 A(2) 宗 教 学 概 論 B(2) 比 較 文 学 文 化 概 説 A(2) 比 較 文 学 文 化 概 説 B(2) 倫 理 学 概 論 A(2) 倫 理 学 概 論 B(2) 仏 教 と 社 会 福 祉(2) 現 代 に 生 き る 仏 教(2)	東 洋 の 身 体 論(2) 近 代 化 と 東 洋(2) 日 本 文 学 文 化 概 説 A(2) 日 本 文 学 文 化 概 説 B(2) 心 理 学 概 論 A(2) 心 理 学 概 論 B(2) 中 国 学 研 究 法 A(2) 中 国 学 研 究 法 B(2)	韓 国 文 化 事 情 A(2) 韓 国 文 化 事 情 B(2) 古 文 書 学 I(4) 日 本 文 学 文 化 概 説 B(2) キ リ ス ト 教 概 論(2) イ ス ラ ム 概 論(2) 漢 文 訓 読 法(2)
			書 道 史 A(2) 書 道 史 B(2)	仏 教 思 想 特 講 I A(2) 仏 教 思 想 特 講 I B(2) 中 国 文 学 特 講 I A(2) 中 国 文 学 特 講 I B(2) 東 西 交 渉 文 化 史 A(2) 東 西 交 渉 文 化 史 B(2) 中 国 史 概 論 A(2) 中 国 史 概 論 B(2) 中 国 文 化 史 A(2) 中 国 文 化 史 B(2) 中 国 哲 学 史 A(2) 中 国 哲 学 史 B(2) 中 国 哲 学 講 読 A(1) 中 国 哲 学 講 読 B(1) 日 本 漢 学 A(2)	仏 教 思 想 特 講 II A(2) 仏 教 思 想 特 講 II B(2) 東 洋 芸 術 文 化 特 講 I A(2) 東 洋 芸 術 文 化 特 講 I B(2) 中 国 学 概 論 A(2) 中 国 学 概 論 B(2) 中 国 文 献 学 A(2) 中 国 文 献 学 B(2) 中 国 文 字 学 A(2) 中 国 文 字 学 B(2) 中 国 の 美 術 A(2) 中 国 の 美 術 B(2) 中 国 現 代 文 学 史 A(2) 中 国 現 代 文 学 史 B(2) 韓 国 仏 教 史(2) チ ベ ッ ト 仏 教 史(2) 日 本 の 美 術 A(2)	

(次ページに続く)

区 分		第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年
専門科目 74 単位以上	選択必修科目Ⅱ 12 単位以上	講義科目	日本漢学 B(2) 日本仏教史 B(2) 日本の美術 B(2)	神道史 A(2) 近世日本思想 A(2) 比較宗教 A(2)	神道史 B(2) 近世日本思想 B(2) 比較宗教 B(2)
			宗教社会学 A(2) 日本民俗学 A(2)	宗教社会学 B(2) 日本民俗学 B(2)	書論 A(2)
	海外研修	海外文化研修 I(2)	海外文化研修 II(2)		
	選択科目	古典文法 A(2)	古典文法 B(2)		
古代日本文学史 A(2) 中世日本文学史 A(2) 近世日本文学史 A(2) 近現代日本文学史 A(2)		古代日本文学史 B(2) 中世日本文学史 B(2) 近世日本文学史 B(2) 近現代日本文学史 B(2)	日本語概説 A(2) 作家作品研究(上代) A(2) 作家作品研究(中古) A(2) 作家作品研究(中世) A(2)	日本語概説 B(2) 作家作品研究(上代) B(2) 作家作品研究(中古) B(2) 作家作品研究(中世) B(2)	作家作品研究(近世) A(2) 作家作品研究(近現代) A(2) 教職国語(古典) A(2) 教職国語(現代文) A(2)
他学部他学科開放科目 (専門開放科目)		科目は別表に記載			

- 備考
1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
  2. ( ) は該当科目の単位数。
  3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
  4. 4年次の「卒業論文」「卒論指導」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の卒業見込みの学生に限る。
  5. 「創作書道A」「創作書道B」の履修は「書道ⅢA」と「書道ⅢB」または「書道ⅣA」と「書道ⅣB」の単位を修得した学生に限る。
  6. 「教職国語(現代文)A」「教職国語(現代文)B」「教職国語(古典)A」「教職国語(古典)B」は、中学・高校国語科教員として教壇に立つことを想定し、それに必要な教養・文法理解・読解力を養うための科目である。ただし、教育職員免許状を取得するために必要な科目に該当しないので注意すること。

2013年度入学生用 文学部第2部東洋思想文化学科 中国語・中国哲学文学コース 教育課程表（専門科目）

区 分		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年		
専 門 科 目 74 単 位 以 上	必修科目 54単位	各1共通 修13単位 東洋思想文化への誘いA(2) 東洋思想文化への誘いB(2) レポート・論文制作の技法(2)	東洋思想文化演習Ⅰ(2)	東洋思想文化演習Ⅱ(2)	卒業指導(2) 卒業論文(6)		
			必修 36単位 コース別	中国学概論 A(2) 中国学概論 B(2) 中国哲学史 A(2) 中国哲学史 B(2) 中国哲学講読 A(1) 中国哲学講読 B(1)	中国文献学 A(2) 中国文献学 B(2) 中国哲学特講ⅠA(2) 中国哲学特講ⅠB(2) 中国文学講読 A(1) 中国文学講読 B(1)	中国文学史 A(2) 中国文学史 B(2) 中国文学特講ⅠA(2) 中国文学特講ⅠB(2)	
				漢文訓読法(2)	中国学研究法 A(2)	中国学研究法 B(2)	
	4単位以上 語学科目	中国語ⅣA(1) 中国語ⅣB(1) 中国語ⅦA(1) 中国語ⅦB(1)		中国語ⅤA(1) 中国語ⅤB(1) 中国語学演習A(1) 中国語学演習B(1)	中国語ⅥA(1) 中国語ⅥB(1)		
		10単位以上 講義科目	中国現代文学史A(2) 中国現代文学史B(2) 中国史概論A(2) 中国史概論B(2)	中国文化史A(2) 中国文化史B(2) 日本漢学A(2) 日本漢学B(2)	中国文字学A(2) 中国文字学B(2) 日本の古典籍A(2) 日本の古典籍B(2)		
	専 門 科 目 74 単 位 以 上	選択必修科目Ⅱ 6単位以上	講 義 科 目	宗教をめぐる諸問題A(2) 宗教をめぐる諸問題B(2) 中国文学文化と日本A(2) 中国文学文化と日本B(2) 哲学概論A(2) 哲学概論B(2) 仏教と社会福祉(2) 現代に生きる仏教(2) 中世日本文学史A(2) 中世日本文学史B(2) 作家作品研究(中古)A(2) 作家作品研究(中古)B(2) 教職国語(古典)A(2) 教職国語(古典)B(2)	宗教学概論A(2) 宗教学概論B(2) 比較文学文化概説A(2) 比較文学文化概説B(2) 倫理学概論A(2) 倫理学概論B(2) 日本語概説A(2) 日本語概説B(2) 近世日本文学史A(2) 近世日本文学史B(2) 作家作品研究(中世)A(2) 作家作品研究(中世)B(2) 教職国語(現代文)A(2) 教職国語(現代文)B(2)	東洋の身体論(2) 近代化と東洋(2) 日本文学文化概説A(2) 日本文学文化概説B(2) 心理学概論A(2) 心理学概論B(2) 日本史A(2) 日本史B(2) 近現代日本文学史A(2) 近現代日本文学史B(2) 作家作品研究(近世)A(2) 作家作品研究(近世)B(2)	韓国文化事情A(2) 韓国文化事情B(2) 古文書学Ⅰ(4) キリスト教概論(2) イスラーム概論(2) 古代日本文学史A(2) 古代日本文学史B(2) 作家作品研究(上代)A(2) 作家作品研究(上代)B(2) 作家作品研究(近現代)A(2) 作家作品研究(近現代)B(2)
				書道史A(2) 書道史B(2)	東西交渉文化史A(2) 東西交渉文化史B(2) インド仏教史A(2) インド仏教史B(2) ヒンドゥー教概論A(2) ヒンドゥー教概論B(2) 中国の美術A(2) 中国の美術B(2) 日本仏教史A(2) 日本仏教史B(2) 近世日本思想A(2) 近世日本思想B(2) 日本民俗学A(2) 日本民俗学B(2) 現代語文法A(2) 現代語文法B(2)	インド文化概論A(2) インド文化概論B(2) インド古典思想概論A(2) インド古典思想概論B(2) インド・仏教の美術A(2) インド・仏教の美術B(2) 中国仏教史A(2) 中国仏教史B(2) 日本の美術A(2) 日本の美術B(2) 比較宗教A(2) 比較宗教B(2) 仏教漢文A(1) 仏教漢文B(1) 古典文法A(2) 古典文法B(2)	インド思想史A(2) インド思想史B(2) 仏教思想概論A(2) 仏教思想概論B(2) 東南アジア仏教史(2) チベット仏教史(2) 韓国仏教史(2) 神道史A(2) 神道史B(2) 宗教社会学A(2) 宗教社会学B(2) 日本語史A(2) 日本語史B(2)
				書道ⅠA(1) 書道ⅠB(1)	書道ⅡA(1) 書道ⅡB(1) 書道ⅢA(1) 書道ⅢB(1)	書道ⅣA(1) 書道ⅣB(1)	創作書道A(1) 創作書道B(1)
				教職科目	国語科教育論Ⅰ(2) 国語科教育論Ⅱ(2)	国語科指導法Ⅰ(2) 国語科指導法Ⅱ(2) 書道科指導法Ⅰ(2) 書道科指導法Ⅱ(2)	教職実践演習(中・高)(2)
				他学部他学科開放科目 (専門開放科目)	科目は別表に記載		

(次ページに続く)



- 備考
1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
  2. ( ) は該当科目の単位数。
  3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
  4. 中国語が母国語・母語の外国学生は、必修科目の「基礎中国語 A」「基礎中国語 B」、選択必修科目 I の語学科目 4 単位の代わりとして、文学部共通科目国際コミュニケーション科目のうち 1・2 年次の英語・ドイツ語・フランス語から 1ヶ国語 6 単位を選択必修とする。
  5. 「国語科教育論 I」「国語科教育論 II」「国語科指導法 I」「国語科指導法 II」「書道科指導法 I」「書道科指導法 II」「教職実践演習 (中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。
  6. 4 年次の「卒業論文」「卒論指導」の履修登録は、3 年次終了時点で未修得単位数が 48 単位以下の卒業見込みの学生に限る。
  7. 「創作書道 A」「創作書道 B」の履修は「書道 III A」と「書道 III B」または「書道 IV A」と「書道 IV B」の単位を修得した学生に限る。
  8. 「教職国語 (現代文) A」「教職国語 (現代文) B」「教職国語 (古典) A」「教職国語 (古典) B」は、中学・高校国語科教員として教壇に立つことを想定し、それに必要な教養・文法理解・読解力を養うための科目である。ただし、教育職員免許状を取得するために必要な科目に該当しないので注意すること。

2013 年度入学生用 文学部第 2 部東洋思想文化学科 仏教思想コース 教育課程表 (専門科目)

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年		
必修科目 48 単位	各コース共通 必修18単位	東洋思想文化への誘い A(2) 東洋思想文化への誘い B(2) レポート・論文制作の技法(2)	東洋思想文化演習 I(2)	東洋思想文化演習 II(2)	卒 論 指 導(2) 卒 業 論 文(6)	
		コース別必修 30 単位	インド仏教史 A(2) インド仏教史 B(2) 日本仏教史 A(2) 日本仏教史 B(2) 比較宗教 A(2) 比較宗教 B(2)	仏教思想概論 A(2) 仏教思想概論 B(2) 東西交渉文化史 A(2) 東西交渉文化史 B(2) チベット仏教史(2)	中国仏教史 A(2) 中国仏教史 B(2) インド思想史 A(2) インド思想史 B(2)	
	選択必修科目 I 12 単位以上	講義科目		仏教思想特講 I A(2) 仏教思想特講 I B(2)	仏教思想特講 II A(2) 仏教思想特講 II B(2)	
		実技講義科目	写 経(2) インド舞踊(2)	ヨ ー ガ(2) 日本の宗教を歩く(2)	坐 禪(2)	仏教の芸能(2)
		実技科目	書 道 I A(1) 書 道 I B(1)	書 道 II A(1) 書 道 II B(1) 書 道 III A(1) 書 道 III B(1)	書 道 IV A(1) 書 道 IV B(1)	創 作 書 道 A(1) 創 作 書 道 B(1)
	専門科目 74 単位以上	語学科目	基礎中国語 A(1) 基礎中国語 B(1)	サンスクリット語 I A(1) サンスクリット語 I B(1) チベット語 A(1) チベット語 B(1) 中国語 VA(1) 中国語 VB(1) 中国語学演習 A(1) 中国語学演習 B(1)	パ ー リ 語 A(1) パ ー リ 語 B(1) 仏教漢文 A(1) 仏教漢文 B(1) 中国語 VI A(1) 中国語 VI B(1) 韓国語 A(1) 韓国語 B(1)	ヒンディー語 A(1) ヒンディー語 B(1) 中国語 IVA(1) 中国語 IVB(1) 中国語 VIIA(1) 中国語 VIIB(1)
					サンスクリット語 II A(1) サンスクリット語 II B(1)	
	選択必修科目 II 12 単位以上	講義科目	宗教をめぐる諸問題 A(2) 宗教をめぐる諸問題 B(2) 中国文学文化と日本 A(2) 中国文学文化と日本 B(2) 哲学概論 A(2) 哲学概論 B(2) インド現代思想(2) 現代のインド(2)	宗 教 学 概 論 A(2) 宗 教 学 概 論 B(2) 比較文学文化概説 A(2) 比較文学文化概説 B(2) 倫 理 学 概 論 A(2) 倫 理 学 概 論 B(2) 仏教と社会福祉(2) 現代に生きる仏教(2)	東 洋 の 身 体 論(2) 近代化と東洋(2) 日本文学文化概説 A(2) 日本文学文化概説 B(2) 心 理 学 概 論 A(2) 心 理 学 概 論 B(2) 中国学研究法 A(2) 中国学研究法 B(2)	韓 国 文 化 事 情 A(2) 韓 国 文 化 事 情 B(2) 古 文 書 学 I(4) 東洋芸術文化特講 I A(2) 東洋芸術文化特講 I B(2) インド・仏教の美術 A(2) インド・仏教の美術 B(2) 中国学概論 A(2) 中国学概論 B(2) 中国史概論 A(2) 中国史概論 B(2) 中国文学特講 I A(2) 中国文学特講 I B(2) 中国文学特講 II A(2) 中国文学特講 II B(2) 中国の美術 A(2) 中国の美術 B(2) 中国現代文学史 A(2) 中国現代文学史 B(2)
			書 道 史 A(2) 書 道 史 B(2)	インド思想特講 I A(2) インド思想特講 I B(2) 中国哲学特講 I A(2) 中国哲学特講 I B(2) インド文化概論 A(2) インド文化概論 B(2) ヒンドゥー教概論 A(2) ヒンドゥー教概論 B(2) 中国文献学 A(2) 中国文献学 B(2) 中国の美術 A(2) 中国の美術 B(2) 中国現代文学史 A(2) 中国現代文学史 B(2)	インド思想特講 II A(2) インド思想特講 II B(2) 東洋芸術文化特講 II A(2) 東洋芸術文化特講 II B(2) インド・仏教の美術 A(2) インド・仏教の美術 B(2) インド古典思想概論 A(2) インド古典思想概論 B(2) 中国学概論 A(2) 中国学概論 B(2) 中国史概論 A(2) 中国史概論 B(2) 中国文字学 A(2) 中国文字学 B(2) 中国哲学史 A(2) 中国哲学史 B(2) 中国哲学講読 A(1) 中国哲学講読 B(1)	中国哲学特講 I A(2) 中国哲学特講 I B(2) 東洋芸術文化特講 II A(2) 東洋芸術文化特講 II B(2) インド古典思想概論 A(2) インド古典思想概論 B(2) 中国史概論 A(2) 中国史概論 B(2) 中国文化史 A(2) 中国文化史 B(2) 中国文学史 A(2) 中国文学史 B(2) 中国文学講読 A(1) 中国文学講読 B(1)

(次ページに続く)

区 分		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
専 門 科 目 74	選 択 必 修 科 目 Ⅱ 12 単 位 以 上	講 義 科 目	東 南 ア ジ ア 仏 教 史(2)	日 本 漢 学 B(2)	日 本 の 美 術 B(2)
	神 道 史 A(2)		近 世 日 本 思 想 A(2)		
単 位 以 上	選 択 科 目	研 修 海 外	神 道 史 B(2)	近 世 日 本 思 想 B(2)	
			宗 教 社 会 学 A(2)	日 本 民 俗 学 A(2)	
他 学 部 他 学 科 開 放 科 目 ( 専 門 開 放 科 目)			宗 教 社 会 学 B(2)	日 本 民 俗 学 B(2)	
				書 論 A(2)	書 論 B(2)
単 位 以 上	選 択 科 目	研 修 海 外	海 外 文 化 研 修 I(2)		
			海 外 文 化 研 修 II(2)		
他 学 部 他 学 科 開 放 科 目 ( 専 門 開 放 科 目)			古 典 文 法 A(2)		
			古 典 文 法 B(2)		
他 学 部 他 学 科 開 放 科 目 ( 専 門 開 放 科 目)			古 代 日 本 文 学 史 A(2)	中 世 日 本 文 学 史 A(2)	近 世 日 本 文 学 史 A(2)
			古 代 日 本 文 学 史 B(2)	中 世 日 本 文 学 史 B(2)	近 世 日 本 文 学 史 B(2)
他 学 部 他 学 科 開 放 科 目 ( 専 門 開 放 科 目)			日 本 語 概 説 A(2)	作 家 作 品 研 究 (上 代) A(2)	作 家 作 品 研 究 (中 古) A(2)
			日 本 語 概 説 B(2)	作 家 作 品 研 究 (上 代) B(2)	作 家 作 品 研 究 (中 古) B(2)
他 学 部 他 学 科 開 放 科 目 ( 専 門 開 放 科 目)			作 家 作 品 研 究 (近 世) A(2)	作 家 作 品 研 究 (近 現 代) A(2)	教 職 国 語 (古 典) A(2)
			作 家 作 品 研 究 (近 世) B(2)	作 家 作 品 研 究 (近 現 代) B(2)	教 職 国 語 (古 典) B(2)
他 学 部 他 学 科 開 放 科 目 ( 専 門 開 放 科 目)			日 本 史 A(2)	外 国 史 A(2)	地 誌 学 A(2)
			日 本 史 B(2)	外 国 史 B(2)	地 誌 学 B(2)
他 学 部 他 学 科 開 放 科 目 ( 専 門 開 放 科 目)			人 文 地 理 学 A(2)		自 然 地 理 学 A(2)
			人 文 地 理 学 B(2)		自 然 地 理 学 B(2)
他 学 部 他 学 科 開 放 科 目 ( 専 門 開 放 科 目)			国 際 法 A(2)	社 会 ・ 地 歴 指 導 法 I(2)	教 職 実 践 演 習 (中 ・ 高)(2)
			国 際 法 B(2)	社 会 ・ 地 歴 指 導 法 II(2)	
他 学 部 他 学 科 開 放 科 目 ( 専 門 開 放 科 目)			政 治 学 原 論 A(2)	社 会 ・ 公 民 指 導 法 I(2)	
			政 治 学 原 論 B(2)	社 会 ・ 公 民 指 導 法 II(2)	
他学部他学科開放科目 (専門開放科目)		科目は別表に記載			

- 備考
1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
  2. ( ) は該当科目の単位数。
  3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
  4. 「社会・地歴指導法Ⅰ」「社会・地歴指導法Ⅱ」「社会・公民指導法Ⅰ」「社会・公民指導法Ⅱ」「教職実践演習(中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。
  5. 4年次の「卒業論文」「卒論指導」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の卒業見込みの学生に限る。
  6. 「創作書道A」「創作書道B」の履修は「書道ⅢA」と「書道ⅢB」または「書道ⅣA」と「書道ⅣB」の単位を修得した学生に限る。
  7. 「教職国語(現代文)A」「教職国語(現代文)B」「教職国語(古典)A」「教職国語(古典)B」は、中学・高校国語科教員として教壇に立つことを想定し、それに必要な教養・文法理解・読解力を養うための科目である。ただし、教育職員免許状を取得するために必要な科目に該当しないので注意すること。

2013 年度入学生用 文学部第 2 部東洋思想文化学科 東洋芸術文化コース 教育課程表 (専門科目)

区 分	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	第 4 学年
必修科目 34 単位	必修18単位 各コース共通 東洋思想文化への誘い A(2) 東洋思想文化への誘い B(2) レポート・論文制作の技法(2)	東洋思想文化演習 I(2)	東洋思想文化演習 II(2)	卒 論 指 導(2) 卒 業 論 文(6)
	必修16単位 コース別	インド文化概論 A(2) インド文化概論 B(2) 日本の美術 A(2) 日本の美術 B(2) 中国哲学史 A(2) 中国哲学史 B(2)	インド・仏教の美術 A(2) インド・仏教の美術 B(2) インド思想史 A(2) インド思想史 B(2) チベット仏教史(2)	中国の美術 A(2) 中国の美術 B(2) 仏教思想概論 A(2) 仏教思想概論 B(2)
	科目 講義	東洋芸術文化特講 I A(2) 東洋芸術文化特講 I B(2)	東洋芸術文化特講 II A(2) 東洋芸術文化特講 II B(2)	
選択必修科目 12 単位以上 I	義科目 実技講義 写 経(2) イ ン ド 舞 踊(2)	ヨ ー ガ(2) 日 本 の 宗 教 を 歩 く(2)	坐 禪(2)	仏 教 の 芸 能(2)
	実技科目 書 道 I A(1) 書 道 I B(1)	書 道 II A(1) 書 道 II B(1) 書 道 III A(1) 書 道 III B(1)	書 道 IV A(1) 書 道 IV B(1)	創 作 書 道 A(1) 創 作 書 道 B(1)
専門科目 74 単位以上 選 択 必 修 科 目 II 12 単位以上	語 学 科 目 基 礎 中 国 語 A(1) 基 礎 中 国 語 B(1)	サンスクリット語 I A(1) サンスクリット語 I B(1) チベット語 A(1) チベット語 B(1) 中国語 VA(1) 中国語 VB(1) 中国語学演習 A(1) 中国語学演習 B(1)	パ ー リ 語 A(1) パ ー リ 語 B(1) 仏 教 漢 文 A(1) 仏 教 漢 文 B(1) 中国語 VI A(1) 中国語 VI B(1) 韓 国 語 A(1) 韓 国 語 B(1)	ヒ ン デ ィ ー 語 A(1) ヒ ン デ ィ ー 語 B(1) 中 国 語 IV A(1) 中 国 語 IV B(1) 中 国 語 VII A(1) 中 国 語 VII B(1)
			サンスクリット語 II A(1) サンスクリット語 II B(1)	
	講 義 科 目	宗 教 を め ぐ る 諸 問 題 A(2) 宗 教 を め ぐ る 諸 問 題 B(2) 中 国 文 学 文 化 と 日 本 A(2) 中 国 文 学 文 化 と 日 本 B(2) 哲 学 概 論 A(2) 哲 学 概 論 B(2) イ ン ド 現 代 思 想(2) 現 代 の イ ン ド(2)	宗 教 学 概 論 A(2) 宗 教 学 概 論 B(2) 比 較 文 学 文 化 概 説 A(2) 比 較 文 学 文 化 概 説 B(2) 倫 理 学 概 論 A(2) 倫 理 学 概 論 B(2) 仏 教 と 社 会 福 祉(2) 現 代 に 生 き る 仏 教(2)	東 洋 の 身 体 論(2) 近 代 化 と 東 洋(2) 日 本 文 学 文 化 概 説 A(2) 日 本 文 学 文 化 概 説 B(2) 心 理 学 概 論 A(2) 心 理 学 概 論 B(2) 中 国 学 研 究 法 A(2) 中 国 学 研 究 法 B(2)
	書 道 史 A(2) 書 道 史 B(2)	イ ン ド 思 想 特 講 I A(2) イ ン ド 思 想 特 講 I B(2) 仏 教 思 想 特 講 II A(2) 仏 教 思 想 特 講 II B(2) 東 西 交 渉 文 化 史 A(2) 東 西 交 渉 文 化 史 B(2) ヒ ン ド ー 教 概 論 A(2) ヒ ン ド ー 教 概 論 B(2) 中 国 文 献 学 A(2) 中 国 文 献 学 B(2) 中 国 仏 教 史 A(2) 中 国 仏 教 史 B(2) 中 国 哲 学 講 読 A(1) 中 国 哲 学 講 読 B(1)	イ ン ド 思 想 特 講 II A(2) イ ン ド 思 想 特 講 II B(2) 中 国 哲 学 特 講 I A(2) 中 国 哲 学 特 講 I B(2) イ ン ド 仏 教 史 A(2) イ ン ド 仏 教 史 B(2) 中 国 学 概 論 A(2) 中 国 学 概 論 B(2) 中 国 文 字 学 A(2) 中 国 文 字 学 B(2) 中 国 文 学 史 A(2) 中 国 文 学 史 B(2) 中 国 現 代 文 学 史 A(2) 中 国 現 代 文 学 史 B(2)	仏 教 思 想 特 講 I A(2) 仏 教 思 想 特 講 I B(2) 中 国 文 学 特 講 I A(2) 中 国 文 学 特 講 I B(2) イ ン ド 古 典 思 想 概 論 A(2) イ ン ド 古 典 思 想 概 論 B(2) 中 国 史 概 論 A(2) 中 国 史 概 論 B(2) 中 国 文 化 史 A(2) 中 国 文 化 史 B(2) 中 国 現 代 文 学 史 A(2) 中 国 現 代 文 学 史 B(2)

(次ページに続く)

区 分		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
専 門 科 目 74	選 択 必 修 科 目 Ⅱ 12 単 位 以 上	講 義 科 目	日 本 漢 学 B(2)	日 本 仏 教 史 B(2)	神 道 史 B(2)
			近 世 日 本 思 想 A(2)	比 較 宗 教 A(2)	宗 教 社 会 学 A(2)
	海 外 研 修		日 本 漢 学 B(2)	比 較 宗 教 B(2)	宗 教 社 会 学 B(2)
単 位 以 上	選 択 科 目		日 本 民 俗 学 A(2)		
			日 本 民 俗 学 B(2)	書 論 A(2)	書 論 B(2)
他学部他学科開放科目 (専門開放科目)		科目は別表に記載	海 外 文 化 研 修 I(2)		
			海 外 文 化 研 修 II(2)		
			古 典 文 法 A(2)		
			古 典 文 法 B(2)		
			古 代 日 本 文 学 史 A(2)	中 世 日 本 文 学 史 A(2)	近 世 日 本 文 学 史 A(2)
			古 代 日 本 文 学 史 B(2)	中 世 日 本 文 学 史 B(2)	近 世 日 本 文 学 史 B(2)
			日 本 語 概 説 A(2)	作 家 作 品 研 究 (上 代) A(2)	作 家 作 品 研 究 (中 古) A(2)
			日 本 語 概 説 B(2)	作 家 作 品 研 究 (上 代) B(2)	作 家 作 品 研 究 (中 古) B(2)
			作 家 作 品 研 究 (近 世) A(2)	作 家 作 品 研 究 (近 現 代) A(2)	教 職 国 語 (古 典) A(2)
			作 家 作 品 研 究 (近 世) B(2)	作 家 作 品 研 究 (近 現 代) B(2)	教 職 国 語 (現 代 文) A(2)
					教 職 国 語 (現 代 文) B(2)

- 備考
1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
  2. ( ) は該当科目の単位数。
  3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
  4. 4年次の「卒業論文」「卒論指導」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の卒業見込みの学生に限る。
  5. 「創作書道A」「創作書道B」の履修は「書道ⅢA」と「書道ⅢB」または「書道ⅣA」と「書道ⅣB」の単位を修得した学生に限る。
  6. 「教職国語(現代文)A」「教職国語(現代文)B」「教職国語(古典)A」「教職国語(古典)B」は、中学・高校国語科教員として教壇に立つことを想定し、それに必要な教養・文法理解・読解力を養うための科目である。ただし、教育職員免許状を取得するために必要な科目に該当しないので注意すること。





## 第 2 部 日本文学文化学科

## 日本を知ろう！ 日本人を知ろう！

日本文学文化学科は、新しい時代に適合した研究と教育を目標としている。学祖、井上円了は、明治前半期の西洋第一主義の風潮への反省として「東洋を本とし日本を主」とする哲学館・東洋大学を開設した。しかし、それは単なる狭い東洋主義ではなく、「東洋の学を主とし、西洋の学を客とし、彼我、主客を合わせて研究する主義」の提唱であり、教育であった。この主張は現代でも光を失わないものである。

現代日本社会が今後ますます国際化していく状況の中で、いずれの国家・民族にとっても、それぞれの固有の文化（アイデンティティ）をいかに確立継承し、創造するかということは、これからの新しい世紀に必須の課題となるに違いない。日本及び日本人を正しく知るとともに、伝統的な学問・日本文化を正しく継承し、新たに世界から日本を見るという視点を導入した日本文学文化学科の教育内容は、国際化時代にふさわしいものと言える。

### ◇教育課程（カリキュラム）の特色

日本文学文化学科のカリキュラムには、共通総合科目と文学部共通科目、専門科目、それに開放科目がある。共通総合科目は、各分野に応じて広く文化を学び、考察するものである。文学部共通科目には、図書館司書・学校図書館司書教諭に関する科目が用意されており、各自の目的によって選択できるようになっている。

専門科目は1年次の「基礎ゼミナール」、1・2年次の「日本文学文化概説A・B」「日本語概説A・B」が必修科目であり、2年次以降の専門的な演習と「卒業論文」への足がかりとなる。

選択必修科目には、専攻分野別の演習や多彩な講義等多くの科目群が用意されている。各科目群の指定がなされているものもあるが、学年に応じて選択できる。科目群と指定単位数に注意して選択すること。

演習（ゼミナール）は「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」と専門性を深めて展開し、4年次の「卒業論文」へと結実していくことになる。演習の目的は、みずから考え、みずから課題を発見することにある。

これらの演習科目は、日本文学文化学科のカリキュラムの中心である。2年次の「演習Ⅰ」の選択から、「日本語」「古典文学文化」「近現代文学文化」「比較文学文化」という四つの専攻分野が設置されているので、各自の学習計画に即して選択すること。なお「演習Ⅲ」については3年次履修の専攻分野から選択することが望ましい。

選択科目には、国語科、書道科各教員免許状取得のための科目（教職科目）が用意されている。各自の目的に応じて選択できる。

選択必修科目にかかわる専攻分野間は自由に横断的な学習ができるようになっているので、専門性を深めながら、日本文学文化を総合的、包括的に学習できる。いわばフレキシブルな履修システムであるから、各自がそれぞれの明確な学習目標に応じた選択科目を履修することにより、主体的で個性あふれるカリキュラムを作成することが可能である。

開放科目は、他学部・他学科の開放科目であり、日本文学文化学科では、各自の考えにより広範囲な学問分野の学習ができるようになっている。

## 第2部日本文学文化学科（イブニングコース） 3つのポリシー

### アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

日本文学文化学科は、日本語・日本文学を中核に、さまざまな日本文化の特色を考察することにより、日本や日本人を知り、伝統的な学問、日本文化を継承するとともに、世界から日本を見るという視点を持ち、伝統と創造の融合の上に新しい時代を切り拓く、豊かな見識を備えた人材の育成を目標とする（東洋大学学則に定める、本学科の「人材養成に関する目的」および「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を参照のこと）。そのため「日本語」「古典文学文化」「近現代文学文化」「比較文学文化」の4分野を設けている。学生は履修を通して日本語・日本文学文化を総合的に理解するとともに、ことばや人間のあり方を多面的に学び、高い教養と豊かな人間性を培い、国際化が進む現代社会に対応できる能力を身につける。また、諸資格（国語教諭・書道教諭、図書館司書、司書教諭など）科目を履修し、知識と実践力を兼ね備えた専門家として活躍する道をめざすこともできる。

本学科が求める学生は、こうした教育の目的・特色を理解し、文学作品や文化事象に深い興味をもつ人、ことばに対する強い好奇心をもつ人、歴史や社会を背景とした「人間」に飽くなき関心をもつ人、諸外国の文学文化と日本との比較に強い興味をもつ人などである。ことばやそれに基づく文学文化を探究・理解するには、歴史的・社会的に考察する眼や論理的に思考する姿勢が求められる。

上記のような観点から、本学科では入学までに修得しておくべき内容としては、以下のような点が挙げられる。いずれにおいても高等学校卒業程度以上の学力水準が必要である。

- (1) 「国語」：日本の古典文学および近代以降の現代文に関する知識と読解力。日本文学に関する歴史的な知識。日本語に関する知識と表現力。本学科の教育では、多くの文献等を読み、それを理解し、そのうえで自己の考えを論理的に構築して表現することが基本的には求められるので、十分な「国語」の能力は不可欠である。
- (2) 「外国語」：英語をはじめとした外国語の基本的な運用能力。日本文学文化を諸外国の文学文化を視野に収めて理解するためには、外国語の能力と外国語への興味関心は大切である。
- (3) 「社会」：日本や諸外国の歴史、政治、経済などに関する知識と興味関心。文学文化はつねに社会の変化の中にある。その歴史的背景を知り、また、現代社会の諸問題を理解し、探究していくことは文学文化を学ぶ上で大切である。

なお、推薦入試では、学科の理念を理解し、その学びに強い意欲をもった学生を求め、論理的思考力や表現力を確認する問題を出題している。

### カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

日本文学文化学科では、「日本を知って世界を見る」、「世界から日本を見る」というコンセプトのもと、広い視座から日本やその伝統を理解し、その理解を糧に社会に適切に対応できる豊かな見識と能力を備えた人材を育成するという教育の目的・目標を実現するために、次の点を意図してカリキュラム（教育課程）を編成している。

- (1) 4分野の横断的な履修：「日本語」「古典文学文化」「近現代文学文化」「比較文学文化」の4分野を設け、横断的学習を通して専門領域を深く学際的に修得し、高い教養と豊かな人間性、洞察力や判断力を涵養する。
- (2) 段階的学習：1年次を専門分野への基礎導入期、2年次を基礎充実期、3年次を発展応用期、4年次を完成期と位置づけ、段階的・有機的な学習を展開する。1年次の必修の「基礎ゼミナール」を本学科の学問の基礎と位置づけ、2年次までに必修科目の「日本文学文化概説」「日本語概説」を履修。2、3年次は専門科目を中心に選択必修科目を多く配置し、4年次で必修の「卒業論文」を課して4年間の学問の成果を結実させるように編成している。
- (3) 充実した演習科目群：1年からの一貫した少人数の演習科目（ゼミナール）を基幹とし、論理的思考力・問題解決力の向上をめざし、自己管理の重要性や他者との協働を学び、主体性をもった社会人としての基礎力を身につけさせる。そのために、2年次以降、選択必修として「演習Ⅰ」（2年次）、「演習Ⅱ」（3年次）、「演習Ⅲ」（4年次）と各学年に演習科目を配置して、高度で専門的な学問を身につけていくように編成している。
- (4) 卒業論文：卒業論文を本学科での勉学の集大成として位置づける。1年次より演習授業や学科配布の手引きを通じて継続的に卒業論文への意識化を行い、学生自らが選択したテーマに沿って、教員によるきめ細かい個別指導のもと、研究の成果をまとめる。
- (5) 幅広い教養：選択必修科目として、演習科目のほかに、日本語学、文学史、4分野の特講、比較研究、作家作品研究などの科目群を配置しているほか、「日本の伝統芸能」「日本の方言」「中国の古典」「万葉文化論」「王朝文化論」「室町文化論」「映像文化論」「マンガ文化論」ほかの多様な科目を置いている。さらには、選択科目として「書道」などの科目もあり、広範な関連分野で学生の興味・関心が伸ばせるように編成している。

### ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

日本文学文化学科では、「日本を知る」、「世界から日本を見る」というコンセプトのもと、広い視座から、日本のことばや文学文化を理解し、それを糧に社会に適切に対応できる豊かな見識と能力を備えた人材の育成を教育の目的としている。したがって、その目的に沿った能力を身につけるべく、本学科の教育目的およびカリキュラム・ポリシーに則って編成された教育課程表に定められた授業科目を履修し、下記の所定の単位数を修得することが学位授与の必要要件である。

- (1) 共通総合科目・文学部共通科目（34単位以上）：東洋大学が大学の教育の根幹におく「哲学」を基礎として、人間や社会に関する幅広い知識をもって様々な事象を理解することができる。また、文学部の卒業生として学祖・井上円了の思想をはじめとして、哲学、東洋思想文化、英米文学、教育学、外国語コミュニケーションなどの人文科学に関する総合的な思考力、知識、運用能力を身につけている。
- (2) 専門科目（68単位以上）：本学科の卒業生として、その教育内容を十分に身につけ、かつ、グローバルな社会において有用な人材として活躍できる、多面的で総合的な思考力と問題解決能力、協働力を身につけている。

上記の(1)(2)の要件をすべて満たしたうえで、卒業必要単位数124単位を修得した者に対して、本学科の卒業生として学位を授与する。

## ◇四つの専攻分野

### ○日本語分野

日本語の過去から現在までのあり方を総合的に研究するとともに、言語学一般や他言語との比較考察も行いながら、これからの日本語のあるべき姿を考察する。そのうえで、日本語に対して深い愛情と適切な批判とを注ぐことができる姿勢を養う。

### ○古典文学文化分野

古代から近世に至る古典文学を実証的な観点から考察し、そこに表れた日本人の心や文化のかたちを、より深くより豊かに理解していく。そして、日本の文化遺産である古典文学の価値を正しく継承し、さらに次代へ伝えていくことを使命とする。

### ○近現代文学文化分野

明治期から今日に至るさまざまな文学作品について、多種多様な方法論による分析と考察を試み、その文学の特質や作家の本質を究明する。その過程で、近現代文学文化の問題点や思想性を汲み取り、これからの日本文学や日本人の可能性を模索していく。

### ○比較文学文化分野

比較文学文化の概念や理念を学ぶとともに、「世界から日本を見る」という視点で、日本を相対化する姿勢を確立する。そして、既成の学問の枠にとらわれることなく、多様な「日本文学文化論」を展開し、国際社会における日本文学文化の意義や可能性を探る。

## ◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

第1部日本文学文化学科と第2部日本文学文化学科で同一科目として設置しており、年度ごとに第1部か第2部のいずれかで開講する科目（P. 174 参照）がある。履修を希望する場合は、開講曜日時に注意すること。

## ◇第1部日本文学文化学科・通信教育課程日本文学文化学科の科目との相互聴講科目

第2部日本文学文化学科の学生は、40単位を限度として、第1部日本文学文化学科または通信教育課程での開講科目が受講できる。

3部間相互聴講制度による相互聴講科目（P. 175 参照）によって手続きをし、聴講すること。

科目区分		文学部 第2部 日本文学文化学科 卒業要件
共通総合科目	哲 学 ・ 思 想	34単位以上
	自 然 ・ 環 境 ・ 生 命	
	歴 史 ・ 文 化	
	現 代 ・ 社 会	
	ス ポ ー ツ ・ 健 康	
	情 報 教 育	
	総 合	
	社 会 人 基 礎 力 科 目	
	留 学 支 援 科 目	
文学部共通科目	文 学 部 教 育	34単位以上
	文学部基礎専門科目	
	国際コミュニケーション科目	
	諸 資 格 関 連 科 目	
	キ ャ リ ア 教 育	
専門科目 68単位以上	必 修 科 目	14単位
	選 択 必 修 科 目	54単位以上
	選 択 科 目	
教 職 科 目		
他学部他学科開放科目		
卒業必要単位数合計		124単位

## 第2部日本文学文化学科

### 共通総合科目

哲学・思想  
自然・環境・生命  
歴史・文化  
現代・社会  
スポーツ・健康  
情報教育  
総合  
社会人基礎力科目  
留学支援科目

### 文学部共通科目

文学部教育  
文学部基礎専門科目  
国際コミュニケーション科目  
諸資格関連科目  
キャリア教育

共通総合科目および文学部共通科目は、卒業までに合計34単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、34単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

- ①スポーツ・健康科目の授業は、すべて白山キャンパスで開講されます。
- ②「スポーツ・健康科学実技」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があるため、詳細については『履修登録のしおり・授業時間割表』、学内掲示を参照してください。

共通総合科目および文学部共通科目は、卒業までに合計34単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、34単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

#### ◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

サンスクリット文献を読むA(2)	インド仏教のあゆみA(2)	中国仏教のあゆみA(2)
サンスクリット文献を読むB(2)	インド仏教のあゆみB(2)	中国仏教のあゆみB(2)

#### ◇隔年開講科目

下記科目は、隔年にて開講となる。

履修を希望する場合は、開講年度に注意すること。

古代インドの社会(2)	インドの風土と文化(2)
現代のインド(2)	インド現代思想(2)
インドの芸能(2)	密教の思想(2)
天台の思想(2)	華嚴の思想(2)
禅の思想(2)	念仏の思想(2)
仏教美術を見る(2)	



国際コミュニケーション科目

◇語学セミナー

本学では、「東洋大学語学セミナー（英語・中国語）」を実施している。このセミナーに参加し、条件を充たすことにより国際コミュニケーション科目の1科目の単位を認定する。単位認定対象科目は以下の通りである。

「英語 I AB」「英語 I BB」「英語II AB」「英語II BB」  
「中国語 I AB」「中国語 I BB」「中国語II AB」「中国語II BB」

※セミナーの詳細は、「V 留学制度について」(P.248)を参照すること。

キャリア教育

インターンシップ・ボランティア活動は、文学部が認定する機関で就業体験やボランティア活動を行い、単位認定の条件を充たした場合、単位を認定する。

詳細は、シラバス（講義要項）を参照すること。

専 門 科 目

日本文学文化学科専門科目は、卒業までに**68単位以上を履修かつ修得しなければならない**。この68単位のうち、以下の各科目区分の卒業要件を充たさなければならない。また、各科目区分および専門科目の卒業要件を充たし、**68単位を超過して履修かつ修得した選択必修科目と選択科目の単位数も、卒業単位として算入する**。

必修科目

必修科目に設置されている**全ての科目の単位を履修かつ修得しなければならない**。

なお、卒業論文は必修であるため、1年次から計画を立て研究室等の指示に注意すること。ただし、4年次の卒業論文の履修登録は、**3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の卒業見込みの学生に限る**。

選択必修科目I

選択必修科目Iは、各科目群からそれぞれ定められた科目数以上を選択し、**合計34単位以上を履修かつ修得しなければならない**。

選択必修科目II

選択必修科目IIは、**20単位以上を履修かつ修得しなければならない**。

選択科目

選択科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、**卒業単位として算入する**。

「創作書道A」「創作書道B」を履修する場合は、前年度までに「書道ⅢA」と「書道ⅢB」または「書道ⅣA」と「書道ⅣB」を修得していなければならない。

◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

日本仏教のあゆみA(2)  
日本仏教のあゆみB(2)

◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

日本の伝統芸能 A(2)	日本語学特講Ⅱ A(2)
日本の伝統芸能 B(2)	日本語学特講Ⅱ B(2)
出版文化事情 A(2)	万葉文化論 A(2)
出版文化事情 B(2)	万葉文化論 B(2)
韓国文化事情 A(2)	室町文化論 A(2)
韓国文化事情 B(2)	室町文化論 B(2)
王朝文化論 A(2)	近現代文化論 A(2)
王朝文化論 B(2)	近現代文化論 B(2)
江戸文化論 A(2)	日本の古典籍 A(2)
江戸文化論 B(2)	日本の古典籍 B(2)
古典文学文化特講Ⅱ A(2)	映像文化論 A(2)
古典文学文化特講Ⅱ B(2)	映像文化論 B(2)
日本民俗学 A(2)	日本の方言 A(2)
日本民俗学 B(2)	日本の方言 B(2)
近現代文学文化特講ⅡA(2)	教職国語(古典)A(2)
近現代文学文化特講ⅡB(2)	教職国語(古典)B(2)
比較文学文化特講Ⅱ A(2)	教職国語(現代文)A(2)
比較文学文化特講Ⅱ B(2)	教職国語(現代文)B(2)
中国の古典(哲学)(2)	中国の古典(歴史)(2)

教 職 科 目

日本文学文化学科教育課程表にある教職科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

教職科目は、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することができる。

他学部他学科開放科目

別（P.194）に定める他学部他学科開放科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

自 由 科 目

日本文学文化学科教育課程表にない科目で、なおかつ、前項の他学部他学科開放科目として提示されていない科目の履修を希望する場合は、履修する学部学科の配当学年に従い、担当教員の許可を得て、卒業単位にならない自由科目として履修することができる。ただし、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することはできない。なお、以下の科目も履修できないので注意すること。

1. カリキュラム年度の異なる科目
2. 第1部開講の科目
3. 所属する学部学科の科目と同一名称の科目

◇日本文学文化学科 3 部間相互聴講制度による相互聴講科目

日本文学文化学科第 1 部・第 2 部・通信教育部の 3 部間のみ聴講を認める。  
同一年度で第 1 部と第 2 部、通信教育部で開講する。

履修条件は、以下の通りである。

- (1) 卒業までに 40 単位を超えて履修かつ修得することはできない。ただし、同一の部において 30 単位を超えて履修かつ修得することはできない。
- (2) 科目提供主体（第 1 部・通信教育部）の学年配当にしたがって履修しなければならない。
- (3) 年間履修最高単位数（48 単位）に算入する。
- (4) 履修かつ修得した単位は、専門科目として、卒業単位に算入する。
- (5) 履修方法  
第 1 部提供科目の履修を希望する場合は、第 2 部の科目と同様に履修登録をすること。  
通信教育部提供科目の履修を希望する場合は、通信教育課の説明を受けて、許可をもらい聴講すること。
- (6) 対象科目

1. 第 1 部日本文学文化学科提供科目群

日本文学文化学科	史学	文学	文化	概説	説法	A(2)	日本文学文化学科	史学	文学	文化	概説	説法	A(2)	日本文学文化学科	史学	文学	文化	概説	説法	A(2)
現代	現代	現代	現代	現代	現代	B(2)	現代	現代	現代	現代	現代	現代	B(2)	現代	現代	現代	現代	現代	現代	B(2)
比較	比較	比較	比較	比較	比較	B(2)	比較	比較	比較	比較	比較	比較	B(2)	比較	比較	比較	比較	比較	比較	B(2)
研究	研究	研究	研究	研究	研究	B(2)	研究	研究	研究	研究	研究	研究	B(2)	研究	研究	研究	研究	研究	研究	B(2)
論文	論文	論文	論文	論文	論文	B(2)	論文	論文	論文	論文	論文	論文	B(2)	論文	論文	論文	論文	論文	論文	B(2)
博士	博士	博士	博士	博士	博士	B(2)	博士	博士	博士	博士	博士	博士	B(2)	博士	博士	博士	博士	博士	博士	B(2)
修士	修士	修士	修士	修士	修士	B(2)	修士	修士	修士	修士	修士	修士	B(2)	修士	修士	修士	修士	修士	修士	B(2)
学士	学士	学士	学士	学士	学士	B(2)	学士	学士	学士	学士	学士	学士	B(2)	学士	学士	学士	学士	学士	学士	B(2)
卒業	卒業	卒業	卒業	卒業	卒業	B(2)	卒業	卒業	卒業	卒業	卒業	卒業	B(2)	卒業	卒業	卒業	卒業	卒業	卒業	B(2)

2. 通信教育部日本文学文化学科提供科目群

日本文学文化学科	史学	文学	文化	概説	説法	A(2)	日本文学文化学科	史学	文学	文化	概説	説法	A(2)	日本文学文化学科	史学	文学	文化	概説	説法	A(2)	
現代	現代	現代	現代	現代	現代	B(2)	現代	現代	現代	現代	現代	現代	B(2)	現代	現代	現代	現代	現代	現代	B(2)	
比較	比較	比較	比較	比較	比較	B(2)	比較	比較	比較	比較	比較	比較	B(2)	比較	比較	比較	比較	比較	比較	B(2)	
研究	研究	研究	研究	研究	研究	B(2)	研究	研究	研究	研究	研究	研究	B(2)	研究	研究	研究	研究	研究	研究	B(2)	
論文	論文	論文	論文	論文	論文	B(2)	論文	論文	論文	論文	論文	論文	B(2)	論文	論文	論文	論文	論文	論文	論文	B(2)
博士	博士	博士	博士	博士	博士	B(2)	博士	博士	博士	博士	博士	博士	B(2)	博士	博士	博士	博士	博士	博士	博士	B(2)
修士	修士	修士	修士	修士	修士	B(2)	修士	修士	修士	修士	修士	修士	B(2)	修士	修士	修士	修士	修士	修士	修士	B(2)
学士	学士	学士	学士	学士	学士	B(2)	学士	学士	学士	学士	学士	学士	B(2)	学士	学士	学士	学士	学士	学士	学士	B(2)
卒業	卒業	卒業	卒業	卒業	卒業	B(2)	卒業	卒業	卒業	卒業	卒業	卒業	B(2)	卒業	卒業	卒業	卒業	卒業	卒業	卒業	B(2)

2013 年度入学生用 文学部第2部日本文学文化学科 教育課程表（共通総合科目）

区 分		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
共通総合科目※	哲学・思想	哲学 A(2)	哲学史 A(2)	倫理学 A(2)	芸術学 A(2)
		哲学 B(2)	哲学史 B(2)	倫理学 B(2)	芸術学 B(2)
		宗教学Ⅰ A(2)	宗教学Ⅱ A(2)	東洋思想 A(2)	地域文化研究 A(2)
		宗教学Ⅰ B(2)	宗教学Ⅱ B(2)	東洋思想 B(2)	地域文化研究 B(2)
	自然・環境・生命	自然の数理 A(2)	生活と物理 A(2)	エネルギーの科学A(2)	物質の科学 A(2)
		自然の数理 B(2)	生活と物理 B(2)	エネルギーの科学B(2)	物質の科学 B(2)
		環境の科学 A(2)	地球の科学 A(2)	生物学 A(2)	天文学 A(2)
		環境の科学 B(2)	地球の科学 B(2)	生物学 B(2)	天文学 B(2)
		自然科学概論 A(2)	自然誌 A(2)	生物学実験講義A(2)	化学実験講義 A(2)
		自然科学概論 B(2)	自然誌 B(2)	生物学実験講義B(2)	化学実験講義 B(2)
歴史・文化	百人一首の文化史 A(2)	日本の昔話 A(2)	日本文学文化と風土A(2)	日本の詩歌 A(2)	
	百人一首の文化史 B(2)	日本の昔話 B(2)	日本文学文化と風土B(2)	日本の詩歌 B(2)	
	西欧文学 A(2)	現代日本文学 A(2)	地域史 A(2)	歴史の諸問題 A(2)	
	西欧文学 B(2)	現代日本文学 B(2)	地域史 B(2)	歴史の諸問題 B(2)	
現代・社会	経済学 A(2)	法 学(2)	政治学 A(2)	社会学 A(2)	
	経済学 B(2)	日本国憲法(2)	政治学 B(2)	社会学 B(2)	
	人類学 A(2)	地理学 A(2)	心理学 A(2)	旅と言語(2)	
	人類学 B(2)	地理学 B(2)	心理学 B(2)	観光の歴史(2)	
スポーツ・健康	スポーツ健康科学実技 A(1)	スポーツ健康科学講義Ⅰ(2)	スポーツ健康科学講義Ⅱ A(2)		
	スポーツ健康科学実技 B(1)		スポーツ健康科学講義Ⅱ B(2)		
情報教育	情報化社会と人間(2)	コンピュータ・リテラシー A(2)	コンピュータ・リテラシー B(2)		
総合	総合Ⅰ A(2)	総合Ⅱ A(2)	総合Ⅲ A(2)	総合Ⅳ A(2)	
	総合Ⅰ B(2)	総合Ⅱ B(2)	総合Ⅲ B(2)	総合Ⅳ B(2)	
	総合Ⅴ A(2)	総合Ⅵ A(2)	総合Ⅶ A(2)	全学総合Ⅰ A(2)	
	総合Ⅴ B(2)	総合Ⅵ B(2)	総合Ⅶ B(2)	全学総合Ⅰ B(2)	
	全学総合Ⅱ A(2)				
	全学総合Ⅱ B(2)				
社会人基礎力科目	社会人基礎力入門講義(2)				
	社会人基礎力実践講義(2)				
		キャリアデベロップメント論(2)	社会貢献活動入門(2)	公務員論(2)	
英語特別教育科目	Special Course in Advanced TOEFLⅠ(4)		Special Course in Advanced TOEFLⅡ(4)		

※文学部共通科目と合わせて34単位以上修得すること。

2013 年度入学生用 文学部第2部日本文学文化学科 教育課程表（文学部共通科目）

区 分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
文学部教育	東洋大学・井上円了研究(2)	伝 統 文 化 講 座(2)	情 報 処 理 演 習 A(1)	情 報 処 理 演 習 B(1)
文学部基礎専門科目	サンスクリット文献を読むA(2) サンスクリット文献を読むB(2)	インドの芸能(2) 仏教美術を見る(2) 華厳の思想(2) 密教の思想(2) 中国仏教のあゆみA(2) 中国仏教のあゆみB(2)	インド文学(2) インドの風土と文化(2) 禅の思想(2) 念仏の思想(2) インド仏教のあゆみA(2) インド仏教のあゆみB(2)	古代インドの社会(2) 天台の思想(2) 現代のインド(2) インド現代思想(2)
	生涯学習概論 I(2)	特別支援教育概論 I(2)		
	心理学概論 A(2) 心理学概論 B(2)	家族心理学(2) 女性問題と学習(2)	児童文化研究(2) 家庭教育論(2)	生涯学習概論 II(2) 特別支援教育概論 II(2)
国際コミュニケーション科目	英語	英語 I A A(1) 英語 I A B(1) 英語 I B A(1) 英語 I B B(1)	英語 II A A(1) 英語 II A B(1) 英語 II B A(1) 英語 II B B(1)	
	ドイツ語	ドイツ語 I A A(1) ドイツ語 I A B(1) ドイツ語 I B A(1) ドイツ語 I B B(1)	ドイツ語 II A A(1) ドイツ語 II A B(1) ドイツ語 II B A(1) ドイツ語 II B B(1)	
	フランス語	フランス語 I A A(1) フランス語 I A B(1) フランス語 I B A(1) フランス語 I B B(1)	フランス語 II A A(1) フランス語 II A B(1) フランス語 II B A(1) フランス語 II B B(1)	
	中国語	中国語 I A A(1) 中国語 I A B(1) 中国語 I B A(1) 中国語 I B B(1)	中国語 II A A(1) 中国語 II A B(1) 中国語 II B A(1) 中国語 II B B(1)	
諸資格関連科目	教育基礎論 I(2) 教育基礎論 II(2)			
	社会教育計画論 I(2) 社会教育計画論 II(2) 視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)(2)			
	図書館概論(2) 情報サービス論(2) 児童サービス論(2) 図書館制度・経営論(2) 図書館サービス概論(2) 情報サービス演習 A(1) 情報資源組織演習 A(1) 図書館情報資源概論(2) 情報資源組織論(2) 図書館情報技術論(2) 情報サービス演習 B(1) 情報資源組織演習 B(1) 図書館情報資源特論(2) 図書・図書館史(2)			
キャリア教育	学習指導と学校図書館(2) 読書と豊かな人間性(2)		学校経営と学校図書館(2) 情報メディアの活用(2)	学校図書館メディアの構成(2)
	キャリア支援 I(2) キャリア支援 II(2) インターンシップ(2)		教員養成講座 I(2) 教員養成講座 II(2) ボランティア活動(2)	

※共通総合科目と合わせて 34 単位以上修得すること。



2013 年度入学生用 文学部第2部日本文学文化学科 教育課程表（専門科目）

区 分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
専 門 科 目 68 単 位 以 上	14 必 修 科 目 単 位	日本文学文化概説 A(2) 日本文学文化概説 B(2) 基礎ゼミナール(2)	日本語概説 A(2) 日本語概説 B(2)	卒業論文(4)	
	選 択 必 修 科 目 I 34 単 位 以 上		日本語学演習 I(2) 古典文学文化演習 I(2) 近現代文学文化演習 I(2) 比較文学文化演習 I(2) 1科目2単位選択必修	日本語学演習 II(2) 古典文学文化演習 II(2) 近現代文学文化演習 II(2) 比較文学文化演習 II(2) 1科目2単位選択必修	日本語学演習 III(2) 古典文学文化演習 III(2) 近現代文学文化演習 III(2) 比較文学文化演習 III(2) 1科目2単位選択必修
			日本語史 A(2) 現代語文法 A(2) 古典文法 A(2) 日本語史 B(2) 現代語文法 B(2) 古典文法 B(2) 2科目4単位以上選択必修		
			古代日本文学史 A(2) 古代日本文学史 B(2) 近世日本文学史 A(2) 近世日本文学史 B(2)	中世日本文学史 A(2) 中世日本文学史 B(2) 近現代日本文学史 A(2) 近現代日本文学史 B(2) 2科目4単位以上選択必修	
				日本語学特講 I A(2) 日本語学特講 II A(2) 日本語学特講 I B(2) 日本語学特講 II B(2) 古典文学文化特講 I A(2) 古典文学文化特講 II A(2) 古典文学文化特講 I B(2) 古典文学文化特講 II B(2) 古典文学文化特講 III A(2) 古典文学文化特講 IV A(2) 古典文学文化特講 III B(2) 古典文学文化特講 IV B(2) 近現代文学文化特講 I A(2) 近現代文学文化特講 II A(2) 近現代文学文化特講 I B(2) 近現代文学文化特講 II B(2) 比較文学文化特講 I A(2) 比較文学文化特講 II A(2) 比較文学文化特講 I B(2) 比較文学文化特講 II B(2) 2科目4単位以上選択必修	
		作家作品研究(上代) A(2) 作家作品研究(中古) A(2) 作家作品研究(上代) B(2) 作家作品研究(中古) B(2) 作家作品研究(近世) A(2) 作家作品研究(近現代) A(2) 作家作品研究(近世) B(2) 作家作品研究(近現代) B(2) 2科目4単位以上選択必修	作家作品研究(中古) A(2) 作家作品研究(中古) B(2) 作家作品研究(近現代) A(2) 作家作品研究(近現代) B(2)	作家作品研究(中世) A(2) 作家作品研究(中世) B(2)	
		比較文学文化概説 A(2) 比較文学文化概説 B(2) 英語圏文学文化と日本 A(2) ドイツ語圏文学文化と日本 A(2) 英語圏文学文化と日本 B(2) ドイツ語圏文学文化と日本 B(2)	比較文学文化概説 A(2) 比較文学文化概説 B(2) フランス語圏文学文化と日本 A(2) フランス語圏文学文化と日本 B(2)	作家作品研究(中世) A(2) 作家作品研究(中世) B(2) 2科目4単位以上選択必修	中国文学文化と日本 A(2) 中国文学文化と日本 B(2) 2科目4単位以上選択必修
	20 選 択 必 修 科 目 以 上 II	日本の伝統行事 A(2) 日本の伝統芸能 A(2) 日本の方言 A(2) 日本の伝統行事 B(2) 日本の伝統芸能 B(2) 日本の方言 B(2) 韓国文化事情 A(2) 出版文化事情 A(2) 中国の古典(文学)(2) 中国の古典(哲学)(2) 日本の思想(2) 韓国文化事情 B(2) 出版文化事情 B(2) 中国の古典(思想)(2) 中国の古典(歴史)(2)	日本の美術 A(2) 映像文化論 A(2) マンガ文化論 A(2) 日本の美術 B(2) 映像文化論 B(2) マンガ文化論 B(2) 万葉文化論 A(2) 王朝文化論 A(2) 室町文化論 A(2) 江戸文化論 A(2) 万葉文化論 B(2) 王朝文化論 B(2) 室町文化論 B(2) 江戸文化論 B(2) 近現代文化論 A(2) 日本の古典籍 A(2) 日本民俗学 A(2) 児童文学 A(2) 近現代文化論 B(2) 日本の古典籍 B(2) 日本民俗学 B(2) 児童文学 B(2)	日本の美術 A(2) 映像文化論 A(2) マンガ文化論 A(2) 日本の美術 B(2) 映像文化論 B(2) マンガ文化論 B(2) 万葉文化論 A(2) 王朝文化論 A(2) 室町文化論 A(2) 江戸文化論 A(2) 万葉文化論 B(2) 王朝文化論 B(2) 室町文化論 B(2) 江戸文化論 B(2) 近現代文化論 A(2) 日本の古典籍 A(2) 日本民俗学 A(2) 児童文学 A(2) 近現代文化論 B(2) 日本の古典籍 B(2) 日本民俗学 B(2) 児童文学 B(2)	
	選 択 科 目	書道 I A(1) 書道 I B(1) 書道史 A(2) 書道史 B(2)	書道 II A(1) 書道 II B(1) 書道 III A(1) 書道 III B(1)	日本仏教のあゆみ A(2) 日本仏教のあゆみ B(2) 書道 IV A(1) 書論 A(2) 書道 IV B(1) 書論 B(2) 創作書道 A(1) 創作書道 B(1)	
	教職科目	教職国語(古典) A(2) 教職国語(古典) B(2)	教職国語(現代文) A(2) 教職国語(現代文) B(2) 国語科教育論(2)	国語科指導法 I(2) 国語科指導法 II(2) 書道科指導法 I(2) 書道科指導法 II(2)	教職実践演習(中・高)(2)
他学部他学科開放科目	科目は別表に記載				

(次ページに続く)



- 備考
1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
  2. ( ) は該当科目の単位数。
  3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
  4. 「国語科教育論」「国語科指導法Ⅰ」「国語科指導法Ⅱ」「書道科指導法Ⅰ」「書道科指導法Ⅱ」「教職実践演習(中・高)」については、教職課程履修者に限り、履修することができる。
  5. 4年次の「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が**48**単位以下の卒業見込みの学生に限る。
  6. 「創作書道A」「創作書道B」の履修は「書道ⅢA」と「書道ⅢB」または「書道ⅣA」と「書道ⅣB」の単位を修得した学生に限る。
  7. 「教職国語(現代文)A」「教職国語(現代文)B」「教職国語(古典)A」「教職国語(古典)B」は中学・高校国語科教員として教壇に立つことを想定し、それに必要な教養・文法理解・読解力を養うための科目である。ただし、教育職員免許状を取得するのに必要な科目に該当しないので注意すること。



## 第 2 部 教 育 学 科

## 明日のための教育学 ―ともに学び、ともに育つ―

教育学とは、人間が学び、生涯にわたって「よりよく生きる」ことを支える学問です。学校教育や特別支援教育、社会教育などの研究領域で、「人間にとって学びとは何か」「発達とは何か」「学びや発達をどう支えるか」など、さまざまな問いが立てられ、研究が進められています。

東洋大学文学部教育学科は、これまで「人間の発達」を生涯にわたるものとしてとらえ、人々の豊かな暮らしや住みよい社会の実現に貢献する学生を育ててきました。そして、現代社会が抱える諸問題の解決に他者と協働しながら創造的に取り組むことのできる21世紀のリーダーを送り出すため、2008年4月にカリキュラムを一新して、さらなる充実につとめています。

こうした考えのもと、教育学科では、次のような目標を設定し、カリキュラムを用意しました。

### 1. 課題を主体的に解決するための「生涯学習基礎力」

「人間の発達」を、直線的な心身の成長だけではなく、生涯にわたる人間の変化そのものとしてとらえ、研究の対象とする。人や社会、文化に対する理解を深め、現代社会が直面する課題を主体的に解決する力を身につける。一元的な考え方にとらわれない開かれた感覚と知性、つまり「生涯学習基礎力」の獲得をめざす。

### 2. 5つの領域に対応する専門的力量

- (1) 教育の基礎
- (2) 心理学と発達臨床
- (3) 社会教育
- (4) 学校教育
- (5) 特別支援教育

## 第2部教育学科（イブニングコース） 3つのポリシー

### アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

教育学科（イブニングコース）では、学士課程教育を行うにあたり、次のような学生を求めている。

- (1) 現代社会が直面する課題の解決に自ら取り組もうとする主体性と学習意欲をもつ学生
- (2) 人間と社会について深い洞察力を持ち、柔軟な思考力と豊かな想像力に富む学生
- (3) 人間の成長・発達に深い関心を持ち、将来教え育てる実践を通して社会に貢献する意欲のある学生

特に教員を志望する場合には次のことが求められる。

- ①教員には広範な知識と教養、人間性が求められるため、教科の学習に限らず、社会的活動、文化・芸術活動などにも積極的に取り組むこと。
- ②国語、特に現代国語において、論説文などの論理的文章を十分に理解するとともに、自らの考えを論理的に表現できるようにしておくこと。
- ③政治・経済など、現代の広範な地球規模の社会事象について、歴史的観点も含めて、関心を持ち、基礎的な知識を獲得しておくこと。

### カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育学科（イブニングコース）では、教育目標を実現するため、次の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

- (1) 大学生活への適応を促すため、初年次教育の機会として、少人数の「教育学入門ゼミナール」を必修とする。
- (2) 学生の主体的な力量を育成するため、少人数の参加型授業を重視し、すべての学生が4年間にわたってゼミナールを履修する。
- (3) 教育という営みを総合的にとらえるため、「教育の基礎」「心理学と発達臨床」「社会教育」「学校教育」「特別支援教育」の5領域を設定し、各領域の理論的・実践的課題について、基礎的知識の獲得と発展的研究をおこなう。
- (4) すべての学生に卒業論文執筆を課し、これをもって学士課程修了に十分な能力を獲得したかどうかの指針とする。

### ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

教育学科（イブニングコース）では、人間の発達を総合的にとらえ、現代社会が直面する課題を主体的に解決するための「生涯学習基礎力」を身につける。

科目区分		文学部 第2部 教育学科 卒業要件	
共通総合科目 16単位以上	哲学・思想	16単位以上	
	自然・環境・生命		
	歴史・文化		
	現代・社会		
	スポーツ・健康		
	情報教育		
	総合		
	社会人基礎力科目		
	留学支援科目		
文学部 共通科目 16単位以上	文学部教育	4単位以上	
	文学部基礎専門科目		
	国際コミュニケーション科目		
	諸資格関連科目		※国際コミュニケーション科目の4単位を含む、 合計16単位以上
	キャリア教育		
74 単位以上 専門科目	必修科目	32単位	
	選択科目	42単位以上	
教職科目			
他学部他学科開放科目			
卒業必要単位数合計		124単位	



## 第2部教育学科

### 共通総合科目

哲学・思想  
 自然・環境・生命  
 歴史・文化  
 現代・社会  
 スポーツ・健康  
 情報教育  
 総合  
 社会人基礎力科目  
 留学支援科目

### 文学部共通科目

文学部教育  
 文学部基礎専門科目  
 国際コミュニケーション科目  
 諸資格関連科目  
 キャリア教育

共通総合科目は、卒業までに16単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、16単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

- ①スポーツ・健康科目の授業は、すべて白山キャンパスで開講されます。
- ②「スポーツ・健康科学実技」の各コースの受講者数は人数調整が必要になる場合があるため、詳細については『履修登録のしおり』、学内掲示を参照してください。

留学支援科目は、共通総合科目の枠内であるが、16単位の卒業要件には入らない。ただし、卒業単位には算入される。

文学部共通科目は、卒業までに国際コミュニケーション科目4単位の卒業要件を充たし、合計16単位以上を履修かつ修得しなければならない。また、卒業要件を充たし、16単位を超過して履修かつ修得した科目の単位数も、卒業単位として算入する。

#### ◇通年履修科目

下記科目は、通年履修を原則とする。

履修を希望する場合は、A・Bセットで履修すること。

サンスクリット文献を読むA(2) サンスクリット文献を読むB(2)	日本仏教のあゆみ A(2) 日本仏教のあゆみ B(2)
インド仏教のあゆみA(2) インド仏教のあゆみB(2)	中国仏教のあゆみ A(2) 中国仏教のあゆみ B(2)

#### ◇隔年開講科目

下記科目は、隔年にて開講となる。

履修を希望する場合は、開講年度に注意すること。

古代インドの社会(2)	インドの風土と文化(2)
現代のインド(2)	インド現代思想(2)
インドの芸能(2)	密教の思想(2)
天台の思想(2)	華嚴の思想(2)
禅の思想(2)	念仏の思想(2)
仏教美術を見る(2)	

#### ◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

日本の伝統芸能 A(2)	韓国文化事情 A(2)
日本の伝統芸能 B(2)	韓国文化事情 B(2)

## 国際コミュニケーション科目

英語、ドイツ語、フランス語、中国語の4カ国語から1カ国語以上を選択し、同一言語で4単位以上を履修かつ修得しなければならない。

### ◇語学セミナー

本学では、「東洋大学語学セミナー（英語・中国語）」を実施している。このセミナーに参加し、条件を充たすことにより国際コミュニケーション科目の1科目の単位を認定する。単位認定対象科目は以下の通りである。

「英語Ⅰ AB」「英語Ⅰ BB」「英語Ⅱ AB」「英語Ⅱ BB」  
「中国語Ⅰ AB」「中国語Ⅰ BB」「中国語Ⅱ AB」「中国語Ⅱ BB」

※セミナーの詳細は、「V留学制度について」(P.248)を参照すること。

## キャリア教育

インターンシップ・ボランティア活動は、文学部が認定する機関で就業体験やボランティア活動を行い、単位認定の条件を充たした場合、単位を認定する。

詳細は、講義要項を参照すること。

## 専 門 科 目

教育学科専門科目は、卒業までに74単位以上を履修かつ修得しなければならない。これらは、各科目区分の卒業要件を充たさなければならない。また、74単位を超過して履修かつ修得した選択科目の単位数も、卒業単位として算入する。

## 必修科目

必修科目に設置されている全ての科目の単位を履修かつ修得しなければならない。

なお、卒業論文は必修である。ただし、4年次の卒業論文の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の卒業見込みの学生に限る。

## 選択科目

選択科目は、42単位以上を履修かつ修得しなければならない。

選択科目の科目群は、将来の進路選択に関連づけて科目を選びやすいように分類してある。教育職員免許状取得希望者は、「教職課程を学ぶにあたって」(P.198)、社会教育主事資格取得希望者は、諸資格(P.237)を参照すること。

### ◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

教 育 と 倫 理(2)

## 教職に関する科目の読替

下表の左欄の教育学科専門科目は、履修かつ修得した後、右欄の教職に関する科目に読み替えることができ、卒業単位としても認められる。

ただし、下表の右欄の教職に関する科目を履修かつ修得しても、左欄の教育学科専門科目に読み替えることはできない。また、卒業単位としても認められない。

教育学科の専門科目 (卒業単位に認められる)	単位数	読替となる教職に関する科目 (卒業単位に認められない)	単位数
学校教育社会学	2	教育基礎論Ⅱ	2
特別活動の理論と方法	2	特別活動の研究	2
教育方法論 (情報機器及び教材の活用を含む)	2	教育方法研究 (情報機器の活用を含む)	2
教育相談の理論と方法	2	教育相談	2

## 教 職 科 目

教育学科教育課程表にある教職科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

教職科目は、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することができる。

## 他学部他学科開放科目

別（P.194）に定める他学部他学科開放科目を履修かつ修得した場合、その科目の単位数は、卒業単位として算入する。

## 自 由 科 目

教育学科教育課程表にない科目で、かつ、前項の他学部他学科開放科目として提示されていない科目の履修を希望する場合は、履修する学部学科の配当学年に従い、担当教員の許可を得て、卒業単位にならない自由科目として履修することができる。ただし、年間履修最高単位数（48単位）を超えて履修することはできない。なお、以下の科目も履修できないので注意すること。

1. カリキュラム年度の異なる科目
2. 第1部開講の科目
3. 所属する学部学科の科目と同一名称の科目

◇文学部第1部・第2部相互聴講実施要領

第1部教育学科と第2部教育学科の両方で、同一年度で開講されている下表の科目についてのみ、相互聴講を認める。

履修条件は、以下の通りである。

- (1) 卒業までに30単位を超えて履修かつ修得することはできない。
- (2) 第1部教育学科の教育課程表の学年配当にしたがって履修しなければならない。
- (3) 年間履修最高単位数(48単位)に算入する。
- (4) 履修かつ修得した単位は、専門科目として、卒業単位に算入する。
- (5) 履修方法

第1部開講科目の履修を希望する場合は、第2部の科目と同様に、履修登録をすること。

(6) 対象科目

心理学概論 A(2)	特別支援教育概論Ⅱ(2)	社会教育課題研究Ⅰ(2)
心理学概論 B(2)		社会教育課題研究Ⅱ(2)
社会文化史(日本)(2)		社会教育計画論Ⅰ(2)
社会文化史(西洋)(2)		社会教育計画論Ⅱ(2)
文化地誌学(2)		視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)(2)
比較社会論(2)		家庭教育論(2)
アメリカ思想史(2)		女性問題と学習(2)
		情報化と社会教育(2)

2013 年度入学生用 文学部第2部教育学科 教育課程表（共通総合科目）

区 分		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
共通総合科目	16 単位以上	哲学・思想	哲学 A(2)	哲学史 A(2)	倫理学 A(2)	芸術学 A(2)
			哲学 B(2)	哲学史 B(2)	倫理学 B(2)	芸術学 B(2)
			宗教学 I A(2)	宗教学 II A(2)	東洋思想 A(2)	地域文化研究 A(2)
			宗教学 I B(2)	宗教学 II B(2)	東洋思想 B(2)	地域文化研究 B(2)
		自然・環境・生命	自然の数理 A(2)	生活と物理 A(2)	エネルギーの科学 A(2)	物質の科学 A(2)
			自然の数理 B(2)	生活と物理 B(2)	エネルギーの科学 B(2)	物質の科学 B(2)
			環境の科学 A(2)	地球の科学 A(2)	生物学 A(2)	天文学 A(2)
			環境の科学 B(2)	地球の科学 B(2)	生物学 B(2)	天文学 B(2)
			自然科学概論 A(2)	自然誌 A(2)	生物学実験講義 A(2)	化学実験講義 A(2)
			自然科学概論 B(2)	自然誌 B(2)	生物学実験講義 B(2)	化学実験講義 B(2)
歴史・文化	百人一首の文化史 A(2)	日本の昔話 A(2)	日本文学文化と風土 A(2)	日本の詩歌 A(2)		
	百人一首の文化史 B(2)	日本の昔話 B(2)	日本文学文化と風土 B(2)	日本の詩歌 B(2)		
	西欧文学 A(2)	現代日本文学 A(2)	地域史 A(2)	歴史の諸問題 A(2)		
	西欧文学 B(2)	現代日本文学 B(2)	地域史 B(2)	歴史の諸問題 B(2)		
現代・社会	経済学 A(2)	法	政治学 A(2)	社会学 A(2)		
	経済学 B(2)	日本国憲法(2)	政治学 B(2)	社会学 B(2)		
	人類学 A(2)	地理学 A(2)	心理学 A(2)	旅と言語(2)		
	人類学 B(2)	地理学 B(2)	心理学 B(2)	観光の歴史(2)		
スポーツ・健康	スポーツ健康科学実技 A(1)	スポーツ健康科学講義 I(2)	スポーツ健康科学講義 II A(2)			
	スポーツ健康科学実技 B(1)		スポーツ健康科学講義 II B(2)			
情報教育	情報化社会と人間(2)	コンピュータ・リテラシー A(2)	コンピュータ・リテラシー B(2)			
総合	総合 I A(2)	総合 II A(2)	総合 III A(2)	総合 IV A(2)		
	総合 I B(2)	総合 II B(2)	総合 III B(2)	総合 IV B(2)		
	総合 V A(2)	総合 VI A(2)	総合 VII A(2)	全学総合 I A(2)		
	総合 V B(2)	総合 VI B(2)	総合 VII B(2)	全学総合 I B(2)		
社会人基礎力科目	社会人基礎力入門講義(2)					
	社会人基礎力実践講義(2)					
留学支援科目	英語特別教育科目	Special Course in Advanced TOEFL I(4) Special Course in Advanced TOEFL II(4)				

2013 年度入学生用 文学部第2部教育学科 教育課程表 (文学部共通科目)

区 分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
文学部教育	東洋大学・井上門了研究(2) 伝統文化講座(2)		情報処理演習 A(1)	情報処理演習 B(1)	
文学部 基礎専門 科目	比較文学文化概説 A(2) 比較文学文化概説 B(2)				
	サンスクリット文献を読む A(2) サンスクリット文献を読む B(2)	インドの芸能(2) 仏教美術を見る(2) 華嚴の思想(2) 禅の思想(2) 密教の思想(2) 念仏の思想(2) 中国仏教のあゆみ A(2) 日本仏教のあゆみ A(2) 中国仏教のあゆみ B(2) 日本仏教のあゆみ B(2)	インド文学(2) インドの風土と文化(2) 天台の思想(2) 現代のインド(2) インド現代思想(2)	古代インドの社会(2) 天台の思想(2) インド現代思想(2)	
	英語圏文学文化と日本 A(2) 英語圏文学文化と日本 B(2) フランス語圏文学文化と日本 A(2) フランス語圏文学文化と日本 B(2)		ドイツ語圏文学文化と日本 A(2) ドイツ語圏文学文化と日本 B(2) 中国文学文化と日本 A(2) 中国文学文化と日本 B(2)		
	日本の伝統行事 A(2) 日本の伝統芸能 A(2) 日本の伝統行事 B(2) 日本の伝統芸能 B(2)		日本の美術 A(2) 韓国文化事情 A(2) 日本の美術 B(2) 韓国文化事情 B(2)		
文学部 共通科目 16 単位以上	国際 コミュニケーション 科目 4 単位以上	英語	英語 I A A(1) 英語 I A B(1) 英語 I B A(1) 英語 I B B(1)	英語 II A A(1) 英語 II A B(1) 英語 II B A(1) 英語 II B B(1)	
		ドイツ語	ドイツ語 I A A(1) ドイツ語 I A B(1) ドイツ語 I B A(1) ドイツ語 I B B(1)	ドイツ語 II A A(1) ドイツ語 II A B(1) ドイツ語 II B A(1) ドイツ語 II B B(1)	
		フランス語	フランス語 I A A(1) フランス語 I A B(1) フランス語 I B A(1) フランス語 I B B(1)	フランス語 II A A(1) フランス語 II A B(1) フランス語 II B A(1) フランス語 II B B(1)	
		中国語	中国語 I A A(1) 中国語 I A B(1) 中国語 I B A(1) 中国語 I B B(1)	中国語 II A A(1) 中国語 II A B(1) 中国語 II B A(1) 中国語 II B B(1)	
		<b>4カ国語のうち1カ国語4単位以上選択必修</b>			
関連 諸 資格 科目	図書館概論(2) 情報サービス論(2) 児童サービス論(2) 図書館制度・経営論(2) 図書館サービス概論(2) 情報サービス演習 A(1) 情報資源組織演習 A(1) 図書館情報資源概論(2) 情報資源組織論(2) 図書館情報技術論(2) 情報サービス演習 B(1) 情報資源組織演習 B(1) 図書館情報資源特論(2) 図書・図書館史(2)				
		学習指導と学校図書館(2) 読書と豊かな人間性(2)	学校経営と学校図書館(2)	学校図書館メディアの構成(2) 情報メディアの活用(2)	
キャリア教育	キャリア支援 I(2) キャリア支援 II(2) インターンシップ(2)		教員養成講座 I(2) 教員養成講座 II(2) ボランティア活動(2)		



2013 年度入学生用 文学部第2部教育学科 教育課程表（専門科目）

区 分		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
専 門 科 目 74 単 位 以 上	必修科目 32 単位	教 育 学 概 論(2)		教育学ゼミナールⅡ(4)	教育学卒論ゼミナール(2) 卒 業 論 文(6)	
		教 育 心 理 学 概 論(2)				
		生 涯 学 習 概 論 I(2)				
		教 職 論(2)				
		生 涯 発 達 心 理 学(2)				
		特 別 支 援 教 育 概 論 I(2)				
		教育学入門ゼミナール(2)	教育学ゼミナールⅠ(4)			
		教職総合ゼミナール(2)				
選 択 科 目 42 単 位 以 上	基礎 教育の 心理学と 発達臨床	教育の現代的課題(2)	学校教育社会学(2)	比較社会論(2)		
		教育と倫理(2)	社会文化史(日本)(2)	アメリカ思想史(2)		
		比較政策論(2)	社会文化史(西洋)(2)	文化地誌学(2)		
	社会 教育	カウンセリングの理論と実際(2)		教育相談の理論と方法(2)		
		心理学概論 A(2)		家族心理学(2)		
	心理学概論 B(2)		発達障害児・者の心理(2)			
学校 教育	生涯学習概論Ⅱ(2)		社会教育課題研究Ⅰ(2)			
	女性問題と学習(2)		社会教育課題研究Ⅱ(2)			
特別 支援 教育	情報化と社会教育(2)		社会教育計画論Ⅰ(2)			
	家庭教育論(2)		社会教育計画論Ⅱ(2)			
	視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)(2)					
	教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2)		児童文化研究(2)			
	特別活動の理論と方法(2)		教育課程論(2)			
		特別支援教育概論Ⅱ(2)				
		知的障害教育論(2)				
		肢体不自由教育論(2)				
教 職 科 目	経 済 史 A(2)	政治学原論 A(2)	国 際 法 A(2)			
	経 済 史 B(2)	政治学原論 B(2)	国 際 法 B(2)			
	経 済 学 入 門 A(2)	生徒指導論(進路指導論を含む)(2)	道徳教育の研究(2)	教育実習Ⅰ(事前・事後指導を含む)(5) 教育実習Ⅱ(事前・事後指導を含む)(3) 教職実践演習(中・高)(2)		
	経 済 学 入 門 B(2)					
	日 本 史 A(2) 外 国 史 A(2) 人文地理学A(2)					
	日 本 史 B(2) 外 国 史 B(2) 人文地理学B(2)					
	地 誌 学 A(2) 民 法 A(2) 自然地理学A(2)					
	地 誌 学 B(2) 民 法 B(2) 自然地理学B(2)					
	哲学概説 A(2) 倫理学概説 A(2)					
	哲学概説 B(2) 倫理学概説 B(2)					
他学部他学科 開 放 科 目	科目は別表に記載					

- 備考
1. 区分欄のゴシック数字は卒業に必要な最低単位数。
  2. ( ) 内は該当科目の単位数。
  3. 科目はすべて配当学年の中で履修することが原則であるが、所属年次以下の未修得科目は履修することができる。
  4. 4年次の「卒業論文」の履修登録は、3年次終了時点で未修得単位数が48単位以下の卒業見込みの学生に限る。



## 第2部 他学部他学科開放科目について

## 第2部他学部他学科開放科目 〈第2部学生用〉

開放科目は、他学部および文学部他学科指定科目より自由に選択し、履修することができる。履修にあたっては、下記の点に注意すること。

1. 他学部他学科開放科目は次表に定める科目以外を履修することはできない。  
他学部他学科開放科目として次表に提示されていない科目を履修する場合は、担当教員の許可を得た上で卒業単位にならない自由科目として履修することができる。
2. 配当学年はその学部学科の配当学年に従うこと。
3. 所属する学科の教育課程表にある科目と同一名称の科目は履修できない。
4. 以前修得した科目については、再度履修することができない。
5. 原則として第2部時間帯開講科目のみ履修すること（日本文学文化学科開講科目を除く）。
6. 科目によっては、第1部・第2部いずれかで開講する科目があるので注意すること（下表参照）。

### ◇第1部・第2部いずれかで開講する科目

下記科目は、第1部・第2部いずれかでの開講となる。

履修を希望する場合は、開講曜日時限を確認して履修すること。

万葉文化論 A(2)	王朝文化論 A(2)	室町文化論 A(2)
万葉文化論 B(2)	王朝文化論 B(2)	室町文化論 B(2)
江戸文化論 A(2)	近現代文化論 A(2)	
江戸文化論 B(2)	近現代文化論 B(2)	
日本の古典籍 A(2)	日本民俗学 A(2)	
日本の古典籍 B(2)	日本民俗学 B(2)	

2013年度入学生用 第2部他学部他学科開放科目(専門開放科目)一覧

学部/学科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
文学部 日本文学文化 学科	古代日本文学史 A(2) 古代日本文学史 B(2) 中世日本文学史 A(2) 中世日本文学史 B(2)	近世日本文学史 A(2) 近世日本文学史 B(2) 万葉文化論 A(2) 万葉文化論 B(2) 王朝文化論 A(2) 王朝文化論 B(2) 江戸文化論 A(2) 江戸文化論 B(2)	近現代日本文学史 A(2) 近現代日本文学史 B(2) 近現代文化論 A(2) 近現代文化論 B(2) 日本の古典籍 A(2) 日本の古典籍 B(2)	日本民俗学 A(2) 日本民俗学 B(2) 日室町文化論 A(2) 日室町文化論 B(2)
文学部 教育学科	比較政策論(2) 社会文化史(日本)(2) 社会文化史(西洋)(2)	比較社会論(2) アメリカ思想史(2) 情報と社会教育(2)	社会教育課題研究 I(2) 社会教育課題研究 II(2)	
経済学部 経済学科		経済哲学 A(2) 経済哲学 B(2) 国際金融論 A(2) 国際金融論 B(2) 国際経済発展論 A(2) 国際経済発展論 B(2)	多国籍企業論 A(2) 多国籍企業論 B(2) 国際貿易論 A(2) 国際貿易論 B(2) 日本経済論 A(2) 日本経済論 B(2)	
経営学部 経営学科	経営財務論(2) 投資資金決定論(2) 経営組織論(2)	組織行動論(2) 経営史 A(2) 経営史 B(2)	中小企業経営論 A(2) 中小企業経営論 B(2) 環境マネジメント入門(2)	環境マネジメント(2) 経営分析論(2)
法学部 法律学科	法制史(日本) A(2) 法制史(日本) B(2)	法制史(西洋) A(2) 法制史(西洋) B(2) 英米法 A(2) ドイッス法(2) フランス法(2) 行政学 A(2) 行政学 B(2)	法哲学 A(2) 法哲学 B(2) 労使関係法・労働市場法 A(2) 労使関係法・労働市場法 B(2) 雇用関係法 A(2) 雇用関係法 B(2) 経済法 A(2) 経済法 B(2)	刑事政策 A(2) 刑事政策 B(2) 国際法 A(2) 国際法 B(2) 政治学原論 A(2) 政治学原論 B(2)
社会学部 社会学科	社会統計学(2) 地域社会学 A(2) 地域社会学 B(2) 犯罪社会学 A(2) 犯罪社会学 B(2) マス・コミュニケーション概論 A(2) マス・コミュニケーション概論 B(2)	社会文化思想史 A(2) 社会文化思想史 B(2) 環境社会学 A(2) 環境社会学 B(2) 組織社会学 A(2) 組織社会学 B(2) 情報学基礎論 A(2) 情報学基礎論 B(2) 質的調査法(2)	集合行動論 A(2) 集合行動論 B(2) 家族社会学 A(2) 家族社会学 B(2) 臨床心理学 A(2) 臨床心理学 B(2) コミュニケーション論(2) 産業地域論 A(2) 産業地域論 B(2)	社会学史 A(2) 社会学史 B(2) 宗教社会学 A(2) 宗教社会学 B(2) 情報倫理概論(2)
社会学部 社会福祉学科	社会福祉学概論 A(2) 社会福祉学概論 B(2)	高齢者福祉論(2) 障害者福祉論(2) ケアマネジメント論(2) ジェンダーと福祉(2)	公的扶助論(2) 児童福祉論(2) バリアフリー論(2) 保健医療サービス論(2)	地域福祉論(2) 社会福祉法制・行政(2) 子ども支援論(2)
国際地域学部 国際地域学科 地域総合専攻		社会調査法(2) 統計学(2) 科学技術倫理論(2) 現代社会学論(2) ミクロ経済学(2) マクロ経済学(2) 社会システム哲学論(2) 社会システム論(2) 環太平洋ツーリズム論(2) ホテル開発論(2) サービス・マネジメント論(2) リゾート開発計画論(2) 自然保護・公園論(2) 国際観光交流論(2) 観光行動モデル論(2) 北米ツーリズム論(2)	宗教と社会(2) 文化人類学(2) ヨーロッパの地誌と文化I(2) ヨーロッパの地誌と文化II(2) プロジェクト実施・評価(2) 水辺と環境(2) 自然災害と防災(2) 都市地理学(2) 経済地理学(2) 地域福祉論(2) 社会政策論(2) 社会共論(2) 地方自治論(2) 欧州ツーリズム論(2) 観光マーケティング論(2) レストラン経営論(2)	地域文化(2) アジア・太平洋地域論(2) アジア社会論(2) 経済協力論(2) 国際環境計画入門(2) 環境管理適正技術論(2) 都市環境論(2) まちづくり手法論(2) 地域計画(2) 映像社会学(2) 社会基盤計画・政策(2) 地域システム論(2) 都市計画(2) 食品衛生論(2) 地域財政と観光(2)





# Ⅳ 諸資格について

(2013年4月1日現在)

## 1. 教育職員免許状

### 教職課程を学ぶにあたって

本学の学祖井上円了は哲学館の創設にあたり「諸学の基礎は哲学にあり」の理念の下、「先入観や偏見にとらわれず、物事の本質に迫る仕方、論理的・体系的に深く考える人間」「社会の課題に自主的・主体的に取り組む、よき人間関係を築いていける人間」の育成をめざした。そして特に「教育家と宗教家」の養成に力を入れた。このように本学は創設以来、教員養成を重視し、この分野の伝統と実績を有する大学であり、多くの卒業生が教員として全国の学校で活躍している。

これから教職課程を履修し、教員免許状を取得して教員になろうと志す学生にはまずこのことをしっかりと自覚してほしい。

言うまでもなく、教員になるためには教員免許状の取得が必要である。免許状の取得に関する諸事項は教育職員免許法に定められており、本学もこれに基づいて教職課程教育を実施している。

教職課程に属する科目の多くは、各学科の卒業に必要な科目とは別に履修し単位を修得しなければならない。従って、教職課程を履修する学生は、他の学生よりも多くの科目を履修しなければならず、学修に費やす時間もそれだけ多くなる。1年次からの計画的な履修と学修が求められる。その詳細については、教職課程ガイダンスに参加して説明を聞くとともに、この「履修要覧」を熟読してほしい。

教員になるためには、担当する教科に関する知識を豊富に持つことが必要になることは言うまでもない。しかしそれだけでは教員として十分とは言えない。教員は成長・発達の途上にある児童・生徒を指導し、ともに学ぶ存在である。教員の言動は、時として、子どもの将来を大きく左右することもある。その意味で教員というのは恐ろしい職業である。しかし同時に教員は子どもの成長を直接に目にし、それを助け、ともに喜び合えるやりがいのある職業でもある。

ある教育学者が次のようなことを問っている。「あなた（教員）は何の権利があって他人の子どもを教育するなどという大それたことができるのか」。

この問いに答えることは簡単ではない。しかし「他人の子ども」を教育するという「大それた事」を職業とすることを、子どもから、保護者から、そして社会から、許されるだけの準備を大学生生活のなかでしておくことが、最低限の義務である。

教員をめざす学生には、大学の授業で学ぶことはもちろん、サークル活動、ボランティア活動、趣味、アルバイトなど、さまざまな経験をしながら、自分自身を成長させることを期待したい。豊かな人間性を持った信頼に足る教員をめざしてほしい。

#### (1) 教育職員免許状について

大学卒業後、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員になるためには教育職員免許状を取得しなければならない。

各学科で取得できる教育職員免許状は次の表のとおりである。

学部学科(コース・専攻)		免許状の種類			
		小学校教諭 1 種免許状	中学校教諭 1 種免許状 (教科)	高等学校教諭 1 種免許状 (教科)	
文	第 1 部	哲	/	社 会	地 理 歴 史 ・ 公 民
		東洋思想文化(中国語・中国哲学文学)		国 語	国 語 ・ 書 道
		東洋思想文化(仏教思想)		社 会	地 理 歴 史 ・ 公 民
		日本文学文化		国 語	国 語 ・ 書 道
		英 米 文		英 語	英 語
		史		社 会	地 理 歴 史 ・ 公 民
		教育(人間発達)		社 会	地 理 歴 史 ・ 公 民
	特別支援学校教諭 1 種免許状				
	教育(初等教育)	小学校教諭 1 種免許状			
	英語コミュニケーション	/	英 語	英 語	
第 2 部	東洋思想文化(中国語・中国哲学文学)	/	国 語	国 語 ・ 書 道	
	東洋思想文化(仏教思想)	/	社 会	地 理 歴 史 ・ 公 民	
	日本文学文化	/	国 語	国 語 ・ 書 道	
	教 育	/	社 会	地 理 歴 史 ・ 公 民	

## 〈2〉教育職員免許状の取得条件について

教育職員免許状を取得するためには、下の表にあるように基礎資格として「学士の学位を有すること」（卒業に必要な単位を修得すること）が要求される。したがって、教育職員免許状取得のための単位は修得できたものの卒業ができなかったということにならないよう、4年間の履修計画を立てること。本学では「教育職員免許法」に基づいて、教育職員免許状取得に必要な単位が修得できるよう科目を開設している。なお、特別支援学校教諭免許状を取得するためには小学校、中学校、高等学校または幼稚園のいずれかの免許状（基礎免許状）を取得した上に、さらに特別支援教育に関する科目の単位を修得することが必要とされる。

○近年、教員採用試験等で中学校教諭・高等学校教諭両方の教育職員免許状を取得（見込）していることが採用試験受験の条件、または有利になる傾向がある。したがって、できる限り中学校教諭・高等学校教諭両方の教育職員免許状を取得することが望ましい。

○教育職員免許状を取得するのに必要な科目は、4年間で履修かつ修得できるように配置されているため、4年間の履修計画を入念に立て、1年次より必要な科目を履修かつ修得すること。

※2年次ないし3年次から4年次終了（卒業）までに教育職員免許状を取得することは難しいので注意すること。

○第2部学生は授業時間数が少ないため（1日2時限・週12時限）、各学科で取得できる全ての教育職員免許状（教科）を取得することは、極めて難しい。そのため種類を絞って4年間の履修計画を立てること。

例）中学校教諭1種免許状（社会）・高等学校教諭1種免許状（地理歴史）の2免許など

### 基礎資格と免許法における最低修得単位数

免許状の種類	基礎資格	免許法における最低修得単位数					その他
		免許法施行規則第66条の6に定める科目	教職に関する科目	教科に関する科目	教科または教職に関する科目	特別支援教育に関する科目	
小学校教諭1種免許状	学士の学位を有すること	8	41	8	10		介護等体験 (詳細は P.230)
中学校教諭1種免許状		8	31	20	8		
高等学校教諭1種免許状		8	23	20	16		
特別支援学校教諭1種免許状	小学校、中学校、高等学校または幼稚園の免許状を有すること					26	

〈注意〉

上記の免許法における最低修得単位数と、本学における最低修得単位数は異なる。

本学の学生は、本学における最低修得単位数を履修かつ修得しなければならない。P.202～P.227の表2の本学における「教職に関する科目」「教科に関する科目」一覧表で確認すること。

また、「教科又は教職に関する科目」については「教職に関する科目」、「教科に関する科目」の法令上の最低修得単位数を超えて修得した当該の単位を充当する（ただし、東洋思想文化学科については、前述の単位に加えて「教科又は教職に関する科目」を別途設けている）。

### 〈3〉教職課程を履修する学生への連絡・伝達について

教職に関する事項（各種説明会・手続き・発表・呼び出し等）はすべて教職課程掲示板にて連絡する。登校時には必ず1102番教室（1号館1階）横もしくは6B12番教室（6号館地下1階）前の掲示を確認すること。

### 〈4〉教職科目の履修登録について

教育職員免許状の取得のためには、卒業単位の充足のほかに、

- （1）免許法施行規則第66条の6に定める科目（〈表1〉参照）
- （2）教職に関する科目（〈表2〉参照）
- （3）教科に関する科目（〈表2〉参照）
- （4）教科または教職に関する科目（〈表2〉参照）

に定められた科目をそれぞれ必ず履修し、単位を修得する必要がある。

<表1> 「免許法施行規則第66条の6に定める科目」

下記の表にしたがい、「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」のそれぞれの分野で2単位ずつを修得しなければならない。

学部	免許法施行規則第66条の6に定める科目区分	必要単位数	本学での開講科目		
文	第1部	日本国憲法	2単位 日本国憲法(2)		
		体育	2単位 スポーツ健康科学実技ⅠA(1) スポーツ健康科学実技ⅠB(1) スポーツ健康科学実技ⅡA(1) スポーツ健康科学実技ⅡB(1) スポーツ健康科学実技ⅢA(1) スポーツ健康科学実技ⅢB(1) スポーツ健康科学講義Ⅰ(2) スポーツ健康科学講義ⅡA(2) スポーツ健康科学講義ⅡB(2) ※上記科目のうち、2単位選択必修		
		外国語コミュニケーション	2単位	学科名	科目名
				哲	英語ⅠA(2)・ドイツ語ⅠA(2)・フランス語ⅠA(2)のうち1科目選択必修
				東洋思想文化(中国語・中国哲学文学)	中国語ⅠA(2)・中国語ⅠB(2)のうち1科目選択必修
				東洋思想文化(仏教思想)	英語ⅠA(2)・ドイツ語ⅠA(2)・フランス語ⅠA(2)・中国語ⅠA(2)のうち1科目選択必修
				日本文学文化	英語ⅠA(2)・ドイツ語ⅠA(2)・フランス語ⅠA(2)・中国語ⅠA(2)のうち1科目選択必修
				英米文	英語ⅠA(2)・英語ⅠB(2)のうち1科目選択必修
				史	英語ⅠA(2)・英語ⅠB(2)のうち1科目選択必修
		教育(人間・初等)	英語ⅠA(2)・英語ⅠB(2)のうち1科目選択必修		
		英語コミュニケーション	Oral CommunicationⅠAA(1) Oral CommunicationⅠAB(1) Oral CommunicationⅠBA(1) Oral CommunicationⅠBB(1) ※上記科目のうち2単位選択必修		
		情報機器の操作	2単位 情報化社会と人間(2) コンピュータ・リテラシー(2) 情報処理演習A(1) 情報処理演習B(1)のうち2単位選択必修 但し、英語コミュニケーション学科の学生は 情報化社会と人間(2) 情報処理演習A(1) 情報処理演習B(1) Computer Assisted Language Learning A(2) Computer Assisted Language Learning B(2)のうち2単位選択必修		
第2部	日本国憲法	2単位 日本国憲法(2)			
	体育	2単位 スポーツ健康科学実技A(1) スポーツ健康科学実技B(1) スポーツ健康科学講義Ⅰ(2) スポーツ健康科学講義ⅡA(2) スポーツ健康科学講義ⅡB(2) ※上記科目のうち、2単位選択必修			
	外国語コミュニケーション	2単位 英語ⅠAA(1) 英語ⅠAB(1) 英語ⅠBA(1) 英語ⅠBB(1) ドイツ語ⅠAA(1) ドイツ語ⅠAB(1) ドイツ語ⅠBA(1) ドイツ語ⅠBB(1) フランス語ⅠAA(1) フランス語ⅠAB(1) フランス語ⅠBA(1) フランス語ⅠBB(1) 中国語ⅠAA(1) 中国語ⅠAB(1) 中国語ⅠBA(1) 中国語ⅠBB(1) ※上記科目のうち、2単位選択必修			
	情報機器の操作	2単位 情報化社会と人間(2) コンピュータ・リテラシーA(1) コンピュータ・リテラシーB(1) 情報処理演習A(1) 情報処理演習B(1) ※上記科目のうち、2単位選択必修			

〈表2〉 本学における「教職に関する科目」「教科に関する科目」一覧表

哲学科 (第1部) 2013年度入学生用 (1.O:必修科目、2.[最低修得単位数]:本学において各免許状を取得するための最低単位数、3.△:選択必修)

高等学校教諭1種(公民)				中学校教諭1種(社会)				高等学校教諭1種(地理歴史)							
教職に関する科目				教職に関する科目				教職に関する科目							
免許規則に定める科目	施行区分	意義等	最低単位数	免許規則に定める科目	施行区分	意義等	最低単位数	免許規則に定める科目	施行区分	意義等	最低単位数	免許規則に定める科目	施行区分	意義等	最低単位数
○教職概論(2)			2単位	○教職概論(2)			2単位	○教職概論(2)			2単位	○教職概論(2)			2単位
○教育基礎論I(2)			1	○教育基礎論I(2)			1	○教育基礎論I(2)			1	○教育基礎論I(2)			1
○教育基礎論II(2)			1	○教育基礎論II(2)			1	○教育基礎論II(2)			1	○教育基礎論II(2)			1
教育史(2)			3・4	教育史(2)			3・4	教育史(2)			3・4	教育史(2)			3・4
○教育心理学(2)			2	○教育心理学(2)			2	○教育心理学(2)			2	○教育心理学(2)			2
教育法規(2)			3・4	教育法規(2)			3・4	教育法規(2)			3・4	教育法規(2)			3・4
社会科教育論(2)			2	○社会科教育論(2)			2	○社会科教育論(2)			2	社会科教育論(2)			2
○社会・公民指導法I(2)			3	△社会・地歴指導法I(2)			3	△社会・地歴指導法I(2)			3	○社会・地歴指導法I(2)			3
○社会・公民指導法II(2)			3	△社会・地歴指導法II(2)			3	△社会・地歴指導法II(2)			3	○社会・地歴指導法II(2)			3
道徳教育の研究(2)			3	○道徳教育の研究(2)			3	○道徳教育の研究(2)			3	道徳教育の研究(2)			3
○特別活動の研究(2)			3	○特別活動の研究(2)			3	○特別活動の研究(2)			3	○特別活動の研究(2)			3
○教育方法研究(情報機器の活用を含む)(2)			3	○教育方法研究(情報機器の活用を含む)(2)			3	○教育方法研究(情報機器の活用を含む)(2)			3	○教育方法研究(情報機器の活用を含む)(2)			3
教育評価(2)			3・4	教育評価(2)			3・4	教育評価(2)			3・4	教育評価(2)			3・4
○生徒指導論(進路指導論を含む)(2)			2	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2)			2	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2)			2	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2)			2
○教育相談(2)			2	○教育相談(2)			2	○教育相談(2)			2	○教育相談(2)			2
△教育実習I(事前・事後指導を含む)(5)			4	○教育実習I(事前・事後指導を含む)(5)			4	△教育実習I(事前・事後指導を含む)(5)			4	△教育実習I(事前・事後指導を含む)(5)			4
△教育実習II(事前・事後指導を含む)(3)			4	○教育実習II(事前・事後指導を含む)(3)			4	△教育実習II(事前・事後指導を含む)(3)			4	△教育実習II(事前・事後指導を含む)(3)			4
※いずれか1科目を修得すること。ただし教育実習Iを修得しても、高等学校免許申請の際には3単位として申請する。				○教育実習I(事前・事後指導を含む)(5)			4	※いずれか1科目を修得すること。ただし教育実習Iを修得しても、高等学校免許申請の際には3単位として申請する。				○教育実習I(事前・事後指導を含む)(5)			4
○教職実践演習			2単位	○教職実践演習			2単位	○教職実践演習			2単位	○教職実践演習			2単位
○教職実践演習(中・高)(2)			4	○教職実践演習(中・高)(2)			4	○教職実践演習(中・高)(2)			4	○教職実践演習(中・高)(2)			4
『教職に関する科目』単位小計			25単位以上	『教職に関する科目』単位小計			31単位	『教職に関する科目』単位小計			25単位以上	『教職に関する科目』単位小計			25単位以上
…①				…①				…①				…①			





# 〈表2〉 本学における「教職に関する科目」「教科又は教職に関する科目」「教科に関する科目」一覧表

東洋思想文化学科 (第1部) 中国語・中国語・中国語文学コース 2013年度入学生用

(1.○：必修科目、2「最低修得単位数：本学において免許状を取得するための最低単位数」、3.△：選択必修)

中学校教諭 1種 (国語)				高等学校教諭 1種 (国語)			
教職に関する科目				教職に関する科目			
免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当学年	免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当学年
教職の意義等に関する科目	2単位	○教職概論(2)	1	教職の意義等に関する科目	2単位	○教職概論(2)	1
教育の基礎理論に関する科目	6単位以上	○教育基礎論(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) ○教育制度論(2)	3・4 2	教育の基礎理論に関する科目	6単位以上	○教育基礎論(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) ○教育制度論(2)	3・4 2
教育課程及び指導法に関する科目	16単位	○教育課程総論(2) ○国語科教育論 I(2) ○国語科教育論 II(2) ○国語科指導法 I(2) ○国語科指導法 II(2) ○道徳教育論(2) ○特別活動の理論と方法(2)	1 2 2 3 3 3	教育課程及び指導法に関する科目	10単位以上	○教育課程総論(2) 国語科教育論 I(2) 国語科教育論 II(2) ○国語科指導法 I(2) ○国語科指導法 II(2) ○特別活動の理論と方法(2)	1 2 2 3 3 3
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)	2 2	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)	2 2
教育実習	5単位	○教育実習 I(事前・事後指導を含む)(5)	4	教育実習	3単位	△教育実習 I(事前・事後指導を含む)(5) △教育実習 II(事前・事後指導を含む)(3) ※いずれか1科目を修得すること。ただし教育実習 Iを修得しても、高等専攻校免許申請の際には3単位として申請する。	4
教職実践演習	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	4	教職実践演習	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	4
【教職に関する科目】単位小計	35単位以上	…①		【教職に関する科目】単位小計	27単位以上	…①	
教科又は教職に関する科目				教科又は教職に関する科目			
免許法施行規則に定める科目	本学で開講している科目	配当学年		免許法施行規則に定める科目	本学で開講している科目	配当学年	
教育課程及び指導法に関する科目	教育評価(2)	3・4		教育課程及び指導法に関する科目	教育評価(2) 道徳教育論(2)	3・4 3	
【教科又は教職に関する科目】単位小計	…②			【教科又は教職に関する科目】単位小計	…②		

高等学校教諭 1種 (書道)			
教職に関する科目			
免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当学年
教職の意義等に関する科目	2単位	○教職概論(2)	1
教育の基礎理論に関する科目	6単位以上	○教育基礎論(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) ○教育制度論(2) ○教育課程総論(2)	1 3・4 2 1 1
教育課程及び指導法に関する科目	10単位	○書道科指導法 I(2) ○書道科指導法 II(2) ○特別活動の理論と方法(2) ○教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2) ○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)	2 2 3 3 2 2
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)	2 2
教育実習	3単位	△教育実習 I(事前・事後指導を含む)(5) △教育実習 II(事前・事後指導を含む)(3) ※いずれか1科目を修得すること。ただし教育実習 Iを修得しても、高等専攻校免許申請の際には3単位として申請する。	4
教職実践演習	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	4
【教職に関する科目】単位小計	27単位以上	…①	
教科又は教職に関する科目			
免許法施行規則に定める科目	本学で開講している科目	配当学年	
教育課程及び指導法に関する科目	教育評価(2) 道徳教育論(2)	3・4 3	
【教科又は教職に関する科目】単位小計	…②		

教科に関する科目		教科に関する科目	
免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数
国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	4単位以上	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	4単位以上
国文学(国文学史を含む。)	8単位以上	国文学(国文学史を含む。)	8単位以上
漢文学	4単位以上	漢文学	4単位以上
書道(書写を中心とする。)	2単位以上		
【教科に関する科目】単位数小計	20単位以上	【教科に関する科目】単位数小計	20単位以上
…③	…③	…③	…③
①+②+③の合計で59単位以上を修得していない場合は、免許を取得することはできない。		①+②+③の合計で59単位以上を修得していない場合は、免許を取得することはできない。	

教科に関する科目		教科に関する科目	
免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数
国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	4単位以上	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	4単位以上
国文学(国文学史を含む。)	8単位以上	国文学(国文学史を含む。)	8単位以上
漢文学	4単位以上	漢文学	4単位以上
書道(書写を中心とする。)	2単位以上		
【教科に関する科目】単位数小計	20単位以上	【教科に関する科目】単位数小計	20単位以上
…③	…③	…③	…③
①+②+③の合計で59単位以上を修得していない場合は、免許を取得することはできない。		①+②+③の合計で59単位以上を修得していない場合は、免許を取得することはできない。	

教科に関する科目		教科に関する科目	
免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数
書道(書写を含む。)	8単位	書道(書写を含む。)	8単位
書道史	4単位	書道史	4単位
「書論、鑑賞」	4単位	「書論、鑑賞」	4単位
「国文学、漢文学」	4単位以上	「国文学、漢文学」	4単位以上
【教科に関する科目】単位数小計	20単位以上	【教科に関する科目】単位数小計	20単位以上
…③	…③	…③	…③
①+②+③の合計で59単位以上を修得していない場合は、免許を取得することはできない。		①+②+③の合計で59単位以上を修得していない場合は、免許を取得することはできない。	

＜注意＞上記の免許取得希望者は、本学における免許取得のための単位を満たすために、「教職に関する科目」と「教科又は教職に関する科目」と「教科に関する科目」の選択科目を履修かつ修得しなければならぬ。

# ＜表2＞ 本学における「教職に関する科目」「教科又は教職に関する科目」一覧表

東洋思想文化学科 (第1部) 仏教思想コース 2013年度入学生用

(1.○：必修科目、2「最低修得単位数：本学において免許状を取得するための最低単位数」、3.△：選択必修)

高等学校教諭 1種 (公民)				中学校教諭 1種 (社会)				高等学校教諭 1種 (地理歴史)			
教職に関する科目				教職に関する科目				教職に関する科目			
免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当学年	免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当学年	免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当学年
教職の意義等に関する科目	2単位	○教職概論(2)	1	教職の意義等に関する科目	2単位	○教職概論(2)	1	教職の意義等に関する科目	2単位	○教職概論(2)	1
教育の基礎理論に関する科目	6単位以上	○教育基礎論(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) ○教育制度論(2)	3・4 2	教育の基礎理論に関する科目	6単位以上	○教育基礎論(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) ○教育制度論(2)	3・4 2	教育の基礎理論に関する科目	6単位	○教育基礎論(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) ○教育制度論(2)	3・4 2
教育課程及び指導法に関する科目	12単位以上	○教育課程総論(2) 社会・地歴指導演法 I(2) 社会・地歴指導演法 II(2) ○社会・公民指導演法 I(2) ○社会・公民指導演法 II(2) ○道徳教育論(2) ○特別活動の理論と方法(2) ○教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2)	3 3 3 3 3 3	教育課程及び指導法に関する科目	16単位	○教育課程総論(2) 社会・地歴指導演法 I(2) 社会・地歴指導演法 II(2) ○社会・公民指導演法 I(2) ○社会・公民指導演法 II(2) ○道徳教育論(2) ○特別活動の理論と方法(2) ○教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2)	1 2 2 3 3 3 3	教育課程及び指導法に関する科目	12単位以上	○教育課程総論(2) 社会・地歴指導演法 I(2) 社会・地歴指導演法 II(2) 社会・公民指導演法 I(2) 社会・公民指導演法 II(2) ○道徳教育論(2) ○特別活動の理論と方法(2) ○教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2)	1 3 3 3 3 3 3
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)	2	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)	2	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)	2
教育実習	3単位	○教育実習 I(事前・事後指導を含む)(5)	4	教育実習	5単位	△教育実習 II(事前・事後指導を含む)(3) ※いずれか1科目を修得し、かつ、ただし教育実習 Iを修得し、かつ、高等学校免状申請の際には3単位として申請する。	4	教育実習	3単位	△教育実習 II(事前・事後指導を含む)(3) ※いずれか1科目を修得し、かつ、ただし教育実習 Iを修得し、かつ、高等学校免状申請の際には3単位として申請する。	4
教職実践演習	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	4	教職実践演習	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	4	教職実践演習	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	4
【教職に関する科目】単位小計	29単位以上	…①		【教職に関する科目】単位小計	35単位以上	…①		【教職に関する科目】単位小計	29単位以上	…①	
教科又は教職に関する科目				教科又は教職に関する科目				教科又は教職に関する科目			
免許法施行規則に定める科目	配当学年	本学で開講している科目	配当学年	免許法施行規則に定める科目	配当学年	本学で開講している科目	配当学年	免許法施行規則に定める科目	配当学年	本学で開講している科目	配当学年
教育課程及び指導法に関する科目	1	教育評価(2)	3・4	教育課程及び指導法に関する科目	3・4	教育評価(2)	3・4	教育課程及び指導法に関する科目	3	道徳教育論(2)	3
【教科又は教職に関する科目】単位小計		…②		【教科又は教職に関する科目】単位小計		…②		【教科又は教職に関する科目】単位小計		…②	

教科に関する科目		教科に関する科目		教科に関する科目	
免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数
		日本史及び外国史	8単位以上		
「法学(国際法含む) 政治学(国際政治学含む。)」	4単位以上	地理学(地誌を含む。)	8単位以上		
「社会学、経済学(国際経済学含む。)」	4単位以上	「法学、政治学」	4単位以上		
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	4単位以上	「社会学、経済学」	4単位以上		
		「哲学、倫理学、宗教学」	4単位以上		

○日本史A(2) ○日本史B(2) ○外国史A(2) ○外国史B(2) ○日本仏教史A(2) ○日本仏教史B(2) ○神道史A(2) ○神道史B(2) ○インド仏教史A(2) ○インド仏教史B(2) ○中国仏教史A(2) ○中国仏教史B(2) ○チベット仏教史(2) ○中国哲学史A(2) ○中国哲学史B(2) ○インド思想特講ⅡA(2) ○インド思想特講ⅡB(2) ○東西交渉文化史A(2) ○東西交渉文化史B(2) ○中国史概説A(2) ○中国史概説B(2) ○韓国仏教史(2) ○古文書学Ⅰ(4)	○地理学A(2) ○地理学B(2) ○地誌学A(2) ○地誌学B(2) ○人文地理学A(2) ○人文地理学B(2) ○自然地理学A(2) ○自然地理学B(2) ○政治学原論A(2) ○政治学原論B(2) ○国際法A(2) ○国際法B(2) ○社会学A(2) ○社会学B(2) ○社会学(2) ○社会学(2) ○経済学A(2) ○経済学B(2) ○宗教学社会学A(2) ○宗教学社会学B(2) ○倫理学概論(4) ○宗教学概論A(2) ○宗教学概論B(2) ○仏教思想概論A(2) ○仏教思想概論B(2) ○インド古典思想概論A(2) ○インド古典思想概論B(2) ○インド思想特講ⅠA(2) ○インド思想特講ⅠB(2) ○仏教思想特講ⅡA(2) ○仏教思想特講ⅡB(2) ○キリスト教概論(2) ○イスラーム概論(2) ○ヒンドゥー教概論A(2) ○ヒンドゥー教概論B(2) ○ヒンドゥー現代思想(2) ○インド思想史A(2) ○インド思想史B(2)
---	--

教科に関する科目		教科に関する科目		教科に関する科目	
免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数
日本史	4単位以上	日本史	4単位以上		
外国史	4単位以上	外国史	4単位以上		
人文地理学及び自然地理学	8単位以上	人文地理学及び自然地理学	8単位以上		
地誌	4単位以上	地誌	4単位以上		

教科に関する科目		教科に関する科目		教科に関する科目	
「教科」に関する科目小計	20単位以上	「教科」に関する科目小計	28単位以上	「教科」に関する科目小計	59単位以上
…③	…③	…③	…③	…③	…③
本学における免許取得のための単位の合計 ①+②+③の合計で59単位以上を修得していない場合は、免許を取得することはできない。					

＜注意＞上記の免許取得希望者は、本学における免許取得のための単位を満たすために、「教職又は教職に関する科目」と「教科又は教職に関する科目」と「教科に関する科目」の選択科目を履修かつ修得しなければならない。



〈表2〉 本学における「教職に関する科目」「教科に関する科目」一覧表

日本文学文化学科 (第1部) 2013年度入学生用 (1.○:必修科目、2.「最低修得単位数」取得するための最低単位数、3.△:選択必修)

中学校教諭1種(国語)					高等学校教諭1種(国語)					高等学校教諭1種(書道)								
教職に関する科目					教職に関する科目					教職に関する科目								
免許 規則に 定める 科目区 分	法 施 法 の 意 義 等 に 関 する 科 目	行 施 行 め め 修 得 単 位 数	低 最 修 得 単 位 数	本 学 で 開 講 し て い る 科 目	当 年 配 学	免許 規則に 定める 科目区 分	法 施 法 の 意 義 等 に 関 する 科 目	行 施 行 め め 修 得 単 位 数	低 最 修 得 単 位 数	本 学 で 開 講 し て い る 科 目	当 年 配 学	免許 規則に 定める 科目区 分	法 施 法 の 意 義 等 に 関 する 科 目	行 施 行 め め 修 得 単 位 数	低 最 修 得 単 位 数	本 学 で 開 講 し て い る 科 目	当 年 配 学	
	教職の意義等に 関する科目	2単位	2単位	○教職概論(2)	1	教職の意義等に 関する科目	2単位	2単位	○教職概論(2)	1	教職の意義等に 関する科目	2単位	○教職概論(2)	1	○教職概論(2)	1	○教職概論(2)	1
	教育の基礎理 論に関する科 目	6単位 以上	6単位 以上	○教育基礎論Ⅰ(2) ○教育基礎論Ⅱ(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) 教育法規(2)	1 1 3・4 2 3・4	教育の基礎理 論に関する科 目	6単位 以上	6単位 以上	○教育基礎論Ⅰ(2) ○教育基礎論Ⅱ(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) 教育法規(2)	1 1 3・4 2 3・4	教育の基礎理 論に関する科 目	6単位 以上	○教育基礎論Ⅰ(2) ○教育基礎論Ⅱ(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) 教育法規(2)	1 1 3・4 2 3・4	○教育基礎論Ⅰ(2) ○教育基礎論Ⅱ(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) 教育法規(2)	1 1 3・4 2 3・4	○教育基礎論Ⅰ(2) ○教育基礎論Ⅱ(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) 教育法規(2)	1 1 3・4 2 3・4
	教育課程及び 指導法に関する 科目	12単位 以上	8単位 以上	○国語科教育論(2) ○国語科指導法Ⅰ(2) ○国語科指導法Ⅱ(2) ○道徳教育の研究(2) ○特別活動の研究(2) ○教育方法研究(情報機器の活用を含む)(2) 教育評価(2)	2 3 3 3 3 3 3・4	教育課程及び 指導法に関する 科目	8単位 以上	8単位 以上	○国語科教育論(2) ○国語科指導法Ⅰ(2) ○国語科指導法Ⅱ(2) 道徳教育の研究(2) ○特別活動の研究(2) ○教育方法研究(情報機器の活用を含む)(2) 教育評価(2)	2 3 3 3 3 3 3・4	教育課程及び 指導法に関する 科目	8単位 以上	○国語科指導法Ⅰ(2) ○国語科指導法Ⅱ(2) 道徳教育の研究(2) ○特別活動の研究(2) ○教育方法研究(情報機器の活用を含む)(2) 教育評価(2)	3 3 3 3 3 3 3・4	○書道科指導法Ⅰ(2) ○書道科指導法Ⅱ(2) 道徳教育の研究(2) ○特別活動の研究(2) ○教育方法研究(情報機器の活用を含む)(2) 教育評価(2)	3 3 3 3 3 3 3・4	○書道科指導法Ⅰ(2) ○書道科指導法Ⅱ(2) 道徳教育の研究(2) ○特別活動の研究(2) ○教育方法研究(情報機器の活用を含む)(2) 教育評価(2)	3 3 3 3 3 3 3・4
	生徒指導・教育相 談及び進路指導 等に関する科目	4単位	4単位	○生徒指導論(進路指導を含む)(2) ○教育相談(2)	2 2	生徒指導・教育相 談及び進路指導 等に関する科目	4単位	4単位	○生徒指導論(進路指導を含む)(2) ○教育相談(2)	2 2	生徒指導・教育相 談及び進路指導 等に関する科目	4単位	○生徒指導論(進路指導を含む)(2) ○教育相談(2)	2 2	○生徒指導論(進路指導を含む)(2) ○教育相談(2)	2 2	○生徒指導論(進路指導を含む)(2) ○教育相談(2)	2 2
	教育実習	5単位	3単位	○教育実習Ⅰ(事前・事後指導を含む)(5)	4	教育実習	3単位	3単位	△教育実習Ⅰ(事前・事後指導を含む)(5) △教育実習Ⅱ(事前・事後指導を含む)(3) ※いずれか1科目を修得すること。 ただし教育実習Ⅰを修得しても、 高等学校免許申請の際には3単 位として申請する。	4 4	教育実習	3単位	△教育実習Ⅰ(事前・事後指導を含む)(5) △教育実習Ⅱ(事前・事後指導を含む)(3) ※いずれか1科目を修得すること。 ただし教育実習Ⅰを修得しても、 高等学校免許申請の際には3単 位として申請する。	4 4	△教育実習Ⅰ(事前・事後指導を含む)(5) △教育実習Ⅱ(事前・事後指導を含む)(3) ※いずれか1科目を修得すること。 ただし教育実習Ⅰを修得しても、 高等学校免許申請の際には3単 位として申請する。	4 4	△教育実習Ⅰ(事前・事後指導を含む)(5) △教育実習Ⅱ(事前・事後指導を含む)(3) ※いずれか1科目を修得すること。 ただし教育実習Ⅰを修得しても、 高等学校免許申請の際には3単 位として申請する。	4 4
	教職実践演習	2単位	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	4	教職実践演習	2単位	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	4	教職実践演習	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	4	○教職実践演習(中・高)(2)	4	○教職実践演習(中・高)(2)	4
	『教職に関する 科目』単位小計	31単位 以上	25単位 以上	…①		『教職に関する 科目』単位小計	25単位 以上	25単位 以上	…①		『教職に関する 科目』単位小計	25単位 以上	25単位 以上	…①		…①		…①



教科に関する科目		教科に関する科目	
免許規則に定める科目	実施方法	最低単位数	本学で開講している科目
国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	書道(書写を含む。)	4単位以上	語概説A(2) 語概説B(2) 日本語史A(2) 日本語史B(2) 古典文法A(2) 古典文法B(2) 現代語文法A(2) 現代語文法B(2) 日本語学特講I A(2) 日本語学特講I B(2)
国文学(国文学史を含む。)	書道史	8単位以上	語概説A(2) 語概説B(2) 日本語史A(2) 日本語史B(2) 古典文法A(2) 古典文法B(2) 現代語文法A(2) 現代語文法B(2) 日本語学特講I A(2) 日本語学特講I B(2)
国文学(国文学史を含む。)	「書論、鑑賞」	4単位以上	語概説A(2) 語概説B(2) 日本語史A(2) 日本語史B(2) 古典文法A(2) 古典文法B(2) 現代語文法A(2) 現代語文法B(2) 日本語学特講I A(2) 日本語学特講I B(2)
国文学(国文学史を含む。)	「国文学、漢文」	4単位以上	語概説A(2) 語概説B(2) 日本語史A(2) 日本語史B(2) 古典文法A(2) 古典文法B(2) 現代語文法A(2) 現代語文法B(2) 日本語学特講I A(2) 日本語学特講I B(2)

教科に関する科目		教科に関する科目	
免許規則に定める科目	実施方法	最低単位数	本学で開講している科目
国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	4単位以上	語概説A(2) 語概説B(2) 日本語史A(2) 日本語史B(2) 古典文法A(2) 古典文法B(2) 現代語文法A(2) 現代語文法B(2) 日本語学特講I A(2) 日本語学特講I B(2)
国文学(国文学史を含む。)	国文学(国文学史を含む。)	8単位以上	語概説A(2) 語概説B(2) 日本語史A(2) 日本語史B(2) 古典文法A(2) 古典文法B(2) 現代語文法A(2) 現代語文法B(2) 日本語学特講I A(2) 日本語学特講I B(2)
漢文学	漢文学	4単位以上	語概説A(2) 語概説B(2) 日本語史A(2) 日本語史B(2) 古典文法A(2) 古典文法B(2) 現代語文法A(2) 現代語文法B(2) 日本語学特講I A(2) 日本語学特講I B(2)

教科に関する科目		教科に関する科目	
免許規則に定める科目	実施方法	最低単位数	本学で開講している科目
国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	4単位以上	語概説A(2) 語概説B(2) 日本語史A(2) 日本語史B(2) 古典文法A(2) 古典文法B(2) 現代語文法A(2) 現代語文法B(2) 日本語学特講I A(2) 日本語学特講I B(2)
国文学(国文学史を含む。)	国文学(国文学史を含む。)	8単位以上	語概説A(2) 語概説B(2) 日本語史A(2) 日本語史B(2) 古典文法A(2) 古典文法B(2) 現代語文法A(2) 現代語文法B(2) 日本語学特講I A(2) 日本語学特講I B(2)
漢文学	漢文学	4単位以上	語概説A(2) 語概説B(2) 日本語史A(2) 日本語史B(2) 古典文法A(2) 古典文法B(2) 現代語文法A(2) 現代語文法B(2) 日本語学特講I A(2) 日本語学特講I B(2)

(注意) 上記の免許取得希望者は、本学における免許取得のための単位を満たすために、「教職に関する科目」と「教科に関する科目」の選択科目を履修かつ修得しなければならない。

〈表2〉 本学における「教職に関する科目」「教科に関する科目」一覧表

英米文学科(第1部)2013年度入学生用(1.○:必修科目、2.[最低修得単位数]:本学において各免許状を取得するための最低単位数、3.△:1科目選択必修)

中学校教諭1種(英語)				高等学校教諭1種(英語)			
教職に関する科目				教職に関する科目			
免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当年	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当年
教職の意義等に関する科目	2単位	○教職概論(2)	1	教職の意義等に関する科目	2単位	○教職概論(2)	1
教育の基礎理論に関する科目	6単位	○教育基礎論Ⅰ(2)	1	教育の基礎理論に関する科目	6単位以上	○教育基礎論Ⅰ(2)	1
		○教育基礎論Ⅱ(2)	1			○教育基礎論Ⅱ(2)	1
教育課程及び指導法に関する科目	14単位	教育史(2)	3・4	教育課程及び指導法に関する科目	8単位以上	教育史(2)	3・4
		○教育心理学(2)	2			○教育心理学(2)	2
		教育法規(2)	3・4			教育法規(2)	3・4
		○英語科教育論Ⅰ(2)	2			英語科教育論Ⅰ(2)	2
○英語科教育論Ⅱ(2)	2	○英語科教育論Ⅱ(2)	2	英語科教育論Ⅱ(2)	2		
生徒指導・教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	○英語科指導法Ⅰ(2)	3	生徒指導・教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	○英語科指導法Ⅰ(2)	3
		○英語科指導法Ⅱ(2)	3			○英語科指導法Ⅱ(2)	3
		○道徳教育の研究(2)	3			○道徳教育の研究(2)	3
		○特別活動の研究(2)	3			○特別活動の研究(2)	3
教育実習	5単位	○教育方法研究(情報機器の活用を含む)(2)	3	教育実習	3単位	○教育方法研究(情報機器の活用を含む)(2)	3
		○教育評価(2)	3・4			○教育評価(2)	3・4
		○生徒指導論(進路指導論を含む)(2)	2			○生徒指導論(進路指導論を含む)(2)	2
		○教育相談(2)	2			○教育相談(2)	2
教職実践演習	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	4	教職実践演習	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	4
『教職に関する科目』単位小計	33単位	…①		『教職に関する科目』単位小計	25単位以上	…①	

免許法施行規則に定める科目区分		教科に関する科目	
最低単位数	修得単位数	免許法施行規則に定める科目区分	本学で開講している科目
英語学	8単位以上	英語学	○英 文 法 概 説(4) ○英 語 学 概 論(4) ○英 語 学 演 習 I(2) ○英 語 学 演 習 II(2) ○英 語 学 演 習 III(2) ○英 語 学 演 習 IV(2) ○英 語 学 演 習 V(2) ○英 語 学 特 講 I(4) ○英 語 学 特 講 II(4) ○英 語 学 特 講 III(4)
英米文学	8単位以上	英米文学	○英 文 学 史(4) ○米 文 学 史(4) ○英 米 文 学 演 習 I(2) ○英 米 文 学 演 習 II(2) ○英 米 文 学 演 習 III(2) ○英 米 文 学 演 習 IV(2) ○英 米 文 学 演 習 V(2) ○英 文 学 特 講 I(4) ○英 文 学 特 講 II(4) ○英 文 学 特 講 III(4) ○米 文 学 特 講 I(4) ○米 文 学 特 講 II(4) ○イギリス古典文学(4)
英語コミュニケーション	6単位以上	英語コミュニケーション	○英 語 音 声 学 演 習(2) ○英 会 話 I(2) ○英 会 話 II(2) ○英 会 話 III(2) ○英 時 話 英 語(4) ○英 時 話 英 語(4)
異文化理解	8単位	異文化理解	○イギリスの文化と思想(4) ○アメリカの文化と思想(4)
『教科に関する科目』単位小計	30単位以上	『教科に関する科目』単位小計	…②
本学における免許取得のための単位の合計	59単位以上	本学における免許取得のための単位の合計	①+②の合計で59単位以上修得していない場合は、免許を取得することはできない。

〔注意〕高等学校教諭1種免許状(英語)の免許状取得希望者は、本学における免許取得のための単位の合計を満たすために、「教職に関する科目」と「教科に関する科目」の選択科目を履修かつ修得しなければならない。

〈表2〉 本学における「教職に関する科目」「教科に関する科目」一覧表

史学科 (第1部) 2013年度入学生用 (1.O:必修科目、2.[最低修得単位数]:本学において各免許状を取得するための最低単位数、3.△:選択必修)

高等学校教諭1種(公民)			中学校教諭1種(社会)			高等学校教諭1種(地理歴史)		
免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	本学で開講している科目
教職の意義等に 関する科目	2単位	○教職概論(2)	教職の意義等に 関する科目	2単位	○教職概論(2)	教職の意義等に 関する科目	2単位	○教職概論(2)
教育の基礎理論 に関する科目	6単位 以上	○教育基礎論I(2) ○教育基礎論II(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) 教育法規(2)	教育の基礎理論 に関する科目	6単位	○教育基礎論I(2) ○教育基礎論II(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) 教育法規(2)	教育の基礎理論 に関する科目	6単位 以上	○教育基礎論I(2) ○教育基礎論II(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) 教育法規(2)
教育課程及び 指導法に関する 科目	8単位 以上	○社会・公民指導法I(2) ○社会・公民指導法II(2) 道徳教育の研究(2) ○特別活動の研究(2) ○教育方法研究(情報機器の活用を含む)(2) 教育評価(2)	教育課程及び 指導法に関する 科目	12単位	△社会・地歴指導法I(2)※1 △社会・地歴指導法II(2)※2 △社会・公民指導法I(2)※2 △社会・公民指導法II(2)※2 ※1、※2いずれか1分野I・IIとも 履修修得すること。	教育課程及び 指導法に関する 科目	8単位 以上	○社会・地歴指導法I(2) ○社会・地歴指導法II(2) 道徳教育の研究(2) ○特別活動の研究(2) ○教育方法研究(情報機器の活用を含む)(2) 教育評価(2)
生徒指導・教育相 談及び進路指導等 に関する科目	4単位	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)	生徒指導・教育相 談及び進路指導等 に関する科目	4単位	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)	生徒指導・教育相 談及び進路指導等 に関する科目	4単位	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)
教育実習	3単位	△教育実習I(事前・事後指導を含む)(5) △教育実習II(事前・事後指導を含む)(3) ※いずれか1科目を修得すること。 ただし教育実習Iを修得しても、 高等学校免許申請の際には3単 位として申請する。	教育実習	5単位	○教育実習I(事前・事後指導を含む)(5)	教育実習	3単位	△教育実習I(事前・事後指導を含む)(5) △教育実習II(事前・事後指導を含む)(3) ※いずれか1科目を修得すること。 ただし教育実習Iを修得しても、 高等学校免許申請の際には3単 位として申請する。
教職実践演習	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	教職実践演習	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	教職実践演習	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)
『教職に関する 科目』単位小計	25単位 以上	…①	『教職に関する 科目』単位小計	31単位	…①	『教職に関する 科目』単位小計	25単位 以上	…①

教科に関する科目		教科に関する科目		教科に関する科目							
免許規則に定める科目	実施区分	最修単位数	低得点数	免許規則に定める科目	実施区分	最修単位数	低得点数	免許規則に定める科目	実施区分	最修単位数	低得点数
法学(国際法を含む。)		4単位以上		政治学原論A(2) 政治学原論B(2) 国際法A(2) 国際法B(2)		4単位以上		法学(国際法を含む。)		4単位以上	
社会学(国際社会学を含む。)		8単位		社会学A(2) 社会学B(2) 社会学A(2) 社会学B(2)		8単位		社会学(国際社会学を含む。)		8単位	
哲学、倫理学、宗教学、心理学		4単位以上		哲学論(4) 倫理論(4) 宗教とは何かA(2) 宗教とは何かB(2) 宗教学とは何か特講(4) 宗教学とは何か特講(4) 現代思想史(2) 現代思想史(2) アイヌ学とは何か(2) 日本哲学特講(4)		4単位		哲学、倫理学、宗教学		4単位	
教科に関する科目 目]単位小計		20単位以上	…②			32単位	…②	教科に関する科目 目]単位小計		32単位	…②
本学における免許取得のための単位の合計		59単位以上		①+②の合計で59単位以上修得していなければ、免許を取得できない。		63単位		本学における免許取得のための単位の合計		63単位	
法学(国際法を含む。)		4単位以上		政治学原論A(2) 政治学原論B(2) 国際法A(2) 国際法B(2)		4単位		法学(国際法を含む。)		4単位	
社会学(国際社会学を含む。)		8単位		社会学A(2) 社会学B(2) 社会学A(2) 社会学B(2)		8単位		社会学(国際社会学を含む。)		8単位	
哲学、倫理学、宗教学、心理学		4単位以上		哲学論(4) 倫理論(4) 宗教とは何かA(2) 宗教とは何かB(2) 宗教学とは何か特講(4) 宗教学とは何か特講(4) 現代思想史(2) 現代思想史(2) アイヌ学とは何か(2) 日本哲学特講(4)		4単位		哲学、倫理学、宗教学		4単位	
教科に関する科目 目]単位小計		20単位以上	…②			32単位	…②	教科に関する科目 目]単位小計		32単位	…②
本学における免許取得のための単位の合計		59単位以上		①+②の合計で59単位以上修得していなければ、免許を取得できない。		63単位		本学における免許取得のための単位の合計		63単位	
法学(国際法を含む。)		4単位以上		政治学原論A(2) 政治学原論B(2) 国際法A(2) 国際法B(2)		4単位		法学(国際法を含む。)		4単位	
社会学(国際社会学を含む。)		8単位		社会学A(2) 社会学B(2) 社会学A(2) 社会学B(2)		8単位		社会学(国際社会学を含む。)		8単位	
哲学、倫理学、宗教学、心理学		4単位以上		哲学論(4) 倫理論(4) 宗教とは何かA(2) 宗教とは何かB(2) 宗教学とは何か特講(4) 宗教学とは何か特講(4) 現代思想史(2) 現代思想史(2) アイヌ学とは何か(2) 日本哲学特講(4)		4単位		哲学、倫理学、宗教学		4単位	
教科に関する科目 目]単位小計		20単位以上	…②			32単位	…②	教科に関する科目 目]単位小計		32単位	…②
本学における免許取得のための単位の合計		59単位以上		①+②の合計で59単位以上修得していなければ、免許を取得できない。		63単位		本学における免許取得のための単位の合計		63単位	

〔教科に関する科目〕と「教職に関する科目」と「教職に関する科目」の選択科目を履修かつ修得しなければならない。

〔注意2〕「日本史学特講」「日本史学演習」「東洋史学特講」「東洋史学演習」「西洋史学特講」「西洋史学演習」は、卒業までに複数回履修修得することで合計単位数分の単位を認定する。

〔注意3〕「国際法A」「国際法B」「日本哲学特講」を履修する場合は、自由科目となるので、注意すること。



〈表2〉 本学における「教職に関する科目」「教科に関する科目」一覧表

第1部教育学科人間発達専攻 2013年度入学生用 (1.〇:必修科目、2.「最低修得単位数」:本学において各免許状を取得するための最低単位数、3.△:選択必修)

高等学校教諭1種(公民)			中学校教諭1種(社会)			高等学校教諭1種(地理歴史)			特別支援学校教諭1種		
教職に関する科目			教職に関する科目			教職に関する科目			教職に関する科目		
免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学で開講している科目	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学で開講している科目	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学で開講している科目	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学で開講している科目
教職の意義等に関する科目	2単位	○教職論(2)	教職の意義等に関する科目	2単位	○教職論(2)	教職の意義等に関する科目	2単位	○教職論(2)	免許法施行規則に定める科目区分	1・2	○教職論(2)
教育の基礎理論に関する科目	6単位以上	○教育学概論(2) ○教育心理学概論(2) ○学校教育社会学(2) ○教育史(2) ○教育法規(2) ○教育課程論(2)	教育の基礎理論に関する科目	6単位	○教育学概論(2) ○教育心理学概論(2) ○学校教育社会学(2) ○教育史(2) ○教育法規(2) ○教育課程論(2)	教育の基礎理論に関する科目	6単位以上	○教育学概論(2) ○教育心理学概論(2) ○学校教育社会学(2) ○教育史(2) ○教育法規(2) ○教育課程論(2)	免許法施行規則に定める科目区分	1・2	○教育学概論(2) ○教育心理学概論(2) ○学校教育社会学(2) ○教育史(2) ○教育法規(2) ○教育課程論(2)
教育課程及び指導法に関する科目	10単位以上	社会科教育論(2) ○社会・公民指導法Ⅰ(2) ○社会・公民指導法Ⅱ(2) 道徳教育論(2) ○特別活動の理論と方法(2)	教育課程及び指導法に関する科目	14単位	○社会科教育論(2) △社会・地歴指導法Ⅰ(2)※1 △社会・地歴指導法Ⅱ(2)※1 △社会・公民指導法Ⅰ(2)※2 △社会・公民指導法Ⅱ(2)※2 ※1, ※2いずれか1科目が習Ⅰ・Ⅱとも修得すること。 道徳教育論(2) ○特別活動の理論と方法(2)	教育課程及び指導法に関する科目	10単位以上	社会科教育論(2) ○社会・地歴指導法Ⅰ(2) ○社会・地歴指導法Ⅱ(2) 道徳教育論(2) ○特別活動の理論と方法(2)	免許法施行規則に定める科目区分	2 3 3 3	社会科教育論(2) ○社会・地歴指導法Ⅰ(2) ○社会・地歴指導法Ⅱ(2)
生徒指導・教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	○生徒指導研究(進路指導論を含む)(2) ○教育相談の理論と方法(2)	生徒指導・教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	○生徒指導研究(進路指導論を含む)(2) ○教育相談の理論と方法(2)	生徒指導・教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	○生徒指導研究(進路指導論を含む)(2) ○教育相談の理論と方法(2)	免許法施行規則に定める科目区分	1~4	○生徒指導研究(進路指導論を含む)(2) ○教育相談の理論と方法(2)
教育実習	3単位	△教育実習Ⅰ(事前・事後指導を含む)(5) △教育実習Ⅱ(事前・事後指導を含む)(3) ※いずれか1科目を修得すること。ただし教育実習Ⅰを修得しても、高等学校免許申請の際には3単位として申請する。	教育実習	5単位	○教育実習Ⅰ(事前・事後指導を含む)(5)	教育実習	3単位	△教育実習Ⅰ(事前・事後指導を含む)(5) △教育実習Ⅱ(事前・事後指導を含む)(3) ※いずれか1科目を修得すること。ただし教育実習Ⅰを修得しても、高等学校免許申請の際には3単位として申請する。	免許法施行規則に定める科目区分	4	△教育実習Ⅰ(事前・事後指導を含む)(5) △教育実習Ⅱ(事前・事後指導を含む)(3) ※いずれか1科目を修得すること。ただし教育実習Ⅰを修得しても、高等学校免許申請の際には3単位として申請する。
教職実践演習	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	教職実践演習	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	教職実践演習	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	免許法施行規則に定める科目区分	4	○教職実践演習(中・高)(2)
【教職に関する科目】小計	27単位以上	…①	【教職に関する科目】小計	33単位	…①	【教職に関する科目】小計	27単位以上	…①	【教職に関する科目】小計	27単位以上	…①





〈表2〉 本学における「教職に関する科目」「教科に関する科目」一覧表

第1部教育学科初等教育専攻 2013年度入学生用 (1.○:必修科目、2.「最低修得単位数」:本学において下記の免状状を取得するための最低単位数、3.△:選択必修)

免規科		小学校教諭1種		教職に関する科目		配学	当年
免状に 関する 科目	法 定 区 域 の 意 義 を 有 す る 科 目	最 修 単 位	低 得 単 位	本 学 で 開 講 し て い る 科 目	配 学		
教職に関する科目	等目	2単位		○教職論(2)	1・2		
教育に関する科目	論目	6単位		○教育学概論(2) ○教育心理学概論(2)	1・2		
教育課程及び指導法に関する科目	法目	24単位以上		○学校教育社会学(2) ○初等教科教育法(国語)(2) ○初等教科教育法(社会)(2) ○初等教科教育法(算数)(2) ○初等教科教育法(理科)(2) ○初等教科教育法(生活)(2) ○初等教科教育法(家庭)(2) ○初等教科教育法(音楽)(2) ○初等教科教育法(図画工作)(2) ○初等教科教育法(体育)(2) ○道徳教育論(2) ○特別活動の理論と方法(2)	1～4 2・3 2・3 2・3 2・3 2・3 2・3 2・3 2・3 2・3 2・3 1～4 1～4		
生徒指導・教育相談及び進路指導に関する科目	相 等 目	4単位		○教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2) ○教育評価論(2) ○授業論(2)	1～4 1～4 1～4		
教育実習	相 等 目	5単位		○生徒指導研究(進路指導論を含む)(2) ○教育相談の理論と方法(2)	1～4 1～4		
教職実践演習		2単位		○初等教育実習(事前・事後指導を含む)(5) ○教職実践演習(小学校)(2)	4 4		
『教職に関する科目』単位小計		43単位以上		…①			

免許法施行規則に定める科目区分		教科に関する科目	
免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	本学で開講している科目	
国語（書写を含む）	14単位以上	△初等科国語(2)	
社会		△初等科社会(2)	
算数		△初等科算数(2)	
理科		△初等科理科(2)	
生活		△初等科生活(2)	
音楽		△初等科音楽(2)	
図画工作		△初等科図画工作(2)	
家庭		△初等科家庭(2)	
体育		△初等科体育(2)	
『教科に關する小計』単位の合計	14単位以上	…②	
本学における免許取得のための単位の合計	59単位以上	①+②の合計で59単位以上修得していない場合は、免許を取得することはできない。	

〈注意〉上記の免許取得希望者は、本学における免許取得のための単位の合計を満たすために「教職に関する科目」と「教科に関する科目」の選択科目を履修かつ修得しなければならない。

〈表2〉 本学における「教職に関する科目」の一覧表

英語コミュニケーション学科(第1部) 2013年度入学生用 (1.○:必修科目、2.[最低修得単位数] : 本学において各免許状を取得するための最低単位数、3.△: 1科目選択必修)

高等学校教諭1種(英語)				中学校教諭1種(英語)			
教職に関する科目				教職に関する科目			
免規科	法施区	行分	低得単	免規科	法施区	行分	低得単
則に区	目	目	位数	則に区	目	目	位数
に	の	の		に	の	の	
関	意	義		関	意	義	
関	す	す		関	す	す	
係	る	る		係	る	る	
数	科	科		数	科	科	
目	目	目		目	目	目	
年	年	年		年	年	年	
配	配	配		配	配	配	
学	学	学		学	学	学	
教職概論(2)	○教職概論(2)	2単位	1	教職概論(2)	○教職概論(2)	2単位	1
○教育基礎論Ⅰ(2)	○教育基礎論Ⅰ(2)	6単位以上	1	○教育基礎論Ⅰ(2)	○教育基礎論Ⅰ(2)	6単位以上	1
○教育基礎論Ⅱ(2)	○教育基礎論Ⅱ(2)		1	○教育基礎論Ⅱ(2)	○教育基礎論Ⅱ(2)		1
教育史(2)	○教育史(2)	2	3・4	教育史(2)	○教育史(2)	2	3・4
○教育心理学(2)	○教育心理学(2)		2	2	○教育心理学(2)		○教育心理学(2)
教育法規(2)	○教育法規(2)	3・4	3・4	教育法規(2)	○教育法規(2)	3・4	3・4
○英語科教育論Ⅰ(2)	○英語科教育論Ⅰ(2)		2	2	○英語科教育論Ⅰ(2)		○英語科教育論Ⅰ(2)
○英語科教育論Ⅱ(2)	○英語科教育論Ⅱ(2)	14単位以上	3	○英語科教育論Ⅱ(2)	○英語科教育論Ⅱ(2)	14単位以上	3
○英語科指導法Ⅰ(2)	○英語科指導法Ⅰ(2)		3	3	○英語科指導法Ⅰ(2)		○英語科指導法Ⅰ(2)
○英語科指導法Ⅱ(2)	○英語科指導法Ⅱ(2)	3	3	○英語科指導法Ⅱ(2)	○英語科指導法Ⅱ(2)	3	3
○道徳教育の研究(2)	○道徳教育の研究(2)		3	3	○道徳教育の研究(2)		○道徳教育の研究(2)
○特別活動の研究(2)	○特別活動の研究(2)	4単位	3	○特別活動の研究(2)	○特別活動の研究(2)	4単位	3
○教育方法研究(情報機器の活用を含む)(2)	○教育方法研究(情報機器の活用を含む)(2)		3	3	○教育方法研究(情報機器の活用を含む)(2)		○教育方法研究(情報機器の活用を含む)(2)
○教育評価(2)	○教育評価(2)	2	3・4	○教育評価(2)	○教育評価(2)	2	3・4
○生徒指導論(進路指導論を含む)(2)	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2)		2	2	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2)		○生徒指導論(進路指導論を含む)(2)
○教育相談(2)	○教育相談(2)	5単位	4	○教育相談(2)	○教育相談(2)	5単位	4
○教育実習Ⅰ(事前・事後指導を含む)(5)	○教育実習Ⅰ(事前・事後指導を含む)(5)		4	4	○教育実習Ⅰ(事前・事後指導を含む)(5)		○教育実習Ⅰ(事前・事後指導を含む)(5)
教職実践演習	○教職実践演習(中・高)(2)	2単位	4	教職実践演習	○教職実践演習(中・高)(2)	2単位	4
【教職に関する科目】単位小計	…①	33単位以上		【教職に関する科目】単位小計	…①	25単位以上	

免規する		法 施 法 区 目 目 分		行 施 法 区 目 目 分		最 修 単 位 数		低 得 単 位 数		本学で開講している科目	
免規する		法 施 法 区 目 目 分		行 施 法 区 目 目 分		最 修 単 位 数		低 得 単 位 数		本学で開講している科目	
英語学	英語学	英語学	英語学	英語学	英語学	4単位以上	4単位以上	4単位以上	4単位以上	○ English Linguistics A(2)(英語学A) ○ English Linguistics B(2)(英語学B) Philosophy of Language A(2)(言語論A) Philosophy of Language B(2)(言語論B) English Stylistics A(2)(英語文体論A) English Stylistics B(2)(英語文体論B)	
英米文学	英米文学	英米文学	英米文学	英米文学	英米文学	8単位以上	8単位以上	8単位以上	8単位以上	○ British Culture and Literature A(2)(イギリス文化・文学研究A) ○ British Culture and Literature B(2)(イギリス文化・文学研究B) ○ American Culture and Literature A(2)(アメリカ文化・文学研究A) ○ American Culture and Literature B(2)(アメリカ文化・文学研究B) 英文学特講 I(4) 英文学特講 II(4) 英文学特講 III(4) 米文学特講 I(4) 米文学特講 II(4)	
英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	4単位以上	4単位以上	4単位以上	4単位以上	○ Listening Comprehension Practice A(2)(英語聴解練習A) ○ English Reading Practice I A(2)(英文読解練習 I A) Listening Comprehension Practice B(2)(英語聴解練習B) English Reading Practice I B(2)(英文読解練習 I B)	
異文化理解	異文化理解	異文化理解	異文化理解	異文化理解	異文化理解	4単位以上	4単位以上	4単位以上	4単位以上	○ Comparative Culture Studies A(2)(比較文化論A) ○ Global Understanding I A(2)(国際理解 I A) Comparative Culture Studies B(2)(比較文化論B) Global Understanding I B(2)(国際理解 I B)	
『教科に関する科目』単位小計	『教科に関する科目』単位小計	『教科に関する科目』単位小計	『教科に関する科目』単位小計	『教科に関する科目』単位小計	『教科に関する科目』単位小計	20単位以上	20単位以上	20単位以上	20単位以上	…②	
本学における免許取得のための単位の合計	本学における免許取得のための単位の合計	本学における免許取得のための単位の合計	本学における免許取得のための単位の合計	本学における免許取得のための単位の合計	本学における免許取得のための単位の合計	59単位以上	59単位以上	59単位以上	59単位以上	①+②の合計で59単位以上修得していなければ、免許を取得することはできない。	

(注意)上記の免許取得希望者は、本学における免許取得のための単位の合計を満たすために「教職に関する科目」と「教科に関する科目」の選択科目を履修かつ修得しなければならない。

〈表2〉 本学における「教職に関する科目」「教科又はは教職に関する科目」「教科に関する科目」一覧表

東洋思想文化学科 (第2部) 中国語・中国語・中国哲学文学コース 2013年度入学生用

(1.○：必修科目、2「最低修得単位数：本学において免許状を取得するための最低単位数」、3.△：選択必修)

中学校教諭 1種 (国語)				高等学校教諭 1種 (国語)			
教職に関する科目				教職に関する科目			
免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当学年	免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当学年
教職の意義等に関する科目	2単位	○教職概論(2)	1	教職の意義等に関する科目	2単位	○教職概論(2)	1
教育の基礎理論に関する科目	6単位以上	○教育基礎論(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) ○教育制度論(2)	3・4 2	教育の基礎理論に関する科目	6単位以上	○教育基礎論(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) ○教育制度論(2)	1 3・4 2
教育課程及び指導法に関する科目	16単位	○教育課程総論(2) ○国語科教育論 I(2) ○国語科教育論 II(2) ○国語科指導法 I(2) ○国語科指導法 II(2) ○道徳教育論(2) ○特別活動の理論と方法(2) ○教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2)	1 2 2 3 3 3 3	教育課程及び指導法に関する科目	10単位以上	○教育課程総論(2) 国語科教育論 I(2) 国語科教育論 II(2) ○国語科指導法 I(2) ○国語科指導法 II(2) ○特別活動の理論と方法(2) ○教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2)	1 2 2 3 3 3 3
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)	2	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)	2
教育実習	5単位	○教育実習 I(事前・事後指導を含む)(5)	4	教育実習	3単位	△教育実習 II(事前・事後指導を含む)(3) ※いずれか1科目を修得すること。ただし教育実習 Iを修得した後も、高等学校免許申請の際には3単位として申請する。	4
教職実践演習	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	4	教職実践演習	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	4
【教職に関する科目】単位小計	35単位以上	…①		【教職に関する科目】単位小計	27単位以上	…①	

中学校教諭 1種 (国語)				高等学校教諭 1種 (書道)			
教職に関する科目				教職に関する科目			
免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当学年	免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当学年
教職の意義等に関する科目	2単位	○教職概論(2)	1	教職の意義等に関する科目	2単位	○教職概論(2)	1
教育の基礎理論に関する科目	6単位以上	○教育基礎論(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) ○教育制度論(2)	3・4 2	教育の基礎理論に関する科目	6単位以上	○教育基礎論(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) ○教育制度論(2)	1 3・4 2
教育課程及び指導法に関する科目	16単位	○教育課程総論(2) ○国語科教育論 I(2) ○国語科教育論 II(2) ○国語科指導法 I(2) ○国語科指導法 II(2) ○道徳教育論(2) ○特別活動の理論と方法(2) ○教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2)	1 2 2 3 3 3 3	教育課程及び指導法に関する科目	10単位以上	○教育課程総論(2) ○書道科指導法 I(2) ○書道科指導法 II(2) ○特別活動の理論と方法(2) ○教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2)	1 3 3 3
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)	2	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)	2
教育実習	5単位	○教育実習 I(事前・事後指導を含む)(5)	4	教育実習	3単位	△教育実習 II(事前・事後指導を含む)(3) ※いずれか1科目を修得すること。ただし教育実習 Iを修得した後も、高等学校免許申請の際には3単位として申請する。	4
教職実践演習	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	4	教職実践演習	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	4
【教職に関する科目】単位小計	35単位以上	…①		【教職に関する科目】単位小計	27単位以上	…①	

中学校教諭 1種 (国語)				高等学校教諭 1種 (国語)			
教職に関する科目				教職に関する科目			
免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当学年	免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当学年
教職の意義等に関する科目	2単位	○教職概論(2)	1	教職の意義等に関する科目	2単位	○教職概論(2)	1
教育の基礎理論に関する科目	6単位以上	○教育基礎論(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) ○教育制度論(2)	3・4 2	教育の基礎理論に関する科目	6単位以上	○教育基礎論(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) ○教育制度論(2)	1 3・4 2
教育課程及び指導法に関する科目	16単位	○教育課程総論(2) ○国語科教育論 I(2) ○国語科教育論 II(2) ○国語科指導法 I(2) ○国語科指導法 II(2) ○道徳教育論(2) ○特別活動の理論と方法(2) ○教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2)	1 2 2 3 3 3 3	教育課程及び指導法に関する科目	10単位以上	○教育課程総論(2) 国語科教育論 I(2) 国語科教育論 II(2) ○国語科指導法 I(2) ○国語科指導法 II(2) ○特別活動の理論と方法(2) ○教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2)	1 2 2 3 3 3 3
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)	2	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)	2
教育実習	5単位	○教育実習 I(事前・事後指導を含む)(5)	4	教育実習	3単位	△教育実習 II(事前・事後指導を含む)(3) ※いずれか1科目を修得すること。ただし教育実習 Iを修得した後も、高等学校免許申請の際には3単位として申請する。	4
教職実践演習	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	4	教職実践演習	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	4
【教職に関する科目】単位小計	35単位以上	…①		【教職に関する科目】単位小計	27単位以上	…①	

中学校教諭 1種 (国語)				高等学校教諭 1種 (書道)			
教職に関する科目				教職に関する科目			
免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当学年	免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当学年
教職の意義等に関する科目	2単位	○教職概論(2)	1	教職の意義等に関する科目	2単位	○教職概論(2)	1
教育の基礎理論に関する科目	6単位以上	○教育基礎論(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) ○教育制度論(2)	3・4 2	教育の基礎理論に関する科目	6単位以上	○教育基礎論(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) ○教育制度論(2)	1 3・4 2
教育課程及び指導法に関する科目	16単位	○教育課程総論(2) ○国語科教育論 I(2) ○国語科教育論 II(2) ○国語科指導法 I(2) ○国語科指導法 II(2) ○道徳教育論(2) ○特別活動の理論と方法(2) ○教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2)	1 2 2 3 3 3 3	教育課程及び指導法に関する科目	10単位以上	○教育課程総論(2) ○書道科指導法 I(2) ○書道科指導法 II(2) ○特別活動の理論と方法(2) ○教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2)	1 3 3 3
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)	2	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)	2
教育実習	5単位	○教育実習 I(事前・事後指導を含む)(5)	4	教育実習	3単位	△教育実習 II(事前・事後指導を含む)(3) ※いずれか1科目を修得すること。ただし教育実習 Iを修得した後も、高等学校免許申請の際には3単位として申請する。	4
教職実践演習	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	4	教職実践演習	2単位	○教職実践演習(中・高)(2)	4
【教職に関する科目】単位小計	35単位以上	…①		【教職に関する科目】単位小計	27単位以上	…①	



教科に関する科目		教科に関する科目	
免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数
国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	4単位以上	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	4単位以上
国文学(国文学史を含む。)	8単位以上	国文学(国文学史を含む。)	8単位以上
漢文学	4単位以上	漢文学	4単位以上
書道(書写を中心とする。)	2単位以上		
「教科に関する科目」単位小計	…③	「教科に関する科目」単位小計	…③
本学における免許取得のための単位の合計	①+②+③の合計で59単位以上を修得していないければ、免許を取得することはできない。	本学における免許取得のための単位の合計	①+②+③の合計で59単位以上を修得していないければ、免許を取得することはできない。

教科に関する科目		教科に関する科目	
免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数
国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	4単位以上	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	4単位以上
国文学(国文学史を含む。)	8単位以上	国文学(国文学史を含む。)	8単位以上
漢文学	4単位以上	漢文学	4単位以上
「教科に関する科目」単位小計	…③	「教科に関する科目」単位小計	…③
本学における免許取得のための単位の合計	①+②+③の合計で59単位以上を修得していないければ、免許を取得することはできない。	本学における免許取得のための単位の合計	①+②+③の合計で59単位以上を修得していないければ、免許を取得することはできない。

教科に関する科目		教科に関する科目	
免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数
書道(書写を含む。)	8単位	書道(書写を含む。)	8単位
書道史	4単位	書道史	4単位
「書論、鑑賞」	4単位	「書論、鑑賞」	4単位
「国文学、漢文学」	4単位以上	「国文学、漢文学」	4単位以上
「教科に関する科目」単位小計	20単位以上	「教科に関する科目」単位小計	20単位以上
本学における免許取得のための単位の合計	①+②+③の合計で59単位以上を修得していないければ、免許を取得することはできない。	本学における免許取得のための単位の合計	①+②+③の合計で59単位以上を修得していないければ、免許を取得することはできない。

＜注意＞上記の免許取得希望者は、本学における免許取得のための単位を満たすために、「教職又は教職に関する科目」と「教科又は教職に関する科目」の選択科目を履修かつ修得しなければならない。

〈表2〉 本学における「教職に関する科目」「教科又は教職に関する科目」「教科に関する科目」一覧表

東洋思想文化学科 (第2部) 仏教思想コース 2013 年度入学生用

(1.○：必修科目、2「最低修得単位数：本学において免許状を取得するための最低単位数」、3.△：選択必修)

高等学校教諭 1 種 (公民)				高等学校教諭 1 種 (地理歴史)			
教職に関する科目				教職に関する科目			
免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当学年	免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当学年
教職の意義等に関する科目	2 単位	○教職概論(2)	1	教職の意義等に関する科目	2 単位	○教職概論(2)	1
教育の基礎理論に関する科目	6 単位以上	○教育基礎論(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) ○教育制度論(2) ○教育課程総論(2)	1 3・4 2 1	教育の基礎理論に関する科目	6 単位以上	○教育基礎論(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) ○教育制度論(2)	1 3・4 2
教育課程及び指導法に関する科目	10 単位以上	○社会・地歴指導演法 I (2) 社会・地歴指導演法 II (2) ○社会・公民指導演法 I (2) ○社会・公民指導演法 II (2) ○特別活動の理論と方法(2) ○教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2)	2 2 3 3 3 3	教育課程及び指導法に関する科目	10 単位以上	○社会・地歴指導演法 I (2) 社会・地歴指導演法 II (2) 社会・公民指導演法 I (2) 社会・公民指導演法 II (2) ○特別活動の理論と方法(2) ○教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2)	2 2 2 2 3 3
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4 単位	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)	2	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4 単位	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)	2
教育実習	3 単位	△教育実習 I (事前・事後指導を含む)(5) △教育実習 II (事前・事後指導を含む)(3) ※いずれか1科目を修得すること。ただし教育実習 I を修得しなくても、高等学校免状申請の際には3単位として申請する。	4	教育実習	3 単位	△教育実習 I (事前・事後指導を含む)(5) △教育実習 II (事前・事後指導を含む)(3) ※いずれか1科目を修得すること。ただし教育実習 I を修得しなくても、高等学校免状申請の際には3単位として申請する。	4
教職実践演習	2 単位	○教職実践演習(中・高)(2)	4	教職実践演習	2 単位	○教職実践演習(中・高)(2)	4
【教職に関する科目】単位小計	27 単位以上	…①		【教職に関する科目】単位小計	27 単位以上	…①	
高等学校教諭 1 種 (社会)				高等学校教諭 1 種 (公民)			
教職に関する科目				教職に関する科目			
免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当学年	免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当学年
教職の意義等に関する科目	2 単位	○教職概論(2)	1	教職の意義等に関する科目	2 単位	○教職概論(2)	1
教育の基礎理論に関する科目	6 単位以上	○教育基礎論(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) ○教育制度論(2) ○教育課程総論(2)	1 3・4 2 1	教育の基礎理論に関する科目	6 単位以上	○教育基礎論(2) 教育史(2) ○教育心理学(2) ○教育制度論(2)	1 3・4 2
教育課程及び指導法に関する科目	16 単位	○社会・地歴指導演法 I (2) 社会・地歴指導演法 II (2) ○社会・公民指導演法 I (2) ○社会・公民指導演法 II (2) ○道徳教育論(2) ○特別活動の理論と方法(2) ○教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2)	3 3 3 3 3 3 3	教育課程及び指導法に関する科目	16 単位	○社会・地歴指導演法 I (2) 社会・地歴指導演法 II (2) 社会・公民指導演法 I (2) 社会・公民指導演法 II (2) ○道徳教育論(2) ○特別活動の理論と方法(2) ○教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2)	3 3 3 3 3 3 3
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4 単位	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)	2	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4 単位	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2) ○教育相談(2)	2
教育実習	5 単位	○教育実習 I (事前・事後指導を含む)(5)	4	教育実習	5 単位	○教育実習 I (事前・事後指導を含む)(5)	4
教職実践演習	2 単位	○教職実践演習(中・高)(2)	4	教職実践演習	2 単位	○教職実践演習(中・高)(2)	4
【教職に関する科目】単位小計	35 単位	…①		【教職に関する科目】単位小計	35 単位	…①	
教科又は教職に関する科目				教科又は教職に関する科目			
免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当学年	免許法施行規則に定める科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当学年
教育課程及び指導法に関する科目	3・4	教育評価(2)	3・4	教育課程及び指導法に関する科目	3・4	教育評価(2)	3・4
【教科又は教職に関する科目】単位小計	3	…②		【教科又は教職に関する科目】単位小計	3	…②	

教科に関する科目		教科に関する科目		教科に関する科目	
免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数
		○日本史A(2) ○日本史B(2) ○外国史A(2) ○外国史B(2) ○日本仏教史A(2) ○日本仏教史B(2) ○神道史A(2) ○神道史B(2) ○インド仏教史A(2) ○インド仏教史B(2) ○中国仏教史A(2) ○中国仏教史B(2) ○チベット仏教史(2) ○中国哲学史A(2) ○中国哲学史B(2) ○インド思想特講ⅡA(2) ○インド思想特講ⅡB(2) ○東西交渉文化史A(2) ○東西交渉文化史B(2) ○中国史概説A(2) ○中国史概説B(2) ○韓国仏教史(2) ○古文書学Ⅰ(4)	8単位以上	日本史及び外国史	8単位以上
「法学(国際法含む)、政治学(国際政治学含む。)」	4単位以上	○政治学原論A(2) ○政治学原論B(2) ○国際法A(2) ○国際法B(2)	4単位以上	「法学、政治学」	4単位以上
「社会学、経済学(国際経済学含む。)」	4単位以上	○社会学A(2) ○社会学B(2) ○社会学A(2) ○社会学B(2) ○経済学A(2) ○経済学B(2) ○宗教社会学A(2) ○宗教社会学B(2)	4単位以上	「社会学、経済学」	4単位以上
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	4単位以上	△倫理学概論A(2) △倫理学概論B(2) △心理学概論A(2) △心理学概論B(2) △宗教学概論A(2) △宗教学概論B(2) △仏教思想概論A(2) △仏教思想概論B(2) △インド古典思想概論A(2) △インド古典思想概論B(2) △インド古典思想特講ⅠA(2) △インド古典思想特講ⅠB(2) △インド古典思想特講ⅡA(2) △インド古典思想特講ⅡB(2) △キリスト教概論A(2) △キリスト教概論B(2) △イスラーム概論A(2) △イスラーム概論B(2) △ヒンドゥー教概論A(2) △ヒンドゥー教概論B(2) △インド現代思想A(2) △インド現代思想B(2) △インド思想史A(2) △インド思想史B(2)	4単位以上	「哲学、倫理学、宗教学」	4単位以上
「教科に関する科目」	20単位以上	…③	32単位	「教科に関する科目」	20単位以上
「教科に関する科目」	59単位以上	①+②+③の合計で59単位以上を修得していない場合は、免許を取得することはできない。	63単位	「教科に関する科目」	59単位以上

教科に関する科目		教科に関する科目		教科に関する科目	
免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数
		○日本史A(2) ○日本史B(2) ○外国史A(2) ○外国史B(2) ○日本仏教史A(2) ○日本仏教史B(2) ○神道史A(2) ○神道史B(2) ○インド仏教史A(2) ○インド仏教史B(2) ○中国仏教史A(2) ○中国仏教史B(2) ○チベット仏教史(2) ○中国哲学史A(2) ○中国哲学史B(2) ○インド思想特講ⅡA(2) ○インド思想特講ⅡB(2) ○東西交渉文化史A(2) ○東西交渉文化史B(2) ○中国史概説A(2) ○中国史概説B(2) ○韓国仏教史(2) ○古文書学Ⅰ(4)	8単位以上	日本史及び外国史	8単位以上
「法学、政治学」	4単位以上	○政治学原論A(2) ○政治学原論B(2) ○国際法A(2) ○国際法B(2)	4単位以上	「法学、政治学」	4単位以上
「社会学、経済学」	4単位以上	○社会学A(2) ○社会学B(2) ○社会学A(2) ○社会学B(2) ○経済学A(2) ○経済学B(2) ○宗教社会学A(2) ○宗教社会学B(2)	4単位以上	「社会学、経済学」	4単位以上
「哲学、倫理学、宗教学」	4単位以上	△倫理学概論A(2) △倫理学概論B(2) △心理学概論A(2) △心理学概論B(2) △宗教学概論A(2) △宗教学概論B(2) △仏教思想概論A(2) △仏教思想概論B(2) △インド古典思想概論A(2) △インド古典思想概論B(2) △インド古典思想特講ⅠA(2) △インド古典思想特講ⅠB(2) △インド古典思想特講ⅡA(2) △インド古典思想特講ⅡB(2) △キリスト教概論A(2) △キリスト教概論B(2) △イスラーム概論A(2) △イスラーム概論B(2) △ヒンドゥー教概論A(2) △ヒンドゥー教概論B(2) △インド現代思想A(2) △インド現代思想B(2) △インド思想史A(2) △インド思想史B(2)	4単位以上	「哲学、倫理学、宗教学」	4単位以上
「教科に関する科目」	20単位以上	…③	32単位	「教科に関する科目」	20単位以上
「教科に関する科目」	59単位以上	①+②+③の合計で59単位以上を修得していない場合は、免許を取得することはできない。	63単位	「教科に関する科目」	59単位以上

教科に関する科目		教科に関する科目		教科に関する科目	
免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数
日本史	4単位以上	○日本史A(2) ○日本史B(2) ○日本仏教史A(2) ○日本仏教史B(2) ○神道史A(2) ○神道史B(2) ○古文書学Ⅰ(4)	4単位以上	日本史	4単位以上
外国史	4単位以上	○外国史A(2) ○外国史B(2) ○インド仏教史A(2) ○インド仏教史B(2) ○中国仏教史A(2) ○中国仏教史B(2) ○チベット仏教史(2) ○中国哲学史A(2) ○中国哲学史B(2) ○インド思想特講ⅡA(2) ○インド思想特講ⅡB(2) ○東西交渉文化史A(2) ○東西交渉文化史B(2) ○中国史概説A(2) ○中国史概説B(2) ○韓国仏教史(2)	4単位以上	外国史	4単位以上
人文地理学及び自然地理学	8単位以上	○人文地理学A(2) ○人文地理学B(2) ○自然地理学A(2) ○自然地理学B(2)	8単位以上	人文地理学及び自然地理学	8単位以上
地誌	4単位	○地誌学A(2) ○地誌学B(2)	4単位	地誌	4単位
「教科に関する科目」	20単位以上	…③	20単位以上	「教科に関する科目」	20単位以上
「教科に関する科目」	59単位以上	①+②+③の合計で59単位以上を修得していない場合は、免許を取得することはできない。	59単位以上	「教科に関する科目」	59単位以上

＜注意＞上記の免許取得希望者は、本学における免許取得のための単位を満たすために、「教職又は教職に関する科目」と「教科又は教職に関する科目」と「教科に関する科目」の選択科目を履修かつ修得しなければならない。

〈表2〉 本学における「教職に関する科目」「教科に関する科目」一覧表

日本文学文化学科 (第2部) 2013年度入学生用 (1.〇:必修科目、2.「最低修得単位数」:本学において各免許状を取得するための最低単位数、3.△:選択必修)

中学校教諭1種(国語)				高等学校教諭1種(国語)				高等学校教諭1種(書道)			
教職に関する科目				教職に関する科目				教職に関する科目			
免許法施行規則に定める科目	意義等に関する科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	免許法施行規則に定める科目	意義等に関する科目	最低修得単位数	本学で開講している科目	免許法施行規則に定める科目	意義等に関する科目	最低修得単位数	本学で開講している科目
教職の意義等に関する科目	2単位	1	○教職概論(2)	教職の意義等に関する科目	2単位	1	○教職概論(2)	教職の意義等に関する科目	2単位	1	○教職概論(2)
教育の基礎理論に関する科目	6単位以上	1	○教育基礎論I(2)	教育の基礎理論に関する科目	6単位以上	1	○教育基礎論I(2)	教育の基礎理論に関する科目	6単位以上	1	○教育基礎論I(2)
		1	○教育基礎論II(2)			1	○教育基礎論II(2)			1	○教育基礎論II(2)
		3・4	教育史(2)			3・4	教育史(2)			3・4	教育史(2)
		2	○教育心理学(2)			2	○教育心理学(2)			2	○教育心理学(2)
		3・4	教育法規(2)			3・4	教育法規(2)			3・4	教育法規(2)
		2	○国語科教育論(2)			2	国語科教育論(2)			2	国語科教育論(2)
教育課程及び指導法に関する科目	12単位以上	3	○国語科指導法I(2)	教育課程及び指導法に関する科目	8単位以上	3	○国語科指導法I(2)	教育課程及び指導法に関する科目	8単位以上	3	○国語科指導法I(2)
		3	○国語科指導法II(2)			3	○国語科指導法II(2)			3	○国語科指導法II(2)
		3	○道徳教育の研究(2)			3	道徳教育の研究(2)			3	道徳教育の研究(2)
		3	○特別活動の研究(2)			3	○特別活動の研究(2)			3	○特別活動の研究(2)
		3	○教育方法研究(情報機器の活用を含む)(2)			3	○教育方法研究(情報機器の活用を含む)(2)			3	○教育方法研究(情報機器の活用を含む)(2)
		3・4	教育評価(2)			3・4	教育評価(2)			3・4	教育評価(2)
生徒指導・教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	2	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2)	生徒指導・教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	2	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2)	生徒指導・教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	2	○生徒指導論(進路指導論を含む)(2)
		2	○教育相談(2)			2	○教育相談(2)			2	○教育相談(2)
教育実習	5単位	4	○教育実習I(事前・事後指導を含む)(5)	教育実習	3単位	4	△教育実習I(事前・事後指導を含む)(5)	教育実習	3単位	4	△教育実習I(事前・事後指導を含む)(5)
教職実践演習	2単位	4	○教職実践演習(中・高)(2)	教職実践演習	2単位	4	○教職実践演習(中・高)(2)	教職実践演習	2単位	4	○教職実践演習(中・高)(2)
『教職に関する科目』単位小計	31単位以上	…①		『教職に関する科目』単位小計	25単位以上	…①		『教職に関する科目』単位小計	25単位以上	…①	

免許規則に関する科目		教職に関する科目		教科に関する科目		免許規則に関する科目		教職に関する科目		教科に関する科目	
免許規則に関する科目	行 法 施 法 定 規 則 区 目 区 分	最 修 得 単 位 数	低 修 得 単 位 数	免許規則に関する科目	行 法 施 法 定 規 則 区 目 区 分	最 修 得 単 位 数	低 修 得 単 位 数	免許規則に関する科目	行 法 施 法 定 規 則 区 目 区 分	最 修 得 単 位 数	低 修 得 単 位 数
国語学(音声言語及び文章表現に關するものを含む。)		4単位以上	4単位以上	国語学(音声言語及び文章表現に關するものを含む。)		4単位以上	4単位以上	日本語概説A(2) 日本語概説B(2) 日本語史A(2) 日本語史B(2) 古典文法A(2) 古典文法B(2) 現代語文法A(2) 現代語文法B(2) 日本語学特講I A(2) 日本語学特講I B(2)		4単位以上	4単位以上
国文学(国文学史を含む。)		8単位以上	8単位以上	国文学(国文学史を含む。)		8単位以上	8単位以上	国文学史A(2) 国文学史B(2) 日本文学文化概説A(2) 日本文学文化概説B(2) 古代日本文学史A(2) 古代日本文学史B(2) 中世日本文学史A(2) 中世日本文学史B(2) 近世日本文学史A(2) 近世日本文学史B(2) 近現代日本文学史A(2) 近現代日本文学史B(2) 作家作品研究(上代)A(2) 作家作品研究(上代)B(2) 作家作品研究(中古)A(2) 作家作品研究(中古)B(2) 作家作品研究(中世)A(2) 作家作品研究(中世)B(2) 作家作品研究(近世)A(2) 作家作品研究(近世)B(2) 作家作品研究(近現代)A(2) 作家作品研究(近現代)B(2) 古典文学文化特講I A(2) 古典文学文化特講I B(2) 古典文学文化特講II A(2) 古典文学文化特講II B(2) 古典文学文化特講III A(2) 古典文学文化特講III B(2) 古典文学文化特講IV A(2) 古典文学文化特講IV B(2) 近現代文学文化特講I A(2) 近現代文学文化特講I B(2) 日本の古典籍A(2) 日本の古典籍B(2)		8単位以上	8単位以上
漢文学		4単位以上	4単位以上	漢文学		4単位以上	4単位以上	中国の古典(思想)(2) 中国の古典(歴史)(2) 中国の古典(哲学)(2) 日本の古典籍(4)		4単位以上	4単位以上
書道(書写を中心とする。)		2単位以上	2単位以上	書道(書写を中心とする。)		2単位以上	2単位以上	書道I A(1) 書道I B(1) 書道II A(1) 書道II B(1) 書道III A(1) 書道III B(1) 書道IV A(1) 書道IV B(1)		2単位以上	2単位以上
「書論、鑑賞」		4単位	4単位	「書論、鑑賞」		4単位	4単位	書論A(2) 書論B(2)		4単位	4単位
「国文学、漢文学」		4単位以上	4単位以上	「国文学、漢文学」		4単位以上	4単位以上	国文学文化概説A(2) 国文学文化概説B(2) 古代日本文学史A(2) 古代日本文学史B(2) 中世日本文学史A(2) 中世日本文学史B(2) 近世日本文学史A(2) 近世日本文学史B(2) 近現代日本文学史A(2) 近現代日本文学史B(2) 作家作品研究(上代)A(2) 作家作品研究(上代)B(2) 作家作品研究(中古)A(2) 作家作品研究(中古)B(2) 作家作品研究(中世)A(2) 作家作品研究(中世)B(2) 作家作品研究(近世)A(2) 作家作品研究(近世)B(2) 作家作品研究(近現代)A(2) 作家作品研究(近現代)B(2) 古典文学文化特講I A(2) 古典文学文化特講I B(2) 古典文学文化特講II A(2) 古典文学文化特講II B(2) 古典文学文化特講III A(2) 古典文学文化特講III B(2) 古典文学文化特講IV A(2) 古典文学文化特講IV B(2) 近現代文学文化特講I A(2) 近現代文学文化特講I B(2) 日本の古典籍A(2) 日本の古典籍B(2)		4単位以上	4単位以上

〔教科に関する科目〕単位小計  
 本学における免許取得のための単位の合計  
 〔教科に関する科目〕単位小計  
 本学における免許取得のための単位の合計  
 〔教科に関する科目〕単位小計  
 本学における免許取得のための単位の合計  
 〔教科に関する科目〕単位小計  
 本学における免許取得のための単位の合計

〔教科に関する科目〕単位小計  
 本学における免許取得のための単位の合計  
 〔教科に関する科目〕単位小計  
 本学における免許取得のための単位の合計  
 〔教科に関する科目〕単位小計  
 本学における免許取得のための単位の合計  
 〔教科に関する科目〕単位小計  
 本学における免許取得のための単位の合計



## 〈表2〉 本学における「教職に関する科目」「教科に関する科目」一覧表

第2部教育学科 2013年度入学生用 (1.○：必修科目、2.「最低修得単位数」：本学において各免許状を取得するための最低単位数、3.△：選択必修)

高等学校教諭1種(公民)				中学校教諭1種(社会)				高等学校教諭1種(地理歴史)			
教職に関する科目				教職に関する科目				教職に関する科目			
免許法に定める科目区分	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当学年	免許法に定める科目区分	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当学年	免許法に定める科目区分	最低修得単位数	本学で開講している科目	配当学年
教職の意義等に関する科目	2単位	○教職論(2)	1・2	教職の意義等に関する科目	2単位	○教職論(2)	1・2	教職の意義等に関する科目	2単位	○教職論(2)	1・2
教育の基礎理論に関する科目	6単位以上	○教育学概論(2)	1・2	教育の基礎理論に関する科目	6単位	○教育学概論(2)	1・2	教育の基礎理論に関する科目	6単位以上	○教育学概論(2)	1・2
		○教育心理学概論(2)	1・2			○教育心理学概論(2)	1・2			○教育心理学概論(2)	1・2
教育課程及び指導法に関する科目	10単位以上	○学校教育社会学(2)	1～4	教育課程及び指導法に関する科目	14単位	○学校教育社会学(2)	1～4	教育課程及び指導法に関する科目	10単位以上	○学校教育社会学(2)	1～4
		○教育史(2)	3・4			○教育史(2)	3・4			○教育史(2)	3・4
生徒指導・教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	○教育法規(2)	3・4	教育課程及び指導法に関する科目	14単位	○教育法規(2)	3・4	生徒指導・教育相談及び進路指導等に関する科目	4単位	○教育法規(2)	3・4
		○教育課程論(2)	1～4			○教育課程論(2)	1～4			○教育課程論(2)	1～4
教育実践演習	2単位	○社会科教育論(2)	2	教育実践演習	2単位	○社会科教育論(2)	2	教育実践演習	2単位	○社会科教育論(2)	2
		△社会・地歴指導法Ⅰ(2)	3			△社会・地歴指導法Ⅰ(2)	3			△社会・地歴指導法Ⅰ(2)	3
『教職に関する科目』単位小計	27単位以上	○社会・公民指導法Ⅱ(2)	3	『教職に関する科目』単位小計	33単位	○社会・公民指導法Ⅱ(2)	3	『教職に関する科目』単位小計	27単位以上	○社会・公民指導法Ⅱ(2)	3
		○社会・公民指導法Ⅱ(2)	3			○社会・公民指導法Ⅱ(2)	3			○社会・公民指導法Ⅱ(2)	3
		○道徳教育の研究(2)	3			○道徳教育の研究(2)	3			○道徳教育の研究(2)	3
		○特別活動の理論と方法(2)	1～4			○特別活動の理論と方法(2)	1～4			○特別活動の理論と方法(2)	1～4
		○教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2)	1～4			○教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2)	1～4			○教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)(2)	1～4
		○生徒指導論(進路指導論を含む)(2)	2			○生徒指導論(進路指導論を含む)(2)	2			○生徒指導論(進路指導論を含む)(2)	2
		○教育相談の理論と方法(2)	1～4			○教育相談の理論と方法(2)	1～4			○教育相談の理論と方法(2)	1～4
		△教育実習Ⅰ(事前・事後指導を含む)(5)	4			○生徒指導論(進路指導論を含む)(2)	4			△教育実習Ⅰ(事前・事後指導を含む)(5)	4
		△教育実習Ⅱ(事前・事後指導を含む)(3)	4			○教育相談の理論と方法(2)	1～4			△教育実習Ⅱ(事前・事後指導を含む)(3)	4
		※いずれか1科目を修得すること。ただし教育実習Ⅰを修得しても、高等学校免許申請の際には3単位として申請する。				○教育実習Ⅰ(事前・事後指導を含む)(6)	4			※いずれか1科目を修得すること。ただし教育実習Ⅰを修得しても、高等学校免許申請の際には3単位として申請する。	
		○教職実践演習(中・高)(2)	4			○教職実践演習(中・高)(2)	4			○教職実践演習(中・高)(2)	4



教科に関する科目				教科に関する科目				教科に関する科目			
免許規則に定める科目	行 法 施 規 則 区 分	最 修 得 単 位 数	本学で開講している科目	免許規則に定める科目	行 法 施 規 則 区 分	最 修 得 単 位 数	本学で開講している科目	免許規則に定める科目	行 法 施 規 則 区 分	最 修 得 単 位 数	本学で開講している科目
			○政治学原論A(2) ○政治学原論B(2) ○政治学原論B(2) 比較政策論(2) 国際法A(2) 国際法B(2) 民法A(2) 民法B(2)	日本史 外国史	日本史及び 外国史	8単位	○日本史A(2) ○日本史B(2) ○外国史A(2) ○外国史B(2) 社会文化史(日本)(2) 社会文化史(西洋)(2) 経済史A(2) 経済史B(2) 日本仏教のあゆみA(2) 日本仏教のあゆみB(2) 中国仏教のあゆみA(2) 中国仏教のあゆみB(2)	日本史		4単位以上	○日本史A(2) ○日本史B(2) 社会文化史(日本)(2) 経済史A(2) 日本仏教のあゆみA(2) 日本仏教のあゆみB(2)
「法学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」		4単位以上	○政治学原論A(2) ○政治学原論B(2) ○政治学原論B(2) 比較政策論(2) 国際法A(2) 国際法B(2) 民法A(2) 民法B(2)	日本史及び 外国史	日本史及び 外国史	8単位	○日本史A(2) ○日本史B(2) ○外国史A(2) ○外国史B(2) 社会文化史(日本)(2) 社会文化史(西洋)(2) 経済史A(2) 経済史B(2) 日本仏教のあゆみA(2) 日本仏教のあゆみB(2) 中国仏教のあゆみA(2) 中国仏教のあゆみB(2)	日本史		4単位以上	○日本史A(2) ○日本史B(2) 社会文化史(日本)(2) 経済史A(2) 日本仏教のあゆみA(2) 日本仏教のあゆみB(2)
「社会学、経済学(国際経済学を含む。)」		4単位以上	○社会学A(2) ○社会学B(2) ○社会学B(2) 比較社会学(2) 社会学A(2) 社会学B(2) 社会学入門A(2) 社会学入門B(2)	「社会学、政治学」	「社会学、政治学」	4単位	○社会学A(2) ○社会学B(2) ○社会学B(2) 比較社会学(2) 社会学A(2) 社会学B(2) 社会学入門A(2) 社会学入門B(2)	人文地理学及び 自然地理学		8単位以上	○人文地理学A(2) ○人文地理学B(2) ○自然地理学A(2) ○自然地理学B(2) ○自然地理学A(2) ○自然地理学B(2)
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		4単位以上	△哲学概説A(2)(注意3) △哲学概説B(2)(注意3) △倫理学概説A(2)(注意3) △倫理学概説B(2)(注意3) △心理学概説A(2)(注意3) △心理学概説B(2)(注意3) △心理カ思想史(2) △心理カ思想史(2) 生涯発達心理学(2)	「哲学、倫理学、宗教学」	「哲学、倫理学、宗教学」	8単位	○哲学概説A(2) ○哲学概説B(2) ○倫理学概説A(2) ○倫理学概説B(2) ○心理学概説A(2) ○心理学概説B(2) アメリカ思想史(2)	地誌		4単位以上	○地誌学A(2) ○地誌学B(2) ○地誌学A(2) ○地誌学B(2) ○地誌学A(2) ○地誌学B(2) ○地誌学A(2) ○地誌学B(2) 文化地誌学(2) 人文地理学A(2) 人文地理学B(2) 自然地理学A(2) 自然地理学B(2)
「教科に関する科目」単位小計		20単位以上	…②	「教科に関する科目」単位小計	「教科に関する科目」単位小計	32単位	…②	「教科に関する科目」単位小計		20単位以上	…②
本学における免許取得のための単位の合計		59単位以上	①+②の合計で59単位以上修得していないければ、免許を取得することはできない。	本学における免許取得のための単位の合計	本学における免許取得のための単位の合計	65単位	①+②の合計で65単位以上修得していないければ、免許を取得することはできない。	本学における免許取得のための単位の合計		59単位以上	①+②の合計で59単位以上修得していないければ、免許を取得することはできない。

〈注意1〉高等学校教諭1種免許状(公民)と高等学校教諭1種免許状(地理歴史)の免許取得希望者は、本学における免許取得のための単位の合計を満了するために、「教職に関する科目」と「教科に関する科目」の選択科目を履修かつ修得しなければならない。

〈注意2〉「教職に関する科目」の履修についてはP.180も必ず熟読すること。時間割の都合等で、P.170の替替表の「読替となる教職に関する科目」を履修かつ修得しても、教職の単位として認められるが、卒業単位とはならない。

〈注意3〉「哲学概説A」及び「哲学概説B」/「倫理学概説A」及び「倫理学概説B」/「心理学概説A」及び「心理学概説B」/「社会学概説A」及び「社会学概説B」/「政治学概説A」及び「政治学概説B」/「民法概説A」及び「民法概説B」/「国際法概説A」及び「国際法概説B」/「比較社会学」/「社会学入門A」及び「社会学入門B」/「心理学概説A」及び「心理学概説B」/「倫理学概説A」及び「倫理学概説B」/「哲学概説A」及び「哲学概説B」/「地誌学A」及び「地誌学B」/「文化地誌学」/「人文地理学A」及び「人文地理学B」/「自然地理学A」及び「自然地理学B」/「地理学A」及び「地理学B」/「政治学原論A」及び「政治学原論B」/「比較政策論」/「国際法A」及び「国際法B」/「民法A」及び「民法B」/「社会学A」及び「社会学B」/「比較社会学」/「社会学入門A」及び「社会学入門B」/「哲学概説A」及び「哲学概説B」/「倫理学概説A」及び「倫理学概説B」/「心理学概説A」及び「心理学概説B」/「アメリカ思想史」/「生涯発達心理学」を履修かつ修得しなければならない。

## 〔5〕教育実習について

教育実習は、大学で学んだ教育理論や技術をもとに、教育実習校（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）での実習を通じて、教育の意味や学校教育の全領域について学習するものである。「教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む）」（3週間実習対象者）、「教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）」（2週間実習対象者）、「初等教育実習（事前・事後指導を含む）」、「特別支援学校教育実習（事前・事後指導を含む）」は、4年次に履修する。4月から事前指導が行われ、ほとんどの学生が、6月頃から実際に学校現場に赴き、小学校教諭の免許状取得の場合には4週間、中学校教諭の免許状取得の場合には3週間、高等学校教諭・特別支援学校教諭の免許状取得の場合には2週間の教育実習を行う。教育実習終了後、教育実習事後指導として、学生の実習体験発表、実習感想文の提出、アンケート調査などによって、教育実習の成果を振り返り、教員として必要な資質能力が培えたかどうかを確認する。教育実習は勤務という形態で行われるので、実習期間中に就職活動をするような時間的・精神的余裕は全くない。教職という仕事の重要性を認識し、実習期間中は就職活動などは中止し、実習に専念すること。

### （1）「教育実習（事前・事後指導を含む）」の履修条件

◇「教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む）」「教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）」の履修条件

（第1部教育学科初等教育専攻以外）

- ① 3年次終了の時点で、卒業に必要な単位数を第1部学生で100単位以上、第2部学生で90単位以上を修得していること。
- ② 3年次終了の時点で、次の2つの条件をともに満たしていること。

(i) 下表の各学科の条件を満たしていること。

A：哲学科・日本文学文化学科（第1部・第2部）・史学科

B：東洋思想文化学科（第1部・第2部）

C：英米文学科・英語コミュニケーション学科

D：第1部教育学科人間発達専攻

E：第2部教育学科

A	「教職概論」「教育基礎論Ⅰ」「教育基礎論Ⅱ」「教育心理学」「生徒指導論（進路指導論を含む）」「教育相談」「教育方法研究（情報機器の活用を含む）」「道徳教育の研究」「特別活動の研究」各教科の「教科教育論」 の10科目のうち6科目以上の単位を修得済みであること。
B	「教職概論」「教育基礎論」「教育心理学」「教育制度論」「教育課程総論」「道徳教育論」「特別活動の理論と方法」「教育方法論（情報機器及び教材の活用を含む）」「生徒指導論（進路指導論を含む）」「教育相談」 の10科目のうち6科目以上の単位を修得済みであること。
C	「教職概論」「教育基礎論Ⅰ」「教育基礎論Ⅱ」「教育心理学」「生徒指導論（進路指導論を含む）」「教育相談」「教育方法研究（情報機器の活用を含む）」「道徳教育の研究」「特別活動の研究」「英語科教育論Ⅰ」「英語科教育論Ⅱ」 の11科目のうち6科目以上の単位を修得済みであること。
D	「教職論」「教育学概論」「教育心理学概論」「学校教育社会学」「教育課程論」「教育相談の理論と方法」「教育方法論（情報機器及び教材の活用を含む）」「生徒指導研究（進路指導論を含む）」「特別活動の理論と方法」「道徳教育論」 の10科目のうち7科目以上の単位を修得済みであること。
E	「教職論」「教育学概論」「教育心理学概論」「学校教育社会学」「教育課程論」「教育相談の理論と方法」「教育方法論（情報機器及び教材の活用を含む）」「生徒指導論（進路指導論を含む）」「特別活動の理論と方法」「道徳教育の研究」 の10科目のうち7科目以上の単位を修得済みであること。

(ii) 実習予定の「教科の指導法Ⅰ」「教科の指導法Ⅱ」を修得済みであること。

\*教育実習での実習教科（地理歴史・公民）が実習校の都合で、自分が修得した「教科の指導法」と対応しない場合がある。その場合には教務課窓口にご相談すること。

- ③ 4年次において、卒業に必要な科目（単位）および教育職員免許状を取得するために必要な科目（単位）を修得し終える見込みのある者。

◇「初等教育実習（事前・事後指導を含む）」の履修条件（第1部教育学科初等教育専攻のみ）

- ① 3年次終了の時点で、卒業に必要な単位数を100単位以上修得していること。
- ② 3年次終了の時点で、下表の(i)(ii)(iii)の条件をすべて満たしていること。

(i)	「教職論」「教育学概論」「教育心理学概論」「学校教育社会学」「教育課程論」 「教育相談の理論と方法」「教育方法論（情報機器及び教材の活用を含む）」 「生徒指導研究（進路指導論を含む）」「特別活動の理論と方法」「道德教育論」 の10科目のうち7科目以上の単位を修得済みであること。
(ii)	「初等教科教育法（国語）」「初等教科教育法（社会）」「初等教科教育法（算数）」 「初等教科教育法（理科）」「初等教科教育法（生活）」「初等教科教育法（家庭）」 「初等教科教育法（音楽）」「初等教科教育法（図画工作）」「初等教科教育法（体育）」 の9科目のうち6科目以上の単位を修得済みであること。
(iii)	「初等科国語」「初等科社会」「初等科算数」「初等科理科」「初等科生活」「初等科家庭」 「初等科音楽」「初等科図画工作」「初等科体育」 の9科目のうち4科目以上の単位を修得済みであること。

- ③ 4年次において、卒業に必要な科目（単位）および教育職員免許状を取得するために必要な科目（単位）を修得し終える見込みのある者。

◇「特別支援学校教育実習（事前・事後指導を含む）」の履修条件

- ① 特別支援学校教諭免許状を取得するために必要な基礎資格を満たしていること、もしくは当該年度に基礎資格を満たす見込みがあること。
- ② 「特別支援教育概論I」を含み、特別支援学校教諭免許状を取得するために必要な科目を10科目以上修得していること。

(2) 教育実習の参加条件（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）

以下の条件を満たさなければ、教育実習に参加することはできない。

- ① 教壇に立って授業を行うに必要な学力を有すること。
- ② 教育実習指導教員の指導のもとに、教育実習生としてふさわしい行動のとれる人物であること。
- ③ 大学を含む関係諸機関との手続きを不備なく行っていること。
- ④ 大学の行う定期健康診断を受診していること。
- ⑤ 麻疹（はしか）の抗体検査・予防接種を行い、免疫があると認められていること。
- ⑥ 妊娠中もしくは出産して1年以内でないこと（母体保護のため）。
- ⑦ 教育実習料（含む保険料）を納入していること。
- ⑧ 「東京都公立学校教育実習取扱要綱」の第5条及び第12条に定められている実習資格条件を満たしていること。

なお、特別支援学校の教育実習については、「特別支援学校教育実習生登録票」を教務課窓口へ提出していること（提出期限は「教育実習生登録票」の提出期間に準ずる）。

（教育実習生の実習資格）

第5条 この要綱に基づき公立学校において教育実習ができる者は、次の各号に掲げる要件を備えた者に限る。

- (1) 教育実習の実施について、あらかじめ東京都教育委員会に実施の届出を行った大学等に在籍する者であること。
- (2) 大学等の最高学年に在学し、若しくはこれと同等以上で教育職員免許状取得見込みで、教職に就く意思のある者であること。

2前項各号の規定にかかわらず、次の各号の一に該当する者は除く。

- (1) 伝染の恐れのある疾病若しくは教育実習を行ううえで妨げとなる精神障害等のある者
- (2) 公立学校の正常な教育活動を妨げる恐れのある者

（教育実習生の責務）

第12条 教育実習生は、大学等及び教育実習校の指導に誠実に従わなくてはならない。

（東京都公立学校教育実習取扱要綱抜粋）

### (3) 教育実習校について

#### <中学校・高等学校>

教育実習を希望する学生は、3年次に「教科の指導法Ⅰ」「教科の指導法Ⅱ」を履修登録するとともに、4月上旬の教育実習事務手続説明会に必ず出席し、予定校確保（以下、内諾）の方法等について確認のうえ、各自が責任をもって実習校を開拓すること。また取得希望免許状及び内諾予定校を「ToyoNet-G」で登録すること。

その後、9月上旬までに東京都公立学校での教育実習希望者は、「教育実習希望調書」を、地方校（都内私立高校を含む）での教育実習希望者は、「教育実習受入内諾書」を提出すること。なお、東京都公立学校については正式受入決定は12月上旬となる。

また4年次に「教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む）」または「教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）」の履修登録をし、4月上旬の教育実習直前説明会に必ず出席すること。

#### <小学校>

##### 【往還型教育実習について】

第1部教育学科初等教育専攻では、4年次の教育実習に向けて、4年間を通じて学校教育現場を体験する往還型教育実習を採用している。これは、教師としての実践的指導力と高度の専門性を兼ね備えた小学校教員を養成するための基軸となるものである。具体的には、1年次に何回か学校を訪問することから始まり、2年次以降で「初等教育実践研究 A」「初等教育実践研究 B」を履修し、4年次に「初等教育実習（事前・事後指導を含む）」を履修する。

4年次に実施する教育実習に参加するには、3年次4月に行なわれる教育実習事務手続説明会に必ず出席し、予定校確保（以下、内諾）の方法等について確認のうえ、東京都公立学校での希望者は、「教育実習希望調書」を、地方校（都内私立校を含む）での教育実習希望者は「教育実習受け入れ内諾書」を提出すること。また、教育実習校を往還型教育実習以外の実習校を希望する場合は内諾を取得する前（2年秋学期末）に学科専攻主任の教員に相談すること。なお、東京都公立学校については正式受入決定が12月上旬となる。

また、4年次に「初等教育実習（事前・事後指導を含む）」を履修登録し、4月上旬の教育実習直前説明会に必ず参加すること。

#### <特別支援学校> ※特別支援学校教諭免許状取得希望者のみ

特別支援学校教育実習を行う学校とは、原則として東京都立の特別支援学校とし、大学が一括して東京都教育委員会に申請するので個人で開拓する必要はない。特別支援学校教諭免許状の取得を希望する者は3年次4月上旬の教育実習事務手続説明会で指示された提出期間内に「特別支援学校教育実習登録票」を提出すること。申請の関係上、未提出の者は、単位を修得していても特別支援学校の教育実習に参加できない。また、4年次の7月に特別支援学校教育実習説明会を行うので、必ず出席すること（詳細は教職課程掲示板に掲示する）。実習は9月～12月の間に2週間行われる。

### <6> 介護等体験について

小・中学校の免許希望者は、教職に必要な科目の修得、卒業要件の充足の他に、3年次に特別支援学校で2日間と社会福祉施設で5日間、計7日間、高齢者や障害者に対する介護、介助、交流等の体験を行い、受入先に体験を行った証明をいただく必要がある。

この体験を行うには、大学を通して申し込みをしなければならない。

概要は以下の通りである。

#### (1) 参加条件

以下の条件を1つでも満たさない場合は、介護等体験に参加できない。

- ① 介護等体験に積極的に参加する意欲があること。
- ② 全2回の説明会（2年次11月・3年次4月を予定）に出席し、必要な書類を提出すること。
- ③ 実施年度の4月に大学の定期健康診断を受診し異常なしと診断され、心身ともに健康であること。
- ④ 麻疹（はしか）の抗体検査・予防接種を行い、免疫があると認められた者であること。
- ⑤ 妊娠中もしくは出産から1年以内でないこと（母体保護のため）。



- ⑥介護等体験料を所定の期日までに振り込んでいること。
- ⑦指定された体験日程で介護等体験に参加できること。
- ⑧その他、必要な手続きのすべてを完了していること。

## (2) 体験日程・体験先

受入先の都合を考慮したうえ東京都教育委員会および東京都社会福祉協議会が希望者各人の日程と受入先を調整・決定する。個人的な事情や要望（サークル、アルバイト、海外留学、就職活動、仕事等）による日程・受入先の指定や変更（また、このことに関する個人交渉）・辞退は一切できないので、参加を希望する者はこの点を了承し、自分の都合を調整したうえで体験に臨むこと。

### ①日程

授業期間だけではなく夏季・冬季休暇期間・土・日・祝祭日を含む日程で行う。

### ②体験先

いずれも東京都に所在する学校・施設で行う。体験希望者が多いため、現住所に近い場所で行えるとは限らない。

## <特別支援学校>

視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者（身体虚弱者を含む。）に対して、小中学校等に準ずる教育を行うとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることを目的とする学校。在籍する児童生徒等に対する教育を行うほか、障害により教育上特別の支援を必要とする小中学校等の児童生徒等の教育に関し、必要な助言又は援助を行う。

## <社会福祉施設>

- ・高齢者にかかわる施設
- ・児童福祉・障害児にかかわる施設
- ・障害者（身体、知的、精神障害者）にかかわる施設
- ・生活保護にかかわる施設

## (3) 内容

- ・学校、施設の利用者の介護・介助（入浴・排泄等含む）
- ・学校、施設の利用者との交流（話し相手）、学習活動の指導・援助
- ・学校、施設が実施する行事（学園祭・バザー・遠足、サークル活動等）の補助
- ・学校、施設の掃除、洗濯等の作業

特別支援学校事例…授業参観・作業学習補助・学校行事補助等（プール実習・マラソン大会等）

社会福祉施設事例…車椅子補助・点字の勉強・送迎バスへの添乗・サークル活動の補助等

## <7> 教育職員免許状一括申請について

教育職員免許状に必要な単位を修得した学生は、教員免許状の取得が見込まれる年度に教育職員免許状申請の手続きをする必要がある。教育職員免許状の発行は東京都教育委員会が行うが、卒業時に教育職員免許状を受領するための申請手続きは通常大学を通して行う（以下一括申請）。

これらの手続きを怠った場合は、卒業時に教育職員免許状が授与されなくなるので注意すること。

### ◎個人申請について

大学で教育職員免許状の一括申請手続きを行わなかった場合でも、教育職員免許状に必要な単位を修得していれば、卒業後に個人で教育職員免許状を申請すること（個人申請）が可能である。

個人で申請する際の申請先等は下記の通りである。

〈申請先〉住民票をおいている都道府県の教育委員会（通常は都道府県庁の教育職員免許状を発行する部署）

〈申請に必要な書類・受付時期・免許状発効日〉

申請先によって異なるので各自で問い合わせること。

〈8〉教育職員免許状取得までのながれ（スケジュール）

※下記のスケジュールはあくまでも予定なので、時期が前後することがある。必ず教職課程掲示板を確認すること。

また、このスケジュールはモデルケースとなるが、実習時期や教育職員免許状取得時期が遅れる場合は、事前に教務課窓口にご相談すること。

特記事項	免許種別	手続内容
参加必須…該当者は必ず参加。 締切厳守…提出物を必ず期限内に提出。	小…小学校教諭1種希望者 中…中学校教諭1種希望者 高…高等学校教諭1種希望者 特…特別支援学校教諭1種希望者	介…介護等体験 教(小・中・高)…教育実習(小・中・高等学校) 教(小)…教育実習(小学校) 教(特)…教育実習(特別支援学校) 申…一括申請 演…教職実践演習

学年	月	内容	特記事項	免許種別	手続内容	
1年	11月	教職実践演習ガイダンスの掲示		小・中・高・特	演	
	12月	教職実践演習ガイダンス	参加必須	小・中・高・特	演	
2年	10月下旬	介護等体験第1回説明会の掲示		小・中	介	
	11月	介護等体験第1回説明会 体験概要、申込前の注意事項、今後の手続の説明、 参加仮登録	参加必須	小・中	介	
		教職パスポート中間点検説明会の掲示		小・中・高・特	演	
	12月	教職パスポート中間点検説明会	参加必須	小・中・高・特	演	
	1月下旬	次年度教育実習事務手続説明会の掲示<注1>		小・中・高・特	教(小・中・高) 教(特)	
教職パスポートの中間点検提出		締切厳守	小・中・高・特	演		
		介護等体験第2回説明会の掲示		小・中	介	
3年	4月初旬	教育実習事務手続説明会 次年度教育実習予定校確保(内諾)について 特別支援学校教育実習登録票の配付<注1>	参加必須	小・中・高・特	教(小・中・高) 教(特)	
		介護等体験第2回説明会 体験上の注意、申込方法の説明、申込と体験に 必要な書類の配布	参加必須	小・中	介	
		介護等体験申込受付 申込書類の提出及び体験費用の納入	締切厳守	小・中	介	
	4月中旬	取得希望免許状及び内諾予定校の登録、教育実 習登録票(コピー)の提出	締切厳守	小・中・高・特	教(小・中・高) 教(特)	
		特別支援学校教育実習登録票の提出	締切厳守	特	教(特)	
		教育実習の履修条件を満たすための科目登録		小・中・高・特	教(小・中・高) 教(特)	
			介護等体験の一括申込(大学→社会福祉協議会、 教育委員会) これ以降の個人的理由によるキャンセルは不可		小・中	介
	4月以降	教育実習校への内諾依頼(各自出身校等へ次年度 実習の依頼に行くこと)		中・高	教(中・高)	
		教育実習校への内諾依頼(各自次年度実習の依頼 に行くこと。住還型教育実習の実習校以外を希 望する場合は学科教員に要相談)		小	教(小)	
	6月下旬	介護等体験受入決定発表(掲示)及び要項・受入 連絡票配布(大学→学生) 体験日時および必要事項(細菌検査の有無、体験 の準備等)の確認		小・中	介	
6月以降	介護等体験準備及び体験(要項、受入連絡票を熟 読の上、体験に臨むこと)	参加必須	小・中	介		



学年	月	内容	特記事項	免許種別	手続内容
3年	6月以降	介護等体験証明書受取(体験終了後) 教育職員免許状一括申請説明会(4年7月上旬予定)にてコピーを提出するので各自で必ず保管しておくこと		小・中	介
		介護等体験日誌の提出(体験終了後2週間以内)	締切厳守	小・中	介
	9月中旬	教育実習受入内諾書の確認(地方校)		小・中・高	教(小・中・高)
		教育実習希望調書の提出(東京都公立学校)	締切厳守	小・中・高	教(小・中・高)
	12月	教育実習校の発表(東京都公立学校) 東京都公立学校での実習希望者は掲示にて確認		小・中・高	教(小・中・高)
1月下旬	次年度教育実習直前説明会の掲示<注1>		小・中・高・特	教(小・中・高) 教(特)	
4年	4月初旬	教育実習直前説明会 実習直前の心構え、実習上の注意事項、実習校持参書類の配布 特別支援学校教育実習振込用紙の配布<注1>	参加必須	小・中・高・特	教(小・中・高) 教(特)
		教育実習参加条件充足者発表		小・中・高	教(小・中・高)
	4月中旬	教育実習料振込	締切厳守	中・高	教(中・高)
		特別支援学校教育実習料振込<注1>	締切厳守	特	教(特)
	5月上旬	教育実習承諾書確認 打合せ日、実習期間、教科等最終確認		小・中・高	教(小・中・高)
	5月中旬	訪問指導校を掲示にて発表		小・中・高	教(小・中・高)
	5月以降	教育実習<注2>	参加必須	小・中・高	教(小・中・高)
	6月上旬	教育職員免許状一括申請説明会の掲示		小・中・高・特	申
	7月上旬	特別支援学校教育実習説明会 実習校及び訪問指導教員の発表、実習上の心構え、注意事項、実習校持参書類配布、所定書類の提出(印鑑を持参すること)	参加必須	特	教(特)
		教育職員免許状一括申請説明会 申請免許状の申込 介護等体験証明書のコピーを提出(小・中免許状希望者)	締切厳守	小・中・高・特	申
	7月中旬	訪問指導教員及び実習決定校への挨拶		特	教(特)
	9~11月	特別支援学校教育実習<注2>	参加必須	特	教(特)
	実習終了後 1ヵ月以内	教育実習日誌の提出	締切厳守	小・中・高・特	教(小・中・高) 教(特)
	12月上旬	免許状記載内容の最終確認、東京都教育委員会に提出する書類の署名・捺印、申請料の納入	締切厳守	小・中・高・特	申
	3月中旬	教育職員免許状取得決定者発表		小・中・高・特	教(小・中・高) 教(特)
卒業式当日	教育職員免許状授与(交付)<注3> 印鑑を持参すること	参加必須	小・中・高・特		

<注1> 特別支援学校教諭1種免許状希望者で、すでに基礎免許状を取得しており、教育実習説明会および教育実習直前説明会(中・高)に出席する必要のない学生は、事前に教務課窓口で指示を仰ぐこと。

<注2> 教育実習の実習時期は各実習校によって異なるので、承諾書等で必ず各自確認すること。

<注3> 科目等履修生に教育職員免許状を授与(交付)する日程は別途教職課程掲示板にて指示する。

※説明会を欠席したり、手続きを怠ったりすると、教育実習・介護等体験に参加できなくなるので、教職課程掲示板・P.232からの<8>教育職員免許状取得までのながれ(スケジュール)をよく確認しておくこと。また、教育実習の内諾後のキャンセル・介護等体験の申し込み後のキャンセルや、一度納入した実習費の返金は一切できないので注意すること。

### 〈9〉教職実践演習について

平成22年度入学生から、4年次の秋学期に必修科目として「教職実践演習」の履修が必要とされている。この科目は、全学年を通じた教職に関する「学びの軌跡の集大成」と言えるものであり、学生が身に付けた資質・能力が教員として最小限必要な資質・能力として有機的に統合され形成されたかを確認することを目的としている。しかしこの確認は4年次秋学期になってはじめて行うのではなく、1年次から継続的にくり返し自らの教職への意思や適性を問いつづけるというものである。

従って、教員をめざす学生は1年次から意識的・意欲的に教職課程の学びを継続し、学修の成果と課題を記録しておくことが求められる。本学では「教職パスポート」を用意してその一助としている。「教職パスポート」を活用して、4年間の学修の流れを継続的・系統的に、目に見えるかたちで記録していくことが求められる。「教職パスポート」を管理し活用していることが「教職実践演習」の履修条件のひとつとなるので、学生は大切に保管し活用するようにしてほしい。なお、2年次終了時点で「教職パスポート」の中間点検を行い、必要に応じて指導・助言を行う。教職への適性が疑われる場合には進路の変更を促すこともある。

しっかりとした自覚をもって学修に取り組んでほしい。

### 〈10〉教員採用に関する支援について

就職・キャリア支援部（6号館1階）

各講座の開催・申込時期等については掲示等を確認すること。

- ・採用試験対策講座
- ・模擬試験関連情報提供・模擬面接
- ・専門スタッフによる学習指導

教職関係資料室（6号館4階）

開室時間は資料室前の掲示板もしくは教職課程掲示板で確認すること。

- ・教職関係資料（教員採用受験雑誌・教科書・参考書・学習指導案等）の貸し出し
- ・教職全般の相談（試験に関する情報提供、対策）

### 〈11〉教員採用試験について

教育職員免許状を取得した者が教員になるためには、まずは教員採用試験に合格する必要がある。

出願期間・受験条件・試験日程・試験方法は教育委員会・学校によって異なるので、教員採用試験の実施要綱の取り寄せと応募は各自で行うこと。

実施要綱が大学に届いた場合は、教職課程掲示板にて随時周知する。

教員採用試験（第1次・第2次）に合格した場合は必ず教務課窓口へ届け出ること。

#### （1）公立学校の教員採用

公立学校の教員になるためには、まずは各都道府県または市の教育委員会が実施する採用試験に合格し、採用候補者の名簿に登録される必要がある。名簿の中からその年度の欠員状況、教員組織の状況などを考慮して選定され、採用が決定する。

#### （2）私立学校の教員採用

各都県の私学協会等が実施する「私立学校教員適性検査」を基に採用を行う場合と公募制による採用がある。

「私立学校教員適性検査」は採用試験ではなく、適性検査を受けた受検者の氏名と評価等が記載された名簿を基にして、教員の採用を行っていくものである。ただし、検査を実施する都県にある私立学校全てが「私立学校教員適性検査」の結果を基に教員募集を行っているとは限らない。

## 〈12〉休学および留学等で長期間大学へ通学することができない場合について

在学中に休学および留学等で長期間大学へ通学することができない場合は、教育実習、介護等体験等の実施時期や教育職員免許状の取得時期が通常の学生より1～2年遅くなることもあるので、必ず事前に教務課窓口まで相談に来ること。

## 〈13〉科目等履修生制度について

将来、教員を目指す学生で、学部卒業までに教育職員免許状を取得するために必要な単位を修得できなかった場合や、すでに教育職員免許状を取得していて、卒業後、新たに別教科の教育職員免許状を取得したい場合は、科目等履修生として必要な単位を修得し教育職員免許状を取得することができる。本学科目等履修生には、通学制と通信制があり、募集要件・履修できる科目等も異なる。希望者は、必ず当該年度の各募集要項を確認のうえ出願すること。なお、本学で取得可能な教育職員免許状に必要な科目がすべて科目等履修生に開講しているとは限らないので注意すること。通学制の概要は、下記のとおり。通信制を希望する場合には、スケジュール等が異なるので通信教育課に問い合わせること。

### (1) 出願資格

学士の学位を有すること

### (2) 履修できる科目

- ①「教職に関する科目」は、年間8科目以内
- ②年間履修単位上限数は、「教職に関する科目」を含め48単位以内である。また、第1部、第2部の間の相互聴講はできない。
- ③「教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む）」または「教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）」を履修するためには、教育実習前年度に教育実習校を確保していることが条件となる。

## 科目等履修生（通学制）に関するスケジュール（詳細は当該年度の募集要項で確認してください）

2月上旬～中旬	科目等履修生募集要項配付*	↓
2月上旬～	履修科目の相談（教務課）	↓
3月上旬～中旬	出願（教務課）	↓
3月下旬	試験・合格発表	↓
4月上旬	就学手続	

\*インターネットでも閲覧・出力可。（「東洋大学 科目等履修生」でキーワード検索してください。）

出願にあたっての履修科目については、事前に教務課窓口にご相談すること。

※介護等体験のみの履修はできない。

## 〈14〉編入生・転入生の教育職員免許状取得について

教育職員免許状取得を希望する場合は以下のことに留意のうえ、事前に教務課窓口まで相談に来ること。

- (1) 単位認定・時間割編成によっては卒業時までには教育職員免許状が取得できない場合がある。
- (2) 編・転入前の大学等で取得した教職に関する科目等について全ての科目を認定できるとは限らない。
- (3) 卒業単位に算入されない教職に関する科目を個別で認定する場合は、卒業に必要な科目の認定単位数が減少するので注意すること。
- (4) 教務課窓口で個別指導を受ける際は、編・転入前の大学等で該当教科の「学力に関する証明書」を請求し、認定を希望する科目の講義内容・時間割とともに持参すること。

#### 〈15〉 教員免許更新制について

教員免許状取得後10年ごとに更新講習を受け修了認定されることにより、有効期間が更新される教員免許更新制が平成21年に施行されたが、文部科学省では、教員の資質向上のための教員免許制度の抜本的な見直し（教員養成課程の充実や専門免許状制度の導入の検討を含む）に着手し、その過程において現行制度の効果等を検証することとなった。新たな教員免許制度の内容及び移行方針を具体化する中で、現在の教員免許更新制の在り方について結論を得ることが示されている。日頃から教育関連のニュースをよく目を通しておくとともに、教職課程の履修に際しては、自分自身の教職に対する意思を再確認してほしい。

## 2. 社会教育主事

### (1) 定義と業務

社会教育主事は、都道府県及び市町村の教育委員会の事務局におかれる専門的職員で、社会教育をおこなう者に対する専門的技術的な指導と助言を与えることを職務とする。さらに、近年の法改正により、学校が社会教育関係団体、地域住民その他の関係者の協力を得て教育活動をおこなう場合にも、求めに応じて必要な助言をおこなうことができるようになった。まさに、地域における生涯学習を推進するための専門家として、学校や住民と協力しながら学習を促進する重要な仕事を担う存在である。

### (2) 資格（社会教育法 第九条の四より）

\*本学の場合は、第三号（アンダーラインつき）に該当する。

第九条の四 次の各号のいずれかに該当する者は、社会教育主事となる資格を有する。

- 一 大学に二年以上在学して六十二単位以上を修得し、又は高等専門学校を卒業し、かつ、次に掲げる期間を通算した期間が三年以上になる者で、次条の規定による社会教育主事の講習を修了したもの
  - イ 社会教育主事補の職にあつた期間
  - ロ 官公署、学校、社会教育施設又は社会教育関係団体における職で司書、学芸員その他の社会教育主事補の職と同等以上の職として文部科学大臣の指定するものにあつた期間
  - ハ 官公署、学校、社会教育施設又は社会教育関係団体が実施する社会教育に関係のある事業における業務であつて、社会教育主事として必要な知識又は技能の習得に資するものとして文部科学大臣が指定するものに従事した期間（イ又はロに掲げる期間に該当する期間を除く。）
- 二 教育職員の普通免許状を有し、かつ、五年以上文部科学大臣の指定する教育に関する職にあつた者で、次条の規定による社会教育主事の講習を修了したもの
- 三 大学に二年以上在学して、六十二単位以上を修得し、かつ、大学において文部科学省令で定める社会教育に関する科目の単位を修得した者で、第一号イからハまでに掲げる期間を通算した期間が一年以上になるもの

(以下省略)

### (3) 修得すべき科目と単位数

社会教育法の規定による、大学において修得すべき社会教育に関する科目（分野）および単位と、それに対応する本学開講科目および単位は次頁の表に掲げるものとし、各分野から4単位以上、合計24単位以上修得しなければならない。

なお、文学部の学科教育課程表にない科目については、社会学部講義要項に掲載されている該当科目の講義内容を熟読のうえ、履修すること。

### (4) 社会教育主事になるためには

社会教育主事の資格を取得し、都道府県または市町村教育委員会から「社会教育主事」として発令されることが必要である。資格を有する人が必ず社会教育主事として発令されるものではないので、採用方法等については、都道府県または市町村教育委員会に問い合わせること。



## 第 1 部 「社会教育主事資格に関する科目」 の単位

### 2013年度第 1 部入学生用

省令により定められた科目	単位	本学開講科目	単位	学年	開講学部	備考
生涯学習概論	4	生涯学習概論Ⅰ	2	1・2	文学部	
		生涯学習概論Ⅱ	2	1～4	文学部	
社会教育計画	4	社会教育計画論Ⅰ	2	1～4	文学部	
		社会教育計画論Ⅱ	2	1～4	文学部	
社会教育演習、社会教育実習または、社会教育課題研究のうち1以上の科目	4	社会教育課題研究Ⅰ	2	1～4	文学部	
		社会教育課題研究Ⅱ	2	1～4	文学部	
社会教育特講Ⅰ (現代社会と社会教育)		女性問題と学習	2	1～4	文学部	
		家庭教育論	2	1～4	文学部	
		情報化と社会教育	2	1～4	文学部	
社会教育特講Ⅱ (社会教育活動・事業・施設)		比較政策論	2	1～4	文学部	
		視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)	2	1～4	文学部	
		博物館概論	2	1	文学部	
社会教育特講Ⅲ (その他必要な科目)	注)1 12	博物館資料論	2	2～4	文学部	
		博物館展示論	2	2	文学部	
		教育基礎論Ⅰ	2	1	教職科目	注)2を参照
		教育基礎論Ⅱ	2	1	教職科目	注)2を参照
		教育学概論	2	1・2	文学部	注)3を参照
		学校教育社会学	2	1～4	文学部	注)3を参照
		倫理学概論	4	3・4	文学部	
		倫理学概説A	2	3・4	文学部	
		倫理学概説B	2	3・4	文学部	
		宗教とは何かA	2	1	文学部	注)4を参照
		宗教とは何かB	2	1	文学部	
マス・コミュニケーション概論A	2	1～4	社会学部			
マス・コミュニケーション概論B	2	1～4	社会学部			
政治学原論A	2	2	文学部			
政治学原論B	2	2	文学部			
	24					

注)1 社会教育特講については、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの各分野からそれぞれ4単位ずつ修得することが望ましい。

注)2 「教育基礎論Ⅰ」「教育基礎論Ⅱ」は東洋思想文化学科の教育課程表では、科目名称が「教育基礎論」「教育制度論」となりますので、履修を希望する場合には、注意してください。

注)3 「教育学概論」「学校教育社会学」は、教育学科の学生が履修かつ修得した場合のみ、社会教育特講Ⅲの単位として認定する。

注)4 「宗教とは何かA」「宗教とは何かB」は東洋思想文化学科の教育課程表では、科目名称が「宗教学概論A」「宗教学概論B」になりますので、履修を希望する場合には、注意してください。

※各科目の履修については、所属学科の履修方法に従うこと。



## 第2部 「社会教育主事資格に関する科目」の単位

### 2013年度第2部入学生用

省令により定められた科目	単位	本学開講科目	単位	学年	開講学部	備考
生涯学習概論	4	生涯学習概論Ⅰ	2	1・2	文学部	
		生涯学習概論Ⅱ	2	1～4	文学部	
社会教育計画	4	社会教育計画論Ⅰ	2	1～4	文学部	
		社会教育計画論Ⅱ	2	1～4	文学部	
社会教育演習、社会教育実習または、社会教育課題研究のうち1以上の科目	4	社会教育課題研究Ⅰ	2	1～4	文学部	
		社会教育課題研究Ⅱ	2	1～4	文学部	
社会教育特講Ⅰ (現代社会と社会教育)	注)1	女性問題と学習	2	1～4	文学部	
		家庭教育論	2	1～4	文学部	
		情報化と社会教育	2	1～4	文学部	
社会教育特講Ⅱ (社会教育活動・事業・施設)	12	比較政策論	2	1～4	文学部	
		視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)	2	1～4	文学部	
社会教育特講Ⅲ (その他必要な科目)	注)2	教育基礎論Ⅰ	2	1	教職科目	注)2を参照
		教育基礎論Ⅱ	2	1	教職科目	
		教育学概論	2	1・2	文学部	注)3を参照
		学校教育社会学	2	1～4	文学部	
		倫理学概論A	2	1～4	文学部	
		倫理学概論B	2	1～4	文学部	
		倫理学概説A	2	3・4	文学部	
		倫理学概説B	2	3・4	文学部	
		経済学入門A	2	1	文学部	
		経済学入門B	2	1	文学部	
		政治学原論A	2	2～4	文学部	
		政治学原論B	2	2～4	文学部	
		マス・コミュニケーション概論A	2	1～4	社会学部	
マス・コミュニケーション概論B	2	1～4	社会学部			
	24					

注)1 社会教育特講については、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの各分野からそれぞれ4単位ずつ修得することが望ましい。

注)2 「教育基礎論Ⅰ」「教育基礎論Ⅱ」は東洋思想文化学科の教育課程表では、科目名称が「教育基礎論」「教育制度論」となりますので、履修を希望する場合には、注意してください。

注)3 「教育学概論」「学校教育社会学」は、教育学科の学生が履修かつ修得した場合のみ、社会教育特講Ⅲの単位として認定する。

※各科目の履修については、所属学科の履修方法に従うこと。

### 3. 図書館司書

#### (1) 資格

図書館司書とは、図書資料の貸し出しや返却業務、利用者の相談に応じるレファレンスサービスや読書案内、資料の収集・分類・目録作成などを行う専門職です。司書になるための資格は、大学で学部の卒業に必要な単位を修得して学士の学位を取得し、さらに司書に関する専門科目についての単位を修得することによって取得できます。本学で開講している科目と単位数および配当学年は下記の表のとおりです。

就職先の図書館は、公共図書館、大学図書館、企業図書館などがあります。司書として就職するためには、当該自治体の採用試験を受けて図書館に配属されなくてはなりません。公立図書館の場合、地方公共団体が実施する地方公務員採用試験を受験し、図書館への勤務を希望します。

#### (2) 修得に必要な科目と単位数

①本学において司書資格の取得を希望する者は、下記の表に示す本学開講科目の必修科目と、選択科目の「**図書館情報資源特論**」と「**図書・図書館史**」を履修かつ修得しなければならない。

②「**情報サービス演習 A**」「**情報サービス演習 B**」の履修について

I. 「**情報サービス演習 A・B**」の配当学年が1～4のため1年次から履修が可能である。

しかし、「**情報サービス A・B**」の履修には、前年度までに「**図書館サービス概論**」と「**情報サービス論**」を修得しておくか、履修年度に「**図書館サービス概論**」と「**情報サービス論**」を履修することが望ましい。「**情報サービス演習 A・B**」は、「**図書館サービス概論**」と「**情報サービス論**」の内容を踏まえたうえで授業を行う。そのため、これらの科目が未履修であると、演習課題に取り組むことが困難で単位修得に支障をきたす可能性がある。履修時期については慎重に考えること。

II. 「**情報サービス演習 A**」と「**情報サービス演習 B**」は通年履修、つまり、同年度にAとBをセットで履修することを原則とする。

③「**情報資源組織演習 A**」「**情報資源組織演習 B**」の履修について

I. 「**情報資源組織演習 A・B**」の配当学年が1～4のため1年次から履修が可能である。

しかし、「**情報資源組織演習 A・B**」の履修には、前年度までに「**図書館情報資源概論**」と「**情報資源組織論**」を修得しておくか、履修年度に「**図書館情報資源概論**」と「**情報資源組織論**」を履修することが望ましい。「**情報資源組織演習 A・B**」は、「**図書館情報資源概論**」と「**情報資源組織論**」の内容を踏まえたうえで授業を行う。そのため、これらの科目が未履修であると、演習課題に取り組むことが困難で単位修得に支障をきたす可能性がある。履修時期については慎重に考えること。

II. 「**情報資源組織演習 A**」「**情報資源組織演習 B**」は通年履修、つまり、同年度にAとBをセットで履修することを原則とする。

#### (3) ガイダンスについて

毎年4月初めに「**図書館司書・学校図書館司書教諭ガイダンス**」を開催して科目の履修方法などの説明を行う。履修希望者は履修希望初年度に必ず出席すること。

#### (4) 1部・2部相互聴講制度について

図書館司書資格の取得を希望する者は、以下の履修条件で1部・2部相互聴講制度を活用することができる。

○1部・2部相互聴講制度の履修条件

①卒業までに30単位を超えて履修かつ修得することはできない。

②年間履修最高単位数(48単位)に算入する。

③履修かつ修得した単位は、文学部共通科目として、卒業単位に算入する。

④履修方法

第1部の学生が、第2部開講科目の履修を希望する場合には第1部の科目と同様に履修登録を

すること。第2部の学生が、第1部開講科目の履修を希望する場合も同様に履修登録を必要とする。  
(一部対象外科目がある)

2013年度第1部・第2部入学生用

	文部科学省講習科目	群	単位	本学開講科目	単位	配当学年
必修	生涯学習概論	甲	2	生涯学習概論 I	2	1・2
	図書館概論	甲	2	図書館概論	2	1～4
	図書館制度・経営論	甲	2	図書館制度・経営論	2	1～4
	図書館情報技術論	甲	2	図書館情報技術論	2	1～4
	図書館サービス概論	甲	2	図書館サービス概論	2	1～4
	情報サービス論	甲	2	情報サービス論	2	1～4
	児童サービス論	甲	2	児童サービス論	2	1～4
	情報サービス演習	甲	2	情報サービス演習 A	1	1～4
				情報サービス演習 B	1	1～4
	図書館情報資源概論	甲	2	図書館情報資源概論	2	1～4
	情報資源組織論	甲	2	情報資源組織論	2	1～4
情報資源組織演習	甲	2	情報資源組織演習 A	1	1～4	
			情報資源組織演習 B	1	1～4	
選択	図書館情報資源特論	乙	1	図書館情報資源特論	2	1～4
	図書・図書館史	乙	1	図書・図書館史	2	1～4
資格取得のための最低単位数			24		26	

※選択科目について

本学では、文部科学省講習科目の乙群（選択科目）を「図書館情報資源特論」と「図書・図書館史」の2科目開講している。乙群（選択科目）から2科目を修得することが必修となっているため、本学では上記の表に記載するすべての科目を修得することが条件となるので注意すること。

#### 4. 社会福祉主事

社会福祉主事は、福祉事務所の相談業務を担当する職員の資格であるが、下記の「社会福祉主事の資格に関する指定科目」のうちから「3科目以上を修得」した者に任用資格が認められている。しかし、地方公務員として採用されなければ、この資格を活かすことはできない。なお、この資格を基礎とし、実務経験を持てば、児童福祉司等に任用される。また、民間福祉施設の職員採用条件として、社会福祉主事任用資格が求められることが多い。

- (1) 資格 大学において、社会福祉に関する科目を修めて卒業した者（社会福祉法第19条第1号）  
 (2) 修得すべき科目 下記の「社会福祉主事の資格に関する指定科目」のうちから3科目以上を修得すること。

(注) 「 〓 」 全ての科目を修得すること

#### 2013年度第1部入学生用 社会福祉主事に関する科目

社会福祉主事の資格に関する指定科目	本学開講科目
社会福祉概論	社会福祉学概論A 社会福祉学概論B
社会福祉事業史	社会福祉発達史A 社会福祉発達史B
社会福祉援助技術論	ソーシャルワークの基盤と専門職A ソーシャルワークの基盤と専門職B ソーシャルワークの理論と方法A ソーシャルワークの理論と方法B ソーシャルワークの理論と方法C ソーシャルワークの理論と方法D
社会福祉調査論	社会調査入門Ⅰ 社会調査入門Ⅱ
社会福祉行政論	社会福祉法制・行政A 社会福祉法制・行政B
社会保障論	社会保障論A 社会保障論B
公的扶助論	公的扶助論
児童福祉論	児童福祉論A 児童福祉論B
家庭福祉論	家族援助論
身体障害者福祉論	障害者福祉論A 障害者福祉論B
老人福祉論	高齢者福祉論A 高齢者福祉論B
医療社会事業論	医療ソーシャルワーク論
地域福祉論	地域福祉論A 地域福祉論B
法学	法学A 法学B
民法	民法A 民法B 民法Ⅰ(総則)A 民法Ⅰ(総則)B 民法Ⅱ(物権)A 民法Ⅱ(物権)B 民法Ⅲ(債権総論)A 民法Ⅲ(債権総論)B 民法Ⅳ(債権各論)A 民法Ⅳ(債権各論)B 民法Ⅴ(親族・相続)A 民法Ⅴ(親族・相続)B
行政法	行政法ⅠA 行政法ⅠB 行政法ⅡA 行政法ⅡB

社会福祉主事の資格に関する指定科目	本学開講科目
経済学	経済学A 経済学B ミクロ経済学入門 マクロ経済学入門 経済学入門A 経済学入門B ミクロ・マクロ経済入門A ミクロ・マクロ経済入門B 生き方・働き方の経済学 ワーク・ライフ・バランスの総合政策 経済学(マクロ) 経済学(ミクロ) 応用マクロ経済学 応用ミクロ経済学 経済原論A 経済原論B
社会政策	社会政策A 社会政策B
経済政策	経済政策A 経済政策B
心理学	心理学概論A 心理学概論B 心理学A 心理学B
社会学	社会学A 社会学B 社会学概論Ⅰ 社会学概論Ⅱ
教育学	教育基礎論Ⅰ 教育基礎論Ⅱ 教育学概論
倫理学	倫理学基礎論A 倫理学基礎論B 応用倫理学A 応用倫理学B 倫理学概説A 倫理学概説B 倫理学概論
医学一般	医学一般
介護概論	介護概論

※「経済政策A・B」は1・2部相互聴講科目として開講する  
 ※東洋思想文化学科の学生は、「教育基礎論Ⅰ」「教育基礎論Ⅱ」を履修かつ修得することはできない。

(注) 「 』 全ての科目を修得すること

2013年度第2部入学生用 社会福祉主事に関する科目

社会福祉主事の資格に関する指定科目	本学開講科目
社会福祉概論	社会福祉学概論A 社会福祉学概論B
社会福祉事業史	
社会福祉援助技術論	ソーシャルワーク論A ソーシャルワーク論B
社会福祉調査論	社会調査入門Ⅰ 社会調査入門Ⅱ
社会福祉行政論	社会福祉法制・行政
社会保障論	社会保障論A 社会保障論B
公的扶助論	公的扶助論
児童福祉論	児童福祉論
家庭福祉論	
身体障害者福祉論	障害者福祉論
老人福祉論	高齢者福祉論
医療社会事業論	
地域福祉論	地域福祉論
法学	法学 日本国憲法
民法	民法A 民法B 民法Ⅰ(総則)A 民法Ⅰ(総則)B 民法Ⅱ(物権)A 民法Ⅱ(物権)B 民法Ⅲ(債権総論)A 民法Ⅲ(債権総論)B 民法Ⅳ(債権各論)A 民法Ⅳ(債権各論)B 民法Ⅴ(親族・相続)A 民法Ⅴ(親族・相続)B
行政法	行政法ⅠA 行政法ⅠB 行政法ⅡA 行政法ⅡB

社会福祉主事の資格に関する指定科目	本学開講科目
経済学	経済学A 経済学B 労働の経済A 労働の経済B 経済学入門A 経済学入門B 経済原論A 経済原論B
社会政策	社会政策A 社会政策B
経済政策	経済政策A 経済政策B
心理学	心理学概論A 心理学概論B 心理学A 心理学B
社会学	社会学A 社会学B 社会学概論A 社会学概論B
教育学	教育基礎論Ⅰ 教育基礎論Ⅱ 教育学概論
倫理学	倫理学A 倫理学B 倫理学概論A 倫理学概論B 倫理学概説A 倫理学概説B
医学一般	医学一般
介護概論	介護概論

※「経済政策A・B」は1・2部相互聴講科目として開講する  
 ※東洋思想文化学科の学生は、「教育基礎論Ⅰ」「教育基礎論Ⅱ」を履修かつ修得することはできない。



## 5. 博物館学芸員〈第1部学生のみ対象〉

### (1) 業務

博物館には狭義の博物館のほか、美術館、考古学・歴史関係史料館、郷土館、記念館、民芸館および科学博物館、動物園、水族館、科学館、天文館などが含まれる。これらは学校教育と並んで重要なものである社会教育のための機関であって、そこには専門職員として学芸員を置かなければならないことが法によって定められている（博物館法第4条第3項）。

学芸員の仕事は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的な事項をつかさどることができる（博物館法第4条第4項）。

### (2) 資格

学士の学位を有する者で大学において次の科目および単位を修得した者は、学芸員となる資格を有する。

### (3) 修得すべき科目と単位数

博物館法第5条第1項第1号の規定による、大学において修得すべき博物館に関する科目および単位と、それに対応する本学開講科目および単位は次の表による。

注) 1 実習のコースは2種類に分かれる。1コースは民俗・書誌、2コースは考古学・一般である。

#### 2013年度第1部入学生用

	省令により定められた科目	単位	本学開講予定科目	単位	学年	開講学科	備考
必修科目	生涯学習概論	2	生涯学習概論Ⅰ	2	1・2	教育学科	
	博物館概論	2	博物館概論	2	1・2	史学科	
	博物館経営論	2	博物館経営論	2	2	史学科	
	博物館展示論	2	博物館展示論	2	2	史学科	
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	3・4	史学科	
	博物館資料論	2	博物館資料論	2	2～4	史学科	
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	1～4	史学科	
	博物館教育論	2	博物館教育論	2	2～4	史学科	
	博物館実習	3	博物館実習Ⅰ	2	3	史学科	注) 1を参照
			博物館実習Ⅱ	1	4	史学科	
選択科目	文化史		日本の伝統芸能A	2	1～4	日本文学文化学科	
			日本の伝統芸能B	2	1～4	日本文学文化学科	
			日本の伝統行事A	2	1～4	日本文学文化学科	
			日本の伝統行事B	2	1～4	日本文学文化学科	
			王朝文化論A	2	2～4	日本文学文化学科	
			王朝文化論B	2	2～4	日本文学文化学科	
			室町文化論A	2	2～4	日本文学文化学科	
			室町文化論B	2	2～4	日本文学文化学科	
			日本の古典籍A	2	2～4	日本文学文化学科	
			日本の古典籍B	2	2～4	日本文学文化学科	
			古文書学Ⅰ	4	1～4	史学科	
		古文書学Ⅱ	4	1～4	史学科		
	美術史		日本の美術A	2	1～4	日本文学文化学科	
			日本の美術B	2	1～4	日本文学文化学科	
	考古学		考古学研究	4	2～4	史学科	
	民俗学		日本民俗学A	2	2～4	日本文学文化学科	
			日本民俗学B	2	2～4	日本文学文化学科	



(4) 学芸員資格取得にかかわる必修科目の位置づけについて

学芸員資格のための必修科目は、博物館法施行規則（文部科学省令24号）にもとづき、本学学則で定められたものである。このうち、「博物館実習」は博物館法に認められた博物館において行われるもので、学内実習はそれを補充するためのものである。したがって、実習は博物館業務の現場において、学外博物館の協力のもとで行われることが必要条件となっている。いわば現任の学芸員に準ずるような作業を行うことになる。したがって、受講生は実習を受ける以前に、博物館学芸員としての基本教育（「博物館概論」・「博物館経営論」「博物館展示論」「博物館資料論」）、学芸員の教育者としての基本教育（「博物館教育論」）、学芸員の社会教育者としての基本的教育（「生涯学習概論Ⅰ」）が行われていなければならない。本学のカリキュラム構成もその原則をふまえたものとなっている。

(5) 履修上の注意

- ①この資格を取得できるのは、**第1部の文学部・社会学部学生のみ**である。
- ②必修科目はすべて修得しなければならない。
- ③「博物館実習Ⅰ」は、受講を許可された者（「博物館経営論」「博物館展示論」「博物館資料論」「生涯学習概論Ⅰ」の成績上位者約80名）のみ履修できる。**2年次までの必修科目（「博物館概論」・「博物館経営論」「博物館展示論」「博物館資料論」・「生涯学習概論Ⅰ」）を全て修得していること**を条件とする。
- ④選択科目は、**2系列以上から12単位以上**を修得しなければならない。
- ⑤4年次に配当されている「博物館実習Ⅱ」の履修登録は、下記の条件を満たすこと。
  - (1)：「博物館実習Ⅰ」の単位を修得していること。
  - (2)：「博物館教育論」の単位を修得していること、または「博物館実習Ⅱ」の履修年度に「博物館教育論」を履修していること。
- ⑥上級学年に配当されている科目は履修できない。

※「博物館実習Ⅱ」の履修を希望する場合は、実習料（10,000円）を所定の期間に納入しなければならない。一度納入した実習料は、返金しないので特に注意すること。また、実習生への連絡は、**博物館実習室掲示板（白山校舎5号館地下1階5B11教室前）**で行うので注意すること。

博物館実習スケジュール

月	3年生	4年生
4	博物館実習Ⅰ履修許可者発表 履修登録 授業開始	博物館実習Ⅱ履修登録 実習料納入 授業開始
6		実習館決定
7～9	ガイダンス（第1回目）	館務実習
11～12	見学学習、ガイダンス（第2回目）	
	合宿（1泊2日）	
1	次年度実習予定館内定	

※館務実習先は、原則として自己開拓し、約2週間行う。詳しくはガイダンス等で説明するので、必ず出席すること。

## 6. 学校図書館司書教諭

### (1) 資格および実務

「学校図書館法」に基づき学校図書館で専門的職務に従事する職員を「司書教諭」と称する。この資格を取得しようとする場合は、教職課程を履修し、教育職員免許状を取得することが前提となり、同時に文部科学省令に定められた司書教諭講習科目を履修して単位を修得すると、「学校図書館法施行規則」に規定される、司書教諭の資格が与えられる。

### (2) 修得すべき科目と単位数

本学において司書教諭資格の取得を希望する者は、下記の表に示されている開講科目をすべて履修し、単位を修得すると同時に、教育職員免許状を取得しなければならない。

※学校図書館には司書教諭のほかには司書（学校司書）として採用されることがあるが、この場合は図書館司書の資格が求められる。

#### 2013年度第1部・第2部入学生用

文部科学省講習科目	単位	本学開講科目	単位	配当学年
学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	1～4
学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2	1～4
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	1～4
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	1～4
情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2	1～4

### (3) 申請資格

司書教諭の資格を取得するには、申請手続きが必要となる。不備がある場合には申請できないので、以下の点に注意すること。

- ・司書教諭の資格に必要な単位（上記の全5科目10単位）を修得見込であること。
- ・2・3年生は、62単位以上を修得見込であること。
- ・4年生は、教育職員免許状を取得見込または教育職員免許状取得者であること。

※ただし、申請年度の単位修得状況によっては、申請を取り下げる。

### (4) 1部・2部相互聴講制度について

学校図書館司書教諭資格の取得を希望する者は、以下の履修条件で1部・2部相互聴講制度を活用することができる。

#### ○1部・2部相互聴講制度の条件

- ①卒業までに30単位を超えて履修かつ修得することはできない。
- ②年間履修最高単位数（48単位）に算入する。
- ③履修かつ修得した単位は、文学部共通科目として、卒業単位に算入する。

#### ④履修方法

第1部の学生が、第2部開講科目の履修を希望する場合には第1部の科目と同様に履修登録をすること。第2部の学生が、第1部開講科目の履修を希望する場合も同様に履修登録を必要とする。（一部対象外科目がある）

### (5) 申請手続とスケジュール

申請の手続方法とスケジュールについては、11月中旬に行う掲示連絡に注意すること。なお、「修了証書」は申請手続から約1年半後に文部科学省から交付される。

#### 〔司書教諭申請手続スケジュール〕

2年次	3年次	4年次	手続内容
———	———	7月	教育職員免許状一括申請手続説明会 (一括申請手続きを必ず行うこと)
11月中旬	11月中旬	11月中旬	司書教諭申請手続きに関する掲示(教職課程掲示板)
———	———	12月	教育職員免許状授与申請書確認・署名・捺印及び申請料納入
12月上旬	12月上旬	12月上旬	司書教諭申請手続きに関する書類配布
12月中旬	12月中旬	12月中旬	司書教諭申請手続きに関する書類提出
翌年6月	翌年6月	翌年2月下旬	司書教諭修了証書申請手数料納入・署名
翌々年3月 (3年次)	翌々年3月 (4年次)	翌々年3月 (卒業から1年後)	学校図書館司書教諭講習修了証書交付 (本人宛郵送)

※詳細については、教務課窓口にお問い合わせのこと。

※文部科学省から「修了証書」を授与されても、教育職員免許状を取得し、「修了証書」と教育職員免許状の2つが揃った時点からその効力が生じるため、4年次の教育職員免許状取得のための手続きを怠らないこと。

※学校図書館司書教諭としての採用を目指す者は「修了証書」の交付年に気をつけること。

## V 留学制度について

## 留学制度について

本学では世界中の大学と協定を締結し、国際交流を推進しています。夏季・春季休暇を利用した短期語学セミナーから、1年間の交換留学まで、多彩な留学制度や大学独自の海外留学奨学金制度を用意しています。

### 〔1〕語学セミナーについて

本学では、国際センター主催で夏季及び春季休暇を利用した1～2ヶ月間の短期語学研修プログラムを実施しています。語学研修、学生交流、ホームステイ等を通し、語学力の向上及び異文化理解を目的としています。

語学セミナーに参加した学生は、所定の手続きにより単位認定を受けることが可能です。単位認定の詳細については、「東洋大学語学セミナー参加学生に対する単位認定について」を確認してください。

※新規コースについては、単位認定コースとならない場合がありますので、募集年度のパンフレットを確認してください。

### 〔募集概要〕

#### ①応募資格

本学の学部、大学院生である者。

※語学力は問いません。

※春期語学セミナーについては、卒業年度生は参加できない場合がありますので、希望者は各教務課までお問い合わせください。

#### ②研修先・内容

研修先・内容は、募集年度のパンフレットまたは、国際センターホームページ (<http://www.toyo.ac.jp/international/>) にてご確認ください。

[参考] 2012年度国際センター主催語学セミナー実施国

夏期：カナダ、アメリカ

春期：アイルランド、オーストラリア、アメリカ

## 東洋大学語学セミナー参加学生に対する単位認定について

### (1) 単位認定対象科目

学部	語学セミナー（英語）	語学セミナー（中国語）
文学部	各学科の「語学セミナー」の記載事項を参照すること。	

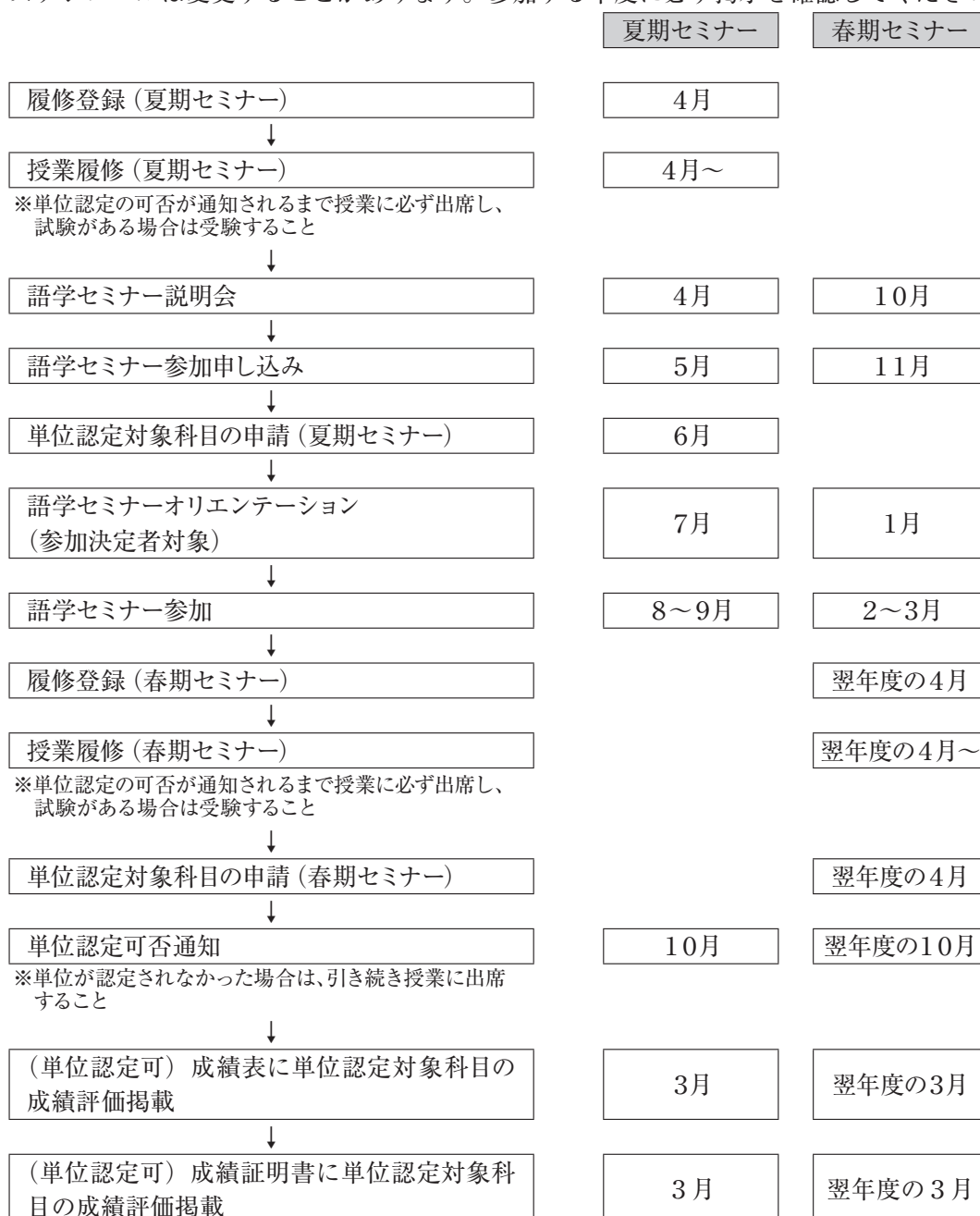
### (2) 上記科目の単位認定要件

以下の要件全てを満たさないと単位が認定されません。

- ① 単位認定する科目が単位未修得であること。
- ② 認定希望科目を4月の履修登録期間内に登録すること。
- ③ 語学セミナーに参加し、所定の評価を受けること。
- ④ 語学セミナーオリエンテーションにて配付する「語学セミナー単位認定希望有無調査票」に単位認定を希望する旨を記入し、所定の期日までに教務課窓口へ提出すること。

### (3) 単位認定までの流れ

\* スケジュールは変更することがあります。参加する年度に必ず掲示を確認してください。



## 〔2〕 交換留学制度と認定留学制度

「東洋大学学生の留学に関する規程」第3条に基づき、本学の交換留学制度には協定校・ISEP交換留学制度および認定留学制度があります。

※以下の情報は、2013年4月現在の情報です。内容は変更される場合がありますので、随時学内掲示・国際センターのホームページ(<http://www.toyo.ac.jp/international/>)で最新の情報を確認してください。

### 1. 交換留学制度

東洋大学では、現在61大学と学術交流協定を締結し、またISEP（アイセップ）\*に加盟しています。交換留学制度とは、アメリカ・イギリス・カナダ・オーストラリア・アイルランド・ドイツ・フランス・スイス・オランダ・韓国・中国の協定校、または米国のISEP加盟校に1学年度間学生を派遣し、同じくこれらの大学から交換留学生を本学に受け入れる制度です。

\*ISEP（International Student Exchange Programs）とは、世界中のISEP加盟校間で学生交換留学を推進する、非営利のコンソーシアム（世界的な大学連合組織）です。本学の交換留学の対象は、米国のISEP加盟校（約140校）に限ります。

#### （1） 制度の特徴

##### ① 学籍と在学年数の取扱い

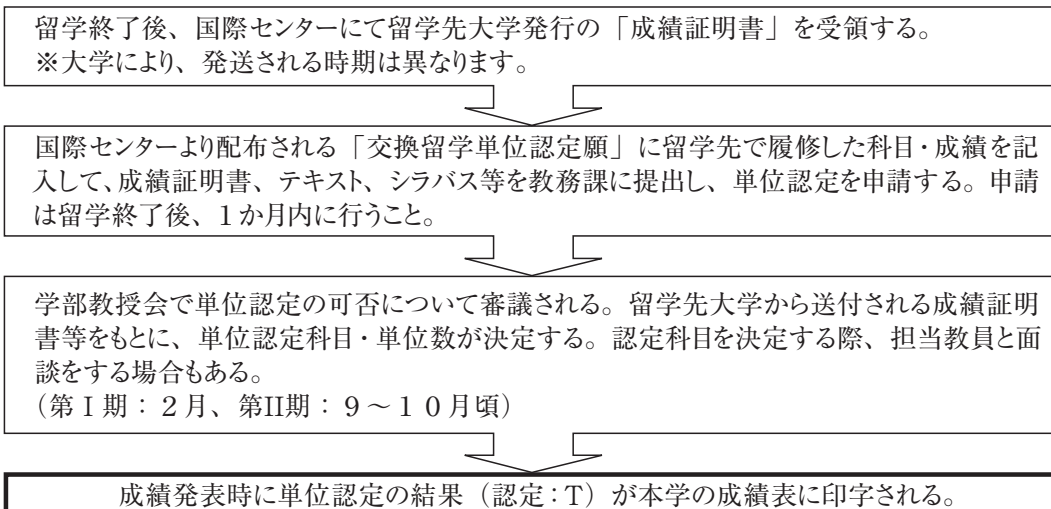
交換留学は、休学することなく留学できます(留学中も本学に在学していますので、留学期間は在学年数に算入されます)。

##### ② 単位の認定

留学期間中に修得した単位は、留学終了後、所属学科の教育課程表に照らし、科目の履修内容・条件等が適合した場合は、卒業単位に認定されます(上限48単位、卒業論文は除く)。「本学の修得単位」と「本学で認定された留学先大学の修得単位」により所属学部の卒業要件を満たせば、4年間での卒業が可能となります。ただし、所属学科・学年によっては4年間で卒業できません。

単位認定対象科目：科目ごとに個別認定

単位認定手続き：





#### ○単位認定について

派遣留学生は、留学先大学・大学院で取得した単位に関し、本学開講科目の単位として認定を申請できます。単位の認定は、留学先における履修科目の内容および時間数が本学開講の対応科目と合致することが条件です。そのためには留学前に指導教員、所属学部の国際交流委員と留学中の勉学計画について十分に話し合いをしておくことが重要です。単位認定は、教授会の審議を経て決定されます。

#### ○認定の基準

1. 留学先大学の授与した単位数にかかわらず、留学先大学で履修した科目の実際の授業時間数を考慮して行います。
2. 原則として、授業内容が本学開講科目と同様である必要があります。ただし、学科の内規・慣行により、本学開講科目と異なる場合でも、認定される場合があります。

#### ③ 履修の継続（通年制対象：第Ⅱ期交換留学生の全学科）

第Ⅱ期交換留学生は、春学期試験終了後（8月）以降に留学が開始されます。その年度の春学期に履修登録した秋学期開講科目・通年開講科目については、所定の手続きを行うことにより、翌年度の秋学期から継続して履修することができます。ただし、翌年度に申請科目が開講されなかった場合、または申請した科目同士が時間割上重複した場合は継続履修できません。なお、継続履修科目の登録は教務課にて行います。したがって、留学中に「ToyoNet-G」での履修登録は行わないでください。

#### ④ 留学にかかる費用

留学先大学の授業料は、協定に基づき原則として免除されます。それ以外に係る経費はすべて自己負担となります。国や地域により、留学に係る費用は異なります。実際にかかる費用の目安は、国際センター発行の「留学の手引き」に掲載されています。

#### （自己負担費用）

- 東洋大学の学費（留学中も本学に在学しているため、学費は通常通り本学に納入してください）。
- 渡航費
- 大学指定の海外旅行傷害保険料
- 留学先での寮費、食費、教材費、生活費等

<ISEP交換留学> 現地での大学寮費・食事代として、出発前に東洋大学へ85万円(日本円)を支払います。また、ISEP登録料がかかります(約4万円)。

<その他の協定校への交換留学> 出発前または現地で大学寮費・食費を直接留学先の大学へ支払います。

#### ⑤ 『東洋大学交換留学生奨学金』の支給

交換留学生に選ばれた学生全員に、本学から「東洋大学交換留学生奨学金」を支給します（**本学の授業料相当額**）。ただし、本学から他の奨学金（東洋大学第1・2・3種奨学金）が支給されている場合は、この奨学金は支給されません。また、減免措置を受けている私費留学生は、減免後の授業料相当額となります。

- 私費留学生は、「東洋大学私費外国人留学生授業料減免に関する規程」第6条に基づき、所定の修業年度を限度とし、授業料が減免されています。所定の修業年度とは、学部生4年、大学院生博士前期（修士）は2年、博士後期は3年です。交換留学で卒業が延期となり、所定の修業年度を超えた場合の授業料については減免を受けられませんので注意してください。

※（独）日本学生支援機構の奨学金は、本学の奨学金ではありません。留学をする場合は、事前に手続き等が必要になる場合がありますので、留学が決定次第、学生生活課へ申し出てください。

## （２） 募集概要

出願受付・選考時期は、7月（第Ⅰ期：オーストラリア・韓国）、11月（第Ⅱ期：アイルランド、アメリカ、イギリス、カナダ、オランダ、スイス、中国、ドイツ、フランス）の年2回です。  
必ず、出願する年度・時期の募集要項をご確認の上、出願してください。

### ①留学先大学・定員

留学先大学・定員は、募集年度により異なります。出願する年度・時期の募集要項を国際センターホームページ（[http://www.toyo.ac.jp/international/exsap/ag\\_j.html](http://www.toyo.ac.jp/international/exsap/ag_j.html)）にてご確認ください。

### ②出願資格

出願時において、以下の3点を満たしていることが求められます。

1. 本学の学部・大学院生である者。

※原則として、学部4年生は、本学大学院受験予定の者。

2. 留学意欲が充分にあり、留学先大学で生活・勉強ができるレベルの語学能力を有する者。

3. 志望する大学の語学条件を満たしている者。

※語学条件は、留学先大学により異なります。出願する年度・時期の募集要項を国際センターホームページ（[http://www.toyo.ac.jp/international/exsap/ag\\_j.html](http://www.toyo.ac.jp/international/exsap/ag_j.html)）にてご確認ください。

### ③留学期間

・第Ⅰ期：2／3月～11／12月 ※留学期間は、留学先大学により異なる。

・第Ⅱ期：8～9月～翌年4～7月 ※留学期間は、留学先大学により異なる。

### ③出願受付・選考時期

・第Ⅰ期：7月

・第Ⅱ期：11月

## 2. 認定留学制度

認定留学制度とは、協定校の枠にとらわれず、学位授与権のある海外の大学へ留学する制度です。交換留学と同様、本学を休学することなく留学できます。

出願・入学手続きは、原則として各自で行いますので、留学に先立って十分な情報を収集し、綿密な計画を立てることが不可欠です。

### (1) 制度の特徴

#### ① 学籍と在学年数の取扱い

**交換留学制度** の「(1) ①学籍と在学年数の取扱い」と同様。

#### ② 単位の認定

**交換留学制度** の「(1) ②単位の認定」と同様。

#### ③ 履修の継続 (通年制対象: 第Ⅱ期認定留学生全学科留学年度の春学期試験終了後以降に出発する場合)

留学年度の春学期に履修登録した秋学期開講科目・通年開講科目については、所定の手続きを行うことにより、翌年度の秋学期から継続して履修することができます。ただし、翌年度に申請科目が開講されなかった場合、または申請した科目同士が時間割上重複した場合は継続履修できません。なお、継続履修科目の登録は教務課にて行います。したがって、留学中に「ToyoNet-G」での履修登録は行わないでください。

#### ④ 留学にかかる費用

東洋大学から奨学金が支給されます(⑤参照)が、留学にかかる費用はすべて自己負担となります。留学する国や地域、大学により、費用は大幅に異なります。

##### (自己負担費用)

- 東洋大学の学費 (留学中も本学に在学しているため、学費は通常通り本学に納入してください)。
- 留学先大学の授業料
- 渡航費
- 大学指定の海外旅行傷害保険料
- 留学先での寮費、食費、教材費、生活費等

#### ⑤ 『東洋大学認定留学生奨学金』の支給

認定留学生には、本学から「東洋大学認定留学生奨学金」を支給します(本学の**授業料半額相当**)。ただし、本学から他の奨学金(東洋大学第1・2・3種奨学金)が支給されている場合は、この奨学金は支給されません。また、減免措置を受けている私費留学生は、**減免後の授業料**の半額相当となります。

※(独)日本学生支援機構の奨学金は、本学の奨学金ではありません。留学する場合は、事前に手続き等が必要になる場合がありますので、留学が決定次第、学生生活課へ申し出てください。

## (2) 募集概要

1. 派遣先国・大学	学位授与権のある海外の大学の中から、自由によび選べます。 ○ ISEP-Direct (アイセップ・ダイレクト) 留学は、世界20カ国、30以上のISEP加盟校で実施しており、申請すれば、本学では認定留学となります。詳細は、ISEPのホームページで確認してください。http://www.isep.org/students/Programs/isep_direct.asp ○ 語学学校、短期大学、専門学校等は不可。
2. 募集人数	若干名
3. 願書配布	随時 (国際センターホームページよりダウンロードできます)
4. 応募締切	第Ⅱ期: 春学期終了後に出発する場合 (8~10月留学開始): 2月末日 第Ⅰ期: 秋学期終了後に出発する場合 (2~4月留学開始): 前年11月末日
5. 選考方法	書類審査・面接審査
6. 合格発表	出願2~3ヵ月後
7. 派遣期間	1学年間以内
8. 出願資格	出願時において、以下の①、②を満たしていること。 ①本学の学部1~3年生、本学大学院進学予定の4年生、大学院生であること。 ②原則として、留学先大学からの入学許可書を入手していること。

## (3) 教務課での事前相談について

交換留学及び認定留学をすることが決定した学生は、留学終了後、最短で卒業および諸資格取得を可能にするために、履修・手続き上注意すべき点 (継続履修及び学年進行に関わる科目、帰国後の授業・成績等) について、必ず履修登録前に教務課窓口にご相談してください。

### 3. 協定校語学留学

協定校語学留学とは、本学の海外協定校が運営する付属語学学校へ語学留学するプログラムです。語学力の向上を目的とし、協定校語学学校で、語学を学びながら異文化体験をします。留学中も在学となり、休学せずに留学が可能です。

#### (1) 制度の特徴

##### ①学籍と在学年数の取扱い

交換留学制度の「(1)①学籍と在学年数の取り扱い」と同様。

##### ②単位の認定

学科により単位認定方法が異なりますので、協定校語学留学を希望する場合には、出願前に必ず各学科の専任教員及び文学部教務課にご相談ください。

##### ③費用

留学期間中、東洋大学と留学先大学の学費の両方を納入する必要があります。また、その他留学にかかる費用（渡航費、本学指定の海外旅行保険料、滞在費、生活費、教材費等）は全て自己負担となります。費用は、留学する国や大学、期間により異なります。参考金額は、国際センターホームページ（<http://www.toyo.ac.jp/international/>）をご覧ください。

#### (2) 募集概要

1. 派遣先	本学の協定校が運営する付属語学学校 アメリカ、カナダ、アイルランド、イギリス 他 ※詳細は国際センターホームページ（ <a href="http://www.toyo.ac.jp/international/">http://www.toyo.ac.jp/international/</a> ）で確認してください。
2. 募集人数	各コースとも10名程度
3. 願書配布	随時 ※国際センターホームページ（ <a href="http://www.toyo.ac.jp/international/">http://www.toyo.ac.jp/international/</a> ）よりダウンロードできます
4. 派遣期間	3カ月～1学期間
5. 出願資格	出願時において、本学の学部生。語学条件は不問。

#### ◎語学セミナー・留学制度に関する問い合わせ

国際センター〔国際推進課〕（8号館2階）

TEL 03-3945-7682

<http://www.toyo.ac.jp/international/>

受付時間 月～金 9:30～13:00、14:00～16:45  
土 9:30～12:45

#### ◎学籍・履修・単位認定に関する問い合わせ

教務課窓口（6号館1階）





## VI 学籍および各種証明書について

## 1. 学籍（学籍に関する手続）

内 容	適用学則																								
<b>在 籍</b> 入学の手続きを完了し、学生証の交付を受けた学生は、本学の在籍者としての身分を有することになります。																									
<b>二重学籍の禁止</b> 本学に在籍しているにもかかわらず、他大学及び本学の他学部・他学科に在籍（在学）することはできません。	学則第 34 条																								
<b>修業年限</b> 本学に学生として最低 4 年間在学し、所定の単位を修得しなければ卒業はできません。	学則第 19 条・第 52 条・第 53 条第 1 項																								
<b>在学年限</b> 卒業に必要な単位を修得するために通算して在学できる年数（在学年数）は、最長 8 年間です。ただし、休学期間の年数は在学年数に含みません。	学則第 20 条																								
入学手続き時に届け出た内容に変更が生じた場合、教務課の窓口で所定の用紙に変更箇所を記入し、届け出なければなりません。変更が生じた（氏名変更、住所変更等）場合はすみやかに届け出てください。 なお、下記の変更事項内に「※」が付記されている事項は「ToyoNet-G」の「学生メニュー」>「個人情報管理」>「学生情報申請」を利用しても変更が可能です。	学則第 28 条第 3 項																								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">変更事項</th> <th style="width: 10%;">受付窓口</th> <th style="width: 60%;">注意事項（提出物等）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本人氏名変更 (改姓・改名)</td> <td rowspan="10" style="text-align: center; vertical-align: middle;">教 務 課 窓 口</td> <td>戸籍抄本</td> </tr> <tr> <td>本人住所変更※ (電話番号の変更含む)</td> <td>外国人学生は住民票</td> </tr> <tr> <td>最寄駅名変更※</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保証人変更</td> <td>保証人の署名・捺印必要</td> </tr> <tr> <td>保証人住所変更※ (電話番号の変更含む)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保証人勤務先変更※ (電話番号の変更含む)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>緊急時連絡人変更</td> <td></td> </tr> <tr> <td>緊急時連絡人住所変更※ (電話番号の変更含む)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>本籍地変更</td> <td>住民票（本籍の記載があるもの） または戸籍抄本</td> </tr> <tr> <td>在留資格・在留期間等変更 (留学生対象)</td> <td>住民票（在留資格・在留期間の記載があるもの） 在留期間終了前に提出してください。</td> </tr> </tbody> </table>	変更事項	受付窓口	注意事項（提出物等）	本人氏名変更 (改姓・改名)	教 務 課 窓 口	戸籍抄本	本人住所変更※ (電話番号の変更含む)	外国人学生は住民票	最寄駅名変更※		保証人変更	保証人の署名・捺印必要	保証人住所変更※ (電話番号の変更含む)		保証人勤務先変更※ (電話番号の変更含む)		緊急時連絡人変更		緊急時連絡人住所変更※ (電話番号の変更含む)		本籍地変更	住民票（本籍の記載があるもの） または戸籍抄本	在留資格・在留期間等変更 (留学生対象)	住民票（在留資格・在留期間の記載があるもの） 在留期間終了前に提出してください。	
変更事項	受付窓口	注意事項（提出物等）																							
本人氏名変更 (改姓・改名)	教 務 課 窓 口	戸籍抄本																							
本人住所変更※ (電話番号の変更含む)		外国人学生は住民票																							
最寄駅名変更※																									
保証人変更		保証人の署名・捺印必要																							
保証人住所変更※ (電話番号の変更含む)																									
保証人勤務先変更※ (電話番号の変更含む)																									
緊急時連絡人変更																									
緊急時連絡人住所変更※ (電話番号の変更含む)																									
本籍地変更		住民票（本籍の記載があるもの） または戸籍抄本																							
在留資格・在留期間等変更 (留学生対象)		住民票（在留資格・在留期間の記載があるもの） 在留期間終了前に提出してください。																							
<b>学生証</b> 本学の入学手続きを完了した学生に、学生証を交付します。 学生証は、本学学生としての身分を証明するものであり、常に携帯し、次の場合これを提示しなければなりません。 1) 本学の教職員からの請求がある場合 2) 定期試験を受験する場合 3) 各種証明書や学生旅客運賃割引証明書（学割）等の交付を受ける場合 4) 通学定期乗車券や学生割引乗車券を購入する際と、それを利用して乗車船した際に係員の請求があった場合、等 学生証は、学長印、学生本人の写真、裏面シールの添付が無いものは無効です。 学生証は他人に貸与、または譲渡することはできません。 学生証がないと各種証明書の発行を受けられないのはもちろん、図書館の利用・定期試験の受験、通学定期券の購入等ができません。紛失・汚損・破損のないよう十分注意してください。	学則第 29 条																								
<b>有効期限</b>	学生証の有効期限は 4 月 1 日から次年度の 4 月 1 5 日までの 1 年間です。入学時に交付を受けた学生証は 4 年間使用します。																								
<b>有効期限の更新</b>	毎年学期初旬の進級手続き期間内に、学生証の裏面シールを貼りかえ、学生証の有効期間の更新を受けなければなりません。																								
<b>返還</b>	卒業または退学・除籍等、本学に籍が無くなった場合は、学生証を本学に返還しなければなりません。																								

	内 容	適用学則																																												
学生証	再発行	学生証を紛失もしくは破損・著しく汚損した場合は、直ちに本学へ届け出し、以下の手続きに従って学生証の再発行をしなければなりません。 (再発行には1週間かかります。)																																												
	紛失の場合	①学生生活課で遺失物届出の確認 ②証明書発行機で学生証再発行届出力 ③学生生活課で再発行届に確認印を受領 ④教務課窓口③の再発行届を提出 ⑤1週間後、教務課窓口で学生証を受領																																												
	破損・汚損の場合	破損・汚損した学生証を教務課窓口持参し、再発行手続きをとります。																																												
		※再発行には再発行手数料(2,000円)がかかります。 ※申込キャンセルによる手数料の返金はできません。																																												
	暗証番号(パスワード)	第三者に不正使用されないために、4桁の数字の暗証番号が登録されています。就学手続き時に届け出た暗証番号は、証明書発行機で証明書を発行する際に必要です。メモなどを取り、必ず覚えておいてください。																																												
学籍番号	<p>入学手続きを完了した学生には、学籍番号が与えられ、学生証に記載されます。この学籍番号は、卒業まで変わることはありません。履修登録や、試験の答案用紙提出、各種の届出、証明書の申請等で必要となりますので、正確に記憶しておいてください。</p> <p style="text-align: center;">学籍番号(10桁)</p> <table style="margin: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">1</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">1</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">1</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">0</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">1</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">3</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">0</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">9</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">9</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">9</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">学部・学科コード</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">入学年度 (西暦下2桁)</td> <td colspan="4" style="text-align: center;">番号(001～) 入学月(4月…0)</td> </tr> </table> <table style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1110</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文学部第1部哲学科</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1180</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文学部第1部英語コミュニケーション学科</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1140</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文学部第1部日本文学文化学科</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1190</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文学部第1部東洋思想文化学科</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1150</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文学部第1部英米文学科</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2140</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文学部第2部日本文学文化学科</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1160</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文学部第1部史学科</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2170</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文学部第2部教育学科</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1171</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文学部第1部教育学科人間発達専攻</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2190</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文学部第2部東洋思想文化学科</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1172</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文学部第1部教育学科初等教育専攻</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	1	1	1	0	1	3	0	9	9	9	学部・学科コード				入学年度 (西暦下2桁)		番号(001～) 入学月(4月…0)				1110	文学部第1部哲学科	1180	文学部第1部英語コミュニケーション学科	1140	文学部第1部日本文学文化学科	1190	文学部第1部東洋思想文化学科	1150	文学部第1部英米文学科	2140	文学部第2部日本文学文化学科	1160	文学部第1部史学科	2170	文学部第2部教育学科	1171	文学部第1部教育学科人間発達専攻	2190	文学部第2部東洋思想文化学科	1172	文学部第1部教育学科初等教育専攻			
1	1	1	0	1	3	0	9	9	9																																					
学部・学科コード				入学年度 (西暦下2桁)		番号(001～) 入学月(4月…0)																																								
1110	文学部第1部哲学科	1180	文学部第1部英語コミュニケーション学科																																											
1140	文学部第1部日本文学文化学科	1190	文学部第1部東洋思想文化学科																																											
1150	文学部第1部英米文学科	2140	文学部第2部日本文学文化学科																																											
1160	文学部第1部史学科	2170	文学部第2部教育学科																																											
1171	文学部第1部教育学科人間発達専攻	2190	文学部第2部東洋思想文化学科																																											
1172	文学部第1部教育学科初等教育専攻																																													
休 学		病気・家庭の事情・留学等の理由で、3ヶ月以上本学に修学できない場合は、教授会の許可を得て休学することができます。	学則第35条																																											
	期間	休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとし、休学期間が終了したら復学しなければなりません。休学は当該年度のみなので、次年度に渡り連続して休学することはできません。ただし、特別な事情がある場合は教授会の許可を得て休学することができます。 休学の期間は通算して8学期(4年間)を超えることはできません。	学則第35条第2項																																											
	休学手続	休学希望者は、教務課窓口で休学の説明を受け、許可願用紙に必要事項を記入し保証人連署・捺印(印鑑は学生と保証人で別のものを使用)の上、学生証を添え教務課窓口提出してください。なお、ケガ・病気の場合には、医師の診断書等が必要です。 休学に伴う納付金(学費等)については、P.265参照。 当該年度の休学の手続きは12月31日までとし、次年度の休学希望者は秋学期試験期間までに教務課窓口相談してください。 手続きについては、学生本人が行ってください。ただし、止むを得ず本人が手続きができない場合には、事前に教務課窓口相談してください。																																												
	許可	教授会で許可されると第1部学生は保証人宛に、第2部学生は本人宛に休学許可書を郵送します。																																												
	履修登録	休学した年度に履修した科目は、10月1日以降の休学の場合で春学期科に履修している科目を除き、全て無効となります。復学後あらためて履修登録してください。																																												
休学からの復学	休学の期間は、当該年度の3月31日までなので、次年度の4月1日付で復学しなければなりません。	学則第35条第3項																																												

	内 容	適用学則	
休学からの復学	復学対象者（当該年度休学者）には、教務課より復学手続きの要領、復学に必要な書類および納付金の振込用紙を3月下旬に送付します。送付先は第1部学生は保証人宛に、第2部学生は本人、保証人のいずれか入学時に選択した送付先に郵送します。		
	郵送された要領に従い指定の期間内に許可願用紙に必要事項を記入し、保証人連署の上、学生証を持参し教務課窓口で手続きしなければなりません。		
	復学に関する手続きを怠ると除籍となります。	学則第38条第1項	
退 学	事情により本学での修学が困難な場合は、教授会の許可を得て退学することができます。	学則第36条	
	退学希望者は、教務課窓口で退学の説明を受け、許可願用紙に必要事項を記入し保証人連署・捺印（印鑑は学生と保証人で別のものを使用）のうえ、学生証を添えて教務課窓口へ提出してください。なお、事故・病気の場合には、事故証明書、医師の診断書等が必要です。		
	退学に伴う納付金（学費等）については、P.265を参照してください。		
	手続きについては、学生本人が行ってください。ただし、止むを得ず本人が手続きができない場合には、事前に教務課窓口へ相談してください。		
許可	教授会で許可されると第1部学生は保証人宛に、第2部学生は本人宛に退学許可書を郵送します。		
退学者の再入学	再入学	退学した学生が、再入学を希望する場合、12月末までに教務課窓口で再入学の説明を受け、許可願用紙に必要事項を記入し保証人連署・捺印（印鑑は学生と保証人で別のものを使用）のうえ、教務課窓口へ提出してください。	学則第36条第2項
	許可	再入学が許可された場合、次年度4月1日付で再入学することができます。	
	その他	再入学者は退学時まで在学していた期間を含め8年間で卒業しなければなりません。 再入学する学年は、原則として退学時の学年となりますが、単位の修得状況によって学年を繰り下げる場合もあります。また、学科教育課程表も入学年度のものを用いますが、カリキュラムが大きく変わっている場合には、再入学する学年の学科教育課程表を適用する場合があります。履修方法については、再入学手続き時に教務課窓口で説明をします。不明な点は、教務課窓口へ問い合わせてください。	学則第20条第2項
懲戒による退学	本学の規則に反し、または学生の本分に反する行為があった学生は、教授会の議を経て懲戒による退学となる場合があります。	学則第57条	
除 籍	指定された期間内に納付金を納入しなかった学生、在学年限を超えた学生、休学期間を超えた学生、新生で指定された期間内に履修登録をしなかった学生、その他本学において修学の意思がないと認められる学生は除籍となります。	学則第38条	
	除籍とは	本学の学則およびその施行のために定められた規則に基づく権利の一切を失うことです。	
	除籍になった場合	すみやかに学生証を返却しなければなりません。 第1部学生は保証人宛に、第2部学生は入学時に選択した送付先に除籍通知書を郵送します。	
	除籍日	在校生の除籍日は前年度の3月31日とします。但し、納付金分割納入者については当該年度の9月30日となります。新生で指定された期間内に履修登録をしなかった学生の除籍日は4月30日となります。 また、除籍者より証明書の申請があった場合には、除籍等の項目を明記した在籍期間証明書を教務課窓口にて発行します。	
除籍者の再入学	再入学	除籍者は教授会の許可を得て再入学することができます。（ただし、在学年限を超えた者、休学期間を超えた者を除く）除籍された学生が、再入学を希望する場合、12月末までに教務課窓口で再入学の説明を受け、許可願用紙に必要事項を記入し保証人連署捺印（印鑑は学生と保証人で別のものを使用）のうえ、教務課窓口へ提出してください。	学則第38条第3項
	許可	再入学が許可された場合、次年度の4月1日付で再入学することができます。	
	その他	再入学者は除籍時まで在学していた期間を含め8年間で卒業しなければなりません。 再入学する学年は、除籍時の学年となりますが、単位の修得状況によって学年を繰り下げる場合もあります。また、学科教育課程表も入学年度のものを用いますが、カリキュラムが大きく変わっている場合には、再入学する学年の学科教育課程表を適用する場合があります。履修方法については、再入学手続き時に教務課窓口で説明をします。不明な点は、教務課窓口へ問い合わせてください。	学則第20条第2項



	内 容		適用学則
進級制度	休学者が復学した場合等の特別な事情がない限り、原則として上級の学年に進級できます。但し、哲学科のみ2年次から3年次に進級する際、単位の修得状況によっては進級できない場合があります。詳しくは哲学科進級制度内規(P.29)を参照してください。 毎年4月初めの進級手続き期間内に、学生証の有効期限更新を受けなければなりません。		
4年原級	本学に学生として最低4年間修学し、所定の単位を修得しなければ卒業はできません。 4年次終了までに所定の単位数を修得できず、卒業できないことを4年原級といいます。卒業に必要な単位を修得するために通算して在学できる年数(在学年数)は、最長で8年間ですから、その年限までは4年生ということになります。		
原級手続	卒業できなかった学生は、教務課より郵送される要領に従って、教務課窓口で手続きをしてください。 原級に関する手続きを怠ると除籍になります。		学則第38条第1項
転部・転科	本学内で他の学部・学科への転部・転科を希望する学生に対し選考を実施します。		学則第32条
	手続	転部・転科先の学年は2年次または3年次となります。 11月配布予定の試験要項に基づき手続きをとり、12月下旬実施予定の試験を受験してください。また、合格発表は翌年3月下旬に行う予定です。試験要項と手続案内については学内に掲示されるので、注意してください。詳細については、教務課へ問い合わせてください。	
編入学	本学では卒業後に本学の他学部・他学科への編入希望者に対して、編入学試験を実施しています。試験要項は、9月頃入試課にて配布予定です。		学則第30条
	履修方法	編入学する学年は、原則として3年次となります。また、学科教育課程表も編入学する入学年度のものを利用します。既修単位の取り扱いについては試験要項を確認してください。履修方法については、編入学の手続き時に教務課で説明をします。不明な点は、教務課窓口へ問い合わせてください。	
転入学	他の大学の学生が、その大学の許可を得て本学に転入学を願い出たときは、転入学試験を実施しています。試験実施要領は、9月頃入試課にて配布予定です。		学則第31条
	履修方法	転入学する学年は、原則として2年次または3年次となります。また、学科教育課程表も転入学する入学年度のものを利用します。既修単位の取り扱いについては試験要項を確認してください。履修方法については、転入学の手続き時に教務課で説明をします。不明な点は、教務課窓口へ問い合わせてください。	
科目等履修生	特定の授業科目を履修しようとする場合、科目等履修生として当該授業科目の履修を許可される場合があります。		学則第59条
	参考	本学に在籍中は科目等履修生として授業科目を履修することはできません。 科目等履修料(学部)―通年科目 40,000円、半期科目 20,000円(2013年度)となります。詳細については、教務課窓口へ問い合わせてください。	
許可願	学籍異動に関する手続きをとる場合には、必ず教務課窓口で説明を受け、許可願を提出しなければなりません。 主な許可願と提出物は以下の通りです。  ※「許可願用紙」は「ToyoNet-G」から出力が可能です。		
	許可項目	受付窓口	注意事項(提出物等)
	休学許可願	教務課窓口	許可願用紙
	休学からの復学許可願		
	退学許可願		
	退学からの再入学許可願		
除籍からの再入学許可願			

## 学則（学籍に関する事項の抜粋）

### 第3章 修学等

#### 第1節 修業年限

（在学年限）

**第20条** 卒業に必要な単位を修得するために在学できる年数（以下「在学年数」という。）は、通算して8年を限度とする。この場合において、休学年数は在学年数に算入しない。

2 再入学又は編入学をした者の在学年数は、前項の在学年数から再入学又は編入学までの通常の在学の年数を控除した年数とする。

### 第4章 入学、退学、休学及び除籍等

#### 第1節 入学、留学等

（入学の時期）

**第24条** 入学期は、学期の初日から30日以内とする。

（入学資格）

**第25条** 学部第1年次に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- 一 高等学校を卒業した者
- 二 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- 三 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- 四 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- 五 文部科学大臣が指定した者
- 六 大学入学資格検定（平成17年1月31日規程廃止）に合格した者
- 七 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- 八 その他本学において、個別の入学審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したもの

（入学の志願・選考）

**第26条** 入学志願者は、所定の書式による入学願書を提出し、別表（4）の1に定める入学検定料を納入し、かつ、選考試験を受けなければならない。

（入学の手続き）

**第27条** 入学を許可された者は、入学金を納入し、所定の書式により誓約書を提出しなければならない。

（保証人）

**第28条** 保証人は、父、母又はその他の成人者で独立の生計を営む者でなければならない。

2 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負う。

3 学生は、保証人を変更し、又はその氏名若しくは居住地に変更があったときは、速やかに変更届を提出しなければならない。

（学生証）

**第29条** 入学手続きを終えた者には、学生証を交付する。

（編入学）

**第30条** 次の各号の一に該当する者が本学に編入学を希望するときは、選考の上、編入学を許可することができる。

- 一 短期大学を卒業した者
- 二 大学を卒業した者
- 三 高等専門学校を卒業した者
- 四 専修学校の専門課程（文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者

2 転部・転科に関する規程は、別に定める。

（転入学）

**第31条** 他の大学の学生が、その大学の許可を得て本学に転入学を願い出たときは、転入学を認めることができる。

2 転部・転科に関する規程は、別に定める。



(転部・転科)

**第32条** 学生が学部の他の部へ、又は他の学部・学科へ転部・転科を願い出たときは、選考の上、これを許可することができる。

2 転部・転科に関する規程は、別に定める。

(留学)

**第33条** 学生が外国の大学で学修することを願い出たときは、教授会の議を経て留学を許可することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、在学年数に算入する。

(二重学籍の禁止)

**第34条** 学生は、他の学部・学科と又は他の大学と併せて在学することはできない。

第2節 休学、退学、転学及び除籍

(休学)

**第35条** 学生が引き続き3ヵ月以上修学できないときは、許可を得て、その学期を休学することができる。

2 休学は、連続する2学期限りとする。ただし、特別の事情がある場合は、教授会の議を経て、2学期を超える期間の休学を許可することができる。ただし、休学の期間は、通算して8学期を超えることはできない。

3 休学期間中に休学の理由が消滅した場合において、復学を願い出たときは、教授会の議を経て、これを許可することができる。

(退学)

**第36条** 退学しようとする者は、その理由を明確にして願い出て、許可を受けなければならない。

2 願いにより退学した者が、再入学を願い出たときは、教授会の議を経て、これを許可することができる。

(転学)

**第37条** 学生が転学を願い出たときは、教授会の議を経て、これを許可することができる。

(除籍)

**第38条** 次に掲げる各号のいずれかに該当する者は、除籍する。

- 一 授業料その他の学費を所定の期日までに納入しない者
- 二 第20条に定める在学年数を超えた者
- 三 第35条2項に定める休学期間を超えた者
- 四 新入生で指定された期限までに履修届を提出しないことその他本学において修学的意思がないと認められる者

2 学生は、除籍されることにより、本学則及びその施行のために定められた規則に基づいて有する一切の権利を失う。

3 第1項の規定（第2号及び第3号に掲げる者を除く。）により除籍された者が、再入学を願い出たときは、教授会の議を経て、これを許可することができる。

第8章 賞罰及び奨学

(懲戒)

**第57条** 学長は、本学の規則に反し、又は学生の本分に反する行為があった学生に対し、教授会の議を経て、行為の軽重と教育上の必要とを考慮して、譴責、停学又は退学の処分をすることができる。

2 退学処分は、次の各号の一に該当する者以外には、これを行うことはできない。

- 一 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- 二 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者
- 三 正当な理由なくして出席常でない者
- 四 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した者

## 2. 納付金に関する取扱

### 文学部納付金について

(単位：円)

【2013年度入学 文学部 納付金一覧】							
文学部	学費			その他の費用			合計
	入学金	授業料	一般施設 設備資金	校友会費	雨水会費	学生課外活動 育成会費	
第1部 (初等教育専攻 を除く全学科)	250,000	680,000	220,000	5,000	5,000	5,000	1,165,000
第1部 (教育学科 初等教育専攻)	250,000	790,000	250,000	5,000	5,000	5,000	1,305,000
第2部	180,000	430,000	100,000	5,000	—	5,000	720,000

- (1) 「学費」と「その他の費用」を合わせて「納付金」と称します。  
「学費」は大学徴収分を指し、「その他の費用」は預り金(受託徴収分)を指します。
- (2) 2年次以降は、入学金を除く納付金が毎年度必要になります。

### 納入期間について

- (1) 納付金は、4月期(春学期納入期間)に1年間分を全額一括納入することが原則です。  
ただし、授業料・一般施設設備資金については次の二期に分けて納入することができます。  
第1期(春学期)納入期間 4月1日～4月25日  
第2期(秋学期)納入期間 10月1日～10月15日  
(各年の曜日の関係により、納入期間が短縮される場合があります。)
- (2) 所定の納期までに納付金を納入しない学生は、学則第38条1項により、除籍とします。
- (3) 修学の意味がない場合は、納入期間内に退学許可願を教務課に提出してください。
- (4) 修学の意味がありながら学期始めに休学する場合は、納入期間内に休学許可願を教務課へ提出してください。
- (5) やむを得ない事情で納入期限までに納付金を納入できない場合は、納入期間内に学生生活課に相談してください。

### 納入方法について

- (1) 入学手続き時(1年次)に分割納入した場合、2回目の納入に使用する振込用紙は9月末に郵送します。
- (2) 2年次以降は毎年3月末(全納用と分納1回目用)と9月末(分納2回目用)に振込用紙を郵送します。
- (3) 保証人に送られる本学所定の当該年度の振込用紙を使用して金融機関から振り込んでください(第2部学生は入学時選択した送付先に送付、留学生は本人に送付されます)。

- (4) 現金の郵送・大学窓口での取扱は受け付けいたしません。
- (5) 納入された納付金は超過納入が明らかな場合を除き返還いたしません。

※本人または保証人の住所に変更があった場合は、所定の手続により、住所変更を行ってください。

○納付金について

問い合わせ先： 経理部財務課  
TEL：03-3945-7305

○住所変更について

住所変更の方法は、学籍 [各種変更届] (P. 258) を参照してください。

問い合わせ先：教務課窓口 (白山キャンパス6号館1階)

## 学籍異動における 納付金の取扱について

### 〈休学〉

- (1) 第1期 (春学期) の納入期限までに休学を願い出た場合  
休学日を4月1日付として扱い、納付金のうち授業料は納入する必要はありません。  
全額一括納入した場合は、第1期 (春学期) および第2期 (秋学期) 分の授業料を払い戻しいたします。
- (2) 春学期中に休学する場合
  - ① 春学期の途中で休学する場合、第1期 (春学期) の納付金は払い戻しをいたしません。
  - ② 全額一括納入した場合は、第2期 (秋学期) 分の授業料を払い戻しいたします。
- (3) 第2期 (秋学期) の納入期限までに休学を願い出た場合  
休学日を10月1日付として扱い、納付金のうち授業料は納入する必要はありません。  
第2期 (秋学期) 分の納付金を納入した場合は、第2期 (秋学期) 分の授業料を払い戻しいたします。
- (4) 秋学期中に休学する場合  
秋学期の途中で休学する場合、第2期 (秋学期) の納付金は払い戻しをいたしません。

### 〈休学復学〉

休学者が復学する場合の納付金は、入学年度の額が適用されます。

### 〈退学〉

- (1) 新学期の納入期限の末日までに退学を願い出た場合  
退学日を前学期の末日付として扱い、当該年度・学期の納付金を納入する必要はありません。
- (2) 春学期中に退学する場合
  - ① 春学期の途中で退学する場合は、第1期 (春学期) 分の納付金は払い戻しをいたしません。

	<p>② 全額一括納入した場合は、第2期（秋学期）分の納付金は払い戻しいたします。</p> <p>(3) 秋学期中に退学する場合 秋学期の途中で退学する場合は、第2期（秋学期）分の納付金は払い戻しをいたしません。</p>
〈原 級〉	4年次生で原級する場合の納付金は、当該年度正規4年次生の納付金を適用します。
〈再 入 学〉	再入学する場合の納付金は、 <b>再入学する学年次の納付金を適用</b> します。ただし、入学金は、再入学する年度の <b>新入生の額の半額</b> となります。
〈転部・転科〉	納付金は転部・転科先の学年の納付金を適用します。ただし、入学金は、転部・転科先との不足分を納入することになります。
〈編 入 学〉	編入学する場合の納付金は、編入学する年度の <b>新入生の納付金を適用</b> します。ただし、 <b>本学出身者が編入学する場合、入学金は、編入学する年度の<b>新入生の額の半額</b>となります。</b>
〈転 入 学〉	転入学する場合の納付金は、転入学する年度の <b>新入生の納付金を適用</b> します。

### 3. 各種証明書および実習料一覧

#### 各種証明書

教務課では、以下に掲載する証明書を、「証明書発行機」および「教務課窓口」で発行している。

#### 1. 証明書発行機で発行される証明書

証明書発行機で発行できる証明書は次のとおり。

白山・朝霞・川越・板倉いずれのキャンパスの発行機でも発行可能。

発行の際は、学生証が必要となる。

(2013年度)

種 類	手数料 (円)	発行可能学年
在学証明書	100	1～4年生
履修科目証明書		1～4年生
卒業見込証明書 注1)		4年生
成績証明書		2～4年生
教育職員免許状取得見込証明書		4年生
健康診断証明書 注2)		1～4年生

注1) 卒業見込証明書は、4年生の4月より発行可能。

注2) 健康診断証明書は、本学の当該年度の定期健康診断を受診した場合のみ発行可能。

#### 2. 教務課窓口で発行される証明書

教務課窓口で各種証明書の発行を申請する場合は、次の手順となる。

- (1) 証明書発行機にて画面の案内に従い、証明書発行に必要な金額の手数料を納める。
- (2) 発行される「証明書発行願」に必要事項を記入し、学生証を添えて当該窓口へ申し込む。

(2013年度)

種 類	手数料 (円)	必要期間
学生証再発行 注1)	2,000	受付から 1週間
単位修得証明書		
学力に関する証明書 注4)	300	
学芸員単位修得証明書		
司書単位修得証明書		
司書教諭単位修得証明書		
社会教育主事単位修得証明書		
社会福祉主事単位修得証明書		
人物証明書 注2)	200	
兄弟等の授業料免除に係わる証明書 注3)		
英文成績証明書	1,000	
英文在学証明書		
英文卒業(見込)証明書		
その他の証明書	300	証明書により異なる

※証明書の有効期限は証明書日付から3ヵ月以内となる。申請後受け取りがなく、無効になった証明書は処分する。

注1) 学生証再発行手続きの詳細については「学生証の発行」の項目を参照すること。

注2) 人物証明書は、原則として大学所定用紙に卒業論文担当教員が必要事項を記入後、教務課窓口で証明手続きを行う。記入済み所定用紙を教務課窓口へ持参すること。

注3) 兄弟等の授業料免除に係わる証明書は、学生生活課へ申し込むこと。

注4) 卒業後、必要に応じて教務課窓口へ申し込むこと。

## 実習料他

教務課窓口で実習料等を納入する場合は、次の手順となる。

- (1) 証明書発行機にて画面の案内に従い、実習料等の料金を納める。
- (2) 発行される「各種申込用紙」に必要事項を記入し、学生証を添えて教務課窓口に申し込む。

(2013年度)

種 類	手数料 (円)	備 考
教育実習料 (3週間実習)	15,000	別途保険料 210円
教育実習料 (2週間実習)	10,000	
介護等体験実習料	10,000	
教育職員免許状申請手数料	3,600	1 教科につき
司書教諭修了証書申請手数料	1,000	
博物館実習料	10,000	1 部生のみ
転部・転科試験受験料	10,000	
卒業再試験料	5,000	1 科目につき



2013年3月 印刷  
2013年4月 発行

編 集 行 東洋大学文学部  
発 行

<http://www.toyo.ac.jp/lit/>

〒112-8606 東京都文京区白山5丁目28番20号



# 2013年度 文学部履修要覧の訂正①

## ◎訂正箇所

①206～207 ページ ※（第1部東洋思想文化学科で教職免許取得希望者が対象）

第1部東洋思想文化学科仏教思想コースの「教職に関する科目」「教科又は教職に関する科目」「教科に関する科目」一覧表の差し替え

②213 ページ ※（第1部史学科で教職免許取得希望者が対象）

第1部史学科の「教科に関する科目」の高等学校教諭1種（公民）と中学校教諭1種（社会）の選択科目に「西洋史学特講（4）」を1科目追加

③222～223 ページ ※（第2部東洋思想文化学科で教職免許取得希望者が対象）

第2部東洋思想文化学科仏教思想コースの「教職に関する科目」「教科又は教職に関する科目」「教科に関する科目」一覧表の差し替え

平成25年4月 文学部教務課

＜表2＞本学における「教職に関する科目」「教科又は教職に関する科目」「教科に関する科目」一覧表

東洋思想文化学科(第1部)仏教思想コーナー又2013年度以降入学生適用

(1.〇:必修科目、2「最低修得単位数:本学において免許状を取得するための最低単位数」、3.△:選択必修)

Table with 4 main sections: 高等学校教諭 1種 (公民), 中学校教諭 1種 (社会), 高等学校教諭 1種 (地理歴史), 高等学校教諭 1種 (物理). Each section contains columns for '免許法施行規則に定める科目区分', '最低修得単位数', '本学で開講している科目', and '配当学年'.

Table with 2 main sections: 教科又は教職に関する科目, 教科又は教職に関する科目. Each section contains columns for '免許法施行規則に定める科目区分', '本学で開講している科目', '教育評価値(2)', and '配当学年'.

Main table with 4 columns: '免許法施行規則に定める科目区分', '最低修得単位数', '本学で開講している科目', '配当学年'. It lists various subjects like Law, Political Science, Geography, History, and Education, with their respective credit requirements and course codes.

〈表2〉 本学における「教職に関する科目」「教科に関する科目」一覧表

史学科 (第1部) 2013年度入学生用 (1.O:必修科目、2.「最低修得単位数」:本学において各免許状を取得するための最低単位数、3.A:選択必修)

高等学校教諭1種(公民)			中学校教諭1種(社会)			高等学校教諭1種(地理歴史)		
免許法施行規則に定める単位数	本学で開講している科目	配当年数	免許法施行規則に定める単位数	本学で開講している科目	配当年数	免許法施行規則に定める単位数	本学で開講している科目	配当年数
2単位	○教職経論(2)	1	2単位	○教職経論(2)	1	2単位	○教職経論(2)	1
6単位以上	○教育基礎論Ⅰ(2) ○教育基礎論Ⅱ(2) ○教育心理(2) ○教育法規(2) ○社会科教育論(2)	1 3-4 2 3-4 2	6単位	○教育基礎論Ⅰ(2) ○教育基礎論Ⅱ(2) ○教育心理(2) ○教育法規(2) ○社会科教育論(2) △社会・地理学法Ⅰ(2) ※1 △社会・地理学法Ⅱ(2) ※1 △社会・公民学法Ⅱ(2) ※2 ※1, ※2いずれか1分野I・IIとも履修すること。	1 3-4 2 3 3 3 3	6単位以上	○教育基礎論Ⅰ(2) ○教育基礎論Ⅱ(2) ○教育心理(2) ○教育法規(2) ○社会科教育論(2) △社会・地理学法Ⅰ(2) ※1 △社会・地理学法Ⅱ(2) ※1 △社会・公民学法Ⅱ(2) ※2 ※1, ※2いずれか1分野I・IIとも履修すること。	1 3-4 2 3 3 3 3
8単位以上	○社会・公民学指掌法Ⅰ(2) ○社会・公民学指掌法Ⅱ(2)	3	12単位	教育課程及び指掌法に関する科目	3	8単位以上	○社会・地理学指掌法Ⅰ(2) ○社会・地理学指掌法Ⅱ(2)	3
2単位	○教育実践演習(中・高)(2)	4	2単位	○教育実践演習(中・高)(2)	4	2単位	○教育実践演習(中・高)(2)	4

教科に関する科目			教科に関する科目			教科に関する科目		
免許法施行規則に定める単位数	本学で開講している科目	低修得単位数	免許法施行規則に定める単位数	本学で開講している科目	低修得単位数	免許法施行規則に定める単位数	本学で開講している科目	低修得単位数
4単位	○生徒指導論(進路指導等を含む)(2) ○教育相談(2)	2	4単位	○生徒指導論(進路指導等を含む)(2) ○教育相談(2)	2	4単位	○生徒指導論(進路指導等を含む)(2) ○教育相談(2)	2
3単位	△教育実習Ⅰ(事前・事後指導を含む)(5) △教育実習Ⅱ(事前・事後指導を含む)(5) ※いずれか1科目を履修すること。 ただし教育実習Ⅰを履修しても、高等学校教諭免許の際には3単位として申請する。	4	5単位	○教育実習Ⅰ(事前・事後指導等を含む)(5)	4	3単位	△教育実習Ⅰ(事前・事後指導等を含む)(5) △教育実習Ⅱ(事前・事後指導等を含む)(5) ※いずれか1科目を履修すること。 ただし教育実習Ⅰを履修しても、高等学校教諭免許の際には3単位として申請する。	4
25単位以上	①	4	31単位	①	4	25単位以上	①	4

教科に関する科目			教科に関する科目			教科に関する科目		
免許法施行規則に定める単位数	本学で開講している科目	低修得単位数	免許法施行規則に定める単位数	本学で開講している科目	低修得単位数	免許法施行規則に定める単位数	本学で開講している科目	低修得単位数
4単位以上	○社会学(4) ○政治学(4) ○経済学(4) ○心理学(4) ○社会学(4) ○国際政治学(4) ○国際法(4) ○国際関係論(4) ○国際文化論(4) ○国際政治学(4) ○国際法(4) ○国際関係論(4) ○国際文化論(4)	4	4単位	○社会学(4) ○政治学(4) ○経済学(4) ○心理学(4) ○社会学(4) ○国際政治学(4) ○国際法(4) ○国際関係論(4) ○国際文化論(4)	4	4単位以上	○社会学(4) ○政治学(4) ○経済学(4) ○心理学(4) ○社会学(4) ○国際政治学(4) ○国際法(4) ○国際関係論(4) ○国際文化論(4)	4
8単位	○社会学(4) ○政治学(4) ○経済学(4) ○心理学(4) ○社会学(4) ○国際政治学(4) ○国際法(4) ○国際関係論(4) ○国際文化論(4)	8	8単位	○社会学(4) ○政治学(4) ○経済学(4) ○心理学(4) ○社会学(4) ○国際政治学(4) ○国際法(4) ○国際関係論(4) ○国際文化論(4)	8	8単位以上	○社会学(4) ○政治学(4) ○経済学(4) ○心理学(4) ○社会学(4) ○国際政治学(4) ○国際法(4) ○国際関係論(4) ○国際文化論(4)	8
4単位	○社会学(4) ○政治学(4) ○経済学(4) ○心理学(4) ○社会学(4) ○国際政治学(4) ○国際法(4) ○国際関係論(4) ○国際文化論(4)	4	4単位	○社会学(4) ○政治学(4) ○経済学(4) ○心理学(4) ○社会学(4) ○国際政治学(4) ○国際法(4) ○国際関係論(4) ○国際文化論(4)	4	4単位	○社会学(4) ○政治学(4) ○経済学(4) ○心理学(4) ○社会学(4) ○国際政治学(4) ○国際法(4) ○国際関係論(4) ○国際文化論(4)	4

(注1) 高等学校教諭1種免許状(公民)と高等学校教諭1種免許状(地理歴史)と高等学校教諭1種免許状(物理)の合計を満すために、「教職に関する科目」と「教科に関する科目」の選択科目を履修しなければならない。

(注2) 「日本史学特選」「日本史学演習」「東洋史学特選」「東洋史学演習」「西洋史学特選」「西洋史学演習」は、卒業までに複数回履修得することによって合計単位の単位を満す。

(注3) 「国際法A」「国際法B」「日本哲学特選」「日本哲学演習」を履修する場合は、自由科目となるので、注意すること。



＜表2＞本学における「教職に関する科目」「教科又は教職に関する科目」「教科に関する科目」一覧表

東洋思想文化学科(第2部)仏教思想コーナー又2013年度以降入学生適用

(1.0:必修科目,2「最低修得単位数:本学において免許状を取得するための最低単位数,3△:選択必修)

高等学校教諭 1種 (公民)

Table with columns: 免許法施行規則に定める科目区分, 最低修得単位数, 本学で開講している科目, 配当学年. Includes subjects like 教育心理学, 教育社会学, 教育課程等.

中学校教諭 1種 (社会)

Table with columns: 免許法施行規則に定める科目区分, 最低修得単位数, 本学で開講している科目, 配当学年. Includes subjects like 教育心理学, 教育社会学, 社会・公民指導法 I (2).

高等学校教諭 1種 (地理歴史)

Table with columns: 免許法施行規則に定める科目区分, 最低修得単位数, 本学で開講している科目, 配当学年. Includes subjects like 教育心理学, 教育社会学, 社会・地理指導法 I (2).

1 2221

教科又は教職に関する科目

Table with columns: 免許法施行規則に定める科目区分, 本学で開講している科目, 配当学年. Includes 教育評価(2), 道徳教育論(2).

教科又は教職に関する科目

Table with columns: 免許法施行規則に定める科目区分, 本学で開講している科目, 配当学年. Includes 教育評価(2).

教科又は教職に関する科目

Table with columns: 免許法施行規則に定める科目区分, 本学で開講している科目, 配当学年. Includes 教育評価(2), 道徳教育論(2).

教科に関する科目

Table with columns: 免許法施行規則に定める科目区分, 最低修得単位数, 本学で開講している科目, 配当学年. Includes 政治学概論A(2), 社会学A(2), 心理学概論A(2).

教科に関する科目

Table with columns: 免許法施行規則に定める科目区分, 最低修得単位数, 本学で開講している科目, 配当学年. Includes 日本史A(2), 外国史A(2), 地理学(地誌を含む).

教科に関する科目

Table with columns: 免許法施行規則に定める科目区分, 最低修得単位数, 本学で開講している科目, 配当学年. Includes 日本史A(2), 外国史A(2), 人文地理学及び自然地理学.

1 2231

【教科に関する科目】単位小計 20単位以上... ③... ①+②+③の合計で59単位以上を修得していなければ、取得のための単位は、免許を取得することはできない。



## 2013 年度 文学部履修要覧の訂正②

### ○訂正箇所

156 ページ、176 ページ、189 ページ：2 部東洋思想文化学科・2 部日本文学文化学科・2 部教育学科の教育課程表（共通総合科目）の情報教育に配置されている下記 2 科目の単位数を（2）から（1）に訂正する。

誤「コンピュータ・リテラシィ A」(2)

↓

正「コンピュータ・リテラシィ A」(1)

誤「コンピュータ・リテラシィ B」(2)

↓

正「コンピュータ・リテラシィ B」(1)

平成 25 年 4 月 文学部教務課

## 2013 年度 文学部履修要覧の訂正③

### ◎訂正箇所

①第 1 部東洋思想文化学科の学科教育課程表および履修方法  
43 ページ、52 ページ、58 ページ（詳細は別紙の①参照）

②第 2 部東洋思想文化学科の学科教育課程表および履修方法  
149 ページ、151 ページ、158 ページ、164 ページ（詳細は別紙の  
②参照）

平成 25 年 4 月 文学部教務課

P43

文学部 第1部 東洋思想文化学科 卒業要件				
科目区分	インド思想コース	中国語・中国哲学 文学コース	仏教思想コース	東洋芸術文化 コース
各コース共通必修科目	18単位			
コース別必修科目	16単位	36単位	30単位	16単位
選択必修科目Ⅰ	12単位以上	14単位以上	12単位以上	12単位以上
選択必修科目Ⅱ	12単位以上	6単位以上	12単位以上	12単位以上
選択科目				

以上

2013年度入学生用 文学部第1部東洋思想文化学科 インド思想コース 教育課程表(専門科目)

区分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
必修科目34単位 各16単位 各16単位 各16単位 各16単位	東洋思想文化への誘いA(2) 東洋思想文化への誘いB(2) レポート・論文制作の技法(2)	東洋思想文化演習Ⅰ(2)	東洋思想文化演習Ⅱ(2)	卒業指導(2) 卒業論文(6)
コース別必修 16単位		インド思想史A(2) インド思想史B(2) ヒンドゥー教概論A(2) ヒンドゥー教概論B(2) インド・仏教の美術A(2) インド・仏教の美術B(2)	インド仏教史A(2) インド仏教史B(2) インド文化概論A(2) インド文化概論B(2) 東南アジア仏教史(2)	インド古典思想概論A(2) インド古典思想概論B(2) 仏教思想概論A(2) 仏教思想概論B(2)

以上

2013年度入学生用 文学部第1部東洋思想文化学科 東洋芸術文化コース 教育課程表(専門科目)

区分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
必修科目34単位以上 各16単位 各16単位 各16単位	東洋思想文化への誘いA(2) 東洋思想文化への誘いB(2) レポート・論文制作の技法(2)	東洋思想文化演習Ⅰ(2)	東洋思想文化演習Ⅱ(2)	卒業指導(2) 卒業論文(6)
コース別必修 16単位		インド文化概論A(2) インド文化概論B(2) 日本の美術A(2) 日本の美術B(2) 中国哲学史A(2) 中国哲学史B(2)	インド・仏教の美術A(2) インド・仏教の美術B(2) インド思想史A(2) インド思想史B(2) チベット仏教史(2)	中国の美術A(2) 中国の美術B(2) 仏教思想概論A(2) 仏教思想概論B(2)

以上

P52

P58

②  
P149

文学部 第2部 東洋思想文化学科 卒業要件				
科目区分	インド思想コース	中国語・中国哲学 文学コース	仏教思想コース	東洋芸術文化 コース
各コース共通必修科目	18単位			
コース別必修科目	16単位	36単位	30単位	16単位
選択必修科目Ⅰ	12単位以上	14単位以上	12単位以上	12単位以上
選択必修科目Ⅱ	12単位以上	6単位以上	12単位以上	12単位以上
選択科目				

以上

P151

専門科目

選択必修科目

選択必修科目は各コースに「選択必修科目Ⅰ」と「選択必修科目Ⅱ」が設定されており、各コースの教育課程表(専門科目)に示された所定の科目から選択して履修かつ修得しなければならない。

「インド思想コース」「仏教思想コース」「東洋芸術文化コース」の3コースでは「選択必修科目Ⅰ」のうち語学科目4単位以上と講義科目8単位以上の計12単位以上修得し、また「選択必修科目Ⅱ」を12単位以上修得しなければならない。

「中国語・中国哲学文学コース」では「選択必修科目Ⅰ」のうち語学科目4単位以上と講義科目10単位以上の計14単位以上を修得し、また「選択必修科目Ⅱ」を6単位以上修得しなければならない。

選択必修科目の必要修得単位数はコースによって異なるので、注意が必要である。

P158

2013年度入学生用 文学部第2部東洋思想文化学科 インド思想コース 教育課程表(専門科目)

区分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
必修科目34単位 各16単位 各16単位 各16単位	東洋思想文化への誘いA(2) 東洋思想文化への誘いB(2) レポート・論文制作の技法(2)	東洋思想文化演習Ⅰ(2)	東洋思想文化演習Ⅱ(2)	卒業指導(2) 卒業論文(6)
コース別必修 16単位		インド思想史A(2) インド思想史B(2) ヒンドゥー教概論A(2) ヒンドゥー教概論B(2) インド・仏教の美術A(2) インド・仏教の美術B(2)	インド仏教史A(2) インド仏教史B(2) インド文化概論A(2) インド文化概論B(2) 東南アジア仏教史(2)	インド古典思想概論A(2) インド古典思想概論B(2) 仏教思想概論A(2) 仏教思想概論B(2)

以上

P164

2013年度入学生用 文学部第2部東洋思想文化学科 東洋芸術文化コース 教育課程表(専門科目)

区分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
必修科目34単位以上 各16単位 各16単位 各16単位	東洋思想文化への誘いA(2) 東洋思想文化への誘いB(2) レポート・論文制作の技法(2)	東洋思想文化演習Ⅰ(2)	東洋思想文化演習Ⅱ(2)	卒業指導(2) 卒業論文(6)
コース別必修 16単位		インド文化概論A(2) インド文化概論B(2) 日本の美術A(2) 日本の美術B(2) 中国哲学史A(2) 中国哲学史B(2)	インド・仏教の美術A(2) インド・仏教の美術B(2) インド思想史A(2) インド思想史B(2) チベット仏教史(2)	中国の美術A(2) 中国の美術B(2) 仏教思想概論A(2) 仏教思想概論B(2)

以上